

5
5

造船規程

管船局

CZ
497
03

316-1-6

造船規程目錄

○ 造船規程	○ 造船規程	○ 造船規程
明治三十四年十一月	明治三十三年四月	明治二十九年九月
遞信省令第五十三號	遞信省令第十六號	遞信省令第十七號



明治二十九年十月一日施行
明治三十一年八月二十九日改正
以テ改テ正テ

○造船規程

規

程
明治二十九年九月
逕信省令第十七號

造船規程目次

- 第一編 船體
- 第一章 總則
- 第二章 試驗
- 第三章 龍骨、船首材及ヒ船尾骨材
- 第四章 正肋材
- 第五章 肋板
- 第六章 副肋材
- 第七章 中心線内龍骨
- 第八章 彎曲部内龍骨及ヒ翼内龍骨
- 第九章 各内龍骨及ヒ船内縱通材ノ接合法等
- 第十章 梁
- 第十一章 梁ノ距離及ヒ船内縱通材ノ配置
- 第十二章 特設肋骨
- 第十三章 梁柱
- 第十四章 梁上側板
- 第十五章 梁上帶板

- 第十六章 船首肘板、船尾肘板及ヒ船首防撓構造
 - 第十七章 外板
 - 第十八章 覆板及ヒ填板
 - 第十九章 鍍釘
 - 第二十章 支水隔壁
 - 第二十一章 甲板
 - 第二十二章 二重底及ヒ水艙
 - 第二十三章 區畫式二重底
 - 第二十四章 肋骨上ニ縱通桁板ヲ用テ構造シタル二重底
 - 第二十五章 内張板
 - 第二十六章 車軸隧道
 - 第二十七章 船首樓、船尾樓及ヒ船橋樓
 - 第二十八章 低船首樓及ヒ低船尾樓
 - 第二十九章 適當比例ノ船舶
 - 第三十章 艙口、機關室口其ノ他甲板上ノ諸口
 - 第三十一章 排水裝置
 - 第三十二章 舵
 - 第三十三章 起錨機及ヒ端艇鉤
 - 第三十四章 檣、帆架、斜檣及ヒ索具等
- 第二編 機關

- 第一章 總則
 - 第二章 試驗
 - 第三章 汽機
 - 第四章 汽鐘
 - 第五章 瓣、嘴子及ヒ管
 - 第六章 補助汽機及ヒ補助汽鐘
- 附則

造船規程

第一編 船體

第一章 總則

第一條 此ノ規程ニ於テ鐵船ト稱スルハ外板ニ鐵ヲ用テ船骨ニ鐵若ハ鋼ヲ用ウルモノヲ謂ヒ鋼船ト稱スルハ外板ニ鋼ヲ用テ船骨ニ鋼若ハ鐵ヲ用ウルモノヲ謂フ

第二條 此ノ規程ニ於テ重甲板船ト稱スルハ其ノ上甲板ニ隨意ニ船室ヲ構造シ得ヘキ船舶ヲ謂フ但三層重甲板船ト稱スルハ正甲板梁ノ上面迄ノ深十七呎以上ニシテ二層以上ノ甲板及ヒ船梁若ハ之ニ代用スヘキ特設肋骨ヲ有スルモノヲ謂フ

輕甲板船ト稱スルハ正甲板梁ノ上面迄ノ深十七呎以上ニシテ二層以上ノ甲板及ヒ船梁若ハ之ニ代用スヘキ特設肋骨ヲ有シ其ノ構造重甲板船ニ比シ稍輕裝ニシテ其ノ上甲板ニハ操舵室、海圖室等ヲ除クノ外特ニ相當ノ構造ヲ加フルニアラサレハ船室ヲ設置スルニ適セザル船舶ヲ謂フ

覆甲板船ト稱スルハ其ノ構造輕甲板船ニ比シ尙輕裝ニシテ其ノ上甲板ニハ操舵室、海圖室等ヲ除クノ外船室ヲ設置スルニ適セザル船舶ヲ謂フ

重甲板船ノ上甲板ヲ重甲板、輕甲板船ノ上甲板ヲ輕甲板、覆甲板船ノ上甲板ヲ覆甲板ト謂フ

第三條 此ノ規程ニ於テ船ノ長ト稱スルハ重甲板船ニ於テハ重甲板梁上ニテ、輕甲板船ニ於テハ輕甲板梁上ニテ、覆甲板船ニ於テハ正甲板梁上ニテ船首材ノ後面ヨリ單螺旋汽船ナルトキハ舵柱ノ前面迄、雙螺旋汽船、外車汽船及ヒ帆船ナルトキハ船尾材ノ前面迄ノ水平距離ヲ謂フ但上部彎曲ノ船首材ヲ備フル船舶ニ於テハ該材下部ノ後面ニ沿フテ眞直ニ延長シタル線ト甲板梁ノ上面線トノ交叉點ヨリ測リタル水平距離ヲ謂フ

幅ト稱スルハ船體ノ最廣部ニ於ケル肋骨ノ外面ヨリ外面迄ノ距離ヲ謂フ
深ト稱スルハ船體ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ重甲板船ニ於テハ重甲板梁ノ上面迄、輕甲板船及ヒ覆甲板船ニ於テハ正甲板梁ノ上面迄ノ距離ヲ謂フ

第四條 此ノ規程ニ於テ第一數ト稱スルハ重甲板船ニ於テハ深ト幅ノ二分ノ一トノ和ニ龍骨上面ノ中心ヨリ重甲板ノ梁上側板ニ至ル正肋材ノ船體中央ニ於ケル長ヲ加ヘタル數ヲ謂フ但三層重甲板船ニ於テハ其ノ數ヨリ七呎ヲ減シタルモノヲ謂フ又輕甲板船及ヒ覆甲板船ニ於テハ深ト幅ノ二分ノ一トノ和ニ正甲板ノ梁上側板ニ至ル正肋材ノ船體中央ニ於ケル長ヲ加ヘタルモノヲ謂フ
第二數ト稱スルハ第一數ニ船ノ長ヲ乘シタル數ヲ謂フ
前二項ノ長、幅及ヒ深ハ呎ヲ以テ本位ト爲シ呎以下ハ二位ニ止メ其ノ以下ハ四捨五入スヘシ

第五條 此ノ規程ニ於テハ特ニ其ノ條項ニ規定シタル場合ヲ除クノ外船ノ長、深ノ十一倍ヲ超エサル船舶ノ構造方法ヲ示シ又寸法及ヒ員數ハ最小ノ限度ヲ、距離ハ最大ノ限度ヲ示シタルモノトス
第六條 此ノ規程ニ於テ鐵材ノ寸法ハ別表中甲號ニ據リ鋼材ノ寸法ハ乙號ニ據ルヘシ其ノ甲號及ヒ乙號ノ區別ナキモノハ鐵材及ヒ鋼材ニ通シテ之ヲ適用スヘシ
第七條 正肋材、副肋材、肋板ノ寸法、隔壁板ノ厚、梁柱ノ徑及ヒ肋骨間ノ距離ハ第一數ニ依リ之ヲ

定メ龍骨、船首材、船尾骨材、內龍骨、二重底ノ內底板、縱通桁板、艙內縱通材、梁上側板、外板、甲板、內張板及ヒ舵等ノ寸法ハ第二數ニ依リ之ヲ定メ梁ノ寸法ハ船體ノ中央ニ於ケル梁ノ長ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第八條 船舶ニハ左ニ記載スルモノヲ除クノ外船底全部ヲ通シテ二重底ヲ設クヘシ

一 總噸數二千噸未満ノ船舶

二 特殊ノ用ニ供スル爲メ其ノ構造ニ對シ遞信大臣ノ認可ヲ受ケタル船舶

第九條 此ノ規程ニ定ムル試驗ハ検査官吏ノ監督ヲ受ケ之ヲ執行スヘシ

試驗器ハ検査官吏ノ檢定ヲ經タルモノヲ用ウヘシ

第十條 此ノ規程中試驗ニ關スル條項ハ遞信大臣ノ適當ト認ムル證明書アルモノニ限り之ヲ適用セサルコトアルヘシ

第十一條 此ノ規程ニ該當セサル船體ノ構造方法ハ遞信大臣ニ於テ此ノ規程ト同一ノ効力ヲ有スルト認ムルモノニ限り特ニ之ヲ合格ト爲スヘシ

第二章 試驗

第十二條 鐵材ハ可鍛性ニシテ一平方吋ノ抗張力ハ纖維ニ沿ヒテハ二十噸以上、纖維ヲ横リテハ十八噸以上又其ノ伸張ノ割合ハ八吋ノ長ニ於テ纖維ニ沿ヒテハ百分ノ四以上、纖維ヲ横リテハ百分ノ一、五以上ナルヲ要ス但山形材、球板等ニハ纖維ヲ横ルノ試驗ヲ執行スルコトヲ要セス

第十三條 鋼材ニハ左ノ試驗ヲ執行スヘシ

一 抗張試驗 一平方吋ノ抗張力ハ二十六噸以上三十二噸以下ニシテ其ノ伸張ノ割合ハ八吋ノ長ニ於テ厚二十分ノ八吋以下ナルトキハ百分ノ十六以上又厚二十分ノ八吋ヲ超ユルトキハ百分ノ二十以上ナルヲ要ス但平板ヲ除キ其ノ他ノ鋼材ハ可鍛性ノモノニ限り抗張力ノ上限ヲ三十

三噸ト爲スコトヲ得

二 屈曲試験 試験材ヲ櫻紅色ニ熱シタル後華氏八十二度ノ水中ニテ冷却シ之ヲ試験材ノ厚ノ三倍ヲ超エサル内徑ヲ以テ二重ニ屈曲シ裂疵ヲ生セサルヲ要ス

第十四條 鋼製ノ鉸釘ハ之ヲ熱シ其ノ頭ヲ釘徑ノ二、五倍迄ニ平扁ニ打壓シ且釘身ヲ平扁ニシ之ニ釘徑ニ等キ打貫孔ヲ穿テ裂疵ヲ生セサルヲ要ス

第十五條 鑄鋼製ノ船尾骨材、舵及ヒ舵柄等ニハ左ノ試験ヲ行フヘシ

一 抗張試験 一平方吋ノ抗張力ハ二十八噸以上三十五噸以下ニシテ其ノ伸張ノ割合ハ八吋ノ長ニ於テ百分ノ八以上ナルヲ要ス

二 屈曲試験 徑一時四分ノ一ノ圓材又ハ一時四分ノ一ノ角材ヲ作り内面ニ於テ二吋ヨリ多カラサル半徑ノ弧狀ニ曲ケ九十度以上ニ至リ裂疵ヲ生セサルヲ要ス

三 衝擊試験 一材ニ鑄造シタル船尾骨材ニ於テハ其ノ突出部ノ形狀ニ適合スヘキ穴ヲ硬質ノ地面ニ穿テ置キ該材ノ一端ヲ地面ト四十五度ノ傾斜ニ起シテ地上ニ墜落シ又舵及ヒ二材以上ニ鑄造シタル船尾骨材ニ於テハ其ノ形狀及ヒ重量ニ應シ七呎乃至十呎ノ高ヨリ之ヲ墜落シ後之ヲ吊シテ重量七磅以上ノ錘ヲ以テ敲キ其ノ生來ノ裂疵及ヒ本試験ニ起因スル裂疵ノ有無ヲ檢シ其ノ痕跡ナキヲ要ス

第十六條 第十二條第十三條ノ試験ハ同一ノ用ニ供スル材料五十箇毎ニ一箇、第十四條ノ試験ハ鉸釘十箇毎ニ一箇ヲ採リ之ヲ執行シ検査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ更ニ二箇迄ヲ増シ適否ヲ檢定スヘシ

第十七條 逓信大臣ハ前數條ノ試験ニ合格セサルモノト雖モ其ノ使用ノ方法及ヒ部局ヲ限り條件ヲ附シテ之カ使用ヲ許可スルコトアルヘシ

第三章 龍骨、船首材及ヒ船尾骨材

第十八條 方形龍骨、船首材及ヒ船尾骨材ノ寸方ハ第二號表ニ據リ其ノ嵌接ノ長ハ用材ノ厚ノ九倍ト爲スヘシ

第十九條 龍骨翼板ノ厚ヲ第二號表ニ掲クルモノヨリ増ストキハ其ノ割合ニ應シテ方形龍骨ノ厚ヲ減スルコトヲ得

第二十條 側板龍骨ノ合厚ハ第二號表ニ掲クル方形龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第二十一條 平板龍骨ノ寸方ハ第二號表ニ據ルヘシ

平板龍骨ニハ斷切内龍骨板若ハ中心線板ヲ附シ其ノ兩側ニハ船ノ首尾ヲ通シテ第三號表ニ掲クル内龍骨山形材ヲ附シ之ヲ龍骨ニ固著スヘシ

平板龍骨ノ銜接ハ三列釘固著ト爲スヘシ

第二十二條 船首材ノ寸法ハ最大喫水線ヨリ上部ニ至ルニ從ヒ漸次減少シテ頂上ニ於ケル截面ハ第二號表ニ掲クルモノ、四分ノ三ト爲スコトヲ得

第二十三條 螺旋汽船ノ船尾材ノ寸方ハ其ノ龍骨ト嵌接スヘキ部分ニ於テハ漸次龍骨ノ寸法迄ニ減少スヘシ

單螺旋汽船ノ舵柱ノ寸法ハ舵頭管ノ下部ヨリ漸次減少シテ頂上ニ於テハ第二號表ニ掲クル船首材ノ寸法ト同一ト爲スコトヲ得

外車汽船若ハ帆船ノ船尾材ノ寸法ハ舵頭管ノ下部ヨリ漸次減少シテ頂上ニ於ケル截面ハ第二號表ニ掲クルモノ、四分ノ三ト爲スコトヲ得

第二十四條 船尾材ヲ龍骨ニ接合スル倂接ノ後端ヨリ船尾材ノ前面迄ノ距離ハ外車汽船及ヒ帆船ニ於テハ肋骨間距離ノ一、五倍又螺旋汽船ニ於テハ二、五倍ヨリ少カルヘカラス

第二十五條 第二數二萬以上ノ單螺旋汽船ニ於テハ船尾材ノ上部ニ延長シテ肋板及ヒ梁上ニ張リタル鐵板若ハ鋼板ニ固著スヘシ

第二十六條 單螺旋汽船ノ舵柱、雙螺旋汽船、外車汽船及ヒ帆船ノ船尾材ハ其ノ兩側ニ第一號表ニ掲クル正肋材ト同寸法ノ山形材ヲ附シテ船尾肋板ニ固著スヘシ

第二十七條 舵蝶鉸ノ蓋金ハ五呎六吋以内ノ距離ニ於テ舵柱若ハ船尾材ニ鍛接スヘシ

第四章 正肋材
第二十八條 正肋材ノ寸法及ヒ肋骨間ノ距離ハ第一號表ニ據ルヘシ但覆甲板船ニ於テハ其ノ寸法鐵ナルトキハ幅三吋ニ三吋厚十六分ノ六吋、鋼ナルトキハ幅三吋ニ三吋厚二十分ノ六吋ヨリ小ナルヘカラス

正肋材ハ龍骨ヨリ船體ノ上端迄達セシムヘシ但覆甲板、船首樓、船尾樓、船橋樓若ハ低船尾樓ヲ備フル船舶ニ於テハ上端ノ形狀圓形ナルトキハ正肋材ヲ圓形ノ下部ニ止ムルコトヲ得

第二十九條 正肋材ノ銜接ハ中央部ニ於テ少クモ船ノ長ノ四分ノ三間ハ其ノ裏面ニ之ト同寸法ニシテ長三呎以上ノ山形材ヲ附シテ固著スヘシ

第五章 肋板

第三十條 船ノ中央部ニ於ケル肋板ノ寸法ハ第一號表ニ據ルヘシ但鐵ニテ其ノ厚十六分ノ九吋以下ナルトキハ汽機室及ヒ汽罐室ニ於テハ之ニ十六分ノ一時ヲ増シ又鋼ナルトキハ汽機室ニ於テハ之ニ二十分ノ一時、汽罐室ニ於テハ二十分ノ二吋ヲ増スヘシ

肋板ハ鐵ニテ厚十六分ノ九吋以上鋼ニテ厚二十分ノ九吋以上ナルトキハ中央部ニ於ケル船ノ長ノ十分ノ六間ハ第一號表ニ掲クル厚ト爲シ其ノ前後ニ於ケル船ノ長ノ十分ノ一間ハ鐵ナルトキハ之ヨリ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時ヲ減シ船ノ首尾ニ於テハ鐵ナルトキハ十六分ノ二

時、鋼ナルトキハ二十分ノ二吋ヲ減スルコトヲ得

龍骨ノ中心ヨリ正肋材ニ沿ヒテ船ノ幅ノ八分ノ三ニ相當スル箇所ニ於ケル肋板ノ深ハ其ノ中央ニ於ケル深ノ二分ノ一ヨリ又其ノ兩端ニ於テハ正肋材ノ幅ヨリ少カルヘカラス

龍骨ノ上面ヨリ測リタル兩端外縁ノ高ハ中央部ニ於ケル船ノ長ノ四分ノ一間ハ中央ニ於ケル深ノ二倍ト爲シ其ノ前後ニ於テハ漸次之ヲ中央ニ於ケル深迄ニ減少スルコトヲ得但船ノ首尾ニ於テハ漸次肋板ノ深ヲ増シ之ニ内龍骨ヲ取附クルコトヲ得ヘカラスヘシ

船尾隔壁ノ後部ニ於テハ肋板ヲ船尾管ノ上部ニ達セシムヘシ

第三十一條 肋板ハ正肋材毎ニ取附ケ若シ龍骨上ニ中心線豎板ヲ備フルトキハ其ノ兩面ニ第一號表ニ掲クル副肋材ト同寸法ノ山形材ヲ附シテ之ヲ豎板ニ固著スヘシ

第三十二條 肋板ヲ二枚以上ニテ造ルトキハ其ノ銜接ハ二重覆板ヲ附シ三列釘固著ト爲スヘシ但各覆板ノ厚ハ肋板ノ厚ノ三分ノ二ト爲スヘシ

前項ノ銜接ヘ之ヲ緊接ト爲シテ三列釘固著ト爲スモ妨ナシ

第三十三條 隔壁ヲ取附クヘキ肋板ハ副肋材ノ上部ニ於テ之ニ隔壁板ヲ固著シ得ヘキ深ト爲スヘシ

第三十四條 肋板、中心線豎板及ヒ斷切内龍骨板ニハ滄水孔ヲ穿ツヘシ

第三十五條 船尾肋板ノ深ハ第一號表ニ掲クル船ノ中央ニ於ケル肋板ノ深ノ一、五倍以上ニシテ厚ハ其ノ厚ヨリ少カルヘカラス

第六章 副肋材

第三十六條 副肋材ハ正肋材及ヒ肋板毎ニ取附ケ其ノ寸法ハ第一號表ニ據ルヘシ

第三十七條 第一數四十五未滿ノ船舶ニ於テハ副肋材ハ彎曲上部迄達セシムヘシ

第一數四十五以上五十七未滿ノ船舶ニ於テハ副肋材ハ一本置ニ重甲板ノ梁上側板迄ト彎曲部縱通材ノ上部迄トニ達セシムヘシ但船梁ヲ要スル船舶ニ於テハ一本置ニ重甲板ノ梁上側板迄ト船梁ノ梁上側板ニ付スル山形材ノ上部迄トニ達セシムヘシ

第一數五十七以上ノ船舶ニ於テハ副肋材ハ一本置ニ重甲板ノ梁上側板迄ト正甲板ノ梁上側板ニ付スル山形材ノ上部迄トニ達セシムヘシ但第一數七十五以上ノ帆船ニ於テハ總テ之ヲ重甲板ノ梁上側板迄達セシムヘシ

第三十八條 三層重甲板船ニ於テハ副肋材ハ一本置ニ重甲板ノ梁上側板迄ト正甲板ノ梁上側板ニ付スル山形材ノ上部迄トニ達セシムヘシ

輕甲板船ニ於テハ副肋材ハ一本置ニ輕甲板ノ梁上側板迄ト正甲板ノ梁上側板ニ付スル山形材ノ上部迄トニ達セシムヘシ

覆甲板船ニ於テハ副肋材ヲ肋骨毎ニ正甲板ノ梁上側板ニ付スル山形材ノ上部迄達セシムヘシ

第三十九條 汽機室及ヒ機鐘室ニ於テハ肋骨毎ニ肋板ノ他面ニモ副肋材ヲ附シテ之ヲ彎曲上部迄達セシムヘシ

龍骨ノ上面ヨリ船梁ノ上面迄ノ深十七呎以上ナルカ若ハ第二數一萬五千以上ノ船舶ニ於テハ増設副肋材ハ之ニ彎曲部縱通材ヲ固著シ得ヘキ高迄達セシムヘシ又總テ内龍骨其ノ他縱通材ヲ取附クル部分ニハ肋骨毎ニ副肋材ト同寸法ノ山形材ヲ三箇以上ノ鉸釘ヲ以テ肋骨ニ固著スヘシ

第四十條 副肋材ノ銜接ニハ覆山形材ヲ附シ其ノ兩邊ハ接合ノ前後ニ於テ各二箇以上ノ鉸釘ヲ以テ固著スヘシ

第四十一條 第二數二萬以上ノ船舶ニ於テハ船尾隔壁ノ後部ニ於ケル副肋材ハ總テ上甲板ノ梁上側板迄達セシム且船尾突出部ノ形狀廣坦ナルトキハ適當ナル長ノ間上甲板ト正甲板トノ中央ニ於テ二枚合セノ山形材ヲ肋骨ニ取附ケ肋板ヲ以テ之ヲ船尾肋板ニ固著スヘシ

第七章 中心線内龍骨

第四十二條 單板内龍骨ノ豎板ノ寸法ハ第三號表ニ據リ其ノ兩面上下ニハ同表ニ揚クル山形材ヲ取附ケ且中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三間ハ上端ニ付シタル山形材ニ冠板ヲ附著スヘシ其ノ幅ハ豎板ノ厚及ヒ其ノ上端ニ付シタル山形材ノ幅ノ和ニ等クシ其ノ厚ハ同表ニ據ルヘシ

豎板ノ接合ハ銜接ト爲シ鐵ナルトキハ豎板ノ厚ノ三分ノ二以上、鋼ナルトキハ豎板ノ厚ノ二分ノ一ニ十分ノ三時ヲ加ヘタル厚ヲ有スルニ重覆板ヲ附シ三列釘固著ト爲スヘシ但之ヲ累接ト爲シ三列釘固著ト爲スモ妨ナシ

冠板ノ銜接ハ上面ニ覆板ヲ附シ三列釘固著ト爲シ又山形材ノ銜接ハ覆山形材ヲ附シ其ノ兩邊ハ接合ノ前後ニ於テ各三箇ノ鉸釘ヲ以テ固著スヘシ

第二數三萬三千以上ノ船舶ニ於テハ鐵ナルトキハ幅十八吋厚十六分ノ十吋、鋼ナルトキハ幅十八吋厚二十分ノ十吋ノ礎板ヲ豎板ノ下ニ取附クヘシ

第四十三條 斷切板内龍骨ノ斷切板ハ第三號表ニ揚クル厚ト爲シ龍骨ヨリ肋板ノ上端迄達セシム第一號表ニ揚クル副肋材ト同寸法ノ山形材ヲ以テ之ヲ肋板毎ニ固著シ第四號表ニ揚クル正甲板梁ヨリ二吋深キ球板ヲ肋板ノ部分ニ於テ適當ニ切取リ斷切板ニ固著シ得ヘキ處迄垂下セシム第三號表ニ揚クル山形材ヲ肋板ノ上端ニ於テ球板ノ兩側ニ固著スヘシ但斷切板ヲ山形材ノ上端迄達セシムルトキハ球板ヲ垂下セシムルヲ要セス

第四十四條 方形龍骨ヲ有シ第二數一萬三千以上一萬八千未滿ノ船舶若ハ平板龍骨ヲ有シ第二數一萬三千以上一萬五千未滿ノ船舶又ハ深ノ十倍ヲ超ユル長ヲ有スル船舶ニ斷切板内龍骨ヲ用ウルト

山形材ノ銜接ハ覆山形材ヲ附シテ固著スヘシ但覆山形材ノ厚ハ接合スヘキ山形材ノ厚ニ等クシ其ノ長ハ二呎以上ト爲スヘシ

第五十二條 各内龍骨及ヒ船内縦通材ハ支水隔壁ヲ貫通シテ船ノ首尾ニ達セシメ其ノ隔壁ヲ貫通スル部分ハ水密ト爲スヘシ但船ノ首尾ニ於ケル船内縦通材ノ一本置ノ距離船ノ中央ニ於ケル各縦通材間ノ距離ヲ超エサルトキハ其ノ中間ノ縦通材ハ船ノ首尾ニ達セシメサルモ妨ナシ

第五十三條 各内龍骨及ヒ船内縦通材ノ山形材ハ船ノ中央ニ於テ鐵ニテ厚十六分ノ七吋ヲ超エ鋼ニテ厚二十分ノ七吋ヲ超ユルトキハ船ノ首尾ニ於テ船ノ長ノ五分ノ一間ハ鐵ナルトキハ其ノ厚十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時ヲ減スルコトヲ得

第十章 梁

第五十四條 梁ノ寸法ハ第四號表ニ據ルヘシ但輕甲板船ノ船首樓、船尾樓及ヒ船橋樓ノ梁ニハ該表中一段上欄ノ寸法ヲ使用スルコトヲ得

覆甲板又ハ船首樓甲板ニ揚錨機ヲ備フル場合ニハ其ノ部分ニ於ケル梁ハ第四號表ニ掲クル輕甲板梁ト同寸法ト爲スヘシ

第五十五條 各層ニ於ケル梁ハ上下相累ネテ同一ノ肋骨ニ取附クヘシ

第五十六條 上甲板梁ノ梁矢ハ梁ノ長一呎ニ付四分ノ一時以上ノ割合ト爲スヘシ

第五十七條 肋骨毎ニ附スヘキ鐵甲板及ヒ鋼甲板ノ梁ハ船ノ中央ニ於テ其ノ厚鐵梁ニテ十六分ノ八吋以上、鋼梁ニテ二十分ノ八吋以上ナルトキハ其ノ長中央ニ於ケル梁ノ四分ノ三未滿ナルモノニ限リ其ノ厚鐵梁ニ於テハ十六分ノ一時、鋼梁ニ於テハ二十分ノ一時ヲ減スルコトヲ得

第五十八條 球板又ハ丁字形球材ノ球ノ幅ハ該板ノ厚ノ三、二倍、球山形材ニ於テハ二、五倍ト爲スヘシ

第五十九條 船口ノ長、肋骨間ノ距離ノ六倍以上十倍以下ナルトキハ輕甲板及ヒ重甲板ノ船口兩端梁ハ第四號表ニ掲クル正甲板梁ト同クシ又覆甲板及ヒ船橋樓甲板ノ船口兩端梁ハ同表ニ掲クル輕甲板梁ト同一ナルヲ要ス

第六十條 船首隔壁ノ前部及ヒ船尾隔壁ノ後部ニ設クル水艙ノ頂板ニハ第四號表ニ掲クル船ノ首尾ニ用ウヘキ正甲板梁ト同寸法ノ梁ヲ肋骨毎ニ取附クヘシ

第六十一條 特設船梁ハ板ノ兩面上下ニ山形材ヲ備フルモノ若ハ球板ノ上端兩面ニ山形材ヲ備ヘ之ニ冠板ヲ附シタルモノ若ハ鐵ナルトキハ厚十六分ノ六吋以上、鋼ナルトキハ厚二十分ノ六吋以上ニシテ肋骨間ノ距離ニ等キ幅ヲ有スル板ノ下面兩縁ニ山形材ヲ以テ球板ヲ附著シタル溝形ノモノナルヲ要ス但溝形梁ノ山形材及ヒ球板ハ第四號表ニ掲クル正甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法トシ溝形梁ヲ除クノ外山形材ハ其ノ廣邊ヲ平ニ取附ク又冠板ノ厚ハ第四號表ニ掲クル山形材ニ等クスヘシ

第六十二條 機關室内ニ用ウヘキ特設梁ハ板ノ兩面上下ニ山形材ヲ備フルモノナルヲ要ス但輕甲板ニハ第四號表ニ掲クル正甲板梁ノ球板ト同寸法ナル板ノ兩面上下ニ山形材ヲ備フルモノヲ用ウルコトヲ得

第六十三條 梁枝ノ深ハ梁ノ深ノ二、五倍又其ノ曲部ニ於ケル深ハ梁ノ深ノ一、五倍ナルヲ要ス但帆船ニ於テ船ノ中央ニ於ケル上甲板梁ノ長三十六呎ヲ超ユルトキハ各層梁ノ梁枝ノ深ハ梁ノ深ノ三倍又其ノ曲部ニ於ケル深ハ梁ノ深ニ其ノ四分ノ三ヲ加ヘタルモノト爲スヘシ

肘板ヲ以テ梁ヲ固着スルトキハ肘板ノ厚ハ梁ノ厚ト、其ノ各枝ハ梁枝ノ深ト同一ナルヲ要ス

覆甲板船ニ於テ船體ノ上端圓形ナルトキハ其ノ覆甲板梁ハ長十八吋以上正肋材ニ重ネテ固著スヘシ

第六十四條 梁枝及ヒ肘板ヲ肋骨ニ固著スヘキ鉸釘ノ徑及ヒ數ハ左表ニ據ルヘシ但梁枝ノ深、梁ノ深ノ三倍ナルヲ要スルトキハ鉸釘ノ數ハ尙一箇ヲ増スヘシ

梁ノ深	鉸釘ノ徑	鉸釘ノ數
六吋以下	八分	六
八吋以下	八分	六
九吋以下	八分	七
十吋以下	八分	七
十吋半ヲ超ユルトキ	八分	七

第十一章 梁ノ距離及ヒ船内縦通材ノ配置

第六十五條 梁ノ距離及ヒ船内縦通材ノ配置ハ船ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ上甲板梁ノ上面迄ノ深ヲ以テ之ヲ定ムヘシ但正甲板梁ノ上面迄ノ深十七呎半未滿ノ覆甲板船ニ於テハ正甲板梁ノ上面迄ノ深ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第六十六條 深十三呎未滿ノ船舶ニ於テハ彎曲部内龍骨ト甲板梁トノ大約中央ニ船ノ首尾ヲ通シテ山形材二枚合セノ縦通材ヲ設クヘシ

第六十七條 深十三呎以上十四呎未滿ノ船舶ニ於テハ中央部ニ於テ船ノ長ノ五分ノ三間ハ第六十六條ニ掲クル山形材ノ中間ニ第四號表ニ掲クル正甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ又球板ノ代リニ板ヲ挿入シ山形材ヲ以テ之ヲ外板ニ固著スルモ妨ナシ

第六十八條 深十四呎以上十五呎半未滿ノ船舶ニ於テハ第六十七條ニ掲クル球板ノ代リニ鐵ナルト

キハ幅十二吋厚十六分ノ七吋、鋼ナルトキハ幅十二吋厚二十分ノ七吋ノ板ヲ挿入シテ之ヲ外板ニ固著シ且該板内縁ノ兩面ニハ船ノ首尾ヲ通シテ第三號表ニ掲クル内龍骨山形材ト同寸法ノ山形材ヲ固著スヘシ

第六十九條 深十五呎半以上ノ船舶ニ於テハ第六十六條ニ規定シタル縦通材ノ外彎曲上部ニ第三號表ニ掲クル山形材二枚合セノ縦通材ヲ船ノ首尾ヲ通シテ設クヘシ

第七十條 深十五呎半以上十六呎半未滿ノ船舶ニ於テハ特設船梁ヲ肋骨十本毎ニ設ク之ニ梁上側板ヲ取附ケ該側板ハ之ヲ外板及ヒ副肋材ニ固著スルノ外撥形板ヲ以テ船梁毎ニ固著シ且船梁ノ間ニ於テハ肋骨一本置ニ肘板ヲ附シテ之ヲ支フヘシ

第七十一條 深十六呎半以上十七呎半未滿ノ船舶ニハ第七十條ニ規定スル裝置ノ外梁上側板ノ内縁ニ第三號表ニ掲クル山形材ヲ固著スヘシ

第七十二條 深十七呎半以上十八呎半未滿ノ船舶ニ於テハ第四號表ニ掲クル正甲板梁ト同寸法ノ船梁ヲ交互ニ肋骨二本毎ト四本毎トニ設クルカ又ハ第七十一條ニ規定スル裝置ヲ爲スヘシ

第七十三條 深十八呎半以上十九呎半未滿ノ船舶ニ於テハ第四號表ニ掲クル正甲板梁ト同寸法ノ船梁ヲ交互ニ肋骨二本毎ト四本毎トニ設クルカ又ハ特設船梁ヲ肋骨十本毎ニ設ク梁上側板ノ内縁ノ上下ニ鐵ナルトキハ幅三吋半ニ三吋半厚十六分ノ七吋、鋼ナルトキハ幅三吋半ニ三吋半厚二十分ノ七吋ノ山形材ヲ固著シ且其ノ山形材ノ外面ニハ鐵ナルトキハ厚十六分ノ七吋、鋼ナルトキハ厚二十分ノ七吋板ヲ固著スヘシ

第七十四條 深十九呎半以上二十九呎未滿ノ帆船ニ於テハ第四號表ニ掲クル正甲板梁ト同寸法ノ船梁若ハ正甲板梁ヲ肋骨一本置ニ設クヘシ

第七十五條 深二十三呎以上二十四呎未滿ノ帆船ニシテ船梁若ハ正甲板梁ノ上面迄ノ深十六呎以上

十七呎未満ナルトキハ該梁ト彎曲部内龍骨トノ間ニ船ノ首尾ヲ通シテ山形材二枚合セノ縦通材二條ヲ設クヘシ

第七十六條 深二十四呎以上二十六呎未満ノ帆船ニシテ船梁若ハ正甲板梁ノ上面迄ノ深十七呎以上十八呎未満ナルトキハ第七十五條ニ掲クル各縦通材ノ山形材間ニ第四號表ニ掲クル正甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ船ノ首尾ヲ通シテ挿入スヘシ

第七十七條 深二十六呎以上二十七呎未満ノ帆船ニシテ船梁若ハ正甲板梁ノ上面迄ノ深十八呎以上十九呎未満ナルトキハ第七十六條ニ掲クル上部ノ縦通材ニハ船ノ首尾ヲ通シテ又下部ノモノニハ船尾ニ於テ船ノ長ノ四分ノ一間ヲ除キ第三號表ニ掲クル斷切板ヲ挿入シテ之ヲ外板ニ固著スヘシ

第七十八條 深二十七呎以上二十八呎未満ノ帆船ニシテ船梁若ハ正甲板梁ノ上面迄ノ深十九呎以上二十呎未満ナルトキハ該梁ト彎曲部内龍骨トノ間ニ第五號表ニ掲クル船梁ノ梁上側板ト同寸法ノ板ヲ設ケ第三號表ニ掲クル山形材ヲ以テ外板及ヒ副肋材ニ固著シ肋骨一本置ニ肘板ヲ以テ該板ヲ支ヘ其内縁ニハ第三號表ニ掲クル内龍骨山形材ト同寸法ノ山形材ヲ固著スルカ又ハ第七十七條ニ規定スル裝置ニ更ニ同一ノ縦通材一條ヲ増設スルヲ要ス

第七十九條 深二十八呎半以上二十九呎半未満ノ帆船ニシテ正甲板梁ノ上面迄ノ深二十呎半以上二十一呎半未満ナルトキハ特設船梁ヲ肋骨十本毎ニ設ケ撥形板ヲ以テ之ヲ梁上側板ニ固著シ第七十八條ノ規定ニ依リ該側板ノ内縁ニ山形材ヲ固著スヘシ但該側板ノ内縁ノ上下ニ鐵ナルトキハ幅四吋ニ三吋半厚十六分ノ七吋、鋼ナルトキハ幅四吋ニ三吋半厚二十分ノ七吋ノ山形材ヲ固著シ且其ノ山形材ノ外面ニ鐵ナルトキハ厚十六分ノ八吋、鋼ナルトキハ厚二十分ノ八吋ノ板ヲ固著スルトキハ特設船梁ハ肋骨十二本毎ニ之ヲ設クルモ妨ナシ

第八十條 第二數二萬四千以上二萬七千未満ノ帆船ニ於テハ中央部ニテ船ノ長ノ三分ノ二間ハ第

四號表ニ掲クル正甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ翼内龍骨ニ取附ケ且中央部二分ノ一間ハ彎曲部内龍骨ニ斷切板ヲ取附クヘシ

第二數二萬七千以上三萬未満ナルトキハ中央部三分ノ二間ハ深ハ第三號表ニ掲クル中心線單板内龍骨ノ豎板ノ二分ノ一ニシテ厚ハ之ニ等キ板ヲ翼内龍骨ニ取附ケテ其ノ上端兩面ニ山形材ヲ固著シ之ニ冠板ヲ附スヘシ該山形材ハ第三號表ニ掲クル上甲板ノ梁上側板ニ附スル山形材ト同寸法ニシテ冠板ハ翼内龍骨板ト同厚ナルヲ要ス且中央部二分ノ一間ハ彎曲部内龍骨ニ斷切板ヲ取附ケ又中央部五分ノ三間ハ第四號表ニ掲クル正甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ

第二數三萬以上三萬三千未満ナルトキハ中央部三分ノ二間ハ翼内龍骨ニ深ハ第三號表ニ掲クル中心線單板内龍骨ノ豎板ノ四分ノ三ニシテ厚ハ之ニ等キ板ヲ取附ケ其ノ上端兩面ニ山形材ヲ固著シ之ニ冠板ヲ附スヘシ該山形材ハ第三號表ニ掲クル上甲板ノ梁上側板ニ附スルモノト同寸法ニシテ冠板ハ翼内龍骨板ト同厚ト爲スヘシ且中央部三分ノ二間ハ彎曲部内龍骨ニ斷切板ヲ取附ケ又中央部五分ノ三間ハ第四號表ニ掲クル正甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ

第八十一條 深十九呎半以上二十二呎未満ノ汽船ニ於テハ第四號表ニ掲クル正甲板梁ト同寸法ノ船梁若ハ正甲板梁ヲ肋骨一本置ニ設クルカ又ハ特設船梁ヲ肋骨八本毎ニ設ケ撥形板ヲ以テ之ヲ梁上側板ニ固著シ且第三號表ニ掲クル内龍骨山形材ト同寸法ノ山形材ヲ側板ノ内縁ニ固著スヘシ但側板ノ内縁ノ上下ニ鐵ナルトキハ幅三吋半ニ三吋半厚十六分ノ七吋、鋼ナルトキハ幅三吋半ニ三吋半厚二十分ノ七吋ノ山形材ヲ固著シ其ノ山形材ノ外面ニ鐵ニテ厚十六分ノ八吋、鋼ニテ厚二十分ノ八吋ノ板ヲ取附クルトキハ特設船梁ハ肋骨十本毎ニ之ヲ設クルモ妨ナシ

第八十二條 深二十二呎以上二十三呎未満ノ汽船ニ於テハ第八十一條ニ規定スル裝置ノ外船梁ト彎曲部縦通材トノ間ニ第三號表ニ掲クル船内縦通材ニ用ウヘキ山形材ヲ二枚合セト爲シ船ノ首尾ヲ

通シテ固著スヘシ

第八十三條 深二十三呎以上二十四呎未満ノ汽船ニ於テハ各縦通材ノ山形材間ニ船ノ首尾ヲ通シテ第四號表ニ掲クル正甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ

第八十四條 深二十四呎以上二十六呎未満ノ汽船ニ於テハ第四號表ニ掲クル正甲板梁ト同寸法ノ船梁若ハ正甲板梁ヲ肋骨一本置ニ設クヘシ且該梁ノ上面迄ノ深十七呎以上十八呎未満ナルトキハ特設船梁ヲ肋骨十本毎ニ設ケ撥形板ヲ以テ之ヲ梁上側板ニ固著シ第三號表ニ掲クル内龍骨山形材ト同寸法ノ山形材ヲ該側板ノ内縁ニ固著スヘシ

第八十五條 深二十六呎以上二十七呎未満ノ汽船ニシテ正甲板梁ノ上面迄ノ深十八呎以上十九呎未満ナルトキハ第四號表ニ掲クル正甲板梁ト同寸法ノ船梁ヲ交互ニ肋骨二本毎ト四本毎トニ設クルカ若ハ特設船梁ヲ肋骨八本毎ニ設ケ撥形板ヲ以テ之ヲ梁上側板ニ固著シ且該側板ノ内縁ニ山形材ヲ固著スヘシ但該側板ノ内縁ノ上下ニ鐵ナルトキハ幅三吋半ニ三吋半厚十六分ノ七吋、鋼ナルトキハ幅三吋半ニ三吋半厚二十分ノ七吋ノ山形材ヲ固著シ其ノ山形材ノ外面ニ鐵ニテ厚十六分ノ七吋、鋼ニテ厚二十分ノ八吋ノ板ヲ固著スルトキハ特設船梁ハ肋骨十本毎ニ之ヲ設クルモ妨ナシ

第八十六條 深二十七呎以上二十八呎未満ノ汽船ニシテ正甲板梁ノ上面迄ノ深十九呎以上二十呎未満ナルトキハ第四號表ニ掲クル正甲板梁ト同寸法ノ船梁ヲ交互ニ肋骨二本毎ト四本毎トニ設クルカ若ハ特設船梁ヲ肋骨八本毎ニ設ケ撥形板ヲ以テ之ヲ梁上側板ニ固著シ且該側板ノ内縁ニ山形材ヲ固著スヘシ但該側板ノ内縁ノ上下ニ鐵ナルトキハ幅四吋ニ三吋半厚十六分ノ七吋、鋼ナルトキハ幅四吋ニ三吋半厚二十分ノ七吋ノ山形材ヲ固著シ其ノ山形材ノ外面ニ鐵ニテ厚十六分ノ八吋、鋼ニテ厚二十分ノ八吋ノ板ヲ固著スルトキハ特設船梁ハ肋骨十本毎ニ設クルモ妨ナシ

第八十七條 深二十八呎以上三十呎未満ノ汽船ニシテ正甲板梁ノ上面迄ノ深二十呎以上二十二呎未満ナルトキハ第四號表ニ掲クル正甲板梁ト同寸法ノ船梁ヲ肋骨一本置ニ設クルカ若ハ特設船梁ヲ肋骨八本毎ニ設ケ撥形板ヲ以テ之ヲ梁上側板ニ固著シ且該側板ノ内縁ニ山形材ヲ固著スヘシ但該側板ノ内縁ノ上下ニ鐵ナルトキハ幅四吋ニ四吋厚十六分ノ八吋、鋼ナルトキハ幅四吋ニ四吋厚二十分ノ八吋ノ山形材ヲ固著シ其ノ山形材ノ外面ニ鐵ニテ厚十六分ノ九吋、鋼ニテ厚二十分ノ九吋ノ板ヲ固著スルトキハ特設船梁ハ肋骨十本毎ニ之ヲ設クルモ妨ナシ

第八十八條 深三十呎以上三十二呎未満ニシテ正甲板梁ノ上面迄ノ深二十二呎以上二十四呎未満ノ汽船ニ於テハ第八十七條ニ規定スル装置ノ外第三號表ニ掲クル内龍骨山形材ト同寸法ノ二枚合セ山形材間ニ球板ヲ挿入シタル縦通材ヲ船ノ首尾ヲ通シテ船梁ト彎曲部縦通材トノ大約中央ニ設クヘシ

第八十九條 深三十二呎半以上三十六呎未満ノ汽船ニシテ下甲板梁若ハ船梁ノ上面迄ノ深十七呎半以上二十一呎未満ナルトキハ該梁ノ下部ニ厚ハ下甲板ノ梁上側板ト同ク幅ハ其ノ四分ノ三ニ等キ船内縦通側板ヲ設ケ第三號表ニ掲クル山形材ヲ以テ外板及ヒ副肋材ニ固著シ肋骨一本置ニ肘板ヲ以テ該側板ヲ支ヘ且其ノ内縁ニハ山形材ヲ附著スヘシ

第九十條 深三十六呎以上三十九呎未満ノ汽船ニシテ下甲板梁ノ上面迄ノ深二十一呎以上ナルトキハ特設船梁ヲ肋骨十本毎ニ設ケ撥形板ヲ以テ之ヲ梁上側板ニ固著シ且該側板ノ内縁ニハ山形材ヲ固著スヘシ

第九十一條 上層梁ノ上面ヨリ下層梁ノ上面迄ノ距離ハ各八呎ヲ超ユヘカラス
第九十二條 梁ノ距離肋骨間ノ距離ノ二倍ヲ超ユルトキハ梁間ノ肋骨一本置ニ肘板ヲ以テ梁上側板ヲ支フヘシ但肘板ノ厚ハ第一號表ニ掲クル船ノ中央ニ於ケル正肋材ノ厚ニ等クスヘシ

第九十三條 梁上ニ甲板ヲ張ルトキハ前數條ノ規定ニ拘ラス梁ノ距離ハ肋骨間ノ距離ノ二倍ヲ超ユヘカラス

鐵甲板ノ厚十六分ノ六吋以下、鋼甲板ノ厚二十分ノ七吋以下ニシテ之ニ木板ヲ張ラサル場合ニ於テハ艙口兩端ノ梁ヲ除キ第四號表ニ掲クル山形梁又ハ球山形梁ヲ肋骨毎ニ取附クヘシ但鐵甲板ノ厚十六分ノ六吋ヲ超ユ鋼甲板ノ厚二十分ノ七吋ヲ超ユルトキニ於テモ半梁ニハ同表ニ掲クル山形材又ハ球山形材ヲ用井肋骨毎ニ之ヲ固著スヘシ

第九十四條 艙口、汽機室又ハ汽罐室等ノ部分ニ於テ本章ノ規定ニ依リ梁ヲ配置スルト能ハサルトキハ特設艙梁若ハ特設肋骨ヲ以テ該部ヲ補強スヘシ

第十二章 特設肋骨

第九十五條 特設肋骨及ヒ特設肋骨間側板ヲ以テ梁及ヒ縱通材ニ代用スルトキハ特設肋骨ノ幅並ニ距離及ヒ特設肋骨間側板ノ數ハ龍骨ノ上面ヨリ特設肋骨ヲ達セシムル甲板梁ノ上面迄ノ深ヲ以テ定ムヘシ

第九十六條 特設肋骨及ヒ特設肋骨間側板ノ厚ハ第一號表ニ掲クル正肋材ト同一ナルヲ要ス

第九十七條 特設肋骨及ヒ特設肋骨間側板ノ内線ノ兩面ニ附スル山形材ノ寸法、特設肋骨間側板ヲ特設肋骨、外板及ヒ副肋材ニ固著スル山形材ノ寸法ハ第一號表ニ掲クル副肋材ト同一ナルヲ要ス
二重底ノ部分ニ於テハ特設肋骨ハ其ノ兩側ニ山形材ヲ附シテ緣板ニ固著スルカ若ハ撥形板ヲ以テ内底板ニ固著スヘシ

第九十八條 特設肋骨間側板ノ内線ニ固著スル山形材ハ特設肋骨毎ニ龜甲形板ヲ以テ結續スヘシ但其ノ厚ハ特設肋骨ニ等クシ且幅及ヒ深ハ特設肋骨ノ幅ニ從ヒ左表ニ據リ之ヲ定ムヘシ

特設肋骨ノ幅	龜甲形板	
	幅	深
十四吋以下	二吋	十吋
十五吋以下	三吋	十吋
十五吋ヲ超ユルトキ	三吋	十吋

第九十九條 特設肋骨ノ上端ニ取附クヘキ梁ノ深ハ第四號表ニ掲クル特設艙梁ニ等クスヘシ但該梁ニ鐵甲板若ハ鋼甲板ヲ張ルトキハ普通梁ヲ使用スルトヲ得此ノ場合ニ於テハ梁枝ノ深ハ梁ノ深ノ三倍ト爲スヘシ

深二十三呎以上ノ船舶ニ於テ特設肋骨ヲ上甲板若ハ低船尾樓甲板ノ梁上側板迄達セシムルトキハ特設肋骨ノ上端ニ取附クヘキ梁ノ梁枝ノ深ハ梁ノ深ノ三倍ト爲スヘシ

第一百條 特設肋骨間側板ハ其ノ幅十八吋ニシテ特設肋骨間ノ距離八呎ヲ超ユルトキハ特設肋骨間ノ中央ニ於テ第一號表ニ掲クル正肋材ニ等キ厚ノ肘板ヲ以テ之ヲ支フヘシ

第一百一條 特設肋骨ヲ正甲板以下ニ設クルトキハ其ノ間ニ於ケル副肋材ハ肋骨一本置ニ上甲板ノ梁上側板迄ト正甲板ノ梁上側板迄トニ達セシムヘシ又特設肋骨ヲ上甲板迄達セシムルトキハ副肋材ハ肋骨毎ニ上甲板ノ梁上側板迄達セシムヘシ

第一百二條 深十五呎以上十六呎未満ノ船舶ニ於テハ幅十四吋又深十六呎以上十七呎未満ノ船舶ニ於テハ幅十五吋ノ特設肋骨ヲ肋骨八本毎ニ設ケ且其ノ間ニ於テ彎曲部縱通材ノ上部ニ特設肋骨間側板一條ヲ取附ク山形材及ヒ龜甲形板ヲ以テ之ヲ特設肋骨ニ固著スヘシ

第一百三條 深十七呎以上十八呎未満ノ船舶ニ於テハ幅十五吋ノ特設肋骨ヲ肋骨八本毎ニ設ケ特設肋骨間側板二條ヲ取附クヘシ但此ノ場合ニ於テハ彎曲部縱通材ヲ取附ケサルモ妨ナシ

覆甲板船ヲ除キ三層以上ノ梁ヲ備フヘキ船舶ニシテ正甲板梁ノ上面迄ノ深十七呎以上十八呎未満ナルトキハ正甲板以下ニ附スル特設肋骨ハ肋骨六本毎ニ設クルヲ要ス

第四百四條 深十八呎以上二十一呎未満ノ船舶ニ於テハ幅十五吋ノ特設肋骨ヲ肋骨六本毎ニ設ケ特設肋骨間側板二條ヲ取附クヘシ

三層以上ノ梁ヲ備フヘキ船舶ニシテ正甲板梁ノ上面迄ノ深十八呎以上二十一呎未満ナルトキハ正甲板以下ニ附スル特設肋骨ハ幅十八吋ナルヲ要ス但覆甲板船ニ於テハ其ノ幅ヲ十六吋ト爲スコトヲ得

第四百五條 深二十一呎半以上二十二呎半未満ノ船舶ニ於テハ幅十五吋ノ特設肋骨ヲ肋骨六本毎ニ設ケ特設肋骨間側板三條ヲ取附クヘシ但二重底ヲ備フル船舶ニ於テ幅十八吋ノ特設肋骨ヲ用ウルトキハ特設肋骨間側板ヲ二條ニ減スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ二重底縁板ノ外部ニ附スル肘板ハ總テ彎曲部ニ於テ船ノ中央ニ用ウヘキ肘板ノ深ノ三倍ノ高迄達セシムルヲ要ス

三層以上ノ梁ヲ備フヘキ船舶ニシテ正甲板梁ノ上面迄ノ深二十一呎半以上二十二呎半未満ナルトキハ正甲板以下ニ附スル特設肋骨ハ幅十八吋ト爲シ特設肋骨間側板三條ヲ取附クヘシ但覆甲板船ニ於テハ特設肋骨ノ幅ヲ十六吋ト爲スコトヲ得

第四百六條 深二十二呎半以上二十三呎半未満ノ船舶ニ於テハ幅十六吋ノ特設肋骨ヲ肋骨六本毎ニ設ケ特設肋骨間側板三條ヲ取附クヘシ

三層以上ノ梁ヲ備フヘキ船舶ニシテ正甲板梁ノ上面迄ノ深二十二呎半以上二十三呎半未満ナルトキハ正甲板以下ニ附スル特設肋骨ハ幅十八吋ト爲スコトヲ要ス但覆甲板船ニ於テハ其ノ幅ヲ十六吋ト爲スコトヲ得

第四百七條 深二十三呎半以上二十四呎未満ノ船舶ニ於テハ幅十八吋ノ特設肋骨ヲ肋骨六本毎ニ設ケ

特設肋骨間側板三條ヲ取附クヘシ

第四百八條 龍骨ノ上面ヨリ低船尾樓甲板梁ノ上面迄ノ深二十四呎以上二十六呎未満ノ船舶ノ低船尾樓ノ部分ニ於テハ幅十六吋ノ特設肋骨ヲ肋骨五本毎ニ設ケ特設肋骨間側板三條ヲ取附ク板ノ兩面上下ニ山形材ヲ附シタル特設船梁四本ヲ特設肋骨間側板ニ要スル厚ノ撥形板及ヒ肘板ヲ以テ特設肋骨間側板ノ一條及ヒ特設肋骨ニ固著シ且汽機室後端ノ隔壁ト船尾隔壁トノ大約中央ニ支水隔壁ヲ増設スヘシ

第四百九條 低船尾樓甲板梁ノ上面迄ノ深二十六呎以上二十八呎未満ノ船舶ノ低船尾樓ノ部分ニ於テハ幅十八吋ノ特設肋骨ヲ肋骨四本毎ニ設ケ特設肋骨間側板三條ヲ取附ク且第四百八條ノ規定ニ依リ四本以上ノ特設船梁及ヒ増設支水隔壁ヲ取附クヘシ但深二十七呎以上ナルトキハ特設肋骨間側板ハ四條ト爲スヘシ

第四百十條 汽機室及ヒ汽罐室ニ於テ第三十九條ノ規定ニ依リ増設副肋材ヲ彎曲上部ニ附スル縦通材ノ高迄達セシムルヲ得サルトキハ二重底ノ部分ヲ除キ第二數一萬五千以上三萬未満ノ船舶ニ於テハ十呎以内ノ距離ニ又第二數三萬以上ナルトキハ八呎以内ノ距離ニ於テ前數條ニ規定シタル特設肋骨ヲ設ケ其ノ下部ハ肋板ニ固著シ上部ハ重甲板若ハ輕甲板ノ梁上側板迄達セシムヘシ

特設肋骨ハ成ルヘク甲板梁ノ位置ニ設ケ若梁ノ中間ニ設クルトキハ梁上側板ノ上下ニ於テ肘板ヲ以テ之ヲ固著スヘシ

第十三章 梁柱

第四百十一條 梁柱ハ第一號表ニ據リ其ノ寸法ヲ定メ二箇以上ノ鉸釘ヲ以テ其ノ兩端ヲ固著スヘシ但三層以上ノ梁ヲ有スル船舶ニ於テハ梁間ニ附スヘキ梁柱ノ徑ハ其ノ上下梁柱ノ徑ノ平均ノ寸法ト

爲スヘシ

第一百十二條 梁ノ長上甲板ノ最長梁ノ二分ノ一ヲ超ユルトキハ梁柱ヲ取附ケ上層梁ニ梁柱ノ設ヲ要スルトキハ其ノ下層ノ梁ニモ亦之ヲ設クヘシ

肋骨毎ニ梁ヲ助附ケタルトキハ梁ノ下部ニ第一號表ニ掲クル副肋材ト同寸法ノ二枚合セ山形材若ハ之ト同一ノ強力ヲ有スル丁字形材ヲ附シ山形材ヲ以テ梁毎ニ固著シテ梁一本置ニ梁柱ヲ取附クヘシ但ニ枚合セ山形材若ハ丁字形材ハ船口梁其ノ他深キ梁及ヒ隔壁ニ於テ之ヲ止メ山形材ヲ以テ固著スヘシ

船口縁材ニ取附クヘキ梁柱ノ距離ハ肋骨間ノ距離ノ四倍ヲ超ユヘカラス且長二十六呎以上ノ船口ニハ其ノ四隅ニ梁柱ヲ取附クヘシ又甲板室、斜橋、揚錨機及ヒ揚貨機等ヲ支フル梁其ノ他必要ノ箇所ニハ特ニ梁柱ヲ設クヘシ

第一百十三條 帆船ニ於テハ船ノ中央ニ於ケル幅三十九呎ヲ超ニ四十三呎未滿ナルトキハ上甲板梁ヲ除クノ外下層ノ梁ニハ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ハ梁一本置ニ中心線梁柱ノ兩側ニ梁柱ヲ増設シ幅四十三呎以上ナルトキハ上甲板梁ニモ一本置ニ兩側梁柱ヲ取附クヘシ

第一百十四條 汽船ニ於テハ幅四十三呎以上五十五呎未滿ナルトキハ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三間ハ梁一本置ニ幅五十五呎以上ナルトキハ梁毎ニ中心線ノ梁柱ノ兩側ニ梁柱ヲ増設スヘシ但幅五十呎未滿ノ汽船ニ於テ甲板間ヲ旅客室ニ専用スルトキハ其ノ上下甲板梁ニハ兩側梁柱ヲ取附ケサルモ妨ナシ

第一百十五條 二層ノ梁ヲ有シ又ハ一層ノ梁ト特設肋骨トヲ有スル船舶ニ於テ上甲板梁ヨリ内龍骨ニ達スヘキ梁柱、三層ノ梁ヲ有シ又ハ二層ノ梁ト特設肋骨トヲ有スル船舶ニ於テ中層梁ヨリ内龍骨ニ達スヘキ梁柱及ヒ船内ノ深二十二呎以上ノ帆船ニ用ウヘキ船内梁柱ハ第一號表ニ掲クル船内梁

柱ノ徑ニ八分ノ三吋ヲ増シ又三層ノ梁ヲ要スル船舶ニ於テ上甲板梁ヨリ船底ニ達スヘキ梁柱ハ同表ニ掲クル船内梁柱ノ徑ニ四分ノ三吋ヲ増スヘシ

仕切板ヲ取附クル爲メニ梁柱ヲ二列ニ設クルトキハ其ノ徑ハ第一號表ニ掲クル梁柱ノ徑ノ四分ノ三ト爲スコトヲ得

第十四章 梁上側板

第一百十六條 梁上側板ノ寸法ハ第五號表ニ據リ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ノ前後ニ於テハ鐵ナルトキハ十六分ノ一時ツ、鋼ナルトキハ二十分ノ一時ツ、漸次其ノ厚ヲ減シ船ノ首尾ニ至リ兩端寸法ニ適合セシムヘシ

第五號表ニ掲クル主要梁上側板ノ寸法ハ一層及ヒ二層重甲板船ノ重甲板梁、三層重甲板船ノ重甲板梁及ヒ正甲板梁、輕甲板船及ヒ覆甲板船ノ正甲板梁ニ附スヘキモノ、寸法トス但輕甲板船ニ於テハ船ノ長ト正甲板梁ノ上面迄ノ深トノ割合ヨリ二ヲ減シタルモノヲ以テ表中ノ長ト深トノ割合ニ充ツヘシ又二層重甲板船ノ正甲板ノ梁上側板ニハ同表ニ掲クル下甲板ノ梁上側板ノ寸法ヲ用ウヘシ

下甲板下ノ甲板梁ニ附スヘキ梁上側板ノ厚ハ第五號表ニ掲クル船梁ノ梁上側板ニ等クシ幅ハ其ノ四分ノ三ト爲スヘシ

第一百十七條 輕甲板ノ梁上側板ノ幅ハ第五號表ノ最上欄ニ掲クル正甲板ノ梁上側板ニ等クスヘシ但中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ハ鐵ナルトキハ厚十六分ノ一時、鋼ナルトキハ厚二十分ノ一時ヲ減シ又其ノ兩端ニ於テハ鐵ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時ヲ尙減スルコトヲ得

第一百十八條 覆甲板ノ梁上側板ノ幅ハ第五號表ニ掲クル船梁ノ梁上側板ニ等クシ厚ハ左表ニ據ルヘ

第 二 數	梁 上 側 板 の 厚	
	鐵	鋼
一 萬 三 千 未 滿	十 六 分 の 六 吋	二 十 分 の 六 吋
一 萬 三 千 以 上 一 萬 八 千 未 滿	十 六 分 の 七 吋	二 十 分 の 七 吋
一 萬 八 千 以 上 二 萬 四 千 未 滿	十 六 分 の 七 吋	二 十 分 の 八 吋
二 萬 四 千 以 上 三 萬 一 千 未 滿	十 六 分 の 八 吋	二 十 分 の 九 吋

第二數三萬一千以上ノ船舶若ハ正甲板梁ノ上面迄ノ深ノ十三倍ヲ超ユル長ヲ有スル船舶ニハ正甲板以上ニ於テ縱強力ヲ増スヘキ構造ヲ爲スヘシ

第百十九條 船ノ全長又ハ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ニ鐵甲板若ハ鋼甲板ヲ張リタル甲板梁ノ梁上側板ハ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ニ於テハ船ノ長七呎ニ付一時ノ割合迄ニ其ノ幅ヲ減スルコトヲ得但此ノ規程ニ依リ二層以上ノ鐵甲板若ハ鋼甲板ヲ要スルモノニ於テハ之ヲ減スルコトヲ得ス

第百二十條 梁上側板ノ銜接ハ第十八章ニ規定スルモノヲ除クノ外二列釘固著ト爲スヘシ
梁上側板ヲ外板及ヒ副肋材ニ固著スヘキ山形材ノ寸法ハ第三號表ニ據ルヘシ
正甲板ノ梁上側板ヲ副肋材ニ固著スル縱通山形材ト外板トノ間ハ水密ト爲スヘシ

第十五章 梁上帶板

第百二十一條 梁上帶板ノ寸法ハ第五號表ニ據リ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ノ前後ニ於テハ鐵ナルトキハ十六分ノ一時ツ、鋼ナルトキハ二十分ノ一時ツ、漸次其ノ厚ヲ減シ船ノ首尾ニ至リ兩端寸法ニ適合セシムヘシ但輕甲板及ヒ覆甲板ノ梁上帶板ノ厚ハ其ノ梁上側板ニ要スルモノニ等

クスヘシ

第百二十二條 梁ノ距離肋骨間ノ距離ノ四倍以内ニシテ之ニ甲板ヲ張ラス又ハ帶板ヲ取附ケサルトキハ帶板ノ代リニ第三號表ニ掲クル下甲板ノ梁上側板ニ附スヘキ山形材ト同寸法ノ山形材二條ヲ船ノ首尾ヲ通シテ中心線若ハ艙口ノ兩側ノ位置ニ設クヘシ

第百二十三條 帆船ニハ櫓ヲ楔止メト爲スヘキ甲板ニ櫓ノ近傍ニ於テ船ノ中央部ニ要スル梁上帶板ト同寸法ノ斜帶板ヲ取附ケ之ヲ梁、縱通帶板及ヒ梁上側板ニ固著スヘシ但第二數一萬五千以上ノモノニ於テハ上甲板ノ斜帶板ハ船ノ首尾ヲ通シテ取附クヘシ

第百二十四條 梁上帶板ノ橫縁ハ二列釘固著ト爲スヘシ

第十六章 船首肘板、船尾肘板及ヒ船首防撓構造

第百二十五條 縱通材ノ兩端ハ第一號表ニ掲クル船ノ中央ニ於ケル肋板ノ厚ニ等キ肘板ヲ以テ之ヲ結續シ船梁ノ下部ニ於テハ大約四呎ノ距離ニ肘板ヲ附シ又第二數二萬四千以上ノ船舶ニ於テハ各層梁間ノ中央ニ於テ船ノ首尾兩端ニ肘板ヲ設クヘシ

第百二十六條 船首隔壁ノ前部ニ於テ肋骨一本置ニ取附クヘキ梁ノ層數ハ船首隔壁ニ於テ測リタル深ニ依リ第十一章ノ規定ニ從ヒ之ヲ定ムヘシ
船首隔壁ノ前後ニハ梁ヲ増設シ之ニ梁上側板ヲ取附ケ該側板ハ船ノ幅ノ四分ノ一ニ等キ長ノ間船首隔壁ノ後部ニ延長シテ之ヲ外板ニ固著シ且肘板ヲ以テ肋骨一本置ニ之ヲ支フヘシ

第十七章 外板

第百二十七條 外板ノ寸法ハ第二號表ニ據リ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ノ前後ニ於テハ鐵ナルトキハ十六分ノ一時ツ、鋼ナルトキハ二十分ノ一時ツ、漸次其ノ厚ヲ減シ首尾ニ至リ兩端寸

法ニ適合セシムヘシ

覆甲板船ノ上端圓形ナル部分ニ於ケル外板ノ厚及ヒ山形材ハ覆甲板ノ梁上側板ニ要スルモノニ等クスヘシ

螺旋汽船ニ於テ船尾材ニ固著スヘキ龍骨翼板及ヒ第二數一萬六千六百以上ノ船舶ニ於テ船尾材ニ固著スヘキ外板ハ船ノ中央部ニ要スル外板ノ厚ト同一ト爲スヘシ

帆船ノ船首部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ一間ニ於ケル外層外板ハ船ノ中央部ニ要スル外板ノ厚ヨリ鐵ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時ヨリ多ク其ノ厚ヲ減スルコトヲ得ス且第二數一萬六千以上ナルトキハ彎曲部ニ於ケル外板三條ノ厚ハ船ノ首尾ヲ通シテ鐵ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時ヲ増シ又第二數二萬二千以上ナルトキハ船梁ヲ取附クル部分ノ外板一條ハ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ハ其ノ厚ヲ鐵ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時ヲ尙増スヘシ

第二號表ニ於テ外板ノ厚ニ様アルトキハ其ノ厚キモノヲ外層外板ニ、簿キモノヲ内層外板ニ適用スヘシ

外板ノ長ハ船ノ首尾兩端ニ用ウルモノヲ除クノ外肋骨間ノ距離ノ六倍以上ナルヲ要ス

第二百二十八條 第二數四千二百以上五千五百未滿、六千以上六千九百未滿及ヒ七千七百以上八千五百未滿ノ鋼製汽船ニ於テハ船ノ首尾ヲ通シテ彎曲部ニ於ケル外板一條ノ厚二十分ノ一時ヲ増スヘシ

第二百二十九條 第二數九千三百以上一萬百未滿、一萬九百以上一萬一千六百未滿、一萬二千四百以上一萬三千百未滿、一萬三千九百以上一萬四千七百未滿、一萬五千六百以上一萬六千六百未滿、一萬七千六百以上一萬八千七百未滿、一萬九千九百以上二萬一千三百未滿及ヒ二萬二千九百以上二萬四千六百未滿ノ鋼製汽船ニ於テハ船ノ首尾ヲ通シテ彎曲部ニ於ケル外板二條ノ厚二十分ノ一時ヲ増スヘシ

時ヲ増スヘシ

第二百三十條 第二數二萬六千五百以上二萬八千七百未滿、三萬一千二百以上三萬三千九百未滿、三萬六千八百以上四萬未滿、四萬三千四百以上四萬七千七百未滿、五萬一千以上五萬五千二百未滿及ヒ五萬九千七百以上六萬四千六百未滿ノ鋼製汽船ニ於テハ船ノ首尾ヲ通シテ彎曲部ニ於ケル外板三條ノ厚二十分ノ一時ヲ増スヘシ

第二百三十一條 上下ニ隣接スル外板ノ橫線ノ距離ハ肋骨間ノ距離ノ二倍以上ト爲スヘシ但一條ヲ隔テタルトキハ肋骨間ノ距離迄ニ減スルコトヲ得

舷側厚板若ハ輕甲板舷側板ノ橫線ト之ニ附スル梁上側板ノ銜接トノ距離ハ肋骨間ノ距離ノ二倍以上ト爲スヘシ

兩舷ニ於ケル龍骨翼板ノ橫線ノ距離ハ肋骨間ノ距離ノ二倍以上ト爲シ且龍骨ノ嵌接ト之ヲ隔離スルヲ要ス

第二百三十二條 舷側厚板及ヒ輕甲板舷側板ハ其ノ厚ニ拘ラス又龍骨ヨリ彎曲上部ニ至ル間ノ外板ハ船ノ中央ニ於テ鐵ニテ厚十六分ノ七吋以上、鋼ニテ厚二十分ノ七吋以上ナルトキ及ヒ彎曲上部ヨリ上部ノ外板ハ船ノ中央ニテ鐵ニテ厚十六分ノ九吋以上、鋼ニテ厚二十分ノ九吋以上ナルトキハ其ノ縱線ハ船ノ首尾ヲ通シテ二列釘固著ト爲スヘシ但之ヨリ薄キ板ハ一列釘固著ト爲スコトヲ得

第二百三十三條 第十八章ニ規定スル場合ヲ除キ外板ノ橫線及ヒ外板ヲ船首材、船尾材及ヒ龍骨ニ固著スルニハ二列釘ヲ用ウヘシ

第二百三十四條 外板ノ橫線ヲ累接ト爲ストキハ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ニ於ケル累接ノ幅及ヒ釘徑等ハ第七號表ニ據ルヘシ

前項ノ累接ハ第二數一萬六千未滿ナルトキハ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間又第二數一萬六千

以上ナルトキハ船ノ首尾ヲ通シテ三列釘固著ト爲スヘシ

第三百三十五條 輕甲板舷側板及ヒ重甲板ノ舷側厚板ハ橫縁固著ノ爲ニ其ノ梁上側板ニ附シタル山形材ノ上部ニ於テ堅ニ二列ノ鉸釘ヲ受クルニ充分ナル高迄達セシムヘシ

中央部ニテ船ノ長ノ五分ノ三間ニ於テ輕甲板舷側板及ヒ舷側厚板ニ舷窓ヲ設クルトキハ該部分ヲ二重張ト爲スカ若ハ其ノ厚ヲ増スカ若ハ舷窓ノ上部ニ山形材ヲ附シテ補強スヘシ

輕甲板船ニ於テ正甲板ノ梁上側板ヨリ舷側厚板ノ下縁迄ノ深ハ舷側厚板ノ幅ノ二分ノ一ヲ超ユヘカラス

第三百三十六條 螺旋軸管ノ覆外板ノ厚ハ第二數一萬三千九百未滿ノ船舶ニ於テハ船ノ中央部ニ要スル外板ノ厚ニ等クシ第二數一萬三千九百以上一萬八千七百未滿ノモノニ於テハ鐵ナルトキハ之ニ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時ヲ増シ第二數一萬八千七百以上二萬六千五百未滿ノモノニ於テハ鐵ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時ヲ増シ且其ノ橫縁ヲ三列釘固著ト爲シ第二數二萬六千五百以上ナルトキハ覆外板及ヒ其ノ上下ニ隣接スル外板ノ厚ハ中央部ニ要スル外板ノ厚ニ鐵ナルトキハ十六分ノ二時、鋼ナルトキハ二十分ノ二時ヲ増シ且其ノ橫縁ハ二重覆板ヲ附シテ衝接ト爲シ若ハ累接ト爲シ三列釘固著ト爲スカ又ハ覆外板ヲ二重張ト爲スヘシ

第三百三十七條 舷側板ニハ六呎以內ノ距離ニ坐板ヲ附シテ之ニ支柱ヲ取附クヘシ又舷側板ノ覆板ニ支柱ヲ取附クルトキハ覆板ノ幅ハ支柱ヲ取附クルニ充分ナルモノト爲スヘシ但第二數二萬三千四百以上ノ帆船ニ於テハ支柱ノ距離ハ五呎ヲ超ユヘカラス

支柱ノ徑ハ船舶ノ大小及ヒ支柱ノ長ニ應シ一時八分ノ三乃至二吋ト爲スヘシ但舷側ニ載貨門ヲ設クルトキハ其ノ兩側ニ於ケル支柱ノ強ヲ増スヘシ

第十八章 覆板及ヒ填板

第三百三十八條 覆板ノ幅ハ第七號表ニ據リ其ノ厚ハ接合スヘキ板ノ厚ヨリ少カルヘカラス但鐵ナルトキハ其ノ纖維ハ接合スヘキ板ノ纖維ト並行スヘキ様取附クヘシ

梁上側板及ヒ外板ノ衝接ニ二重覆板ヲ附スルトキハ其ノ厚ハ左表ニ依ルヘシ

接合スヘキ板ノ厚		埋頭釘孔ヲ穿ツヘキ覆板		他面ニ附スヘキ覆板	
鐵	鋼	鐵	鋼	鐵	鋼
十六分ノ九時	二十分ノ九時	十六分ノ七時	二十分ノ七時	十六分ノ六時	二十分ノ六時
十六分ノ十時	二十分ノ十時	十六分ノ八時	二十分ノ八時	十六分ノ六時	二十分ノ六時
十六分ノ十一時	二十分ノ十一時	十六分ノ八時	二十分ノ八時	十六分ノ七時	二十分ノ七時
十六分ノ十二時	二十分ノ十二時	十六分ノ九時	二十分ノ九時	十六分ノ七時	二十分ノ七時
十六分ノ十三時	二十分ノ十三時	十六分ノ十時	二十分ノ十時	十六分ノ八時	二十分ノ八時
十六分ノ十四時	二十分ノ十四時	十六分ノ十時	二十分ノ十時	十六分ノ九時	二十分ノ九時
十六分ノ十五時	二十分ノ十五時	十六分ノ十一時	二十分ノ十一時	十六分ノ九時	二十分ノ九時
二十分ノ十六時	二十分ノ十六時	十六分ノ十二時	二十分ノ十二時	十六分ノ十時	二十分ノ十時

第三百三十九條 第二數八千以下ノ船舶ニ於テ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ニ於ケル舷側厚板、輕甲板舷側板、梁上側板及ヒ彎曲部外板一條ノ衝接ニ用ウヘキ覆板ハ接合スヘキ板ノ厚ニ鐵ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時ヲ増シタル厚ト爲シ二列釘固著ト爲スヘシ

第四百十條 第二數八千ヲ超ユ一萬三千以下ノ船舶ニ於テハ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ニ於ケル舷側厚板、輕甲板舷側板、梁上側板及ヒ彎曲部外板二條ノ衝接ニ用ウヘキ覆板ハ接合スヘキ

板ノ厚ニ鐵ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ二時ヲ増シタル厚ト爲シ三列釘固著ト爲スヘシ

第四百一十一條 第二數一萬三千ヲ超エ一萬六千以下ノ鋼船ニ於テハ第四百十條ノ規定ノ外中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間彎曲部外板一條ノ衝接ニ用ウヘキ覆板ハ外板ノ厚ヨリ二十分ノ二時ヲ増シタル厚ト爲シ三列釘固著ト爲スヘシ

第四百一十二條 第二數一萬三千ヲ超エ一萬七千以下ノ鐵船ニ於テハ第四百十條ノ規定ノ外中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ハ尙彎曲部外板一條ノ衝接ニ用ウヘキ覆板ハ外板ノ厚ヨリ十六分ノ一時ヲ増シタル厚ト爲シ三列釘固著ト爲スヘシ

第四百一十三條 第二數一萬六千ヲ超エ二萬以下ノ鋼船ニ於テハ第四百一十一條ノ規定ノ外中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ニ於ケル外層外板ノ衝接ニ用ウヘキ覆板ハ總テ外板ノ厚ニ二十分ノ二時ヲ増シタル厚ト爲シ三列釘固著ト爲スヘシ

第四百一十四條 第二數一萬七千ヲ超エ二萬四千以下ノ鐵船ニ於テハ第四百一十二條ノ規定ノ外中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ハ尙彎曲部外板一條ノ衝接ニ用ウヘキ覆板ハ外板ノ厚ヨリ十六分ノ一時ヲ増シタル厚ト爲シ三列釘固著ト爲スヘシ

第四百一十五條 第二數二萬ヲ超エ二萬四千以下ノ鋼船ニ於テハ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間外板ノ衝接、重甲板及ヒ正甲板ノ梁上側板ノ衝接ニ用ウヘキ覆板ハ接合スヘキ板ノ厚ニ二十分ノ三時ヲ増シタル厚ト爲シテ三列釘固著ト爲シ其ノ前後ニ於ケル覆板ハ接合スヘキ板ノ厚ニ二十分ノ二時ヲ増シタル厚ト爲スヘシ

第四百一十六條 第二數二萬四千ヲ超エ二萬八千以下ノ鐵船ニ於テハ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ニ於ケル舷側厚板、輕甲板舷側板、彎曲部外板四條其ノ他ノ外層外板及ヒ重甲板並ニ正甲板ノ梁上

側板ノ衝接ニ用ウヘキ覆板ハ接合スヘキ板ノ厚ニ十六分ノ一時ヲ増シタル厚ト爲シ三列釘固著ト爲スヘシ

第四百一十七條 第二數二萬四千ヲ超エ二萬八千以下ノ鋼船ニ於テハ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間外板並ニ重甲板及ヒ正甲板ノ梁上側板ノ衝接ニ用ウヘキ覆板ハ接合スヘキ板ノ厚ニ二十分ノ四時其ノ前後ニ於テハ二十分ノ二時ヲ増シタル厚ト爲シ中央部ニ於ケル船ノ長ノ四分ノ三間ニ於テハ三列釘固著ト爲スヘシ

第四百一十八條 第二數二萬八千ヲ超エ三萬三千以下ノ鐵船ニ於テハ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ニ於ケル外板ノ衝接、重甲板及ヒ正甲板ノ梁上側板ノ衝接ニ用ウヘキ覆板ハ接合スヘキ板ノ厚ニ十六分ノ一時ヲ増シタル厚ト爲シ三列釘固著ト爲スヘシ

第四百一十九條 第二數三萬三千ヲ超エ四萬以下ノ鐵船ニ於テハ船ノ首尾ヲ通シテ外板ノ衝接、重甲板及ヒ正甲板ノ梁上側板ノ衝接ニ用ウヘキ覆板ハ接合スヘキ板ノ厚ニ十六分ノ二時ヲ増シタル厚ト爲シ中央部ニ於テ船ノ長ノ三分ノ二間ハ三列釘固著ト爲スヘシ

第四百二十條 第二數二萬八千ヲ超ユル鋼船ニ於テハ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三間ハ外板ノ衝接、重甲板及ヒ正甲板ノ梁上側板ノ衝接ニ用ウヘキ覆板ハ接合スヘキ板ノ厚ニ二十分ノ四時其ノ前後ニ於テハ二十分ノ二時ヲ増シタル厚ト爲シ船ノ首尾ヲ通シテ三列釘固著ト爲スヘシ

第四百二十一條 幅四十吋以上四十六吋以下ノ外層外板又ハ幅四十八吋以上五十四吋以下ノ内層外板ノ衝接ハ外板ノ厚ヨリ鐵ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時厚キ覆板ヲ附シ三列釘固著ト爲スヘシ

第四百二十二條 三層重甲板船ニ於ケル舷側厚板、重甲板ノ梁上側板、正甲板ノ梁上側板並ニ彎曲部外板三條ノ衝接及ヒ輕甲板船ニ於ケル輕甲板舷側板、舷側厚板、輕甲板ノ梁上側板、正甲板ノ梁上側

板並ニ彎曲部外板三條ノ銜接ハ前數條ノ規定ニ該當セザルトキト雖モ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ハ三列釘固著ト爲スヘシ

第百五十三條 外板ヲ二重張ト爲ストキハ其ノ内外板トモ銜接ニハ覆板ヲ附シテ前數條ノ規定ニ從ヒ二列釘又ハ三列釘ヲ以テ之ヲ固著シ且内外板トモ肋骨ニ固著スルノ外肋骨間ノ中央及ヒ縱線ニ於テ相互ニ固著スヘシ

第百五十四條 平板龍骨ノ銜接ニ用ウヘキ覆板ノ厚ハ彎曲部外板ノ覆板ノ厚ニ要スル割合ヲ以テ平板龍骨ノ厚ヨリ之ヲ増スヘシ

第百五十五條 外層外板ト正肋材トノ間隙ニハ正肋材ト同幅ノ填板ヲ附スヘシ但支水隔壁ノ部分ニ於テハ其ノ前後ニ於ケル肋骨迄之ヲ延長セシムヘシ

第十九章 鉸釘

第百五十六條 鉸釘ノ徑ハ第七號表ニ據リ固著スヘキ板又ハ山形材ノ厚キモノヲ表中ノ板ノ厚ニ充テ之ヲ定ムヘシ但梁上側板及ヒ梁上帶板鐵ニテ厚十六分ノ十吋以上、鋼ニテ厚二十分ノ十吋以上ナルトキハ梁ニ固著スヘキ鉸釘ノ徑ハ總テ四分ノ三吋ト爲スヘシ

外板ヲ船首材、船尾材及ヒ龍骨ニ固著スヘキ鉸釘ノ徑ハ外板ノ厚ニ依リテ定メタルモノニ四分ノ一時ヲ増スヘシ但一時四分ノ一ヲ超ユルヲ要セス

第百五十七條 外板ヲ船首材、船尾材及ヒ龍骨ニ固著スル場合ヲ除クノ外二列以上ノ鉸釘ヲ要スル接合ニ於テハ鉸釘ノ配置ハ並列法ヲ用ウヘシ

第百五十八條 總テ板ノ橫線ノ固著ニ於ケル釘列線ノ距離ハ釘徑ノ三倍ト爲スヘシ又三列釘ヲ用ウル場合ニハ銜接ニ限リ終列ニ於ケル釘數ハ半數迄ニ減スルコトヲ得但鋼板ニ於テハ第二數二萬ヲ超ユルトキハ終列ニ於ケル鉸釘ノ心距ハ釘徑ノ五、二五倍ヲ超ユルコトヲ許サス

鉸釘ハ固著スヘキ板若ハ山形材等ノ縁ヲ距ルコト釘徑以上又外板ノ縱線ニ於ケル釘列線ノ距離ハ釘徑ノ二、五倍ト爲スヘシ

第百五十九條 鉸釘ノ心距ハ外板ノ橫線、輕甲板、重甲板及ヒ正甲板ノ梁上側板ノ銜接ニ於テハ鐵ナルトキハ釘徑ノ四倍、鋼ナルトキハ三、五倍、鐵甲板若ハ鋼甲板ノ橫線、內底板ノ接合及ヒ縱通桁板ノ銜接ニ於テハ釘徑ノ四倍、外板ノ縱線、上甲板ノ梁上側板ニ附スル山形材ノ固著、鐵甲板若ハ鋼甲板ノ縱線ノ固著等ニ於テハ釘徑ノ四、五倍ヲ超ユヘカラス但龍骨、船首材及ヒ船尾材ト外板トノ固著及ヒ內龍骨板ト平板龍骨トノ固著ニ於ケル山形材ニ於テハ鉸釘ノ心距ハ釘徑ノ五倍又內龍骨、肋板、正肋材、副肋材等ノ固著、外板ト正肋材トノ固著及ヒ梁用山形材ト梁板トノ固著ニ於テハ鐵ナルトキハ釘徑ノ八倍、鋼ナルトキハ釘徑ノ七倍、鐵甲板若ハ鋼甲板及ヒ梁上側板ト梁トノ固著ニ於ケル鉸釘ノ心距ハ釘徑ノ八倍ト爲スコトヲ得

第百六十條 肋骨間ノ距離二十三吋以上ノ船舶ニ於テハ梁上側板、斷切板等ヲ外板ニ固著スヘキ山形材ノ兩邊ニハ肋骨間ニ於テ各四箇ノ鉸釘ヲ要スト雖モ肋骨間ノ距離二十三吋未滿ナルトキハ釘數ヲ三箇ニ減スルコトヲ得

第百六十一條 舵板ヲ舵骨ニ固著スヘキ鉸釘ノ徑ハ船ノ中央部ニ於テ龍骨翼板ト其ノ鄰接外板トノ固著ニ要スル鉸釘ニ等クシ又鉸釘ノ心距ハ釘徑ノ五倍ヲ超ユヘカラス

第二十章 支水隔壁

第百六十二條 汽船ニハ首尾及ヒ機關室前後ニ支水隔壁ヲ設クヘシ

船首隔壁ハ正甲板ニ於テ船首材ヲ距ルコト船ノ幅ノ二分ノ一ヨリ少カラサル所ニ設ケ之ヲ上甲板迄達セシムヘシ

機關室前後ノ隔壁及ヒ船尾隔壁ハ上甲板迄達セシムヘシ但覆甲板船ニ於テハ正甲板ニ止ムルコト

ヲ得

第百六十三條 長二百八十呎以上ノ汽船ニ於テハ船首隔壁ト機關室前端隔壁トノ大約中央ニ支水隔壁ヲ増設シ之ヲ上甲板迄達セシムヘシ但覆甲板船ニ於テハ正甲板ニ止ムルコトヲ得

長三百三十呎以上ノ汽船ニ於テハ前項ニ掲ケタル隔壁ノ外更ニ船尾隔壁ト機關室後端隔壁トノ大約中央ニ支水隔壁ヲ増設シ之ヲ前項ノ高ニ達セシムヘシ

第百六十四條 帆船ニ於テハ汽船ニ準シ船首隔壁ヲ設クヘシ

第百六十五條 船首隔壁ニハ塗水孔其ノ他戸口ヲ設クヘカラス

第百六十六條 支水隔壁板ノ厚ハ第一號表ニ據リ其ノ隔壁ハ船側ニ於テハ同表ニ掲クル正肋材ト同

寸法ノ山形材二條ノ間ニ取附ケ船底ニ於テハ二列釘ヲ以テ肋板ニ固著シ甲板及ヒ二重底ノ内底板

ニハ其ノ兩面ニ第一號表ニ掲クル副肋材ト同寸法ノ山形材ヲ附シテ之ヲ固著スヘシ

第百六十七條 支水隔壁ニハ一面ニハ堅ニ、他面ニハ横ニ防撓材ヲ設クヘシ防撓材ニハ第一號表ニ

掲クル正肋材ヨリ小ナラサル山形材ヲ用井堅防撓材ハ毎二呎六吋以内ノ距離ニ設ケ隔壁ノ上部ヨ

リ船底迄達セシメ二重底ヲ備フル場合ニハ肘板ヲ以テ之ヲ内底板ニ固著スヘシ又横防撓材ハ最下

層ノ甲板以下ニ於テ毎四呎以内ノ距離ニ設クヘシ

船首隔壁及ヒ最大幅四十呎以上ノ隔壁ノ横防撓材ニハ第四號表ニ掲クル鐵甲板若ハ鋼甲板ニ取附

クヘキ梁ト同寸法ノ球山形材ヲ用井肘板ヲ以テ之ヲ船側ニ固著スヘシ

幅三十六呎以上四十五呎未満ノ隔壁ニハ最下層ノ甲板ヨリ船底ニ達スル防撓桁板一箇、幅四十五

呎以上五十五呎未満ノ隔壁ニハ二箇又幅五十五呎以上六十呎未満ノ隔壁ニハ三箇ヲ増設スヘシ

第百六十八條 船梁ヲ除キ最下層ノ梁上ニ於テ支水隔壁ノ前後ニ甲板ヲ張ラサルトキハ最下層ノ甲

板ト船底トノ中間ニ於テ適當ノ位置ニ第六十一條ニ掲クル溝形特設船梁ト同寸法ノ横防撓材一本

ヲ増設スヘシ

第百六十九條 特設肋骨ヲ以テ最下層ノ甲板梁及ヒ船梁ニ代用シタルトキハ支水隔壁ノ中央ニ於テ

堅ニ桁板、横ニ溝形梁一箇ヲ増附スヘシ

第百七十條 船首隔壁ヲ除キ其ノ他ノ隔壁ニハ塗水孔ヲ設クルモ妨ナシト雖モ之ヲ設クルトキハ

支水瓣或ハ支水嘴子ヲ備フヘシ

支水瓣若ハ支水嘴子ハ最大喫水線以上ニ於テ關閉シ得ヘキ構造ト爲シ且常ニ検査シ得ヘキ様裝置

シ又其ノ破損ヲ防ク爲メニ覆箱ヲ設クヘシ

第百七十一條 支水隔壁ニ於テ螺旋軸及ヒ諸管等ノ貫通スル部分ハ水密ニ構造スヘシ

第百七十二條 船首隔壁ノ前部及ヒ船尾隔壁ノ後部ニハ最大喫水ニ相當スル高迄水ヲ充タシ其ノ他

ノ隔壁ニハ唧筒ヲ以テ水ヲ注射シ隔壁ノ水密ヲ試験スヘシ

第二十一章 甲板

第百七十三條 重甲板船及ヒ輕甲板船ノ上甲板ニ張ル木甲板ノ厚ハ第三號表ニ據ルヘシ其ノ正甲板

ノ厚ハ之ヨリ二分ノ一時ヲ減スルコトヲ得

覆甲板船ノ正甲板ニ張ル木甲板ノ厚ハ重甲板船ノ正甲板ニ要スルモノニ等シク覆甲板ノ厚ハ其ノ

正甲板ノ厚ヨリ四分ノ一ヲ減スルコトヲ得

上甲板及ヒ正甲板ハ總テ水密ト爲スヘシ

木甲板ノ固著釘ノ寸法ハ左表ニ據ルヘシ

木	甲	板	ノ	厚	固	著	釘	ノ	徑
二	吋	半	以	上	三	吋	半	未	滿
十	分	六	分	八	分	八	分	八	分

三	吋	半	以	上	四	吋	未	滿	十	六	分	九	吋
四	吋						十	六	分	十	吋		

四十

第七十四條 鐵甲板若ハ鋼甲板ニ木板ヲ張ルトキハ其ノ厚ハ上甲板ニ於テハ柔材ナレハ三吋、堅材ナレハ二吋二分ノ一ト爲スヘシ但下層ノ甲板ニ於テハ柔材ヲ用ウルモ二吋二分ノ一ト爲スコトヲ得

第七十五條 暴露甲板ニ木板ヲ張ルトキハ其ノ甲板ノ周圍ニハ堅材ヲ用ウヘシ

第七十六條 木甲板ハ幅六吋以下ナルトキハ振止釘一本ヲ以テ每梁ニ固著シ幅六吋ヲ超ユルトキハ二本ヲ以テ每梁ニ固著スヘシ但幅八吋以下ナルトキハ其ノ一本ハ振込釘ヲ使用スルコトヲ得
梁上ニ鐵板若ハ鋼板ヲ張リタルトキハ之ニ木甲板ヲ固著スヘシ

第七十七條 鐵甲板若ハ鋼甲板ヲ以テ木甲板ニ代用スルトキハ其ノ厚ハ第三號表ニ據リ其ノ甲板梁ハ第九十三條ノ規定ニ依ルヘシ

第七十八條 鐵甲板若ハ鋼甲板ヲ要スル場合及ヒ其ノ厚ハ第五號表ニ據ルヘシ但輕甲板船ニ於テハ長ト深トノ割合ニ長ト正甲板迄ノ深トノ割合ヨリニ減シタルモヲ用ウヘシ

船ノ中央ニ於ケル鐵甲板ノ厚十六分ノ七吋、鋼甲板ノ厚二十分ノ七吋乃至二十分ノ九吋ナルトキハ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ノ前後ニテハ鐵甲板ナルトキハ十六分ノ一時、鋼甲板ナルトキハ二十分ノ一時ヲ減シ又鐵甲板ノ厚十六分ノ八吋以上、鋼甲板ノ厚二十分ノ十吋以上ナルトキハ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ノ前後ニ於テ船ノ長ノ八分ノ一間ハ鐵甲板ニ於テハ十六分ノ一時、鋼甲板ニ於テハ二十分ノ一時ヲ減スルコトヲ得

第七十九條 第五號表ニ據リ船ノ全長又ハ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ニ一層ノ鐵甲板若ハ

鋼甲板ヲ要スルトキハ二層重甲板船ニ於テハ重甲板、三層重甲板船ニ於テハ重甲板若ハ正甲板、輕

甲板船ニ於テハ輕甲板若ハ正甲板、覆甲板船ニ於テハ正甲板ニ之ヲ設クヘシ
中央部ニ於ケル船ノ長ノ二分ノ一間ニ鐵甲板若ハ鋼甲板ヲ張ルトキハ其ノ前後ニ於テ船ノ長ノ八

分ノ一間ハ漸次其ノ幅ヲ減シテ梁上側板ニ之ヲ會セシムヘシ
第八十條 鐵甲板及ヒ鋼甲板ノ接合ハ一列釘ヲ以テ固著シ得ルモ其ノ橫線ハ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ハ二列釘ヲ以テ固著スヘシ又鐵甲板及ヒ鋼甲板ハ木板ヲ張ルト否トニ拘ハラズ水

密ト爲スヘシ
第八十一條 鐵甲板若ハ鋼甲板ヲ要スル船舶ニ於テ其ノ甲板ニ船口其ノ他大ナル口ヲ設クルトキハ補強ノ爲メ適當ノ構造ヲ爲スヘシ

第二十二章 二重底及ヒ水艙

第八十二條 二重底ノ内底板及ヒ水艙ノ頂板ニハ密閉シ得ヘキ出入口ヲ設ケ之ニ鐵製又ハ鋼製ノ蓋板ヲ備ヘ且其ノ周圍ニハ蓋板ヲ受クル爲メ緣環ヲ取附クヘシ

二重底ノ側桁板及ヒ區畫式二重底ノ肋板ニハ人孔ヲ設クヘシ但中心線桁板ニハ之ヲ設クヘカラス
第八十三條 二重底及ヒ水艙ハ總テ水密ニ構造シ且之ニ排氣管ヲ設クヘシ

第八十四條 機關室ノ全部ニ二重底ヲ設クルトキハ機關室後端ノ隔壁ト其ノ前部ニ於テ之ニ鄰接スル肋骨トノ間ニ塗水溜ヲ設クルコトヲ得

第八十五條 二重底ハ船ノ最大喫水ニ相當スル水高壓力ヲ以テ其ノ水密ヲ試驗スヘシ
船首隔壁ノ前部及ヒ船尾隔壁ノ後部ヲ水艙トシテ使用シ又ハ艙内ニ水艙ヲ設クルトキハ其ノ頂板上八呎ヨリ少カラス且最大喫水ヨリ少カラサル高ニ相當スル水高壓力ヲ以テ其ノ水密ヲ試驗スヘシ

第二十三章 區畫式二重底

第百八十六條 區畫式二重底ノ内底板、縁板、縦通桁板、肋板、肘板、山形材ノ寸法及ヒ員數ハ第六號表ニ據ルヘシ但中心線ニ於ケル内底板ノ幅ハ第二號表ニ掲クル龍骨翼板ノ幅ヨリ少カラス又汽鐘室ニ於ケル肋板ノ厚ハ鐵ナルトキハ十六分ノ一時鋼ナルトキハ二十分ノ一時ヲ増スヘシ

第百八十七條 二重底内ニ於テハ肋骨一本置ニ一枚板ノ肋板ヲ設ケ其ノ上端一面ニ山形材ヲ取附クヘシ但第二數一萬一千以下ナルトキハ組合セ板ノ肋板ヲ用ウルコトヲ得
汽機ノ下ニ於テハ肋骨毎ニ、汽鐘ノ下ニ於テハ肋骨一本置ニ上端兩面ニ山形材ヲ附シタル一枚板ノ肋板ヲ設クヘシ

第百八十八條 平板龍骨ヲ有スル船舶及ヒ第二數一萬八千以上ニシテ側板龍骨ヲ有スル船舶ニ於テハ肋板ヲ附セサル肋骨ハ肘板ヲ以テ之ヲ中心線桁板ニ固著スヘシ但第二數三萬八千以上ノ船舶ニ於テハ肘板ノ頂部ノ幅ハ中央部ニ於テ船ノ長ノ五分ノ三間ハ内底板ノ下面ニ附スル山形材ニ三箇ノ鉸釘ヲ以テ固著スルニ充分ナラシムヘシ

第百八十九條 縁板ハ第六號表ニ掲クル山形材ヲ以テ外板ニ固著シ且二重底ノ外部ニ於テハ肋骨毎ニ、内部ニ於テハ肋板ヲ附セサル肋骨毎ニ肘板及ヒ山形材ヲ以テ固著スヘシ但第二數三萬八千以上ノ船舶ニ於テハ内部ニ附スル肘板ノ頂部ノ幅ハ中央部ニ於テ船ノ長ノ五分ノ三間ハ内底板ノ下面ニ附スル山形材ニ三箇ノ鉸釘ヲ以テ固著スルニ充分ナラシム又外部ニ附スル肘板ハ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ハ其ノ兩面ニ山形材ヲ附シテ之ヲ縁板ニ固著スヘシ

第百九十條 内底板ノ下面ニハ肋板ヲ附セサル肋骨ニ對スル部分ニ肋板ノ上端ニ附スル山形材ニ要スルモノト同寸法ノ山形材ヲ取附クヘシ

第百九十一條 中心線ニ於ケル内底板ノ接合及ヒ機關室ニ於ケル内底板ノ横縁ハ二列釘固著ト爲スヘシ

第二數二萬以上三萬未満ナルトキハ内底板ノ横縁ハ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ハ二列釘固著ト爲シ第二數三萬以上三萬八千未満ナルトキハ内底板ノ横縁及ヒ中心線内底板ニ鄰接スル板ノ縦縁ハ總テ二列釘固著ト爲シ第二數三萬八千以上ナルトキハ其ノ他ノ内底板ノ縦縁ハ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ハ總テ二列釘固著ト爲スヘシ

第百九十二條 側桁板及ヒ縁板ノ横縁ハ二列釘固著ト爲スヘシ
中心線桁板ノ衝接ハ二重覆板ヲ附シ三列釘固著ト爲スヘシ但終列ニ於ケル釘數ハ半數迄ニ減シ又第二數二萬一千以下ナルトキハ二列釘固著ト爲スコトヲ得
各覆板ノ厚ハ接合スヘキ板ノ厚ノ二分ノ一ニ鐵ナルトキハ十六分ノ二時、鋼ナルトキハ二十分ノ三時ヲ加ヘタルモノト爲スヘシ

第百九十三條 肋骨毎ニ中心線桁板ヨリ縁板迄貫通スル肋板ヲ用非テ區畫式二重底ヲ構造スルトキハ機關室及ヒ第二數二萬四千以上ノ船舶ニ於テハ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ニ於ケル肋板ノ兩面ニ豎ニ山形材ヲ附シテ中心線桁板ニ固著シ且中心線桁板ト縁板トノ大約中央ニ斷切桁板ヲ設ケ山形材ヲ以テ之ヲ肋板、内底板及ヒ外板ニ固著スヘシ又内底板ニ於テ測リタル縁板間ノ幅三十四呎以上ノ部分ニハ斷切桁板二條ヲ設ケ汽機室ニ於テハ第六號表ニ掲クル側桁板ト同數ノ斷切桁板ヲ設クヘシ

第百九十四條 區畫式二重底ノ部分ニ於ケル外板ハ肋骨毎ニ肋板ヲ附シタルトキハ龍骨翼板ヲ除キ鐵ニテ厚十六分ノ十時以上、鋼ニテ厚二十分ノ十一時以上ノモノニ限リ第二號表ニ掲クル厚ヨリ鐵ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時ヲ減スルコトヲ得

第九十五條 二重底ノ構造ニ於テ肋板、肘板及ヒ斷切桁板等ニ矩形鋼板ヲ使用スルトキハ其ノ厚ハ第六號表ニ掲クルモノニ二十分ノ一時ヲ増スヘシ

第二十四章 肋骨上ニ縦通桁板ヲ用テ構造シタル二重底

第九十六條 肋骨上ニ縦通綠板ヲ用テ構造シタル二重底ノ内底板、桁板、縦通桁板、肘板ノ厚及ヒ山形材ノ寸法ハ第六號表ニ據リ縦通桁板間ノ距離ハ三呎ヲ超ユヘカラス

二重底ノ綠板ハ第六號表ニ掲クル山形材ヲ以テ外板ニ固著シ且其ノ内外ニ於テ肘板及ヒ山形材ヲ以テ肋骨毎ニ固著スヘシ但外部ニ附スル肘板ハ彎曲上部ニ達セシムヘシ

第九十七條 二重底内ニハ彎曲部内龍骨及ヒ翼内龍骨ヲ設クルヲ要セス但二重底ノ全通セサルトキハ之ヲ肋骨間ノ距離ノ三倍ノ間ニ延長シ且爲シ得ヘキ部分ニ於テハ之ヲ縦通桁板ニ固著スルカ若ハ縦通桁板ヲ二重底外ニ延長シテ之ヲ固著スヘシ

縦通桁板ニハ其ノ上下兩端ニ縦通スル山形材ヲ取附ケ上端ハ内底板ニ下端ハ二重副肋材ニ之ヲ固著スヘシ

第九十八條 二重底ヲ設クル部分ニ於ケル外板ハ龍骨翼板ヲ除キ鐵ニテ厚十六分ノ十吋以上、鋼ニテ厚二十分ノ十一吋以上ナルトキハ第二號表ニ掲クル厚ヨリ鐵ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時ヲ減スルコトヲ得

第二十五章 内張板

第九十九條 船底ニ於テ彎曲上部迄ハ厚二吋半ヨリ少カラサル木板ヲ張詰メ其ノ以上船側ニ於テハ厚二吋ヨリ少カラサル木板ヲ張詰ムルカ若ハ適當ノ間隔ニ之ヲ取附クヘシ但檢査又ハ塗替ノ爲メ容易ニ取外シ得ヘキ様取附クルヲ要ス

第二百條 二重底ノ内底板ニハ横ニ枕木ヲ設ケ之ニ厚二吋半ヨリ少カラサル内張板ヲ取附クヘシ

第二十六章 車軸隧道

第二百一條 車軸隧道板ノ厚ハ第一號表ニ掲クル隔壁ノ下部ニ用ウヘキ板ノ厚ニ等クシ艙口ノ直下ニ於ケル頂板ノ厚ハ鐵ナルトキハ之ニ十六分ノ二吋以上、鋼ナルトキハ二十分ノ二吋以上ヲ増スカ若ハ厚二吋以上ノ木板ヲ以テ之ヲ覆フヘシ

車軸隧道ニハ第一號表ニ掲クル副肋材ト同寸法ノ山形材ヲ横ニ四呎以内ノ距離ニ取附クヘシ但艙口ノ直下ニ於テハ其ノ距離三呎ヲ超エス又船尾隔壁ノ前部ニ於テ船側ニ固著スル頂板ニハ肋骨間ノ距離ト同距離ニ之ヲ設クヘシ

車軸隧道ハ水密ニ構造シ機關室後端ノ隔壁ニ設クル車軸隧道ノ出入口ニハ支水戸ヲ備ヘ最大喫水線以上ニ於テ之ヲ開閉シ得ヘキ裝置ト爲スヘシ

第二十七章 船首樓、船尾樓及ヒ船橋樓

第二百二條 龍骨ノ上面ヨリ上甲板梁ノ上面迄ノ深十四呎未満ノ船舶ニハ特ニ相當ノ補強構造ヲ加フルニアラサレハ船首樓又ハ船尾樓ヲ設クルコトヲ得ス

第二百三條 船首樓及ヒ船尾樓ノ外板、梁上帶板、梁上側板、梁上側板ノ山形材及ヒ木甲板ノ寸法ハ上甲板ニ要スルモノヨリ其ノ四分ノ一ヲ減スルコトヲ得但外板ハ覆甲板船ノ上部ニ用ウヘキモノヨリ厚キヲ要セス

外板、梁上側板及ヒ梁上帶板ノ橫線ハ二列釘固著ト爲スヘシ

第二百四條 梁ハ肋骨一本置ニ取附ケ之ニ梁柱ヲ設クヘシ又船體上端ノ形狀圓形ナルトキハ長十八吋以上梁ヲ正肋材ニ重ネテ固著スヘシ

第二百五條 第二數一萬八千以上ノ船舶ノ船首樓ニ於テハ肋骨一本置ニ副肋材ヲ船首樓甲板迄達セ

シメ若ハ上甲板ト船首樓甲板トノ中央ニ於テ第一號表ニ掲クル副肋材ト同寸法ノ山形材ヲ二枚合
セト爲シ之ヲ兩舷ニ取附ケ其前部ハ肘板ヲ以テ結續スヘシ

第二百六條 船體上端ノ圓形ナル部分ニ用ウル外板ノ厚ハ船首樓或ハ船尾樓ノ梁上側板ニ要スルモ
ノニ等クスヘシ

第二百七條 船尾樓及ヒ船橋樓ノ前部ニ於ケル隔壁ノ厚ハ外板ニ等クス鐵ナルトキハ之ヨリ十六分
一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時厚キ綠材ヲ備フヘシ

隔壁及ヒ綠材ニハ船首樓梁ニ要スルモノト同寸法ノ球板ヲ第一號表ニ掲クル副肋材ト同寸法ノ山
形材ヲ以テ緊ニ三十吋ノ距離ニ取附ケ其ノ上下兩端ハ肘板ヲ以テ之ヲ鐵甲板若ハ鋼甲板或ハ梁上
ニ設クル鐵板若ハ鋼板ニ固著スヘシ但船尾樓及ヒ船橋樓短キトキハ第一號表ニ掲クル正肋材ト同
寸法ノ山形材ヲ以テ球板及ヒ副肋材ト同寸法ノ山形材ニ代フルコトヲ得

第二百八條 船橋樓ノ前後ニ於テ之ニ鄰接スル舷牆板ハ特ニ之ヲ厚クシ肘板ヲ以テ之ヲ支ヘ且排水
孔ニハ綠環ヲ取附クヘシ

第二百九條 船尾樓ノ長、船ノ長ノ四分ノ一ヲ超ユルトキハ輕甲板舷側板若ハ重甲板船ノ舷側厚板
ヲ二重張ト爲シ且船尾樓ノ前部ヨリ前後十呎以上ノ間上甲板ノ梁上側板ノ厚ヲ増スヘシ

第二百十條 船橋樓ノ正肋材ヲ上甲板ニ於テ斷切スルトキハ其ノ下端ハ肘板ヲ以テ上甲板ノ梁上側
板ニ固著スヘシ

第二百十一條 第二數一萬五千以上ニシテ船尾樓若ハ低船尾樓ト船橋樓トノ合長、船ノ長ノ五分ノ
二ヲ超ユル船舶又同數ニシテ深ノ一倍ヲ超ユル長ヲ有スル船舶ニ船ノ長ノ五分ノ一以上ナル船
橋樓ヲ設クルトキハ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ハ輕甲板舷側板若ハ重甲板船ノ舷側厚板ヲ
二重張ト爲スヘシ

第二百十二條 船橋樓ノ外板及ヒ梁上側板ノ寸法ハ左表ニ據リ梁上側板ニ附スヘキ山形材ハ正甲板
ノ梁上側板ニ要スルモノト等クシ梁上帶板及ヒ木甲板ノ寸法ハ上甲板ニ要スルモノヨリ其ノ四分
ノ一ヲ減スルコトヲ得

第二數	上		外		其		他		梁上		側板	
	鐵	鋼	鐵	鋼	鐵	鋼	鐵	鋼	鐵	鋼	鐵	鋼
一萬五千未滿	厚三十分ノ八吋	厚三十分ノ八吋	厚三十分ノ八吋	厚三十分ノ八吋	厚三十分ノ八吋	厚三十分ノ八吋	厚三十分ノ八吋	厚三十分ノ八吋	厚三十分ノ八吋	厚三十分ノ八吋	厚三十分ノ八吋	厚三十分ノ八吋
一萬五千以上	厚三十分ノ九吋	厚三十分ノ九吋	厚三十分ノ九吋	厚三十分ノ九吋	厚三十分ノ九吋	厚三十分ノ九吋	厚三十分ノ九吋	厚三十分ノ九吋	厚三十分ノ九吋	厚三十分ノ九吋	厚三十分ノ九吋	厚三十分ノ九吋
一萬八千未滿	同三十分ノ九吋	同三十分ノ九吋	同三十分ノ九吋	同三十分ノ九吋	同三十分ノ九吋	同三十分ノ九吋	同三十分ノ九吋	同三十分ノ九吋	同三十分ノ九吋	同三十分ノ九吋	同三十分ノ九吋	同三十分ノ九吋
一萬八千以上	同三十分ノ十吋	同三十分ノ十吋	同三十分ノ十吋	同三十分ノ十吋	同三十分ノ十吋	同三十分ノ十吋	同三十分ノ十吋	同三十分ノ十吋	同三十分ノ十吋	同三十分ノ十吋	同三十分ノ十吋	同三十分ノ十吋
二萬一千未滿	同三十分ノ十吋	同三十分ノ十吋	同三十分ノ十吋	同三十分ノ十吋	同三十分ノ十吋	同三十分ノ十吋	同三十分ノ十吋	同三十分ノ十吋	同三十分ノ十吋	同三十分ノ十吋	同三十分ノ十吋	同三十分ノ十吋
二萬一千以上	同三十分ノ十一吋	同三十分ノ十一吋	同三十分ノ十一吋	同三十分ノ十一吋	同三十分ノ十一吋	同三十分ノ十一吋	同三十分ノ十一吋	同三十分ノ十一吋	同三十分ノ十一吋	同三十分ノ十一吋	同三十分ノ十一吋	同三十分ノ十一吋
二萬四千未滿	同三十分ノ十一吋	同三十分ノ十一吋	同三十分ノ十一吋	同三十分ノ十一吋	同三十分ノ十一吋	同三十分ノ十一吋	同三十分ノ十一吋	同三十分ノ十一吋	同三十分ノ十一吋	同三十分ノ十一吋	同三十分ノ十一吋	同三十分ノ十一吋
二萬四千以上	同三十分ノ十二吋	同三十分ノ十二吋	同三十分ノ十二吋	同三十分ノ十二吋	同三十分ノ十二吋	同三十分ノ十二吋	同三十分ノ十二吋	同三十分ノ十二吋	同三十分ノ十二吋	同三十分ノ十二吋	同三十分ノ十二吋	同三十分ノ十二吋

第二十八章 低船首樓及ヒ低船尾樓

第二百十三條 低船首樓及ヒ低船尾樓ノ外板ノ厚ハ輕甲板舷側板及ヒ舷側厚板ヲ除キ船體上部ノ外
板鐵ニテ厚十六分ノ七吋以上ナルトキハ之ヨリ十六分ノ一時ヲ減シ鋼ニテ厚二十分ノ七吋以上ナ
ルトキハ之ヨリ二十分ノ一時ヲ減スルコトヲ得

第二百十四條 副肋材ハ肋骨一本置ニ低船首樓及ヒ低船尾樓ノ梁上側板迄達セシムヘシ

第二百十五條 低船尾樓ノ前部ニハ船橋樓ノ外板ニ等キ厚ノ隔壁ヲ設ケ其ノ後面ニハ第一號表ニ掲
クル正肋材ト同寸法ノ山形材ヲ緊ニ三十吋ノ距離ニ取附クヘシ

隔壁ノ下端ハ上甲板ノ鐵甲板若ハ鋼甲板ニ山形材ヲ以テ固著スヘシ但其ノ隔壁ノ部分ニ鐵甲板若
ハ鋼甲板ノ達セサルトキハ上甲板ノ梁ニ其ノ梁上帶板ヨリ小ナラサル鐵板若ハ鋼板ヲ取附ケ山形

材ヲ以テ之ヲ固著スヘシ又該板ニハ上甲板ノ端末ヲ取附クヘシ

第二百十六條 低船尾樓ヲ設クル部分ニ於ケル艙梁、梁上側板及ヒ艙内縱通材ノ設置ハ龍骨ノ上面ヨリ低船尾樓甲板梁ノ上面迄ノ深ヲ規程ノ深ニ充テ之ヲ定ムヘシ

低船尾樓ノ前端ノ前後ニ於テ上甲板ノ舷側厚板ハ適當ナル長ノ間之ヲ二重張ト爲スヘシ

低船尾樓ト船橋樓トヲ連續スルトキハ其ノ部分ノ前後ニ於テ低船尾樓ノ外板ヲ二重張ト爲スカ若

ハ外板ノ厚ヲ増シ且舷側厚板ヲ二重張ト爲シ又船橋樓ニ鄰接スル低船尾樓ノ舷側板ハ其ノ厚ヲ増

シ且船橋樓ノ前端ニ於ケル舷側厚板ヲ二重張ト爲スヘシ

低船尾樓ノ前端ノ前後ニ於テ適當ノ長ノ間低船尾樓ノ外板、上甲板ノ舷側厚板及ヒ其ノ下部ニ於

ケル外板一條ノ橫線ハ三列釘固著ト爲スヘシ但之ヲ銜接ト爲ストキハ覆板ノ厚ヲ増スヘシ

上甲板ノ梁上側板ハ低船尾樓ノ前端ヨリ大約肋骨間ノ距離ノ七倍後部ニ延長シ又低船尾樓ノ梁上

側板ハ大約肋骨間ノ距離ノ四倍前部ニ延長シ又上甲板下ノ縱通材ハ大約肋骨間ノ距離ノ八倍相累

ネ且船橋樓ノ梁上側板モ亦適當ノ長ノ間後部ニ延長スヘシ

第二百十七條 船ノ長、深ノ十一倍ヲ越エ上甲板ノ全部又ハ一部ニ鐵甲板若ハ鋼甲板ヲ要スル船舶

ニ於テ低船尾樓長キトキハ船ノ大小及ヒ長ト深トノ割合ニ依リ上甲板ノ鐵甲板若ハ鋼甲板ハ肋骨

間ノ距離ノ二倍若ハ三倍後部ニ延長シテ低船尾樓ト相累ヌヘシ

低船尾樓ノ前端ニ設クル隔壁ノ後面ニハ第五號表ニ掲クル上甲板ニ等キ厚ノ膜板四箇以上ヲ堅ニ

甲板間ニ取附ク其ノ兩面ニ山形材ヲ用井テ之ヲ隔壁及ヒ上下ノ鐵板若ハ甲板ニ固著シ且膜板ノ後

緣ニハ山形材ヲ取附クヘシ

隔壁ノ前面ニハ前項ノ膜板ヲ附シタル部分ニ幅十五吋ヨリ少カラサル防撓板ヲ取附ケ肘板ヲ以テ

之ヲ上下ノ鐵板若ハ鋼板ニ固著スヘシ

隔壁ノ前後ニ於テ長十八呎以上ノ間ハ低船尾樓ノ外板ヲ二重張ト爲スヘシ

第二百十八條 第二數二萬四千以上二萬六千未満ノ船舶ニ於テハ肋骨間ノ距離ノ四倍、第二數二萬

六千以上ナルトキハ五倍上甲板及ヒ低船尾樓ノ甲板ヲ相累ネ隔壁ノ前面ニ附スル防撓板ノ幅ヲ十

八吋以上ト爲シ且船尾ヨリ測リ船ノ長ノ四分ノ一ノ所ヨリ隔壁ノ前部八呎ノ所迄底船尾樓ノ外板

ヲ二重張ト爲スヘシ

第二百十九條 上甲板ヲ隔壁ノ後部ニ延長スルコトヲ要セサル船舶ニ於テハ其ノ大小及ヒ長ト深ト

ノ割合ニ依リ隔壁ノ兩面ニ第五號表ニ掲クル上甲板ニ等キ厚ノ肘板各四箇又ハ五箇ヲ取附ケテ外

板ニ固著スヘシ

第二百二十條 第二數二萬ヲ超ユルカ又ハ深ノ十三倍ヲ超ユル長ヲ有スル船舶ニ於テハ隔壁ト汽機

室口ノ後端トノ距離ハ肋骨間ノ距離ノ四倍ヨリ少カルヘカラス

第二百二十一條 低船尾樓ノ鐵甲板若ハ鋼甲板ハ其ノ兩面ニ正甲板ノ梁上側板ニ附スヘキ山形材ニ

要スル寸法ノ山形材ヲ附シテ隔壁ニ固著スヘシ

第二十九章 適當比例ノ船舶

第二百二十二條 適當比例ノ船舶トハ長、深ノ十一倍ヲ超ユルモノヲ謂フ

適當比例ノ船舶ニハ其ノ長ト深トノ割合及ヒ第二數ニ依リ本章ノ規定ニ從ヒ縱強力ヲ增加スヘキ

構造ヲ爲スヘシ

第二百二十三條 船ノ長、深ノ十一倍ヲ超ニ十二倍以下ニシテ第二數一萬四百五十未満ノ船舶ニ於

テハ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一ノ間ハ舷側厚板ノ厚ヲ鐵ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキ

ハ二十分ノ一時増シ彎曲部内龍骨ニ第四號表ニ掲クル正甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ

挿入シ且彎曲部ニ於ケル外板一條ノ厚ヲ鐵ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時

増スヘシ

第二百二十四條 船ノ長、深ノ十一倍ヲ超エ十二倍以下ニシテ第二數一萬四百五十以上一萬五千五百未満ノ船舶ニ於テハ彎曲部内龍骨及ヒ彎曲部ニ於ケル外板一條ニ第二十三條ニ規定シタル増補ヲ爲シ中央部ニ於テ船ノ長ノ五分ノ三間ハ舷側厚板ノ厚ヲ鐵ナルトキハ十六分ノ二吋、鋼ナルトキハ二十分ノ一時増スヘシ

第二百二十五條 船ノ長、深ノ十一倍ヲ超エ十二倍以下ニシテ第二數一萬五千五百以上一萬八千七百未満ノ船舶ニ於テハ彎曲部内龍骨及ヒ彎曲部ニ於ケル外板一條ニ第二十三條ニ規定シタル増補ヲ爲シ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三間ハ舷側厚板ノ厚ヲ鐵ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時増スヘシ

第二百二十六條 船ノ長、深ノ十一倍ヲ超エ十二倍以下ニシテ第二數一萬八千七百以上二萬六千七百未満ノ船舶ニ於テハ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三間ハ舷側厚板ノ厚ヲ鐵ナルトキハ十六分ノ二吋、鋼ナルトキハ二十分ノ二吋増シ中央部五分ノ三間ハ彎曲部内龍骨ニ第四號表ニ掲クル正甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ挿入シ且中央部二分ノ一間ハ彎曲部ニ於ケル外板二條ノ厚ヲ鐵ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時増スヘシ

第二百二十七條 船ノ長、深ノ十一倍ヲ超エ十二倍以下ニシテ第二數二萬六千以上三萬五千未満ノ船舶ニ於テハ第二二十六條ノ規定ニ依リ舷側厚板ノ厚ヲ増シ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ハ舷側厚板ノ下縁ニ鄰接スル外板ノ厚ヲ鐵ナルトキハ十六分ノ二吋、鋼ナルトキハ二十分ノ二吋増シ且翼内龍骨ニ第四號表ニ掲クル正甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ挿入シ彎曲部内龍骨ニ中央部五分ノ三間ハ前寸法ノ球板ヲ且中央部二分ノ一間ハ斷切板ヲ附シ又中央部二分ノ一間ハ彎曲部縦通材ニ斷切板ヲ取附クヘシ

第二百二十八條 船ノ長、深ノ十一倍ヲ超エ十二倍以下ニシテ第二數三萬五千以上四萬未満ノ船舶ニ於テハ第二二十七條ノ規定ニ依リ舷側厚板及ヒ其ノ下縁ニ鄰接スル外板ノ厚ヲ増シ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ハ翼内龍骨ニ堅板ヲ附シ彎曲部内龍骨ニ中央部三分ノ二間ハ第四號表ニ掲クル正甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ且中央部二分ノ一間ハ斷切板ヲ附シ又中央部五分ノ三間ハ彎曲部縦通材ニ斷切板ヲ取附クヘシ但翼内龍骨ノ堅板ハ斷切板ニ取附ク其ノ厚ハ第三號表ニ掲クル中心線單板内龍骨ノ堅板ニ等シ深ハ其ノ兩面上下ニ同表ニ掲クル山形材ヲ取附ク得ヘキモノト爲スヘシ

第二百二十九條 船ノ長、深ノ十一倍ヲ超エ十二倍以下ニシテ第二數四萬以上五萬未満ノ船舶ニ於テハ舷側厚板、其ノ下縁ニ鄰接スル外板、翼内龍骨及ヒ彎曲部縦通材ニ第二十八條ニ規定シタル増補ヲ爲シ中央部ニ於テ船ノ長ノ五分ノ三間ハ重甲板ノ梁上側板、輕甲板船及ヒ輕甲板船ノ正甲板ノ梁上側板ノ厚ヲ鐵ナルトキハ十六分ノ二吋、鋼ナルトキハ二十分ノ二吋増シ彎曲部内龍骨ニ中央部五分ノ三間ハ第四號表ニ掲クル正甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ且中央部二分ノ一間ハ斷切板ヲ取附クヘシ

第二百三十條 船ノ長、深ノ十二倍ヲ超エ十三倍以下ニシテ第二數一萬四百五十未満ノ船舶ニ於テハ第二二十六條ニ規定シタル増補ヲ爲スヘシ

第二百三十一條 船ノ長、深ノ十二倍ヲ超エ十三倍以下ニシテ第二數一萬四千五百以上一萬八千七百未満ノ船舶ニ於テハ舷側厚板、彎曲部内龍骨及ヒ彎曲部ニ於ケル外板二條ニ第二二十六條ニ規定シタル増補ヲ爲シ且中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ハ舷側厚板ノ下縁ニ鄰接スル外板ノ厚ヲ鐵ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時増スヘシ

第二百三十二條 船ノ長、深ノ十二倍ヲ超エ十三倍以下ニシテ第二數一萬八千七百以上二萬六千未

滿ノ船舶ニ於テハ舷側厚板及ヒ彎曲部内龍骨ニ第二二十六條ニ規定シタル増補ヲ爲シ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ハ舷側厚板ノ下縁ニ鄰接スル外板ノ厚ヲ鐵ナルトキハ十六分ノ二吋、鋼ナルトキハ二十分ノ二吋増シ且中央部二分ノ一間ハ彎曲部縦通材ニ斷切板ヲ加フルカ若ハ彎曲部ニ於ケル外板三條ノ厚ヲ鐵ナルトキハ十六分ノ一吋、鋼ナルトキハ二十分ノ一吋増スヘシ

第二三十三條 船ノ長、深ノ十二倍ヲ超エ十三倍以下ニシテ第二數二萬六千以上三萬五千未滿ノ船舶ニ於テハ舷側厚板及ヒ其ノ下縁ニ隣接スル外板ニ第二三十二條ニ規定シタル増補ヲ爲シ中央部ニ於テ船ノ長ノ五分ノ三間ハ重甲板ノ梁上側板、輕甲板船及ヒ重甲板船ノ正甲板ノ梁上側板ノ厚ヲ鐵ナルトキハ十六分ノ二吋、鋼ナルトキハ二十分ノ二吋増シ中央部二分ノ一間ハ翼内龍骨ニ第四號表ニ掲クル正甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ挿入シ彎曲部内龍骨ニ中央部五分ノ三間ハ前寸法ノ球板ヲ且中央部二分ノ一間ハ斷切板ヲ附シ又中央部二分ノ一間ハ彎曲部縦通材ニ斷切板ヲ取附クヘシ

第二三十四條 船ノ長、深ノ十二倍ヲ超エ十三倍以下ニシテ第二數三萬五千以上四萬未滿ノ船舶ニ於テハ重甲板ノ梁上側板、輕甲板船及ヒ重甲板船ノ正甲板ノ梁上側板及ヒ彎曲部内龍骨ニ第二三十三條ニ規定シタル増補ヲ爲シ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三間ハ舷側厚板ヲ二重張ト爲シ中央部二分ノ一間ハ翼内龍骨ニ斷切板ヲ附シ中央部五分ノ三間ハ彎曲部縦通材ニ斷切板ヲ取附クヘシ但翼内龍骨ノ斷切板ニ取附ケ其ノ厚ハ第三號表ニ掲クル中心線單板内龍骨ノ斷切板ニ等クシ深ハ其ノ兩面上下ニ同表ニ掲クル山形材ヲ取附ケ得ヘキモノト爲スヘシ

第二三十五條 船ノ長、深ノ十二倍ヲ超エ十三倍以下ニシテ第二數四萬以上五萬未滿ノ船舶ニ於テハ舷側厚板、重甲板ノ梁上側板、輕甲板船及ヒ重甲板船ノ正甲板ノ梁上側板、彎曲部内龍骨及ヒ彎曲部縦通材ニ第二三十四條ニ規定シタル増補ヲ爲シ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ハ舷側厚板ノ下縁ニ鄰接スル外板ノ厚ヲ鐵ナルトキハ十六分ノ二吋、鋼ナルトキハ二十分ノ二吋増シ且翼内龍骨ニ斷切板ヲ附スヘシ但斷切板ニ取附ケ其ノ厚ハ第三號表ニ掲クル中心線單板内龍骨ノ斷切板ニ等クシ深ハ其ノ四分ノ三ニ等カラシメ其ノ兩面上下ニ同表ニ掲クル山形材ヲ取附クヘシ

第二三十六條 船ノ長、深ノ十三倍ヲ超エ十四倍以下ニシテ第二數一萬四百五十未滿ノ船舶ニ於テハ中央部ニ於テ船ノ長ノ五分ノ三間ハ舷側厚板ニ幅十八吋ノ二重張板ヲ附シ山形材二枚合セノ翼内龍骨ヲ設ケ中央部五分ノ三間ハ彎曲部内龍骨ニ又中央部二分ノ一間ハ彎曲部縦通材ニ第四號表ニ掲クル正甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ挿入シ且中央部二分ノ一間彎曲部ニ於ケル外板二條ノ厚ヲ鐵ナルトキハ十六分ノ一吋、鋼ナルトキハ二十分ノ一吋増スヘシ

第二三十七條 船ノ長、深ノ十三倍ヲ超エ十四倍以下ニシテ第二數一萬四百五十以上一萬五千五百未滿ノ船舶ニ於テハ彎曲部内龍骨及ヒ彎曲部ニ於ケル外板二條ニ第二三十三條ニ規定シタル増補ヲ爲シ中央部ニ於テ船ノ長ノ五分ノ三間ハ舷側厚板ニ幅二十吋ノ二重張板ヲ附シ翼内龍骨ニ斷切板ヲ取附ケ且船梁ノ設ナキトキハ中央部二分ノ一間ハ彎曲部縦通材ニ第四號表ニ掲クル正甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ

第二三十八條 船ノ長、深ノ十三倍ヲ超エ十四倍以下ニシテ第二數一萬五千五百以上一萬八千七百未滿ノ船舶ニ於テハ彎曲部内龍骨ニ第二三十六條ニ規定シタル増補ヲ爲シ中央部ニ於テ船ノ長ノ五分ノ三間ハ梁上側板ノ下部ニ於テ舷側厚板ヲ二重張ト爲シ且中央部二分ノ一間ハ彎曲部縦通材ニ斷切板ヲ取附クルカ若ハ彎曲部ニ於ケル外板三條ノ厚ヲ鐵ナルトキハ十六分ノ一吋、鋼ナルトキハ二十分ノ一吋増スヘシ

第二三十九條 船ノ長、深ノ十三倍ヲ超エ十四倍以下ニシテ第二數一萬八千七百以上二萬六千未

滿ノ船舶ニ於テハ舷側厚板及ヒ彎曲部内龍骨ニ第二三十八條ニ規定シタル増補ヲ爲シ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ハ重甲板ノ梁上側板、輕甲板船及ヒ重甲板船ノ正甲板ノ梁上側板ノ厚ヲ鐵ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時増シ且彎曲部縦通材ニ斷切板ヲ取附クヘシ

第二百四十條 船ノ長、深ノ十三倍ヲ超エ十四倍以下ニシテ第二數二萬六千以上三萬五千未滿ノ船舶ニ於テハ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三間ハ舷側厚板ヲ二重張ト爲シ中央部五分ノ三間ハ重甲板ノ梁上側板、輕甲板船及ヒ重甲板船ノ正甲板ノ梁上側板ノ厚ヲ鐵ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時増シ中心線内龍骨ノ彎曲部ニ深ハ第三號表ニ掲クル寸法ニ其ノ四分ノ一ヲ増シ中央部二分ノ一間ハ翼内龍骨ニ第四號表ニ掲クル正甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ挿入シ彎曲部内龍骨ニ中央部五分ノ三間ハ前寸法ノ球板ヲ且中央部二分ノ一間ハ斷切板ヲ附シ又中央部五分ノ三間ハ彎曲部縦通材ニ斷切板ヲ取附クヘシ

第二百四十一條 船ノ長、深ノ十三倍ヲ超エ十四倍以下ニシテ第二數三萬五千以上四萬未滿ノ船舶ニ於テハ舷側厚板、重甲板ノ梁上側板、輕甲板船及ヒ重甲板船ノ正甲板ノ梁上側板、中心線内龍骨、彎曲部内龍骨及ヒ彎曲部縦通材ニ第二四十條ニ規定シタル増補ヲ爲シ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ハ舷側甲板ノ下縁ニ隣接スル外板ヲ二重張ト爲シ且翼内龍骨ニ彎曲部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ハ斷切板ニ取附クヘシ其ノ厚ハ第三號表ニ掲クル中心線單板内龍骨ノ厚板ニ等クシ深ハ其ノ四分ノ三ニ等カラシメ其ノ兩面上下ニ同表ニ掲クル山形材ヲ取附クヘシ

第二百四十二條 船ノ長、深ノ十三倍ヲ超エ十四倍以下ニシテ第二數四萬以上五萬未滿ノ船舶ニ於テハ舷側厚板、其ノ下縁ニ隣接スル外板、中心線内龍骨、翼内龍骨及ヒ彎曲部縦通材ニ第二四十一條ニ規定シタル増補ヲ爲シ中央部ニ於テ船ノ長ノ五分ノ三間ハ重甲板ノ梁上側板、輕甲板船

及ヒ覆甲板船ノ正甲板ノ梁上側板ニ幅四十二吋ノ二重張板ヲ附シ且中央部二分ノ一間ハ彎曲部内龍骨ニ彎曲部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三間ハ斷切板ニ取附クヘシ其ノ厚ハ第三號表ニ掲クル中心線單板内龍骨ノ厚板ニ等クシ深ハ其ノ兩面上下ニ同表ニ掲クル山形材ヲ取附クヘシ

第二百四十三條 船ノ長、深ノ十四倍ヲ超エ十五倍以下ニシテ第二數一萬四百五十未滿ノ船舶ニ於テハ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三間ハ舷側厚板ニ幅二十吋ノ二重張板ヲ附シ船ノ首尾ヲ通シテ二枚ノ山形材間ニ第四號表ニ掲クル正甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ挿入シタル翼内龍骨ヲ設ケ中央部五分ノ三間ハ彎曲部内龍骨ニ又中央部二分ノ一間ハ彎曲部縦通材ニ前寸法ノ球板ヲ挿入シ且中央部二分ノ一間ハ彎曲部縦通材ニ斷切板ヲ取附クルカ若ハ彎曲部ニ於ケル外板一條ヲ二重張ト爲スヘシ

第二百四十四條 船ノ長、深ノ十四倍ヲ超エ十五倍以下ニシテ第二數一萬四百五十以上一萬五千五百未滿ノ船舶ニ於テハ彎曲部内龍骨ニ第二四十三條ニ規定シタル増補ヲ爲シ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三間ハ梁上側板ノ下部ニ於テ舷側厚板ヲ二重張ト爲シ翼内龍骨ニ斷切板ヲ取附ケ且中央部二分ノ一間ハ彎曲部縦通材ニ斷切板ヲ取附クルカ若ハ同部分ノ間彎曲部ニ於ケル外板一條ヲ二重張ト爲スヘシ

第二百四十五條 船ノ長、深ノ十四倍ヲ超エ十五倍以下ニシテ第二數一萬五千五百以上一萬八千七百未滿ノ船舶ニ於テハ舷側厚板、彎曲部内龍骨、彎曲部縦通材及ヒ彎曲部ニ於ケル外板一條ニ第二四十四條ニ規定シタル増補ヲ爲シ且中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ハ重甲板ノ梁上側板、輕甲板船及ヒ覆甲板船ノ正甲板ノ梁上側板ノ厚ヲ鐵ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時増スヘシ

第二百四十六條 船ノ長、深ノ十四倍ヲ超エ十五倍以下ニシテ第二數一萬八千七百以上二萬六千未

滿ノ船舶ニ於テハ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三間ハ舷側厚板ヲ二重張ト爲シ中央部二分ノ一間ハ重甲板ノ梁上側板ノ厚ヲ鐵ナルトキハ十六分ノ二吋、鋼ナルトキハ二十分ノ二吋増シ中心線内龍骨ノ堅板ノ深ハ第三號表ニ掲クル寸法ニ其ノ四分ノ一ヲ増シ中央部二分ノ一間ハ翼内龍骨ニ又中央部三分ノ二間ハ彎曲部内龍骨ニ第四號表ニ掲クル正甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ挿入シ且中央部二分ノ一間ハ彎曲部縱通材ニ斷切板ヲ取附クヘシ

第二百四十七條 船ノ長、深ノ十四倍ヲ超エ十五倍以下ニシテ第二數二萬六千以上三萬五千未滿ノ船舶ニ於テハ舷側厚板及ヒ中心線内龍骨ニ第二百四十六條ニ規定シタル増補ヲ爲シ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ハ舷側厚板ノ下縁ニ隣接スル外板ヲ二重張ト爲シ中央部五分ノ三間ハ重甲板ノ梁上側板、輕甲板船及ヒ覆甲板船ノ正甲板ノ梁上側板ノ厚ヲ鐵ナルトキハ十六分ノ二吋、鋼ナルトキハ二十分ノ二吋増シ中央部二分ノ一間ハ翼内龍骨ニ堅板ヲ附シ彎曲部内龍骨ニ中央部三分ノ二間ハ第四號表ニ掲クル正甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ且中央部五分ノ三間ハ斷切板ヲ取附ク又中央部五分ノ三間ハ彎曲部縱通材ニ斷切板ヲ取附クヘシ但翼内龍骨ノ堅板ハ斷切板ニ取附ク其ノ厚ハ第三號表ニ掲クル中心線單板内龍骨ノ堅板ニ等クシ深ハ其ノ兩面上下ニ同表ニ掲クル山形材ヲ取附ク得ヘキモノト爲スヘシ

第二百四十八條 船ノ長、深ノ十四倍ヲ超エ十五倍以下ニシテ第二數三萬五千以上四萬未滿ノ船舶ニ於テハ舷側厚板、其ノ下縁ニ隣接スル外板、中心線内龍骨及ヒ彎曲部縱通材ニ第二百四十七條ニ規定シタル増補ヲ爲シ中央部ニ於テ船ノ長ノ五分ノ三間ハ重甲板ノ梁上側板、輕甲板船及ヒ覆甲板船ノ正甲板ノ梁上側板ニ幅四十二吋ノ二重張板ヲ附シ且中央部二分ノ一間ハ翼内龍骨及ヒ彎曲部内龍骨ニ堅板ヲ附スヘシ但堅板ハ斷切板ニ取附ク翼内龍骨ノ堅板ノ厚ハ第三號表ニ掲クル中心線單板内龍骨ノ堅板ニ等クシ深ハ其ノ四分ノ三ニ等カラシメ其ノ兩面上下ニ同表ニ掲クル山形材ヲ取附ク得ヘキモノト爲スヘシ

材ヲ取附クヘシ又彎曲部内龍骨ノ堅板ハ其ノ厚ヲ中心線單板内龍骨ノ堅板ニ等クシ深ハ其ノ兩面上下ニ山形材ヲ取附ク得ヘキモノト爲スヘシ

第二百四十九條 船ノ長、深ノ十五倍ヲ超エ十六倍以下ニシテ第二數一萬四百五十以上一萬五千五百未滿ノ船舶ニ於テハ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三間ハ梁上側板ノ下部ニ於テ舷側厚板ヲ二重張ト爲シ中央部二分ノ一間ハ舷側厚板ノ下縁ニ隣接スル外板ノ厚ヲ鐵ナルトキハ十六分ノ一吋、鋼ナルトキハ二十分ノ一吋増シ翼内龍骨ニ斷切板ヲ取附ク中央部五分ノ三間ハ彎曲部内龍骨ニ第四號表ニ掲クル正甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ挿入シ且中央部二分ノ一間ハ彎曲部縱通材ニ斷切板ヲ附スルカ若ハ同部分ノ間彎曲部ニ於ケル外板一條ヲ二重張ト爲スヘシ

第二百五十條 船ノ長、深ノ十五倍ヲ超エ十六倍以下ニシテ第二數一萬五千五百以上一萬八千七百未滿ノ船舶ニ於テハ彎曲部縱通材若ハ彎曲部ニ於ケル外板一條ニ第二百四十九條ニ規定シタル増補ヲ爲シ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三間ハ舷側厚板ヲ二重張ト爲シ中央部二分ノ一間ハ舷側厚板ノ下縁ニ隣接スル外板ノ厚ヲ鐵ナルトキハ十六分ノ二吋、鋼ナルトキハ二十分ノ二吋増シ且中央部五分ノ三間ハ彎曲部内龍骨ニ斷切板ヲ取附クヘシ

第二百五十一條 船ノ長、深ノ十五倍ヲ超エ十六倍以下ニシテ第二數一萬八千七百以上二萬六千未滿ノ船舶ニ於テハ舷側厚板ニ第二百五十條ニ規定シタル増補ヲ爲シ中央部二分ノ一間ハ舷側厚板ノ下縁ニ隣接スル外板ヲ二重張ト爲シ中央部二分ノ一間ハ重甲板ノ梁上側板、輕甲板船及ヒ覆甲板船ノ正甲板ノ梁上側板ノ厚ヲ鐵ナルトキハ十六分ノ二吋、鋼ナルトキハ二十分ノ二吋増シ中心線内龍骨ノ堅板ノ深ハ第三號表ニ掲クル寸法ニ其ノ四分ノ一ヲ増シ中央部二分ノ一間ハ翼内龍骨ニ第四號表ニ掲クル正甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ附シ彎曲部内龍骨ニ中央部五分ノ三間ハ前寸法ノ球板ヲ且中央部二分ノ一間ハ斷切板ヲ取附ク又中央部五分ノ三間ハ彎曲部縱通材

ニ斷切板ヲ取附クヘシ

第二百五十二條 船ノ長、深ノ十五倍ヲ超ニシテ第二數二萬六千以上三萬五千未満ノ船舶ニ於テハ舷側厚板、中心線内龍骨及ヒ彎曲部縱通材ニ第二數五十一條ニ規定シタル増補ヲ爲シ中央部ニ於テ船ノ長ノ五分ノ三間ハ舷側厚板ノ下縁ニ鄰接スル外板ヲ二重張ト爲シ中央部二分ノ一間ハ重甲板ノ梁上側板、輕甲板船及ヒ覆甲板船ノ正甲板ノ梁上側板ニ幅四十吋ノ二重張板ヲ附シ且翼内龍骨ニ整板ヲ附シ彎曲部内龍骨ニ中央部三分ノ二間ハ第四號表ニ掲クル正甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ且中央部五分ノ三間ハ斷切板ヲ取附クヘシ但翼内龍骨ニ附スル整板ハ斷切板ニ取附ケ其ノ厚ハ第三號表ニ掲クル中心線單板内龍骨ノ整板ニ等クシ深ハ其ノ四分ノ三ニ等カラシメ其ノ兩面上下ニ同表ニ掲クル山形材ヲ取附クヘシ

第二百五十三條 船ノ長、深ノ十五倍ヲ超ニシテ第二數三萬五千以上四萬未満ノ船舶ニ於テハ舷側厚板、其ノ下縁ニ隣接スル外板、中心線内龍骨、翼内龍骨及ヒ彎曲部縱通材ニ第二數五十二條ニ規定シタル増補ヲ爲シ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ハ舷側厚板ノ下部二枚目ノ外板ヲ二重張ト爲シ中央部五分ノ三間ハ重甲板ノ梁上側板、輕甲板船及ヒ覆甲板船ノ正甲板ノ梁上側板ニ幅五十吋ノ二重張板ヲ附シ且中央部二分ノ一間ハ彎曲部内龍骨ニ整板ヲ取附クヘシ但整板ハ斷切板ニ取附ケ其ノ厚ハ第三號表ニ掲クル中心線單板内龍骨ノ整板ニ等クシ深ハ其ノ四分ノ三ニ等カラシメ其ノ兩面上下ニ山形材ヲ取附クヘシ

第二百五十四條 前數條ノ規定ニ依リ要スル板ノ二重張ハ厚ニ倍ノ一枚板ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得
第二百五十五條 第二數二萬八千ヲ超ユル船舶ニシテ長、深ノ十一倍ヲ超ニシテ以下ナルトキハ舷側厚板及ヒ輕甲板舷側板ノ銜接ハ二重覆板ヲ附シ又長、深ノ十二倍ヲ超ユルトキハ該板ノ下縁

ニ隣接スル外板ノ銜接ニモ二重覆板ヲ附スヘシ

第二百五十六條 三層重甲板船ニ於テハ船ノ長、正甲板梁ノ上面ニ至ル深ノ十一倍ヲ超ユルトキハ彎曲部及ヒ船底ニ於テ前數條ニ規定スル構造ヲ爲シ又船ノ長、重甲板梁ノ上面ニ至ル深ノ十一倍ヲ超ユルトキハ總テ前數條ノ規定ニ依ルヘシ
第二百五十七條 輕甲板船ニ於テハ船ノ長、深ノ十一倍ヲ超ニシテ十四倍未満ナルトキハ彎曲部及ヒ船底ニ於テ前數條ニ規定スル構造ヲ爲シ又十四倍以上ナルトキハ總テ前數條ノ規定ニ依ルヘシ
輕甲板船ニ於テハ舷側厚板及ヒ之ニ接スル外板ノ寸法ノ增加ハ其ノ代リニ輕甲板舷側板及ヒ之ニ接スル外板ニ適用スルコトヲ得

第三十章 艙口、機關室口其ノ他甲板上ノ諸口

第二百五十八條 艙口兩端ノ梁ニハ其ノ兩面ニ山形材ヲ取附ル代リニ之ト同強力ノ山形材一箇ヲ梁ノ外面ニ取附ケ之ニ縁材ヲ固著シ且必要ナルトキハ該梁ニ鐵板若ハ鋼板ヲ附シテ甲板ノ端末ヲ固著スルコトヲ得ヘカラシムヘシ又艙口ノ兩側ニ沿ヒ梁上帶板ノ設ナキトキハ其ノ梁上帶板ニ要スル寸法ノ板ヲ附シテ縁材ヲ固著スヘシ

第二百五十九條 上甲板及ヒ正甲板ノ艙口ノ長十二呎以上十六呎以下ナルトキハ其ノ中央ニ取外シ得ヘキ堅牢ノ梁ヲ設ケ其ノ長十六呎ヲ超ニシテ二十呎以下ナルトキハ其ノ中央ニ縱梁ノ下部迄達スヘキ深ニシテ兩面上下ニ山形材ヲ附シタル板梁ヲ設ケ且艙口ノ兩側ニハ第五號表ニ掲クル梁上帶板ノ幅ノ二倍ニ等キ幅ヲ有スル鐵板若ハ鋼板ヲ取附ケ之ヲ艙口ノ前後ニ於テ梁ノ距離ノ二倍ノ所迄達セシムヘシ又長二十呎ヲ超ユルトキハ板梁ノ數ヲ増シ且梁上側板及ヒ梁上帶板ノ幅ヲ増スカ若ハ艙口ノ兩側ニ鐵板若ハ鋼板ヲ張詰ムヘシ

第二百六十條 上甲板ニ設クル艙口、載炭口、出入口、天窓、通風器等ノ縁材ハ甲板上十二吋以上

ノ高ニ造リ其ノ船口、載炭口及ヒ船首ニ設クル出入口ノ縁材ハ鐵製若ハ鋼製ト爲シ船口及ヒ載炭口ニハ厚二吋半以上ノ木製蓋板ヲ設ケ且覆布ヲ以テ密閉シ得ヘキ裝置ヲ爲スヘシ

覆甲板船ニ於テハ正甲板ニ設クル船口ノ構造ハ上甲板ニ設クルモノ、如クスヘシ
第二百六十一條 船口、機關室口其ノ他甲板上諸口ノ兩側ニ於テ半梁ヲ取附クルトキハ該口兩端ノ梁ト同寸法ノ縦梁ヲ設ケ又該口ノ縁材ニ鐵板若ハ鋼板ヲ用ウルトキハ之ヲ兩端ノ梁及ヒ縦梁ノ下端ニ達セシムヘシ但球板梁ヲ用ウルトキハ縁材ヲ球ノ上邊ニ止メ又特ニ縁材ノ厚ヲ増ストキハ縦梁ヲ設ケサルコトヲ得

縁材ヲ梁及ヒ梁上帶板ニ固著スヘキ山形材ノ豎幅ハ木甲板ヲ張ル場合ニ於テハ該甲板ノ厚ヨリ大ナラシムヘシ

第二百六十二條 橋ノ前後ノ梁間ニハ橋孔板ヲ設ケ之ニ鐵甲板若ハ鋼甲板ヲ張ル場合ヲ除キ梁上側板ニ要スルモノヨリ少カラサル厚ト橋徑ノ二倍ヨリ少カラサル幅トヲ有スル鐵板若ハ鋼板ヲ張ルヘシ

橋孔板ニハ橋孔ノ周縁ニ第一號表ニ掲クル正肋材ノ廣キ幅ヨリ大ナル豎幅ヲ有スル山形材ヲ取附クヘシ

第二百六十三條 汽機室口及ヒ機關室口ハ成ルヘク小サク之ヲ造リ其ノ周圍ニハ縁材ヲ取附ケ圍壁ヲ設ケ圍壁ノ内部ニハ豎三十吋ノ距離ニ於テ第一號ニ掲クル副肋材ト同寸法ノ山形材ヲ縁材ニ通シテ取附ケ横ニ隔壁ヲ設ケテ適宜ニ分畫ヲ爲シ且其ノ上部ニハ山形材ヲ附シテ兩側ヲ結續スヘシ
第二百六十四條 上甲板ニ設クル汽機室口及ヒ汽機室口ニハ甲板上十八吋ヨリ低カラスシテ甲板梁ノ下端ニ達スヘキ縁材ヲ設ケ之ニ甲板上ノ高六呎以上ノ鐵製若ハ鋼製ノ圍壁ヲ取附ケ其ノ上端ニ天窗ヲ室クヘシ但覆甲板ナルトキハ圍壁ノ上端ニ高九吋ヨリ低カラサル縁材ヲ取附ケ之ニ鐵製若

ハ鋼製ノ蓋板ヲ備フルトキハ甲板上圍壁ノ高ヲ四呎六吋迄ニ減スルコトヲ得

船橋樓甲板若ハ船尾樓甲板ニ設クル汽機室口又ハ汽機室口ニハ縁材ノ高ヲ二呎以上ト爲ストキハ前項ノ圍壁ヲ於ケサルコトヲ得

甲板間ニ於ケル汽機室口及ヒ機關室口ノ圍壁ハ上下兩層ノ甲板梁ニ固著スヘシ
圍壁ノ厚ハ船尾樓ニ要スヘキ外板ヨリ少カラサルヘク縁材ノ厚ハ鐵ナルトキハ圍壁ヨリ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時ヲ増スヘシ但直接ニ波浪ヲ受ケサル部分ニ於テハ其ノ厚ヲ減スルコトヲ得

第二百六十五條 汽機室口及ヒ汽機室口ノ圍壁ニハ甲板上十八吋以上ノ高ニ於テ出入口ヲ設クルコトヲ得但之ヲ設ケタルトキハ鐵製若ハ鋼製ノ戸ヲ備フヘシ

第二百六十六條 汽機室口又ハ汽機室口ノ長十五呎ヲ超ユルカ若ハ其ノ合長三十呎ヲ超ユルトキハ其ノ兩側ニ於テ梁上側板ト梁上帶板トノ間ニ第五號表ニ掲クル鐵甲板若ハ鋼甲板ト同厚ノ板ヲ張詰メ之ヲ其ノ前後ニ於テ梁ノ距離ノ二倍延長シ尙之ヨリ前後ニ於テハ漸次其ノ幅ヲ減シテ梁上側板ニ會セシムヘシ

汽機室口、汽機室口、船口等ノ距離梁ノ距離ノ二倍ヲ超ニサルトキハ該口間ノ甲板ニハ鐵板若ハ鋼板ヲ張詰ムヘシ

第三十一章 排水裝置

第二百六十七條 閉塞舷牆ニハ左表ノ割合ニ相當スヘキ排水口ヲ設ケ之ニ眞鍮製ノ針ヲ備フル蝶鉸戸ヲ取附ケ又上甲板ニハ適宜ノ距離ニ排水孔ヲ設ケ其ノ部分ニ於テハ上甲板ノ梁上側板ニ附スル山形材ノ深ヲ増スカ若ハ其ノ他適當ノ補強構造ヲ加フヘシ

舷	壁	ノ	長	各舷ニ設クヘキ排水孔ノ全面積
三	十	五	呎	九平方呎半
四	十	五	呎	十平方呎半
五	十	五	呎	十一平方呎半
六	十	五	呎	十二平方呎半

以上 舷壁ノ長五呎毎ニ一平方呎ノ割

第二百六十八條 正甲板以下ノ甲板ニハ適當ノ排水管ヲ設ケ之ヲ船底ニ導クヘシ
 第二百六十九條 最大喫水線以下ニ於テ船外ニ通スヘキ排泄管ハ其ノ下端ヨリ水線上適當ノ高迄ハ鐵製若ハ鋼製ト爲シ其ノ以上ニ鉛管ヲ使用スルトキハ其ノ損傷ヲ防クニ充分ノ圍ヲ設クヘシ
 第二百七十條 二重底ヲ備フル船舶ニ於テハ二重底内ノ區畫室毎ニ蒸汽唧筒ノ吸水管ヲ導クヘシ
 艙内ニ滲水溜ノ設ナキトキハ兩側ニ於ケル滲水道ニ蒸汽唧筒ノ吸水管及ヒ手用唧筒一箇ツ、ヲ備ヘ又滲水溜ノ設アルトキハ其滲水溜ニ蒸汽唧筒ノ吸水管及ヒ手用唧筒ヲ備フヘシ
 第二百七十一條 二重底ヲ備ヘザル船舶ニ於テハ各艙ニ蒸汽唧筒ノ吸水管及ヒ手用唧筒ヲ備フヘシ
 第二百七十二條 汽機室及ヒ汽罐室ノ全部ニ二重底ニシテ滲水溜ノ設ナキトキハ兩側ノ滲水道ニ蒸汽唧筒ノ吸水管各二箇ツ、ヲ導キ又滲水溜ノ設アルトキハ其ノ滲水溜及ヒ兩側ノ滲水道ニ蒸汽唧筒

ノ吸水管一箇ツ、ヲ導クヘシ

汽機室及ヒ汽罐室ニ二重底ノ設ナキトキハ中心線及ヒ兩側ニ蒸汽唧筒ノ吸水管ヲ導クヘシ
 第二百七十三條 船首隔壁ノ前部及ヒ船尾隔壁ノ後部ヲ水溜トシテ使用スルトキハ之ニ蒸汽唧筒ノ吸水管ヲ導クヘシ但水溜トシテ使用セザルトキハ船首隔壁ノ前部ニハ手用唧筒ヲ設ケ船尾隔壁ニハ支水瓣ヲ設ケテ船尾隔壁後部ノ滲水ヲ車軸隧道ニ導クカ又ハ之ヲ他ニ排出スルノ裝置ヲ爲スヘシ
 第二百七十四條 車軸隧道ニハ滲水溜ヲ設ケ之ニ蒸汽唧筒ノ吸水管ヲ導クヘシ
 第二百七十五條 手用唧筒ハ最大喫水線以上ノ甲板ニ於テ使用シ得ヘキ樣裝置スヘシ
 第二百七十六條 各艙内及ヒ二重底内ニハ測水管ヲ設ケ其ノ直下ノ外板ニ當板ヲ附スヘシ
 第二百七十七條 船首隔壁ノ前部船尾隔壁ノ後部及ヒ車軸隧道ノ滲水溜ニ導ク蒸汽唧筒ノ吸水管ハ其ノ内徑二吋四分ノ一ヨリ少カルヘカラス但第二數一萬未滿ノ船舶ニ於テハ之ヲ二吋ニ減スルコトヲ得
 第二百七十八條 滲水注射管ノ内徑ハ循環唧筒吸水管ノ内徑ノ三分ノ二ヨリ其ノ他ノ滲水吸水管ノ内徑ハ左表ニ掲クルモノヨリ小ナルヘカラス
 一區畫室ニ二箇以上ノ蒸汽吸水管ヲ備ヘ之ヲ一本ノ主管ヲ以テ唧筒ニ導クトキハ主管ノ内徑ハ中心線吸水管ヨリ小ナルヘカラス

五	百	噸	未	滿	二	吋	二	吋	二	吋
上甲板下ノ噸數			機關室中心線吸水管、艙内中心線吸水管			機關室兩側吸水管、中心線吸水管ノ備ナキトキ艙内兩側吸水管			中心線吸水管ヲ備フルトキ艙内兩側吸水管	

五百噸以上千噸未満	二時四分ノ一	二	時	二
千噸以上千五百噸未満	二時二分ノ一	二時四分ノ一	二	時
千五百噸以上二千噸未満	三	二時四分ノ三	二時四分ノ一	時
二千噸以上三千噸未満	三時二分ノ一	三	二時二分ノ一	時
三千噸以上	三時二分ノ一	三時二分ノ一	二時四分ノ三	時

第三十二章 舵

第二百七十九條 舵ハ鐵製若ハ鋼製ニシテ取外シ得ヘキ様装置シ舵頭ノ徑ハ第三號表ニ據ルヘシ但汽船ニ於テハ左ノ算式ニ依リ得タル徑ヨリ小ナルヘカラス

$$d = \frac{1}{32} \sqrt{D \times B^2 \times S^2}$$

d ハ舵頭ノ徑(吋ニテ)

D ハ最大喫水(呎ニテ)

B ハ舵ノ幅(吋ニテ)

S ハ最快速力(海里ニテ)

舵骨及ヒ心材ハ一材ニ造リ舵針ノ位置ニ支柱ヲ設ケ舵板ノ厚ハ第一號表ニ掲クル支水隔壁ノ下部ニ用ウヘキ板ニ等クスヘシ

舵針ノ距離ハ五呎六吋以內ト爲シ且最上部ノ舵針ハ成ルヘク之ヲ心材ニ接近セシムヘシ

第二百八十條 鑄鋼製ノ舵ヲ一枚板ニ造ルトキハ其ノ厚ハ第三號表ニ據リ且其ノ一面ニハ舵針ノ位

置ニ、他面ニハ舵針ノ中間ニ補強骨ヲ設クヘシ但心材ノ下端ノ截面ハ同表ニ掲クルモノニ其ノ三分ノ一ヲ増シタルモノト爲スヘシ

第二百八十一條 輕甲板船ニ於テハ舵ノ心材及ヒ舵針ノ徑ハ三層重甲板船ニ要スルモノニ等クスヘシ

第三十三章 起錨機及ヒ端艇鉤

第二百八十二條 起錨機ノ寸法ハ第十一號表ニ據リ之ヲ定ムヘシ

第二百八十三條 端艇鉤ノ徑ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

$$d = \sqrt{\frac{L \times B \times D}{40} \left(\frac{H}{3} + S \right)}$$

d ハ端艇鉤ノ徑(吋ニテ)

L ハ端艇ノ長(呎ニテ)

B ハ端艇ノ幅(呎ニテ)

D ハ端艇ノ深(呎ニテ)

H ハ端艇鉤上部支點ヨリノ高(呎ニテ)

S ハ端艇鉤上部突出ノ徑(呎ニテ)

第三十四章 檣、帆架、斜檣及ヒ索具等

第二百八十四條 檣、帆架及ヒ索具等ノ寸法ハ第八號表、第九號表及ヒ第十號表ニ據ルヘシ但本表ニ掲クル寸法ハ三檣全艦裝船ニ適用スヘキモノニシテ四檣船ニ於テハ索具ノ寸法ヲ定ムヘキ噸數ニハ其ノ五分ノ一又五檣船ニ於テハ其ノ四分ノ一ヲ減シタルモノヲ用ウヘシ

第二百八十五條 下橋及ヒ斜橋ヲ鐵製若ハ鋼製ト爲ストキハ鐵板若ハ鋼板ノ縱縁ハ二列釘ヲ以テ固著スヘシ但長八十四呎未滿ノ下橋ニシテ山形材ヲ以テ防撓スルトキハ一列釘ヲ以テ之ヲ固著スルコトヲ得

前項ノ下橋及ヒ斜橋ノ鐵板若ハ鋼板ノ橫縁ハ三列釘ヲ以テ固著スヘシ但其ノ楔止メノ所ヨリ内部ニ於テハ二列釘ヲ以テ固著スルモ妨ナシ

第二百八十六條 衝接ノ覆板ハ鐵ナルトキハ接合スヘキ板ノ厚ニ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二列釘固著ニ於テハ接合スヘキ板ノ厚ニ二十分ノ一時、三列釘固著ニ於テハ二十分ノ二時ヲ増シタル厚ト爲スヘシ

第二百八十七條 鐵製若ハ鋼製ノ下橋及ヒ斜橋ハ楔止メト爲スヘキ部分ニ於テ板ヲ二重張ト爲スヘシ但橋ヲ下層ノ梁間ニ於テ核止メト爲ストキハ該梁ノ下部ヨリ上甲板ノ上部迄二重張ト爲スヘシ
第二百八十八條 長八十四呎以上ノ鐵製若ハ鋼製ノ下橋ニハ其ノ全長ニ第八號表ニ掲クル山形材ヲ各板ニ豎ニ一箇ツ、取附クヘシ

第二百八十九條 徑二十八吋以下ノ鐵製若ハ鋼製ノ斜橋ニハ其ノ全長ニ各板ニ縱ニ一箇ツ、山形材ヲ取附クヘシ

徑二十八吋ヲ超ユル鐵製若ハ鋼製ノ斜橋ニハ楔止メノ部分ヨリ船首固著ノ部分迄内部ニ山形材ヲ以テ一枚ノ鐵板若ハ鋼板ヲ上下ニ固著シ且第八號表ニ掲クル寸法ノ山形材二箇ヲ縱ニ増設スヘシ
第二百九十條 下橋ノ上端ノ徑ハ上橋ノ下端ノ徑ヨリ小ナルヘカス

第二百九十一條 一材橋ノ寸法ヲ定ムルニハ内龍骨ノ上面ヨリ下橋索具ヲ取附クル處迄下橋ノ長ト爲スヘシ

第二百九十二條 上橋ヲ鐵製若ハ鋼製ト爲ストキハ鐵板若ハ鋼板ノ縱縁ハ一列釘ヲ以テ固著シ橫縁

ハ鐵ナルトキハ接合スヘキ板ヨリ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時厚キ覆板ヲ附シ三列釘ヲ以テ固著スヘシ

上橋ノ下部ニテ車孔ヲ設クル部分及ヒ下橋ノ上端ニ接スル部分ハ板ヲ二重張ト爲シ若ハ帶輪ヲ嵌メテ補強スヘシ

第二百九十三條 長三十八呎以上四十六呎未滿ノ鐵製若ハ鋼製ノ上橋ニハ其ノ全長ニ鐵ナルトキハ幅三吋ニ二吋二分ノ一厚十六分ノ六吋、鋼ナルトキハ幅三吋ニ二吋二分ノ一厚二十分ノ六吋ノ山形材二箇、長四十六呎以上六十六呎未滿ノモノニハ鐵ナルトキハ幅三吋二分ノ一ニ三吋二分ノ一厚十六分ノ六吋、鋼ナルトキハ幅三吋二分ノ一ニ三吋二分ノ一厚二十分ノ六吋ノ山形材二箇ヲ取附ク且長四十六呎ヲ超ユル上橋ニハ頗板ヲ設クヘシ

第二百九十四條 帆架ヲ鐵製若ハ鋼製ト爲ストキハ鐵板若ハ鋼板ノ縱縁ハ一列釘ヲ以テ固著シ橫縁ハ之ヲ衝接又ハ累接ト爲シ三列釘ヲ以テ固著スヘシ且其ノ中央部ハ二重張ト爲スヘシ

第二百九十五條 輕帆裝汽船ノ下橋及ヒ斜橋ノ徑ハ第八號表ニ掲クルモノヨリ其ノ八分ノ一ヲ減シ又汽船帆船ニ拘ラス縱帆ノミヲ裝置スル下橋ノ徑ハ同表ニ掲クルモノヨリ其ノ五分ノ一ヲ減シ且鐵板若ハ鋼板ノ縱縁ノ固著ハ一列釘ト爲スコトヲ得

輕帆裝汽船ノ上橋ノ徑ハ第九號表ニ掲クルモノヨリ其ノ八分ノ一ヲ減スルコトヲ得

第二百九十六條 橋、斜橋及ヒ帆架ヲ構造スル鐵板若ハ鋼板ノ縱縁及ヒ橫縁ヲ固著スル鉸釘ノ心距ハ釘徑ノ五倍ト爲スヘシ

第二編 機關

第一章 總則

第二百九十七條 此ノ規程ニ於テ單式汽機ト稱スルハ蒸汽ヲ汽罐ヨリ直接ニ汽笛ニ通スル汽機ヲ謂

フ

第二百九十八條 此ノ規程ニ於テ複式汽機ト稱スルハ汽笛二箇以上ヲ有シ汽罐ヨリ通スル蒸汽ヲ汽笛ヨリ汽笛ニ移シ順次膨脹セシムル汽機ヲ謂フ

第二百九十九條 此ノ規程ニ定ムル試験ハ検査官吏ノ監督ヲ受ケ之ヲ執行スヘシ

試験器ハ検査官吏ノ檢定ヲ經タルモノヲ用ウヘシ

第三百條 此ノ規程中試験ニ關スル條項ハ遞信大臣ノ適當ト認ムル證明書アルモノニ限り之ヲ適用セサルコトアルヘシ

第三百一條 此ノ規程ニ該當セサル機關ノ構造方法ハ遞信大臣ニ於テ此ノ規程ト同一ノ効力ヲ有スルト認ムルモノニ限り特ニ之ヲ合格ト爲スヘシ

第二章 試験

第三百二條 汽罐ノ製造ニ供用スル鐵板ハ可鍛性ニシテ一平方吋ノ抗張力ハ纖維ニ沿ヒテハ二十噸以上、纖維ヲ横リテハ十八噸以上又其ノ伸張ノ割合ハ八吋ノ長ニ於テ纖維ニ沿ヒテハ百分ノ九以上、纖維ヲ横リテハ百分ノ七以上ナルヲ要ス

汽罐ノ製造ニ供用スル鉸釘鐵材ハ一平方吋ノ抗張力ハ二十三噸以上ニシテ其ノ伸張ノ割合ハ八吋ノ長ニ於テ百分ノ十八以上ナルヲ要ス

第三百三條 汽罐ノ製造ニ供用スル鋼材ニハ左ノ試験ヲ執行スヘシ

- 一 抗張試験 鋼板ハ一平方吋ノ抗張力ハ二十六噸以上三十二噸以下ニシテ其ノ伸張ノ割合ハ八吋ノ長ニ於テ百分ノ二十以上又鉸釘鋼材ハ一平方吋ノ抗張力ハ二十五噸以上三十噸以下ニシテ其ノ伸張ノ割合ハ八吋ノ長ニ於テ百分ノ二十以上ナルヲ要ス
- 二 屈曲試験 鋼板ハ試験材ヲ櫻紅色ニ熱シタル後華氏八十二度ノ水中ニテ冷却シ之ヲ試験材ノ

厚ノ三倍ヲ超ニサル内徑ヲ以テ二重ニ屈曲シ裂疵ヲ生セサルヲ要ス

第三百四條 鐵製ノ鉸釘ハ釘頭ノ釘徑ノ二、五倍迄平扁ニ打壓シ且釘身ヲ平扁ニシ之ニ釘徑ニ等キ打貫孔ヲ穿テ裂疵ヲ生セサルヲ要ス

鋼製ノ鉸釘ハ之ヲ熱シ釘頭ノ釘徑ノ二、五倍迄平扁ニ打壓シ且釘身ヲ平扁ニシ之ニ釘徑ニ等キ打貫孔ヲ穿テ又ハ之ヲ熱セスシテ釘身ノ釘徑ノ二倍ニ等キ内徑ヲ以テ二重ニ屈曲シ裂疵ヲ生セサルヲ要ス

第三百五條 支柱鋼材ハ鋼板ト同様ノ試験ヲ行フヘシ又螺旋支柱ニ在リテハ釘頭ヲ鉸縮スルモノハ鉸釘ト同一ノ試験ヲ行フヘシ

第三百六條 諸軸及ヒ其ノ一部其ノ他打物ヲ通常使用スヘキ箇所ニ用ウル鑄鋼ニハ左ノ試験ヲ行フヘシ

- 一 抗張試験 一平方吋ノ抗張力ハ三十噸以下ニシテ其ノ伸張ノ割合ハ八吋ノ長ニ於テ百分ノ十以上ナルヲ要ス

- 二 屈曲試験 直徑一時四分ノ一ノ圓材又ハ一時四分ノ一ノ角材ヲ作り内面ニ於テ一時四分ノ三ヨリ多カラサル半徑ノ弧狀ニ曲ケ九十度ニ至ルモ裂疵ヲ生セサルヲ要ス

第三百七條 鑄鐵ヲ通常使用スル箇所ニ鑄鋼ヲ用ウルトキハ其ノ性質ハ強硬ニシテ能ク落下鈍打等ノ試験ニ堪フルヲ要ス

第三百八條 塊鋼ハ其ノ試験材ヲ鍛鍊シ左ノ試験ヲ行フヘシ

- 一 抗張試験 一平方吋ノ抗張力ハ二十八噸以上ニシテ其ノ伸張ノ割合ハ八吋ノ長ニ於テ百分ノ二十以上ナルヲ要ス
- 二 屈曲試験 一時ノ角材ヲ作り内面ニ於テ八分ノ五吋ヲ超ニサル半徑ヲ以テ二重ニ屈曲シ百八

十度ニ至ルモ裂疵ヲ生セサルヲ要ス

第三百九條 鑄鐵及ヒ諸合金ハ總テ検査官吏ノ認可ヲ得タルモノヲ使用スヘシ

検査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ鑄鐵及ヒ諸合金ヲ試験シ其ノ適否ヲ指定スヘシ

第三百十條 第三百二條第三百三條ニ掲クル鐵板及ヒ鋼板ノ試験ハ同一ノ部分ニ供用スル材料ニシテ其ノ厚及ヒ種類同一ナルトキハ各種ヨリ一箇ヲ採リ之ヲ執行シ検査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ更ニ二箇迄ヲ増シ適否ヲ檢定スヘシ

第三百十一條 逓信大臣ハ前條ノ試験ニ合格セサルモノト雖モ其ノ使用ノ方法及ヒ部局ヲ限リ條件ヲ附シテ之カ使用ヲ許可スルコトアルヘシ

第三章 汽機

第三百十二條 汽箱ハ強靱堅硬ノ最良質材料ヲ以テ製造シ削仕上ノ後左ノ水壓力ヲ以テ試験ヲ行フヘシ

一 單式汽機ニ於テハ每平方吋ノ最大汽壓九十磅以上ナルトキハ之ニ九十磅ヲ加ヘタルモノ、九十磅未満ナルトキハ其ノ二倍

二 二聯成汽機ニ於テハ高壓汽箱ハ每平方吋ノ最大汽壓九十磅以上ナルトキハ之ニ九十磅ヲ加ヘタルモノ、九十磅未満ナルトキハ其ノ二倍、低壓汽箱ハ最大汽壓

三 三聯成汽機ニ於テハ高壓汽箱ハ每平方吋ノ最大汽壓ニ九十磅ヲ加ヘタルモノ、中壓汽箱ハ最大汽壓、低壓汽箱ハ最大汽壓ニ〇、七ヲ乘シタルモノ

四 四聯成汽機ニ於テハ高壓汽箱ハ每平方吋ノ最大汽壓ニ九十磅ヲ加ヘタルモノ、第一中壓ハ最大汽壓、第二中壓ハ最大汽壓ニ〇、七ヲ乘シタルモノ、低壓汽箱ハ最大汽壓ニ〇、五ヲ乘シタルモノ

第三百十三條 各汽箱並ニ汽箱間ノ蒸汽通路ニハ完全ナル逃出瓣ヲ備フヘシ

第三百十四條 滑瓣ハ検査官吏ノ認可ヲ得タル滑瓣行動圖解ニ據リ整調シ検査官吏ノ檢定ヲ受クヘシ

第三百十五條 吸鑄鐸、接續鐸、隔心鐸、滑瓣鐸ハ精撰シタル屑鐵若ハ塊鋼ヲ鍛鍊シテ製造スヘシ

第三百十六條 諸軸、吸鑄鐸、接續鐸及ヒ鋼製ノ隔心鐸、滑瓣鐸ハ鍛合スヘカラス

第三百十七條 諸軸ハ粗削ヲ爲シタルトキ及ヒ仕上ヲ終リタルトキ検査ヲ受クヘシ

第三百十八條 曲拐軸ハ其ノ正否ヲ試験スルニ必要ナル規計ヲ備ヘ検査官吏ノ檢定ヲ受クヘシ

第三百十九條 單式冷汽汽機ニシテ曲拐ノ前後ニ軸受ヲ有スルトキハ左ノ算式ニ依リ曲拐軸、螺旋軸及ヒ中間軸ノ徑ヲ定ムヘシ

$$S = \sqrt[3]{\frac{C \times P \times D^2}{3 \times f}}$$

S ハ軸ノ徑(吋ニテ)

D² ハ汽箱一箇ナルトキハ其ノ徑(吋ニテ)ヲ自乗シタルモノ、汽箱二箇以上ナルトキハ各汽箱ノ徑(吋ニテ)ヲ自乗シ加ヘタルモノ

P ハ最大汽壓(每平方吋磅ニテ)ニ十五磅ヲ加ヘタルモノ

C ハ曲拐ノ長(吋ニテ)

f ハ定數ニシテ左表ニ據ル

曲拐間ノ角度	曲拐軸及ヒ螺旋軸定數	中間軸定數
九〇度	一、〇四七	一、二一一

二 曲 拐		三 曲 拐	
一〇〇度	九六六	一二〇度	一、二二八
一一〇度	九〇四	一三〇度	一、〇五五
一二〇度	八五五	一四〇度	九九七
一三〇度	八一七	一五〇度	九五三
一四〇度	七八八	一六〇度	九一九
一五〇度	七六六	一七〇度	八九四
一六〇度	七五一	一八〇度	八七七
一七〇度	七四三	一九〇度	八六七
一八〇度	七四〇	二〇〇度	八六四
一九〇度	七四〇		八六四
二〇〇度	七四〇		八六四

第三百二十條 複式冷汽汽機ニシテ曲拐ノ前後ニ軸受ヲ有スルトキハ左ノ算式ニ依リ曲拐軸、螺旋軸及ヒ中間軸ノ徑ヲ定ムヘシ

$$S = \sqrt[3]{C \times P \times D^2} / (2 + \frac{D^2}{R^2})$$

S ハ軸ノ徑(吋ニテ)

D² ハ高壓汽筒一箇ナルトキハ其ノ徑(吋ニテ)ヲ自乗シタルモノ、高壓汽筒二箇以上ナルトキハ各汽筒ノ徑(吋ニテ)ヲ自乗シ加ヘタルモノ

D² ハ低壓汽筒一箇ナルトキハ其ノ徑(吋ニテ)ヲ自乗シタルモノ、低壓汽筒二箇以上ナルトキハ各汽筒ノ徑(吋ニテ)ヲ自乗シ加ヘタルモノ
 P ハ最大汽壓(毎平方吋磅ニテ)ニ十五磅ヲ加ヘタルモノ
 C ハ曲拐ノ長(吋ニテ)
 f ハ定數ニシテ第三百十九條ノ表ニ據ル

第三百二十一條 前二條ニ於ケル曲拐軸ノ算式ハ同種汽機ノ外車軸ニ應用スルコトヲ得此ノ場合ニハ曲拐軸ノ定數ニ一、四ヲ乘シタル定數ヲ用ウヘシ

第三百二十二條 進力受臺ノ前部若ハ後部ニハ之ニ接近シテ軸受ヲ設置スヘシ

第三百二十三條 船尾管ニハ船尾隔壁ノ前面ニ於テ管及ヒ嘴子ヲ取附ケ管内ノ水ヲ排出セシムヘキ

裝置ヲ爲スヘシ

第三百二十四條 表面冷汽器ハ内部ノ檢査ヲ爲ス爲メ適當ノ人孔ヲ設ケ且注射冷汽及ヒ補助給水ノ

裝置ヲ爲スヘシ

第三百二十五條 表面冷汽器ノ管板ハ眞鍮又ハ他ノ合金ヲ以テ製造スヘシ

第三百二十六條 冷汽管ノ長、管ノ外徑ノ百二十倍以上ニ當ルトキハ眞鍮若ハ管板ト同質ノ支板ヲ

設クヘシ

第三百二十七條 冷汽器ハ冷汽管ヲ取附クル前ニ一平方吋ニ付三十磅ノ水壓力ヲ以テ試驗ヲ行ヒ之ヲ取附ケタル後適宜ノ水高壓力ヲ以テ其ノ漏否ヲ試驗スヘシ

第三百二十八條 正給水唧筒ハ二箇ヲ備ヘ各給水ニ充分ナル容積ヲ有シ且其ノ一箇ヲ使用スルトキ

ト雖モ他ノ一箇ヲ開放シ得ヘキ樣裝置スヘシ

前項ノ唧筒ハ獨立ノ汽機ヲ以テ運轉セシムルコトヲ得但此ノ場合ニ於テハ其ノ速度ヲ調整シ得ヘ

キ自働整速器ヲ備フヘシ
 第三百二十九條 第三百三十四條ノ補助給水唧筒ニ自働整速器ヲ備フルトキハ獨立正給水唧筒ヲ一筒ニ減スルモ妨ナシ
 第三百三十條 給水唧筒ハ最大汽壓二倍ノ水壓力ヲ以テ試驗ヲ行フヘシ
 第三百三十一條 汽機ニハ一筒ノ滲水注射器ヲ備ヘ若ハ循環唧筒ニ一筒ノ滲水吸水口ヲ備フヘシ
 第三百三十二條 正滲水唧筒ハ二筒ヲ備ヘ其ノ一筒ヲ使用スルトキト雖モ他ノ一筒ヲ開放シ得ヘキ様装置スヘシ
 第三百三十三條 正滲水唧筒ハ船内及各區畫室ヨリ滲水ヲ排出シ得ル様装置シ其ノ泥函及ヒ芥除ハ容易ニ接近シ得ヘキ所ニ設置スヘシ
 第三百三十四條 正給水唧筒ノ外給水ノ爲メ蒸汽唧筒一筒ヲ備ヘ温水溜及ヒ海中ニ通スル吸水口ヲ備フヘシ
 第三百三十五條 前條ノ唧筒ノ外尙蒸汽唧筒一筒ヲ備ヘ各區畫室ヨリ滲水ヲ取り之ヲ船外ニ排出シ及ヒ海水ヲ甲板ニ送り得ヘキ様装置シ若シ手用唧筒ノ備ナキトキハ人力ヲ以テ之ヲ運用シ得ル様構造スヘシ
 第三百三十六條 總噸數一千噸未満ノ船舶ニ於テハ一筒ノ蒸汽唧筒ヲ備フルモ妨ナシ但此ノ場合ニハ第三百三十四條第三百三十五條ノ規定ニ適合スルモノタルヘシ
 第三百三十七條 二重底又ハ水艙ヲ有スル船舶ニ於テハ其ノ排水ニ適スル蒸汽唧筒ヲ備フヘシ
 前項ノ唧筒ハ第三百三十五條ノ蒸汽唧筒ニ兼用セシムルコトヲ得
 第三百三十八條 總テ給水唧筒若ハ給水管ニハ適當ナル發條逃出口ヲ備フヘシ
 第三百三十九條 鑄鋼及練鋼製品ハ總テ充分ニ燒鈍スヘシ

第四章 汽罐

第三百四十條 鍛合シタル鋼板ハ伸張ヲ受クル箇所ニ使用スヘカラス又鋼製支柱ハ鍛合スヘカラス
 第三百四十一條 鋼板ハ突縁ヲ造リ其ノ他製作ノ爲メ熱シタルトキハ燒鈍法ヲ施スヘシ
 第三百四十二條 鋼板ニハ打貫孔ヲ穿ツヘカラス
 第三百四十三條 人孔及ヒ泥孔ハ相當ノ縁環ヲ用非テ強度ノ減少ヲ補充スヘシ又罐胴ニ設クル楕圓形ノ孔ハ常ニ短徑ヲ罐ノ長ニ並行セシムヘシ
 汽兜ノ下ニ在ル胴板ハ支柱ヲ設ケ若ハ其ノ他ノ方法ニ依リ之ヲ強固ナラシムヘシ
 第三百四十四條 覆板ハ罐板ト同質若ハ優等ノ板ヲ用非其ノ厚ハ單覆板ナルトキハ罐板ヨリ八分ノ一厚キモノ、兩覆板ナルトキハ罐板ノ厚ノ四分ノ三以上ノモノタルヘシ但鐵板ナルトキハ其ノ纖維ヲ接合スヘキ板ノ纖維ト並行セシムヘシ
 第三百四十五條 鉸釘ノ徑ハ罐板ノ厚ヨリ小ナルヘカラス又罐板薄キカ或ハ累接ナルカ或ハ單覆板ヲ以テ接合スル場合ニ於テハ鉸釘ノ徑ヲ尙大ナラシムヘシ
 第三百四十六條 鐵製筒形汽罐胴板ノ強力ハ縱接合ノ強率ヲ取り左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

$$P = \frac{C \times T \times B}{D}$$

- P ハ最大汽壓(每平方吋磅ニテ)
- C ハ定數ニシテ左表ニ據ル
- T ハ罐板ノ厚(吋ニテ)
- D ハ罐胴ノ平均ノ徑(吋ニテ)
- B ハ縱接合ノ強率ニシテ左ノ式ノ内其ノ少ナルモノヲ取りテ用ウヘシ

接合ニ於ケル鑼板ノ強率

$$(I) B_1 = \frac{p-d}{p} \times 100$$

接合ニ於ケル鉸釘ノ強率

$$(II) B_2 = \frac{n \times a}{p \times t} \times 100$$

鉸釘ノ數外列ニ於テ半數ナルトキ鉸釘及ヒ鑼板ノ連續強率

$$(III) B_3 = \frac{100(p-2d)}{p} + \frac{B_2}{n}$$

p ハ鉸釘ノ心距(吋ニテ)

d ハ鉸釘ノ徑(吋ニテ)

t ハ鑼板ノ厚(吋ニテ)

a ハ鉸釘ノ截面積(平方吋ニテ)但兩剪力ヲ受クルトキハ其ノ一、七五倍

n ハ最大心距ニ於ケル鉸釘ノ數

F { 鐵製鉸釘ニシテ打貫孔ナルトキ
鐵製鉸釘ニシテ錐揉孔ナルトキ

定數表

一〇〇
九〇

縱接合ノ種類	鑼板		厚
	二分ノ一トキ	二分ノ一吋ヲ超エ四 分ノ三吋以下ノトキ	
累接ニシテ打貫孔ナルトキ	一五五	一六五	一七〇
累接ニシテ錐揉孔ナルトキ	一七〇	一八〇	一九〇
兩覆板衝接ニシテ 打貫孔ナルトキ	一七〇	一八〇	一九〇
兩覆板衝接ニシテ 錐揉孔ナルトキ	一八〇	一九〇	二〇〇

第三百四十七條 鋼製筒形汽鑼胴板ノ強力ハ縱接合ノ強率ヲ取り左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

$$P = \frac{C \times (1-2) \times B}{D}$$

P ハ最大汽壓(每平方吋磅ニテ)

D ハ鑼筒ノ平均ノ徑(吋ニテ)

T ハ鑼板ノ厚(吋ノ十六分ノ一ニテ)

C { 縱接合ニ於テ同幅ノ兩覆板ヲ有スルトキ
縱接合ニ於テテ累接ナルトキ

二〇
一九、二五
一八、五

但シ胴板ノ最小抗張力カ一平方吋ニ付二十六噸ヲ超ユルトキハCノ値ハ其ノ割合ヲ以テ増加

スルコトヲ得

B ハ縱接合ノ強力ニシテ左ノ式ノ内其ノ少ナルモノヲ取りテ用ウヘシ
接合ニ於ケル鑼板ノ強率

$$(I) B_1 = \frac{p-d}{p} \times 100$$

接合ニ於ケル鉸釘ノ強率

$$I) B_2 = \frac{n \times a}{p \times t} \times F$$

鉸釘ノ數外列ニ於テ半數ナルトキ鉸釘及ヒ罐板ノ連續強率

$$II) B_2 = \frac{100(p-2d)}{p} + \frac{B_2}{n}$$

p ハ鉸釘ノ心距(吋ニテ)

t ハ罐板ノ厚(吋ニテ)

d ハ鉸釘ノ徑(吋ニテ)

a ハ鉸釘ノ截面積(平方吋ニテ)但兩剪力ヲ受クルトキハ其ノ一、七五倍

n ハ最大心距ニ於ケル鉸釘ノ數

F ハ 鋼製鉸釘ヲ用ウルトキ

鐵製鉸釘ヲ用ウルトキ

八五

七〇

第三百四十八條 火焰ニ接觸スル加熱器又ハ汽函ノ胴板ノ強力ハ前二條ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ但定數(C)ハ其ノ三分ノ二ヲ用ウヘシ

第三百四十九條 平面ヲ支フル支柱ノ強力ハ其ノ最小截面ニ依リ之ヲ算出スヘシ但其ノ抗張力ハ左ノ程度ヲ超ユヘカラス

鐵製支柱 最小ノ徑一時二分ノ一ヲ超ユサル支柱及ヒ鍛合シタル支柱ノ強力ハ一平方吋ニ付六千磅、最小ノ徑一時二分ノ一以上ニシテ鍛合セサル支柱ノ強力ハ一平方吋ニ付七千五百磅

鋼製支柱 最小ノ徑一時二分ノ一ヲ超ユサル支柱ノ強力ハ一平方吋ニ付八千磅、最小ノ徑一時二分ノ一以上ノ支柱ノ強力ハ一平方吋ニ付九千磅但シ螺旋支柱ニアラサル他ノ支柱ニ在リテハ其ノ最小抗張力カ一平方吋ニ付二十六噸ヲ超ユルトキハ其ノ割合ヲ以テ強力ヲ増加スルコトヲ得

支柱管 支柱管ノ強力ハ一平方吋ニ付七千五百磅

第三百五十條 斜向支柱ノ截面積ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

平板支柱ノ截面積ハ左ノ算式ニ依リ得ル所ノ面積ヨリ大ナラシムヘシ

$$A = \frac{a \times L}{H}$$

A ハ斜向支柱ノ截面積(平方吋ニテ)

a ハ平板ヲ支フル直向支柱ノ截面積(平方吋ニテ)

L ハ斜向支柱ノ長(吋ニテ)

H ハ斜向支柱ノ一端ヨリ平板面ニ垂直ノ長(吋ニテ)

第三百五十一條 支柱ヲ以テ支ユル平板ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

$$P = \frac{C \times T^2}{p^2}$$

P ハ最大汽壓(每平方吋磅ニテ)

T ハ板ノ厚(吋ノ十六分ノ一ニテ)

p ハ支柱ノ最大心距(吋ニテ)

C ハ定數ニシテ左表ニ據ル

(甲)	螺旋支柱ノ兩端ヲ絞締シタルトキ	厚十六分ノ七吋以下ノ鐵板 又ハ鋼板ナルトキ 又ハ鋼板ナルトキ 又ハ鋼板ナルトキ	九〇〇
(乙)	螺旋支柱ノ兩端ヲ母螺ニテ締ムルトキ	厚十六分ノ七吋以下ノ鐵板 又ハ鋼板ナルトキ 又ハ鋼板ナルトキ 又ハ鋼板ナルトキ	一〇〇
(丙)	鐵板ニシテ内外ヨリ母螺ヲ以テ支柱ノ兩端ヲ締ムルトキ	厚十六分ノ七吋以下ノ鐵板 又ハ鋼板ナルトキ 又ハ鋼板ナルトキ 又ハ鋼板ナルトキ	一〇〇
(丁)	丙ノ取附法ニシテ外面ニ厚ハ板ノ厚ノ二分ノ一ヨリ少カラサル坐金ヲ有スルトキ	坐金ノ徑支柱心距ノ三分ノ一以上ノトキ 坐金ノ徑支柱心距ノ五分ノ二以上ノトキ	一五〇
(戊)	丙ノ取附法ニシテ外面ニ徑ハ支柱心距ノ三分ノ二以上ノ厚ハ板ノ厚ヨリ少カラサル坐金ヲ有スルトキ	坐金ノ徑支柱心距ノ三分ノ一以上ノトキ 坐金ノ徑支柱心距ノ五分ノ二以上ノトキ	一七五
(己)	丙ノ取附法ニシテ外面ニ厚ハ板ノ厚ヨリ少カラサル幅ハ支柱間心距ノ三分ノ二以上ノ條板ヲ絞締ニテ取附ケタルトキ	各列間ノ心距ト爲スト Pチ一列内ニ於ケル支柱ノ心距ト爲ストキハ	一九〇

鋼板ハ燃燒室ニ使用スルモノヲ除キ左ノ割合ニ定數(C)ヲ増加スルコトヲ得

- 一四〇
- 一五〇
- 一六〇

一七五
一九〇
平板ニ其ノ厚ノ三分ノ二ヨリ少カラサル厚ヲ有スル覆板ヲ絞締ニテ取附ケタルトキハ其ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

$$P = \frac{C \times (T \times \frac{t}{2})^2}{l^2}$$

PCT Pハ前式ニ同シ

tハ覆板ノ厚(吋)ノ十六分ノ一ニテ
前鏡板ノ充汽部ニ於テ火焰ノ接觸ヲ防止スル方法ヲ設ケサルトキハ本條ノ定數(C)ヨリ百分ノ二十ヲ減スヘシ

第三百五十二條 焰管巢ニ於ケル鋼製管板ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

$$P = \frac{140 \times T^2}{p^2}$$

Pハ最大汽壓(每平方吋磅ニテ)
Tハ板ノ厚(吋)ノ十六分ノ一ニテ
Pハ各支柱管ノ平均心距(吋)ニテ

第三百五十三條 焰管巢間ノ充水部ニ於ケル平板ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

$$P = \frac{C \times T^2}{p^2}$$

P ハ最大汽壓(每平方吋磅ニテ)
 P ハ各端列中心間ノ水平距離(吋ニテ)
 T ハ板ノ厚(吋ノ十六分ノ一ニテ)
 C ハ定數ニシテ左表ニ據ル

端列ニ於ケル支柱焔管ノ配置法	管板ノ外面ニ母螺ナ有セサルトキ	管板ノ外面ニ母螺ナ有スルトキ
支柱焔管間ニ二本ノ普通焔管アルトキ	一二〇	一三〇
支柱焔管間ニ一本ノ普通焔管アルトキ	一四〇	一五〇
端列悉ク支柱焔管ナルトキ	一六〇	一七〇
端列悉ク支柱焔管ニシテ一本置ニ母螺ナ有スルトキ		

第三百五十四條 燃燒室上部ノ壓力ヲ受クル管板ノ厚ハ左ノ算式ニ依リ得タルモノヨリ少カルヘカラス

$$T = \frac{P \times W \times D}{1600 \times (D - d)}$$

T ハ管板ノ厚(吋ノ十六分ノ一ニテ)
 P ハ最大汽壓(每平方吋磅ニテ)
 W ハ燃燒室上部ノ外幅(吋ニテ)
 D ハ焔管ノ水平心距(吋ニテ)
 d ハ通常焔管ノ内徑(吋ニテ)

第三百五十五條 燃燒室ノ頂上其ノ他ノ平面ヲ支フル支梁ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

$$P = \frac{C \times R^2 \times T}{(L - p) \times D \times L}$$

P ハ最大汽壓(每平方吋磅ニテ)
 L ハ兩管板間ノ距離又ハ管板ト燃燒室後部トノ距離(吋ニテ)
 p ハ支梁上ニ在ル支柱ノ心距(吋ニテ)
 D ハ支梁ノ心距(吋ニテ)
 d ハ支梁中央部ノ深(吋ニテ)
 T ハ支梁中央部ノ厚(吋ニテ)
 C ハ定數ニシテ左表ニ據ル

各支梁ニ備フル支柱ノ數	鐵製支梁ヲ用ウルトキ	鋼製支梁ヲ用ウルトキ
一 若	六、〇〇〇	六、六〇〇
二 若	九、〇〇〇	九、九〇〇
三 若	一〇、〇〇〇	一一、〇〇〇
四 若	一〇、〇〇〇	一一、〇〇〇
五 若	一〇、〇〇〇	一一、五五〇
六 若	一〇、五〇〇	一一、五五〇
七 若	一〇、五〇〇	一一、五五〇
八 以上	一〇、八〇〇	一一、八八〇

第三百五十六條 筒形火爐ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

$$P = \frac{89600 \times T^2}{L \times D}$$

P ハ最大汽壓(每平方吋磅ニテ)
T ハ板ノ厚(吋ニテ)

D ハ火爐ノ外徑(吋ニテ)

L ハ火爐ノ長(呎ニテ)但縁環ヲ有スルトキハ各環間ノ距離
前式ニ依リ算出シタル最大汽壓左ノ式ニ依リ得タルモノニ超ユルトキハ左ノ式ニ依リ得タルモノ
ヲ採用スヘシ

$$P = \frac{C \times T}{D}$$

C ハ板ノ厚十六分ノ九吋ヲ超エサルトキハ八、〇〇〇又鋼板ニシテ厚十六分ノ九吋ヲ超ユルト
キハ八、八〇〇

第三百五十七條 筒形火爐ニシテ「アダムソン」式接合ヲ有スルモノハ左ノ算式ニ依リ其ノ強力ヲ定
ムヘシ

(一) 火爐ノ中央ニ一箇ノ接合ヲ有スルトキ

$$P = \frac{10400 \times T}{D}$$

(二) 二箇ノ接合ヲ有スルトキ

$$P = \frac{11400 \times T}{D}$$

(三) 二十三吋ヲ超エサル距離毎ニ幾多ノ接合ヲ有スルトキ

$$P = \frac{16000 \times (T - \frac{1}{2})}{D}$$

P ハ最大汽壓(每平方吋磅ニテ)

T ハ板ノ厚(吋ニテ)

D ハ火爐ノ外徑(吋ニテ)

第三百五十八條 「フォックス」式又ハ「モリソン」式ニ從ヒ製造シタル鋼製火爐ノ強力ハ左ノ算式ニ
依リ之ヲ定ムヘシ

$$P = \frac{1259 \times (T - 2)}{D}$$

肋形ニシテ其ノ突出部ノ距離九吋ナル鋼製火爐ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

$$P = \frac{1160 \times (T - 2)}{D}$$

螺形鋼製火爐ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

$$P = \frac{912 \times (T - 2)}{D}$$

P ハ最大汽壓(每平方吋磅ニテ)

T ハ板ノ厚(吋ノ十六分ノ一ニテ)

D ハ「フォックス」式「モリソン」式及ヒ螺形火爐ナルトキハ皺形ノ外邊ノ徑、肋形火爐ナルトキハ
平坦部ノ外邊ノ徑(吋ニテ)

「ホルムス」式鋼製火爐ニシテ皺形ノ心距十六吋ヲ超エス其ノ高二吋ヨリ下ラサルモノ、強力ハ

左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

$$P = \frac{845 \times (T-2)}{D}$$

P ハ最大汽壓(毎平方吋磅ニテ)

T ハ火爐平坦部ノ厚(吋ノ十六分ノ一ニテ)

D ハ火爐平坦部ノ外徑(吋ニテ)

第三百五十九條 汽罐ハ毎平方吋ノ最大汽壓九十磅以上ナルトキハ之ニ九十磅ヲ加ヘタルモノ、九十磅未滿ナルトキハ其ノ二倍ノ水壓力ヲ以テ試験ヲ行フヘシ

第五章 瓣、嘴子及ヒ管

第三百六十條 汽罐ニハ二箇以上ノ安全瓣ヲ備ヘ各瓣ノ面積ハ第十二號表ニ據リ算定スヘシ但徑二吋ヲ最少ノ限度トス

副汽罐及ヒ附屬汽艇ノ汽罐ニシテ火床ノ面積十四平方呎ヲ超エサルモノニハ安全瓣一箇ノミヲ備フルモ妨ケナシ

送風機ヲ裝置スル汽罐ニ於ケル安全瓣ノ面積ハ第十二號表ニ據リ算定シタルモノヨリ大ナラシムヘシ

第三百六十一條 安全瓣發條ハ最大汽壓ニ對シ其ノ受クヘキ壓縮力ヲ加ヘ全長ノ縮小少クトモ瓣徑ノ四分ノ一タルヘキ充分ナル旋回數ヲ有シ尙之ヲ瓣徑ノ四分ノ一壓縮スルモ原形ニ復スルモノタルヘシ

第三百六十二條 發條安全瓣ノ適否ハ汽力ヲ以テ定ムヘシ若シ給水瓣及ヒ塞汽瓣ヲ閉チ二十分間以上充分ニ焚火シ安全瓣ヨリ蒸汽溢出スルニ至リ尙汽壓ノ昇騰最大汽壓ノ十分ノ一ヲ超ユルトキハ

發條若ハ瓣ヲ改造スヘシ

第三百六十三條 總テ安全瓣ニハ汽機室ヨリ開閉シ得ル揚瓣裝置ヲ設ケ且瓣ノ昇降距離ハ瓣徑ノ四分ノ一以上タルヘシ

廢汽管ノ面積ハ第十二號表ニ據リ算定シタルモノヨリ少カルヘカラス

第三百六十四條 加熱器ニハ完全ナル安全瓣ヲ備フヘシ

第三百六十五條 汽罐ト汽管トノ間ニハ塞汽瓣ヲ設クヘシ

第三百六十六條 汽罐ニハ少クトモ硝子驗水器一箇、驗水嘴子二箇及ヒ汽壓計一箇ヲ備ヘ又前後ヨリ焚火スル汽罐ニハ之ヲ前後ニ備フヘシ

第三百六十七條 放水瓣若ハ放水嘴子ハ罐體ニ取附ケタルモノ、外船體外板ニモ亦之ヲ取附クヘシ

第三百六十八條 外板ニ取附クヘキ放水嘴子ハ外板ヲ貫通スル突出口ヲ備ヘ外面ニハ眞鍮製又ハ砲銅製ノ環ヲ取附クヘシ且放水嘴子ハ之ヲ閉鎖スルニアラサレハ其ノ開閉把手ヲ取放チ得サル様裝置ヲ爲スヘシ

第三百六十九條 海水嘴子ハ汽罐室及ヒ汽機室ノ床板以上ニ於テ外板ニ取附クルカ又ハ「キングストン」瓣ニ取附ケ之ヲ床板以上ニ達セシムヘシ

第三百七十條 瓣及ヒ嘴子ヲ外板ニ取附クル螺釘ハ外板ニ振込ムカ若ハ埋頭ト爲スヘシ

第三百七十一條 吸水管ヲ接續スル瓣若ハ嘴子ハ汽罐室及ヒ汽機室ノ床板上ニ取附クヘシ

第三百七十二條 最大喫水線以下ニ於ケル吸水口及ヒ吐水口ハ總テ外板ノ接近シ易キ部分ニ瓣若ハ嘴子ヲ取附ケ容易ニ開閉シ得ヘキ様裝置スヘシ

各吐水口ハ成ルヘク最大喫水線以上ニ設クヘシ

第三百七十三條 汽管ニハ充分ナル排水ノ裝置ヲ爲スヘシ

第三百七十四條 蒸汽管へ伸縮ノ爲メ變形ヲ生セサル様装置ヲ爲スヘシ
第三百七十五條 炭庫ヲ通過スル諸管ニハ覆箱ヲ備フヘシ
第三百七十六條 銅製汽管ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

$$P = \frac{6000 \times (T - C)}{D}$$

P ハ最大汽壓(每平方吋磅ニテ)

D ハ管ノ内徑(吋ニテ)

T ハ管ノ厚(吋ニテ)

C ハ定數ニシテ蠟附接合ナルトキハ十六分ノ一又無接合ニシテ徑八吋以下ナルトキハ三十二分ノ一

第三百七十七條 汽管及ヒ給水管ハ最大汽壓ノ二倍ノ水壓力ヲ以テ試験ヲ行フヘシ

第六章 補助汽機及ヒ補助汽鐘

第三百七十八條 補助汽機及ヒ補助汽鐘其ノ他附屬諸機械ハ此ノ規程ニ準據シテ製造スヘシ

附 則

第三百七十九條 第一編第一章第八條ノ規定ハ當分ノ内造船獎勵法ニ依リ製造スル船舶ニハ之ヲ適用セス

明治三十三年六月一日
ヨリ施行

○造船規程

明治三十三年四月
逓信省令第十六號

造船規程目次

第一編 船體

- 第一章 總則
- 第二章 材料試驗
- 第三章 龍骨、船首材及ヒ船尾骨材
- 第四章 正肋材
- 第五章 肋板
- 第六章 副肋材
- 第七章 中心線內龍骨
- 第八章 彎曲部內龍骨及ヒ翼內龍骨
- 第九章 各內龍骨及ヒ船內縱通材ノ接合法等
- 第十章 梁
- 第十一章 梁ノ配置
- 第十二章 船內縱通材ノ配置
- 第十三章 特設肋骨
- 第十四章 深式肋骨
- 第十五章 梁柱

- 第十六章 梁上側板
- 第十七章 梁上帶板
- 第十八章 船首肘板、船尾肘板及ヒ船首防撓構造
- 第十九章 外板
- 第二十章 覆板及ヒ填板
- 第二十一章 鉸釘
- 第二十二章 支水隔壁
- 第二十三章 甲板
- 第二十四章 二重底及ヒ水艙
- 第二十五章 區畫式二重底
- 第二十六章 肋骨上ニ縱通桁板ヲ用テ構造シタル二重底
- 第二十七章 內張板
- 第二十八章 車軸隧道
- 第二十九章 船首樓、船尾樓及ヒ船橋樓
- 第三十章 低船首樓及ヒ低船尾樓
- 第三十一章 適當比例ノ船舶
- 第一節 總則
- 第二節 深ノ十一倍ヲ超ニ十二倍以下ノ長ヲ有スル船舶
- 第三節 深ノ十二倍ヲ超ニ十三倍以下ノ長ヲ有スル船舶
- 第四節 深ノ十三倍ヲ超ニ十四倍以下ノ長ヲ有スル船舶

- 第五節 深ノ十四倍ヲ超ニ十五倍以下ノ長ヲ有スル船舶
- 第六節 深ノ十五倍ヲ超ニ十六倍以下ノ長ヲ有スル船舶
- 第三十二章 艙口、機關室口其ノ他甲板上下ノ諸口
- 第三十三章 載貨門及ヒ載炭門
- 第三十四章 排水裝置
- 第三十五章 舵
- 第三十六章 檣、帆架、斜檣及ヒ索具等
- 第二編 機關
- 第一章 總則
- 第二章 材料試驗
- 第三章 汽機
- 第四章 汽鐘
- 第五章 瓣、嚮子及ヒ管
- 第六章 補助汽機及ヒ補助汽鐘
- 附則
- 造船規程
- 第一編 船體
- 第一章 總則
- 第一條 此ノ規程ニ於テ鐵船ト稱スルハ外板ニ鐵ヲ用テ船骨ニ鐵若ハ鋼ヲ用ウルモノヲ謂フ
- 稱スルハ外板ニ鋼ヲ用テ船骨ニ鋼若ハ鐵ヲ用ウルモノヲ謂フ

第二條 此ノ規程ニ於テハ最上甲板ヲ上甲板第二層ノ甲板ヲ第二甲板、第三層ノ甲板ヲ第三甲板ト謂ヒ以下之ニ準ス

第三條 此ノ規程ニ於テ重甲板船ト稱スルハ其ノ上甲板下ニ隨意ニ重量ノ貨物ヲ積載シ得ヘキ船舶ヲ謂フ但三層重甲板船ト稱スルハ第二甲板梁ノ上面迄ノ深十七呎以上ニシテ二層以上ノ甲板及ヒ艙梁若ハ之ニ代用スヘキ特設肋骨又ハ深式肋骨ヲ有スルモノヲ謂フ

輕甲板船ト稱スルハ二層以上ノ甲板ヲ有シ其ノ構造重甲板船ニ比シ稍輕裝ニシテ其ノ第二甲板上ニハ重量ノ貨物ヲ積載スルニ適セサル船舶ヲ謂フ但三層輕甲板船ト稱スルハ第二甲板梁ノ上面迄ノ深十七呎以上ニシテ二層以上ノ甲板及ヒ艙梁若ハ之ニ代用スヘキ特設肋骨又ハ深式肋骨ヲ有スルモノヲ謂フ

覆甲板船ト稱スルハ二層以上ノ甲板ヲ有シ其ノ構造輕甲板船ニ比シ尙輕裝ニシテ其ノ第二甲板上ニハ極メテ輕量ノ貨物ヲ積載シ其上甲板上ニハ操舵室、海圖室等ヲ除クノ外船室ヲ設置スルニ適セサル船舶ヲ謂フ

重甲板船ノ上甲板ヲ重甲板、輕甲板船ノ上甲板ヲ輕甲板、覆甲板船ノ上甲板ヲ覆甲板ト謂フ
第四條 此ノ規程ニ於テ船ノ長ト稱スルハ重甲板船ニ於テハ重甲板梁上ニテ、輕甲板船ニ於テハ輕甲板梁上ニテ、覆甲板船ニ於テハ第二甲板梁上ニテ船首材ノ後面ヨリ單螺旋汽船ナルトキハ舵柱ノ前面迄、雙螺旋汽船、外車汽船及ヒ帆船ナルトキハ船尾材ノ前面迄ノ水平距離ヲ謂フ但上部彎曲ノ船首材ヲ備フル船舶ニ於テハ該材下部ノ後面ニ沿フテ眞直ニ延長シタル線ト甲板梁ノ上面線トノ交叉點ヨリ測リタル水平距離ヲ謂フ
幅ト稱スルハ船體ノ最廣部ニ於ケル肋骨ノ外面ヨリ外面迄ノ距離ヲ謂フ
深ト稱スルハ船體ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ重甲板船ニ於テハ重甲板梁ノ上面迄、輕甲板船及

ヒ覆甲板船ニ於テハ第二甲板梁ノ上面迄ノ距離ヲ謂フ

第五條 此ノ規程ニ於テ第一數ト稱スルハ重甲板船ニ於テハ深ト幅ノ二分ノ一トノ和ニ龍骨上面ノ中心ヨリ重甲板ノ梁上側板ニ至ル正肋材ノ船體中央ニ於ケル長ヲ加ヘタル數ヲ謂フ但三層重甲板船ニ於テハ其ノ數ヨリ七呎ヲ減シタルモノヲ謂フ又輕甲板船及ヒ覆甲板船ニ於テハ深ト幅ノ二分ノ一トノ和ニ第二甲板ノ梁上側板ニ至ル正肋材ノ船體中央ニ於ケル長ヲ加ヘタルモノヲ謂フ但二層輕甲板船ニ於テハ其ノ數ニ第二甲板梁ノ上面ヨリ輕甲板梁ノ上面迄ノ深ヲ加ヘタルモノヲ謂フ
第二數ト稱スルハ第一數ニ船ノ長ヲ乘シタル數ヲ謂フ
前二項ノ長、幅及ヒ深ハ呎ヲ以テ本位ト爲シ呎以下ハ二位ニ止メ其ノ以下ハ四捨五入スヘシ

第六條 此ノ規程ニ於テハ特ニ其ノ條項ニ規定シタル場合ヲ除クノ外船ノ長、深ノ十一倍ヲ超エサル船舶ノ構造方法ヲ示シ又寸法及ヒ員數ハ最小ノ限度ヲ、距離ハ最大ノ限度ヲ示シタルモノトス
第七條 此ノ規程ニ於テ鐵材ノ寸法ハ別表中甲號ニ據リ鋼材ノ寸法ハ乙號ニ據ルヘシ其ノ甲號及ヒ乙號ノ區別ナキモノハ鐵材及ヒ鋼材ニ通シテ之ヲ適用スヘシ

第八條 正肋材、副肋材、肋板ノ寸法、隔壁板ノ厚、梁柱ノ徑及ヒ肋骨ノ心距ハ第一數ニ依リ之ヲ定メ龍骨、船首材、船尾骨材、內龍骨、二重底ノ內底板、縱通桁板、艙內縱通材、梁上側板、外板、甲板、內張板及ヒ舵等ノ寸法ハ第二數ニ依リ之ヲ定メ梁ノ寸法ハ船體ノ中央ニ於ケル各層梁ノ長ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第九條 船舶ニハ左ニ記載スルモノヲ除クノ外船底全部ヲ通シテ二重底ヲ設クヘシ
一 總噸數二千噸未満ノ船舶
二 特殊ノ用ニ供スル爲メ其ノ構造ニ對シ遞信大臣ノ認可ヲ受ケタル船舶
第十條 此ノ規程ニ定ムル試驗ハ検査官吏ノ監督ヲ受ケ之ヲ執行スヘシ

試験器ハ検査官吏ノ檢定ヲ經タルモノヲ用ウヘシ

第十一條 此ノ規程中試験ニ關スル條項ハ遞信大臣ノ適當ト認ムル證明書アルモノニ限り之ヲ適用セサルコトアルヘシ

第十二條 此ノ規程ニ該當セサル船體ノ構造方法ハ遞信大臣ニ於テ此ノ規程ト同一ノ效力ヲ有スルト認ムルモノニ限り特ニ之ヲ合格ト爲スヘシ

第二章 材料試験

第一條 鐵材ハ可鍛性ニシテ一平方吋ノ抗張力ハ纖維ニ沿ヒテハ二十噸以上、纖維ヲ横リテハ十八噸以上又其ノ伸張ノ割合ハ八吋ノ長ニ於テ纖維ニ沿ヒテハ百分ノ四以上、纖維ヲ横リテハ百分ノ一、五以上ナルヲ要ス但山形材、球板等ニハ纖維ヲ横ルノ試験ヲ執行スルコトヲ要セス

第二條 鋼材ニハ左ノ試験ヲ執行スヘシ

- 一 抗張試験 一平方吋ノ抗張力ハ二十六噸以上三十二噸以下ニシテ其ノ伸張ノ割合ハ八吋ノ長ニ於テ厚二十分ノ八吋以下ナルトキハ百分ノ十六以上又厚二十分ノ八吋ヲ超ユルトキハ百分ノ二十以上ナルヲ要ス但平板ヲ除キ其ノ他ノ鋼材ハ可鍛性ノモノニ限り抗張力ノ上限ヲ三十噸ト爲スコトヲ得

二 屈曲試験 試験材ヲ櫻紅色ニ熱シタル後華氏八十二度ノ水中ニテ冷却シ之ヲ試験材ノ厚ノ三倍ヲ超ユサル内徑ヲ以テ百八十度屈曲シ裂疵ヲ生セサルヲ要ス

第三條 鋼製ノ鉸釘ハ之ヲ熱シ其ノ頭ヲ鉸徑ノ二、五倍迄ニ平扁ニ打壓シ且釘身ヲ平扁ニシ之ニ鉸徑ニ等キ打貫孔ヲ穿テ裂疵ヲ生セサルヲ要ス

第四條 鑄鋼製ノ船尾骨材、舵及ヒ舵柄等ニハ左ノ試験ヲ執行スヘシ

- 一 抗張試験 一平方吋ノ抗張力ハ二十八噸以上三十五噸以下ニシテ其ノ伸張ノ割合ハ八吋ノ長

ニ於テ百分ノ八以上ナルヲ要ス

二 屈曲試験 一時四分ノ一徑又ハ一時四分ノ一角ノ試験材ヲ作り内面ニ於テ二吋ヨリ多カラサル半徑ノ弧狀ニ曲ケ九十度以上ニ至リ裂疵ヲ生セサルヲ要ス

三 衝擊試験 一材ニ鑄造シタル船尾骨材ニ於テハ其ノ突出部ノ形狀ニ適合スヘキ穴ヲ硬質ノ地面ニ穿テ置キ該材ノ一端ヲ地面ト四十五度ノ傾斜ニ起シテ地上ニ墜落シ又舵及ヒ二材以上ニ鑄造シタル船尾骨材ニ於テハ其ノ形狀及ヒ重量ニ應シ七呎乃至十呎ノ高ヨリ之ヲ墜落シ後之ヲ吊シテ重量七磅以上ノ錘ヲ以テ敲キ其ノ生來ノ裂疵及ヒ本試験ニ起因スル裂疵ノ有無ヲ檢シ其ノ痕跡ナキヲ要ス

第五條 本章第一條及ヒ第二條ノ試験ハ同一ノ用ニ供スル材料五十箇未滿毎ニ一箇、本章第三條ノ試験ハ鉸釘十箇未滿毎ニ一箇ヲ採リ之ヲ執行シ検査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ更ニ二箇迄ヲ増シ適否ヲ檢定スヘシ

第六條 遞信大臣ハ前數條ノ試験ニ合格セサルモノト雖モ其ノ使用ノ方法及ヒ部局ヲ限り條件ヲ附シテ之カ使用ヲ許可スルコトアルヘシ

第三章 龍骨、船首材及ヒ船尾骨材

第一條 方形龍骨、船首材及ヒ船尾骨材ノ寸法ハ第二號表ニ據リ其ノ倅接ノ長ハ用材ノ厚ノ九倍ト爲スヘシ

第二條 龍骨翼板ノ厚ヲ第二號表ニ掲クルモノヨリ増ストキハ其ノ割合ニ應シテ方形龍骨ノ厚ヲ減スルコトヲ得

第三條 側板龍骨ノ合厚ハ第二號表ニ掲クル方形龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第四條 平板龍骨ノ寸法ハ第二號表ニ據ルヘシ

平板龍骨ニハ斷切内龍骨板若ハ中心線豎板ヲ附シ其ノ兩側ニハ船ノ首尾ヲ通シテ第三號表ニ掲クル内龍骨山形材ヲ附シ之ヲ龍骨ニ固著スヘシ

平板龍骨ノ銜接ハ三列釘固著ト爲スヘシ

第二條 二萬六千以上ノ船舶ハ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ハ平板龍骨ヲ二重ト爲スヘシ

第五條 船首材ノ寸法ハ最大喫水線ヨリ上部ニ至ルニ從ヒ漸次減少シテ頂上ニ於ケル截面ハ第二號表ニ掲クルモノ、四分ノ三ト爲スコトヲ得

第六條 單螺旋汽船ノ船尾材ノ車軸孔ノ兩側ニ於ケル厚ハ第二號表ニ掲クル厚ノ五分ノ三ヨリ少カラス又船尾骨材踵部ノ截面ハ同表ニ掲クルモノヨリ百分ノ三十増シ其ノ龍骨ト嵌接スヘキ部分ニ於テハ漸次龍骨ノ寸法迄ニ減少スヘシ

單螺旋汽船ノ舵柱ノ寸法ハ舵頭管ノ下部ヨリ漸次減少シテ頂上ニ於テハ第二號表ニ掲クル船首材ノ寸法ト同一ト爲スコトヲ得

雙螺旋汽船、外車汽船若ハ帆船ノ船尾材ノ寸法ハ舵頭管ノ下部ヨリ漸次減少シテ頂上ニ於ケル截面ハ第二號表ニ掲クルモノ、四分ノ三ト爲スコトヲ得

第七條 船尾材ヲ龍骨ニ接合スル嵌接ノ後端ヨリ船尾材ノ前面迄ノ距離ハ外車汽船及ヒ帆船ニ於テハ肋骨ノ心距ノ一、五倍又螺旋汽船ニ於テハ二、五倍ヨリ少カルヘカラス

第八條 第二數二萬以上ノ單螺旋汽船ニ於テハ船尾材ヲ上部ニ延長シテ肋板及ヒ梁上ニ張りタル鐵板若ハ鋼板ニ固著スヘシ

第九條 單螺旋汽船ノ舵柱、雙螺旋汽船、外車汽船及ヒ帆船ノ船尾材ハ其ノ兩側ニ第一號表ニ掲クル正肋材ト同寸法ノ山形材ヲ附シテ船尾肋板ニ固著スヘシ

第十條 舵蝶鉸ノ壺金ハ深ハ舵心材ノ徑ノ十分ノ七ヨリ少カラス厚ハ舵針ノ徑ノ二分ノ一ヨリ少カ

ラスシテ五呎六吋以内ノ心距ニ於テ舵柱若ハ船尾材ニ鍛接スヘシ

第四章 正肋材

第一條 正肋材ノ寸法ハ第一號表ニ據ルヘシ但覆甲板船ニ於テハ其ノ寸法鐵ナルトキハ幅三吋ニ三吋厚十六分ノ六吋、鋼ナルトキハ幅三吋ニ三吋厚二十分ノ六吋ヨリ小ナルヘカラス

肋骨ノ心距ハ第一號表ニ據ルヘシ但船尾斜肋骨ノ心距ハ船尾稜線ニ於テ之ヲ測ルヘシ

正肋材ハ龍骨ヨリ船體ノ上端迄達セシムヘシ但覆甲板、船首樓、船尾樓、船橋樓、低船首樓若ハ低船尾樓ヲ備フル船舶ニ於テ上端ノ形狀圓形ナルトキハ正肋材ヲ圓形ノ下部ニ止ムルコトヲ得

第二條 上甲板下噸數ノ係數〇、七八以上又ハ船首ノ船底扁平ナル鋼製汽船ニ於テ二重底ヲ備フルトキハ緣板ヨリ緣板迄又二重底ヲ備ヘサルトキハ彎曲部ヨリ彎曲部迄ニ船首ヨリ船ノ長ノ五分ノ一二相當スル箇所ヨリ前方船首隔壁ニ至ル間二重正肋材ヲ取附クヘシ

螺旋汽船ニ於テハ船尾管ノ通スル部分ニ於テ其上下適當ノ間正肋材ハ肋骨一本置ニ二重ト爲スヘシ
第三條 正肋材ヲ龍骨ノ上面ニ於テ接續スルトキハ中央部ニ於テ少クモ船ノ長ノ四分ノ三間ハ其ノ裏面ニ之ト同寸法ニシテ長三呎以上ノ山形材ヲ附シテ固著スヘシ但平板龍骨ニ貫通板内龍骨ヲ用ウル船舶ハ此ノ限ニ在ラス

第五章 肋板

第一條 船ノ中央部ニ於ケル肋板ノ寸法ハ第一號表ニ據ルヘシ但鐵ニテ其ノ厚十六分ノ九吋以下ナルトキハ汽機室及ヒ汽鐘室ニ於テハ之ニ十六分ノ一吋ヲ増シ又鋼ナルトキハ汽機室ニ於テハ之ニ二十分ノ一吋汽鐘室ニ於テハ二十分ノ二吋ヲ増スヘシ

肋板ハ鐵ニテ厚十六分ノ九吋以上、鋼ニテ厚二十分ノ九吋以上ナルトキハ中央部ニ於テ船ノ長ノ五分ノ三間ハ第一號表ニ掲クル厚ト爲シ其ノ前後ニ於テ船ノ長ノ十分ノ一間ハ鐵ナルトキハ之ヨ

リ十六分ノ一吋、鋼ナルトキハ二十分ノ一吋ヲ減シ船ノ首尾ニ於テハ鐵ナルトキハ十六分ノ二吋、鋼ナルトキハ二十分ノ二吋ヲ減スルコトヲ得

龍骨ノ中心ヨリ正肋材ニ沿ヒテ船ノ幅ノ八分ノ三ニ相當スル箇所ニ於ケル肋板ノ深ハ其ノ中央ニ於ケル深ノ二分ノ一ヨリ又其ノ兩端ニ於テハ正肋材ノ横邊ノ幅ヨリ少カルヘカラス

龍骨ノ上面ヨリ測リタル兩端外縁ノ高ハ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ一間ハ中央ニ於ケル深ノ二倍ト爲シ其ノ前後ニ於テハ漸次之ヲ中央ニ於ケル深迄ニ減少スルコトヲ得但船ノ首尾ニ於テハ漸次肋板ノ深ヲ増シ之ニ内龍骨ヲ取附クルコトヲ得ヘカラスムヘシ

船尾隔壁ノ後部ニ於テハ肋板ヲ船尾管ノ上部ニ達セシムヘシ

第二條 肋板ハ正肋材毎ニ取附ケ若シ龍骨上ニ中心線暨板ヲ備フルトキハ其ノ兩面ニ第一號表ニ掲クル副肋材ト同寸法ノ山形材ヲ附シテ之ヲ暨板ニ固著スヘシ

第三條 肋板ヲ二枚以上ニテ造ルトキハ其ノ銜接ハ二重覆板ヲ附シ三列釘固著ト爲スヘシ但各覆板ノ厚ハ肋板ノ厚ノ三分ノ二ト爲スヘシ

前項ノ銜接ハ之ヲ累接ト爲シテ三列釘固著ト爲スモ妨ナシ

第四條 隔壁ヲ取附クヘキ肋板ハ副肋材ノ上部ニ於テ之ニ隔壁板ヲ固著シ得ヘキ深ト爲スヘシ

第五條 肋板、中心線暨板及ヒ斷切内龍骨板ニハ滄水孔ヲ穿ツヘシ

第六條 船尾肋板ノ深ハ第一號表ニ掲クル船ノ中央ニ於ケル肋板ノ深ノ一、五倍以上ニシテ厚ハ其ノ厚ヨリ少カルヘカラス

第六章 副肋材

第一條 副肋材ハ正肋材及ヒ肋板毎ニ取附ケ其ノ寸法ハ第一號表ニ據ルヘシ

第二條 第一數四十五未満ノ船舶ニ於テハ副肋材ハ彎曲上部迄達セシムヘシ

第一數四十五以上五十七未満ノ船舶ニ於テハ副肋材ハ一本置ニ重甲板ノ梁上側板迄ト彎曲部縦通材ノ上部迄トニ達セシムヘシ但船梁ヲ要スル船舶ニ於テハ一本置ニ重甲板ノ梁上側板迄ト船梁ノ梁上側板ニ附スル山形材ノ上部迄トニ達セシムヘシ

第一數五十七以上ノ船舶ニ於テハ副肋材ハ一本置ニ重甲板ノ梁上側板迄ト第二層梁ノ梁上側板ニ附スル山形材ノ上部迄トニ達セシムヘシ但第一數七十五以上ノ帆船ニ於テハ總テ之ヲ重甲板ノ梁上側板迄達セシムヘシ

第三條 三層重甲板船ニ於テハ副肋材ハ一本置ニ重甲板ノ梁上側板迄ト第二甲板ノ梁上側板ニ附スル山形材ノ上部迄トニ達セシムヘシ

輕甲板船ニ於テハ副肋材ハ一本置ニ輕甲板ノ梁上側板迄ト第二甲板ノ梁上側板ニ附スル山形材ノ上部迄トニ達セシムヘシ

覆甲板船ニ於テハ副肋材ヲ肋骨毎ニ第二甲板ノ梁上側板ニ附スル山形材ノ上部迄達セシムヘシ

第四條 汽機室及ヒ汽鐘室ニ於テハ肋骨毎ニ肋板ノ他面ニモ副肋材ヲ附シテ之ヲ彎曲上部迄達セシムヘシ

龍骨ノ上面ヨリ船梁ノ上面迄ノ深十七呎以上ナルカ若ハ第二數一萬五千以上ノ船舶ニ於テハ増設副肋材ハ之ニ彎曲部縦通材ヲ固著シ得ヘキ高迄達セシムヘシ

第五條 總テ内龍骨其ノ他縦通材ヲ取附クル部分ニハ肋骨毎ニ副肋材ト同寸法ノ山形材ヲ三箇以上ノ鉸釘ヲ以テ肋骨ニ固著スヘシ但肋骨ニ球山形材ヲ用ウルトキハ肋骨毎ニ第一號表ニ掲クル副肋材ト同寸法ノ山形材二本ヲ三箇以上ノ鉸釘ヲ以テ肋骨ニ固著スルカ若ハ副肋材二本ト同一ノ效力ヲ有スル山形材一本ヲ三箇以上ノ鉸釘ヲ以テ肋骨ニ固著シ四本以上ノ鉸釘ヲ以テ縦通材ニ固著スヘシ

第六條 副肋材ノ銜接ニハ覆山形材ヲ附シ其ノ兩邊ハ接合ノ前後ニ於テ各二箇以上ノ鉸釘ヲ以テ固著スヘシ

第七條 第二數二萬以上ノ船舶ニ於テハ船尾隔壁ノ後部ニ於ケル副肋材ハ總テ上甲板ノ梁上側板迄達セシメ且船尾突出部ノ形狀廣坦ナルトキハ適當ナル長ノ間上甲板ト第二層梁トノ中央ニ於テ二枚合セノ山形材ヲ肋骨ニ取附ケ肘板ヲ以テ之ヲ船尾肋板ニ固著スヘシ

第七章 中心線内龍骨

第一條 單板内龍骨ノ豎板ノ寸法ハ第三號表ニ據リ其ノ兩面上下ニハ同表ニ掲クル山形材ヲ取附ケ且中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三間ハ上端ニ附シタル山形材ニ冠板ヲ附著スヘシ其ノ幅ハ豎板ノ厚及ヒ其ノ上端ニ附シタル山形材ノ上邊ノ幅ノ和ニ等クシ其ノ厚ハ同表ニ據ルヘシ

豎板ノ接合ハ銜接ト爲シ鐵ナルトキハ豎板ノ厚ノ三分ノ二以上、鋼ナルトキハ豎板ノ厚ノ二分ノ一ニ十分ノ三吋ヲ加ヘタル厚ヲ有スル二重覆板ヲ附シ三列釘固著ト爲スヘシ但之ヲ累接ト爲シ三列釘固著ト爲スモ妨ナシ

冠板ノ銜接ハ上面ニ覆板ヲ附シ三列釘固著ト爲シ又山形材ノ銜接ハ覆山形材ヲ附シ其ノ兩邊ハ接合ノ前後ニ於テ各三箇ノ鉸釘ヲ以テ固著スヘシ

第二數三萬三千以上ノ船舶ニ於テハ鐵ナルトキハ幅十八吋厚十六分ノ十吋、鋼ナルトキハ幅十八吋厚二十分ノ十吋ノ礎板ヲ中央部ニ於テ船ノ長ノ三分ノ二間ニ豎板ノ下ニ取附ケヘシ

第二條 斷切板内龍骨ノ斷切板ハ第三號表ニ掲クル厚ト爲シ龍骨ヨリ肋板ノ上端迄達セシメ第一號表ニ掲クル副肋材ト同寸法ノ山形材ヲ以テ之ヲ肋板毎ニ固著シ第四號表ニ掲クル第二甲板梁ヨリ二吋深キ球板ヲ肋板ノ部分ニ於テ適當ニ切取り斷切板ニ固著シ得ヘキ處迄垂下セシメ第三號表ニ掲クル山形材ヲ肋板ノ上端ニ於テ球板ノ兩側ニ固著スヘシ但斷切板ヲ山形材ノ上端迄達セシムル

トキハ球板ヲ垂下セシムルヲ要セス

第三條 方形龍骨ヲ有シ第二數一萬三千以上一萬八千未満ノ船舶若ハ平板龍骨ヲ有シ第二數一萬三千以上一萬五千未満ノ船舶又ハ深ノ十倍ヲ超ユル長ヲ有スル船舶ニ斷切板内龍骨ヲ用ウルトキハ前條ニ掲クル球板ノ代リニ豎板ヲ肋板ノ上面ニ設ケ之ヲ肋板ノ部分ニ於テ適當ニ切取り肋板間ニ於テ斷切板ニ固著シ得ヘキ處迄垂下セシメ其ノ兩面上下ニ第三號表ニ掲クル山形材ヲ附シ之ニ冠板ヲ附著スヘシ其ノ豎板及ヒ冠板ハ第五號表ノ最上欄ニ掲クル梁上側板ト同厚ニシテ豎板ノ肋板上ノ深ハ其ノ兩面上下ニ山形材ヲ附スルニ充分ナルヲ要ス

方形龍骨ヲ有シ第二數一萬八千以上ノ船舶若ハ平板龍骨ヲ有シ第二數一萬五千以上ノ船舶ニ於テハ豎板及ヒ冠板ノ厚ハ第三號表ニ掲クル單板内龍骨ノ豎板ニ等クシ肋板上豎板ノ深ハ其ノ深ノ四分ノ三ト爲スヘシ

第四條 貫通板内龍骨ヲ側板龍骨ニ附スルトキハ貫通板ハ其ノ厚ヲ第三號表ニ掲クル斷切板ヨリ鐵ナルトキハ十六分ノ二吋、鋼ナルトキハ二十分ノ二吋増シ之ヲ肋板ノ上端迄達セシメ且其ノ肋板ハ兩面ニ第一號表ニ掲クル副肋材ト同寸法ノ山形材ヲ附シテ之ヲ貫通板ニ固著スルノ外第二號表ニ掲クル龍骨翼板ト同厚ニシテ其ノ四分ノ三ノ幅ヲ有スル板ヲ肋板上ニ平置シ二重副肋材及ヒ貫通板ノ上端兩面ニ附スル山形材ニ固著スヘシ

第二數一萬五千以上一萬八千未満ノ船舶ニ於テハ第四號表ニ掲クル第二甲板梁ト同寸法ノ球板ヲ平置板上ニ設ケ其ノ兩面ニ第三號表ニ掲クル山形材ヲ取附ケ之ヲ平置板及ヒ二重副肋材ニ固著スヘシ但貫通板ヲ肋板ノ上端ヨリ上部ニ延長スルトキハ其ノ兩側ニ第三號表ニ掲クル斷切板ヨリ鐵ナルトキハ十六分ノ一吋、鋼ナルトキハ二十分ノ二吋多キ厚ト龍骨翼板ノ三分ノ一ニ等キ幅トヲ有スル平置板ヲ設ケ之ヲ二重副肋材ニ固著シ且貫通板ノ兩面ニ第三號表ニ掲クル山形材ヲ附シテ

之ヲ平置板ニ固著スヘシ

第二數一萬八千以上ナルトキハ肋板上貫通板ノ深ハ其ノ兩面上下ニ山形材ヲ附スルニ充分ナラシメ且山形材ノ上面ニハ貫通板ニ要スルモノト同厚ノ冠板ヲ固著スヘシ

貫通板ノ接合ハ衝接ト爲シ鐵ナルトキハ貫通板ノ厚ノ二分ノ二以上、鋼ナルトキハ貫通板ノ厚ノ二分ノ一ニ十分ノ三時ヲ加ヘタル厚ヲ有スルニ重覆板ヲ附シ三列釘固著ト爲スヘシ但之ヲ累接ト爲シ三列釘固著ト爲スモ妨ナシ

第五條 平板龍骨ヲ有スル船舶ニ貫通板内龍骨ヲ設クルトキハ其ノ厚ヲ第三號表ニ掲クル斷切板ノ厚ヨリ鐵ナルトキハ十六分ノ二時、鋼ナルトキハ二十分ノ二時増シ斷切板内龍骨ヲ設クルトキト同一ノ構造ト爲スヘシ但肋板ニハ其ノ兩面ニ第一號表ニ掲クル副肋材ト同寸法ノ山形材ヲ附シ之ヲ貫通板ニ固著スルヲ要ス

第八章 彎曲部内龍骨及ヒ翼内龍骨

第一條 船底彎曲部ノ下部ニハ船ノ首尾ヲ通シテ第三號表ニ掲クル寸法ノ山形材ヲ二枚合セト爲シタル彎曲部内龍骨ヲ設クヘシ

第二條 第二數一萬三千以上一萬五千未満ノ船舶ニハ中心線内龍骨ト彎曲部内龍骨トノ大約中央ニ於テ船ノ首尾ヲ通シテ第三號表ニ掲クル寸法ノ山形材ヲ二枚合セト爲シタル翼内龍骨ヲ設クヘシ但船首ノ船底扁平ニシテ該部ニ二重底ヲ備ヘサル鋼製汽船ニ於テハ船首ヨリ船ノ長ノ五分ノ一ニ相當スル箇所ヨリ前方船首隔壁ニ至ル間翼内龍骨ニ第三號表ニ掲クル斷切板ヲ取附クヘシ

第二數一萬五千以上ノ船舶ノ翼内龍骨ニハ肋板間ニ第三號表ニ掲クル斷切板ヲ取附クヘシ之ヲ肋板上端迄達セシメ第二數二萬一千七百未満ノ船舶ニ於テハ鐵ナルトキハ幅三時ニ三時厚十六分ノ七

時、鋼ナルトキハ幅三時ニ三時厚二十分ノ七時、第二數二萬一千七百以上三萬四百未満ノ船舶ニ於テハ鐵ナルトキハ幅三時半ニ三時半厚十六分ノ九時、鋼ナルトキハ幅三時半ニ三時半厚二十分ノ九時、第二數三萬四百以上ノ船舶ニ於テハ鐵ナルトキハ幅三時半ニ三時半厚十六分ノ十時、鋼ナルトキハ幅三時半ニ三時半厚二十分ノ十時ノ山形材ヲ以テ之ヲ外板ニ固著シ且前項ニ掲ケタル二枚合セノ山形材間ニ斷切板ニ要スルモノト同厚ノ縱通板ヲ插入シ之ヲ肋板上端下ニ垂下セシメテ斷切板ニ固著スヘシ但斷切板ヲ山形材ノ上端迄達セシムルトキハ縱通板ヲ插入スルヲ要セス

第三條 第二數二萬四千以上二萬七千未満ノ帆船ニ於テハ中央部ニテ船ノ長ノ三分ノ二間ハ第四號表ニ掲クル第二甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ翼内龍骨ニ取附ケ且中央部二分ノ一間ハ彎曲部内龍骨ニ第三號表ニ掲クル斷切板ヲ取附クヘシ

第二數二萬七千以上三萬未満ナルトキハ中央部三分ノ二間ハ深ハ第三號表ニ掲クル中心線單板内龍骨ノ豎板ノ二分ノ一ニシテ厚ハ之ニ等キ板ヲ翼内龍骨ニ取附ケテ其ノ上端兩面ニ山形材ヲ固著シ之ニ冠板ヲ附スヘシ該山形材ハ第三號表ニ掲クル上甲板ノ梁上側板ニ附スル山形材ト同寸法ニシテ冠板ハ翼内龍骨板ト同厚ナルヲ要ス且中央部二分ノ一間ハ彎曲部内龍骨ニ第三號表ニ掲クル斷切板ヲ取附ケ又中央部五分ノ三間ハ第四號表ニ掲クル第二甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ插入スヘシ

第二數三萬以上三萬三千未満ナルトキハ中央部三分ノ二間ハ翼内龍骨ニ深ハ第三號表ニ掲クル中心線單板内龍骨ノ豎板ノ四分ノ三ニシテ厚ハ之ニ等キ板ヲ取附ケ其ノ上端兩面ニ山形材ヲ固著シ之ニ冠板ヲ附スヘシ該山形材ハ第三號表ニ掲クル上甲板ノ梁上側板ニ附スルモノト同寸法ニシテ冠板ハ翼内龍骨板ト同厚ト爲スヘシ且中央部三分ノ二間ハ彎曲部内龍骨ニ第三號表ニ掲クル斷切板ヲ取附ケ又中央部五分ノ三間ハ第四號表ニ掲クル第二甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ

挿入スヘシ

第四條 斷切板翼内龍骨ヲ要セサル船舶ニ於テハ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ハ第一號表ニ掲クル隔壁ノ上部ニ用ウヘキ板ト同厚ノ制水板ヲ設クヘシ但船ノ幅二十六呎未満ノ船舶ニ於テ中心線内龍骨ニ貫通板又ハ斷切板ヲ附スルトキハ制水板ヲ設ケサルモ妨ナシ

第九章 各内龍骨及ヒ船内縦通材ノ接合法等

第一條 球板ヲ衝接スルトキハ二重覆板ヲ附スル爲メ球板ノ兩側ニ於テ球ヲ削リ各覆板ノ厚ハ球板ノ厚ノ三分ノ二以上ト爲スヘシ又球板ヲ累接スルトキハ其ノ累接ノ幅ハ球板ノ深ノ二倍以上ト爲スヘシ

第二條 球板及ヒ中心線内龍骨ノ各板ノ衝接及ヒ累接ハ三列釘固著ト爲シ其ノ他ノ各板ノ衝接及ヒ累接ハ二列釘固著ト爲スヘシ

山形材ノ衝接ハ覆山形材ヲ附シテ固著スヘシ但覆山形材ノ厚ハ接合スヘキ山形材ノ厚ニ等クシ其ノ長ハ二呎以上ト爲スヘシ

第三條 各内龍骨ノ各材ハ鋼ナルトキハ汽罐室ニ於テ二十分ノ一時其ノ厚ヲ増スヘシ

第四條 各内龍骨及ヒ船内縦通材ハ支水隔壁ヲ貫通シテ船ノ首尾ニ達セシメ其ノ隔壁ヲ貫通スル部分ハ水密ト爲スヘシ但船ノ首尾ニ於ケル船内縦通材ノ一本置ノ距離船ノ中央ニ於ケル各縦通材間ノ距離ヲ超エサルトキハ其ノ中間ノ縦通材ハ船ノ首尾ニ達セシメサルモ妨ナシ

第五條 各内龍骨及ヒ船内縦通材ノ山形材、船ノ中央ニ於テ鐵ニテ厚十六分ノ七吋ヲ超エ鋼ニテ厚二十分ノ七吋ヲ超ユルトキハ首尾ニ於テ船ノ長ノ五分ノ一間ハ鐵ナルトキハ其ノ厚十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時ヲ減スルコトヲ得

第十章 梁

第一條 梁ノ寸法ハ第四號表ニ據ルヘシ但輕甲板船ノ船首樓、船尾樓及ヒ船橋樓ノ梁ニハ該表中一段上欄ノ寸法ヲ使用スルコトヲ得

橋、斜橋、甲板室、揚鑪機等ヲ支フル梁又ハ肋骨ノ心距ノ四倍ヲ超ユル長ヲ有スル船口ノ兩端梁ハ船ノ中央ニ於ケル梁ノ長ノ四分ノ三ヨリ短キトキニ於テモ船ノ中央部ニ於ケル梁ヨリ小ナルヘカラス

覆甲板又ハ船首樓甲板ニ揚鑪機ヲ備フル場合ニハ其ノ部分ニ於ケル梁ハ第四號表ニ掲クル輕甲板梁ト同寸法ト爲スヘシ

第二條 各層ニ於ケル梁ハ上下相繋ネテ同一ノ肋骨ニ取附クヘシ

第三條 上甲板梁ノ梁矢ハ梁ノ長一呎ニ付四分ノ一時以上ノ割合ト爲スヘシ

第四條 肋骨毎ニ附スヘキ鐵甲板又ハ鋼甲板ノ梁ハ船ノ中央ニ於テ其ノ厚鐵梁ニテ十六分ノ八吋以上、鋼梁ニテ二十分ノ八吋以上ナルトキハ其ノ長中央ニ於ケル梁ノ長ノ四分ノ三未満ナルモノニ限リ其ノ厚鐵梁ニ於テハ十六分ノ一時、鋼梁ニ於テハ二十分ノ一時ヲ減スルコトヲ得

第五條 球板又ハ丁字形球材ノ球ノ幅ハ該板ノ厚ノ三、二倍、球山形材ニ於テハ二、五倍ト爲スヘシ

特設船梁ヲ除クノ外梁ニハ第四號表ニ掲クル球板及ヒ二重山形材ノ代リニ該球板ト同一ナル深及ヒ厚ヲ有スル丁字形球材ヲ用ウルコトヲ得

第六條 船口ノ長、肋骨ノ心距ノ六倍以上十倍以下ナルトキハ輕甲板又ハ重甲板ノ船口兩端梁ハ第四號表ニ掲クル第二甲板梁ト又覆甲板又ハ船橋樓甲板ノ船口兩端梁ハ同表ニ掲クル輕甲板梁ト同寸法ナルヲ要ス

第七條 水艙ノ頂板ニハ第四號表ニ掲クル鐵甲板又ハ鋼甲板ニ肋骨毎ニ附スヘキ第二甲板梁ト同寸

法ノ梁ヲ肋骨毎ニ取附クヘシ但船首隔壁ノ前部又ハ船尾隔壁ノ後部ニ設クル水艙ノ頂板ニハ船ノ首尾ニ用ウヘキ梁ト同寸法ノモノヲ用ウルコトヲ得

第八條 特設艙梁ハ板ノ兩面上下ニ山形材ヲ備フルモノ若ハ球板ノ上端兩面ニ山形材ヲ備ヘ之ニ冠板ヲ附シタルモノ若ハ鐵ナルトキハ厚十六分ノ六吋以上、鋼ナルトキハ厚二十分ノ六吋以上ニシテ肋骨ノ心距ニ等キ幅ヲ有スル板ノ下面兩縁ニ山形材ヲ以テ球板ヲ附著シタル溝形ノモノナルヲ要ス但溝形梁ノ山形材及ヒ球板ハ第四號表ニ掲クル第二甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法トシ溝形梁ヲ除クノ外山形材ハ其ノ廣邊ヲ平ニ取附ケ又冠板ノ厚ハ第四號表ニ掲クル山形材ニ等クスヘシ

第九條 機關室内ニ用ウヘキ特設梁ハ板ノ兩面上下ニ山形材ヲ備ヘ其ノ寸法ハ第四號表ニ掲クル同長ノ特設艙梁ト同一ナルヲ要ス但輕甲板ニハ同表ニ掲クル同長ノ第二甲板梁ノ球板ト同寸法ナル板ノ兩面上下ニ特設艙梁欄内ニ掲クル山形材ヲ備フルモノヲ用ウルコトヲ得

第十條 船尾斜梁ハ正肋材ト同寸法ナル山形材ヲ用非船尾斜肋骨毎ニ設クヘシ

第十一條 梁枝ノ深ハ梁ノ深ノ二、五倍又其ノ曲部ニ於ケル深ハ梁ノ深ノ一、五倍ナルヲ要ス但帆船ニ於テ船ノ中央ニ於ケル上甲板梁ノ長三十六呎ヲ超ユルトキハ各層梁ノ梁枝ノ深ハ梁ノ深ノ三倍又其ノ曲部ニ於ケル深ハ梁ノ深ノ四分ノ三ヲ加ヘタルモノト爲スヘシ

第十二條 梁枝又ハ肘板ヲ肋骨ニ固著スヘキ鉸釘ノ徑及ヒ數ハ左表ニ據ルヘシ但梁枝ノ深、梁ノ深ノ三倍ナルヲ要スルトキハ鉸釘ノ數ハ尙一箇ヲ増スヘシ

梁ノ深	鉸		釘	
	徑	數	徑	數
六吋以下	八分	六		四
八吋半以下	八分	六		五
九吋半以下	八分	七		五
十吋半以下	八分	七		六
十二吋以下	八分	七		七

第十一章 梁ノ配置

第一條 梁ノ配置ハ船ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ上甲板梁ノ上面迄ノ深ヲ以テ之ヲ定ムヘシ但第二甲板梁ノ上面迄ノ深十七呎半未滿ノ覆甲板船ニ於テハ第二甲板梁ノ上面迄ノ深ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二條 深十五呎半以上十六呎半未滿ノ船舶ニ於テハ特設艙梁ヲ肋骨十本毎ニ設ケ之ニ梁上側板ヲ取附クヘシ

第三條 深十六呎半以上十九呎半未滿ノ船舶ニ於テハ第四號表ニ掲クル第二甲板梁ト同寸法ノ艙梁ヲ交互ニ肋骨二本毎ト四本毎トニ設クヘシ但深十六呎半以上十八呎半未滿ノ船舶ニ於テハ梁上側板ノ内縁ニ第三號表ニ掲クル内龍骨山形材ト同寸法ノ山形材ヲ固著スルトキハ艙梁ノ代リニ特設艙梁ヲ肋骨十本毎ニ設クルモ妨ナシ又深十八呎半以上十九呎半未滿ノ船舶ニ於テハ梁上側板ノ内

縁ノ上下ニ鐵ニテ幅三吋半ニ三吋半厚十六分ノ七吋、鋼ニテ幅三吋半ニ三吋半厚二十分ノ七吋ノ山形材ヲ固著シ且其ノ山形材ノ外面ニハ鐵ニテ厚十六分ノ七吋、鋼ニテ厚二十分ノ七吋ノ板ヲ固著スルトキハ船梁ノ代リニ特設船梁ヲ肋骨十本毎ニ設クルモ妨ナシ

第四條 深十九呎半以上二十八呎半未満ノ帆船ニ於テハ第四號表ニ掲クル第二甲板梁ト同寸法ノ船梁若ハ第二甲板梁ヲ肋骨一本置ニ設クヘシ

第五條 深二十八呎半以上二十九呎半未満若ハ第二層梁ノ上面迄ノ深二十呎半以上二十一呎半未満ノ帆船ニ於テハ第四號表ニ掲クル第二甲板梁ト同寸法ノ第二層梁ヲ肋骨一本置ニ設クルノ外第三層特設船梁ヲ肋骨十本毎ニ設ケ其ノ梁上側板ノ内縁ニハ第三號表ニ掲クル内龍骨山形材ト同寸法ノ山形材ヲ固著スヘシ但該側板ノ内縁ノ上下ニ鐵ニテ幅四吋ニ三吋半厚十六分ノ七吋、鋼ニテ幅四吋ニ三吋半厚二十分ノ七吋ノ山形材ヲ固著シ且其ノ山形材ノ外面ニ鐵ニテ厚十六分ノ八吋、鋼ニテ厚二十分ノ八吋ノ板ヲ固著スルトキハ特設船梁ハ肋骨十二本毎ニ之ヲ設クルモ妨ナシ

第六條 深二十九呎半以上三十四呎未満ノ汽船ニ於テハ第四號表ニ掲クル第二甲板梁ト同寸法ノ船梁若ハ第二甲板梁ヲ肋骨一本置ニ設クルカ又ハ特設船梁ヲ肋骨八本毎ニ設ケ且第三號表ニ掲クル内龍骨山形材ト同寸法ノ山形材ヲ該船梁ノ梁上側板ノ内縁ニ固著スヘシ但該側板ノ内縁ノ上下ニ鐵ニテ幅三吋半ニ三吋半厚十六分ノ七吋、鋼ニテ幅三吋半ニ三吋半厚二十分ノ七吋ノ山形材ヲ固著シ其ノ山形材ノ外面ニ鐵ニテ厚十六分ノ八吋、鋼ニテ厚二十分ノ八吋ノ板ヲ取附クルトキハ特設船梁ハ肋骨十本毎ニ之ヲ設クルモ妨ナシ

第七條 深二十四呎以上二十六呎未満若ハ第二層梁ノ上面迄ノ深十七呎以上十八呎未満ノ汽船ニ於テハ第四號表ニ掲クル第二甲板梁ト同寸法ノ第二層梁ヲ肋骨一本置ニ設クルノ外第三層特設船梁ヲ肋骨十本毎ニ設ケ第三號表ニ掲クル内龍骨山形材ト同寸法ノ山形材ヲ該船梁ノ梁上側板ノ内縁

ニ固著スヘシ

第八條 深二十六呎以上二十八呎未満若ハ第三層梁ノ上面迄ノ深十八呎以上二十呎未満ノ汽船ニ於テハ第四號表ニ掲クル第三甲板梁ト同寸法ノ第三層梁ヲ交互ニ肋骨二本毎ト四本毎トニ設クルカ若ハ第三層特設船梁ヲ肋骨八本毎ニ設ケ且該船梁ノ梁上側板ノ内縁ニ第三號表ニ掲クル内龍骨山形材ト同寸法ノ山形材ヲ固著スヘシ但該側板ノ内縁ノ上下ニ深二十七呎未満若ハ第二層梁ノ上面迄ノ深十九呎未満ノ汽船ニ於テハ鐵ニテ幅三吋半ニ三吋半厚十六分ノ七吋、鋼ニテ幅三吋半ニ三吋半厚二十分ノ七吋ノ山形材ヲ固著シ其ノ山形材ノ外面ニ鐵ニテ厚十六分ノ七吋、鋼ニテ厚二十分ノ八吋ノ板ヲ固著スルトキ又深二十七呎以上若ハ第二層梁ノ上面迄ノ深十九呎以上ノ汽船ニ於テハ鐵ニテ幅四吋ニ三吋半厚十六分ノ七吋、鋼ニテ幅四吋ニ三吋半厚二十分ノ七吋ノ山形材ヲ固著シ其ノ山形材ノ外面ニ鐵ニテ厚十六分ノ八吋、鋼ニテ厚二十分ノ八吋ノ板ヲ固著スルトキハ第三層特設船梁ハ肋骨十本毎ニ之ヲ設クルモ妨ナシ

第九條 深二十八呎以上三十二呎半未満若ハ第二層梁ノ上面迄ノ深二十呎以上二十四呎半未満ノ汽船ニ於テハ第四號表ニ掲クル第三甲板梁ト同寸法ノ第三層梁ヲ肋骨一本置ニ設クルカ若ハ第三層特設船梁ヲ肋骨八本毎ニ設ケ且該船梁ノ梁上側板ノ内縁ニ第三號表ニ掲クル内龍骨山形材ト同寸法ノ山形材ヲ固著スヘシ但該側板ノ内縁ノ上下ニ鐵ニテ幅四吋ニ四吋厚十六分ノ八吋、鋼ニテ幅四吋ニ四吋厚二十分ノ八吋ノ山形材ヲ固著シ其ノ山形材ノ外面ニ鐵ニテ厚十六分ノ九吋、鋼ニテ厚二十分ノ九吋ノ板ヲ固著スルトキハ特設船梁ハ肋骨十本毎ニ之ヲ設クルモ妨ナシ

第十條 深三十二呎半以上三十六呎未満ノ汽船ニ於テハ第四號表ニ掲クル第三甲板梁ト同寸法ノ第三層梁ヲ肋骨一本置ニ設クヘシ

第十一條 深三十六呎以上三十九呎未満若ハ第三層梁ノ上面迄ノ深二十一呎以上ノ汽船ニ於テハ第

三層梁ヲ肋骨一本置ニ設クルノ外第四層特設船梁ヲ肋骨十本毎ニ設ケ且該船梁ノ梁上側板ノ内縁ニ第三號表ニ掲クル内龍骨山形材ト同寸法ノ山形材ヲ固著スヘシ

第十二條 梁ノ上面ヨリ次層ノ梁ノ上面迄ノ距離八呎ヲ超ユルトキハ船側ニ適當ノ補強構造ヲ爲スヘシ

第十三條 梁ノ心距、肋骨ノ心距ノ二倍ヲ超ユルトキハ梁間ノ肋骨一本置ニ肘板ヲ以テ梁上側板ヲ支フヘシ但肘板ノ厚ハ第一號表ニ掲クル船ノ中央ニ於ケル正肘材ノ厚ニ等クスヘシ

第十四條 特設船梁ハ梁上側板ト同厚ノ撥形板ヲ以テ之ヲ梁上側板ニ固著スヘシ

第十五條 梁上ニ甲板ヲ張ルトキハ前數條ノ規定ニ拘ハラズ梁ノ心距ハ肋骨ノ心距ノ二倍ヲ超ユヘカラス

鐵甲板ノ厚十六分ノ六吋以下、鋼甲板ノ厚二十分ノ七吋以下ニシテ之ニ木板ヲ張ラサル場合ニ於テハ船口兩端ノ梁ヲ除キ第四號表ニ掲クル山形梁又ハ球山形梁ヲ肋骨毎ニ取附クヘシ但鐵甲板ノ厚十六分ノ八吋ヲ超ユ鋼甲板ノ厚二十分ノ七吋ヲ超ユルトキニ於テモ半梁ニハ同表ニ掲クル山形材又ハ球山形材ヲ用井肋骨毎ニ之ヲ固著スヘシ

第十六條 船口、汽機室又ハ汽鐘室等ノ部分ニ於テ本章ノ規定ニ依リ梁ヲ配置スルコト能ハサルトキハ特設船梁若ハ特設肋骨ヲ以テ該部ヲ補強スヘシ

第十七條 機關室内ニハ各層梁ノ位置ニ成ルヘク多クノ特設梁ヲ設クヘシ

第十二章 船内縦通材ノ配置

第一條 船内縦通材ノ配置ハ船ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ上甲板梁ノ上面迄ノ深ヲ以テ之ヲ定ムヘシ但第二甲板梁ノ上面迄ノ深十七呎半未滿ノ覆甲板船ニ於テハ第二甲板梁ノ上面迄ノ深ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二條 深十三呎未滿ノ船舶ニ於テハ彎曲部内龍骨ト甲板梁トノ大約中央ニ船ノ首尾ヲ通シテ第三號表ニ掲クル山形材二枚合セノ縦通材ヲ設クヘシ

第三條 深十三呎以上十四呎未滿ノ船舶ニ於テハ中央部ニ於テ船ノ長ノ五分ノ三間ハ前條ニ掲クル山形材ノ中間ニ第四號表ニ掲クル第二甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ又球板ノ代リニ板ヲ挿入シ山形材ヲ以テ之ヲ外板ニ固著スルモ妨ナシ

第四條 深十四呎以上十五呎半未滿ノ船舶ニ於テハ前條ニ掲クル球板ノ代リニ鐵ナルトキハ幅十二吋厚十六分ノ七吋、鋼ナルトキハ幅十二吋厚二十分ノ七吋ノ板ヲ挿入シテ之ヲ外板ニ固著シ且該板内縁ノ兩面ニハ船ノ首尾ヲ通シテ第三號表ニ掲クル内龍骨山形材ト同寸法ノ山形材ヲ固著スヘシ

第五條 深十五呎半未滿ノ船舶ニシテ第二號表ニ掲クル七百二十以上ナルトキハ本章第二條ニ規定シタル縦通材ノ外彎曲上部ニ第三號表ニ掲クル山形材二枚合セノ縦通材ヲ船ノ首尾ヲ通シテ設クヘシ

第六條 深十五呎半以上ノ船舶ニ於テハ彎曲部内龍骨ト最下層梁トノ大約中央ニ船ノ首尾ヲ通シテ第三號表ニ掲クル山形材二枚合セノ縦通材ヲ設クヘシ

第七條 深二十三呎以上二十四呎未滿若ハ第二層梁ノ上面迄ノ深十六呎以上十七呎未滿ノ帆船ニ於テハ該梁ト彎曲部内龍骨トノ間ニ船ノ首尾ヲ通シテ第三號表ニ掲クル山形材二枚合セノ縦通材二條ヲ設クヘシ

第八條 深二十四呎以上二十六呎未滿若ハ第二層梁ノ上面迄ノ深十七呎以上十八呎未滿ノ帆船ニ於テハ前條ニ掲クル各縦通材ノ山形材間ニ第四號表ニ掲クル第二甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ船ノ首尾ヲ通シテ挿入スヘシ

第九條 深二十六呎以上二十七呎未滿若ハ第二層梁ノ上面迄ノ深十八呎以上十九呎未滿ノ帆船ニ於テハ前條ニ掲クル上部ノ縦通材ニハ船ノ首尾ヲ通シテ又下部ノモノニハ船尾ニ於テ船ノ長ノ四分

一間ヲ除キ第三號表ニ掲クル斷切板ヲ挿入シテ之ヲ外板ニ固著スヘシ

第十條 深二十七呎以上二十八呎半未満若ハ第二層梁ノ上面迄ノ深十九呎以上二十呎半未満ノ帆船ニ於テハ前條ニ規定シタル下部縦通材ノ外該縦通材ト第二層梁トノ間ニ第五號表ニ掲クル船梁ノ梁上側板ト同寸法ノ板ヲ設ケ第三號表ニ掲クル山形材ヲ以テ外板及ヒ副肋材ニ固著シ肋骨一本置ニ肘板ヲ以テ該板ヲ支ヘ其ノ内縁ニハ第三號表ニ掲クル内龍骨山形材ト同寸法ノ山形材ヲ固著スルカ又ハ前條ニ規定シタル裝置ニ更ニ同一ノ縦通材一條ヲ増設スルヲ要ス

第十一條 深二十二呎以上二十三呎未満ノ汽船ニ於テハ彎曲部内龍骨ト第二層梁トノ間ニ船ノ首尾ヲ通シテ第三號表ニ掲クル山形材二枚合セノ縦通材二條ヲ設クヘシ

第十二條 深二十三呎以上二十四呎未満ノ汽船ニ於テハ前條ニ規定シタル各縦通材ノ山形材間ニ船ノ首尾ヲ通シテ第四號表ニ掲クル第二甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ

第十三條 深三十呎以上三十二呎半未満若ハ第二層梁ノ上面迄ノ深二十二呎以上二十四呎半未満ノ汽船ニ於テハ彎曲部龍骨ト第三層梁トノ間ニ船ノ首尾ヲ通シテ第三號表ニ掲クル山形材二枚合セノ縦通材二條ヲ設ケ且其ノ上部縦通材ノ山形材間ニ船ノ首尾ヲ通シテ第四號表ニ掲クル第二甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ

第十四條 深三十二呎半以上三十六呎未満若ハ第三層梁ノ上面迄ノ深十七呎半以上二十一呎未満ノ汽船ニ於テハ前條ニ規定シタル上部縦通材ノ代リニ厚ハ第三甲板ノ梁上側板ト同ク幅ハ其ノ四分ノ三ニ等キ船内縦通側板ヲ設ケ第三號表ニ掲クル山形材ヲ以テ外板及ヒ副肋材ニ固著シ肋骨一本置ニ肘板ヲ以テ該側板ヲ支ヘ且其ノ内縁ニハ第三號表ニ掲クル内龍骨山形材ト同寸法ノ山形材ヲ附著スヘシ

第十三章 特設肋骨

第一條 特設肋骨及ヒ特設肋骨間側板ヲ以テ船梁一層及ヒ縦通材ニ代用スルトキハ特設肋骨ノ幅並ニ距離及ヒ特設肋骨間側板ノ數ハ龍骨ノ上面ヨリ肋骨一本置ニ設クル最下層梁ノ上面迄ノ深ヲ以テ定ムヘシ

第二條 特設肋骨及ヒ特設肋骨間側板ノ厚ハ第一號表ニ掲クル正肋材ト同一ナルヲ要ス

第三條 特設肋骨及ヒ特設肋骨間側板ノ内縁ノ兩面ニ附スル山形材ノ寸法、特設肋骨間側板ヲ特設肋骨、外板及ヒ副肋材ニ固著スル山形材ノ寸法ハ第一號表ニ掲クル副肋材ト同一ナルヲ要ス

二重底ノ部分ニ於テハ特設肋骨ハ其ノ兩面ニ山形材ヲ附シテ縁板ニ固著スルカ若ハ其ノ一面ニ山形材ヲ附シテ縁板ニ固著シ且撥形板ヲ以テ内底板ニ固著スヘシ

第四條 特設肋骨間側板ノ内縁ニ固著スル山形材ハ特設肋骨毎ニ龜甲形板ヲ以テ結續スヘシ但其ノ厚ハ特設肋骨ニ等クシ且幅及ヒ深ハ特設肋骨ノ幅ニ從ヒ左表ニ據リ之ヲ定ムヘシ

特設肋骨ノ幅	龜甲形板ノ幅	龜甲形板ノ深
十四吋以下	二吋	十吋
十五吋以下	三吋	十吋
十五吋ヲ越ユルトキ	三吋	十吋

特設肋骨毎ニ二重山形材ヲ以テ特設肋骨間側板ヲ龜甲形板ニ固著スルトキハ該側板ノ内縁ノ兩面ニ山形材ヲ附スル代リニ同一ノ強力ヲ有スル一本ノ山形材ヲ用ウルコトヲ得

第五條 特設肋骨ノ上端ニ取附クヘキ梁ノ深ハ第四號表ニ掲クル特設船梁ニ等クスヘシ但該梁ニ鐵甲板若ハ鋼甲板ヲ張ルトキハ普通梁ヲ使用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ梁枝ノ深ハ梁ノ深ノ三

倍ト爲スヘシ

深二十三呎以上ノ船舶ニ於テ特設肋骨ヲ上甲板若ハ低船尾樓甲板ノ梁上側板迄達セシムルトキハ特設肋骨ノ上端ニ取附クヘキ梁ノ梁枝ノ深ハ梁ノ深ノ三倍ト爲スヘシ

第六條 特設肋骨間側板ハ其ノ幅十八吋ニシテ特設肋骨間ノ距離八呎ヲ超ユルトキハ特設肋骨間ノ中央ニ於テ第一號表ニ掲クル正肋材ニ等キ厚ノ肘板ヲ以テ之ヲ支フヘシ

第七條 特設肋骨ヲ第二層梁以下ニ設クルトキハ其ノ間ニ於ケル副肋材ハ肋骨一本置ニ上甲板ノ梁上側板迄下第二層梁ノ梁上側板迄トニ達セシムヘシ又二層重甲板船ニ於テ特設肋骨ヲ重甲板迄達セシムルトキハ副肋材ハ肋骨一本置ニ重甲板ノ梁上側板迄ト最上ノ特設肋骨間側板迄トニ達セシムヘシ

第八條 深十五呎以上十六呎未満ノ船舶ニ於テハ幅十四吋又深十六呎以上十七呎未満ノ船舶ニ於テハ幅十五吋ノ特設肋骨ヲ肋骨八本毎ニ設ケ且其ノ間ニ於テ彎曲部縦通材ノ上部ニ特設肋骨間側板一條ヲ取附ケ山形材及ヒ龜甲形板ヲ以テ之ヲ特設肋骨ニ固著スヘシ

第九條 深十七呎以上十八呎未満ノ船舶ニ於テハ幅十五吋ノ特設肋骨ヲ肋骨八本毎ニ設ケ特設肋骨間側板二條ヲ取附クヘシ但此ノ場合ニ於テハ彎曲部縦通材ヲ取附ケサルモ妨ナシ

覆甲板船ヲ除キ三層以上ノ梁ヲ備フヘキ船舶ニシテ第二層梁ノ上面迄ノ深十七呎以上十八呎未満ナルトキハ第二層以下ニ附スル特設肋骨ハ肋骨六本毎ニ設クルヲ要ス

第十條 深十八呎以上二十一呎半未満ノ船舶ニ於テハ幅十五吋ノ特設肋骨ヲ肋骨六本毎ニ設ケ特設肋骨間側板二條ヲ取附クヘシ

三層以上ノ梁ヲ備フヘキ船舶ニシテ第二層梁ノ上面迄ノ深十八呎以上二十一呎半未満ナルトキハ第二層梁以下ニ附スル特設肋骨ハ幅十八吋ナルヲ要ス但覆甲板船ニ於テハ其ノ幅ヲ十六吋ト爲ス

コトヲ得

第十一條 深二十一呎半以上二十二呎半未満ノ船舶ニ於テハ幅十五吋ノ特設肋骨ヲ肋骨六本毎ニ設ケ特設肋骨間側板三條ヲ取附クヘシ但二重底ヲ備フル船舶ニ於テ幅十八吋ノ特設肋骨ヲ用ウルトキハ特設肋骨間側板ヲ二條ニ減スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ二重底縁板ノ外部ニ附スル肘板ハ總シ彎曲部ニ於テ船ノ中央ニ用ウヘキ肘板ノ深ノ三倍ノ高迄達セシムルヲ要ス

三層以上ノ梁ヲ備フヘキ船舶ニシテ第二層梁ノ上面迄ノ深二十一呎半以上二十二呎半未満ナルトキハ第二層梁以下ニ附スル特設肋骨ハ幅十八吋ト爲シ特設肋骨間側板三條ヲ取附クヘシ但覆甲板船ニ於テハ特設肋骨ノ幅ヲ十六吋ト爲スコトヲ得

第十二條 深二十二呎半以上二十三呎半未満ノ船舶ニ於テハ幅十六吋ノ特設肋骨ヲ肋骨六本毎ニ設ケ特設肋骨間側板三條ヲ取附クヘシ

三層以上ノ梁ヲ備フヘキ船舶ニシテ第二層梁ノ上面迄ノ深二十二呎半以上二十三呎半未満ナルトキハ第二層梁以下ニ附スル特設肋骨ハ幅十八吋ト爲スヲ要ス但覆甲板船ニ於テハ其ノ幅ヲ十六吋ト爲スコトヲ得

第十三條 深二十三呎半以上二十四呎未満ノ船舶ニ於テハ幅十八吋ノ特設肋骨ヲ肋骨六本毎ニ設ケ特設肋骨間側板三條ヲ取附クヘシ

第十四條 龍骨ノ上面ヨリ低船尾樓甲板梁ノ上面迄ノ深二十四呎以上二十六呎未満ノ船舶ノ低船尾樓ノ部分ニ於テ特設肋骨及ヒ特設肋骨間側板ヲ第二層梁、第三層梁及ヒ縦通材ニ代用スルトキハ幅十六吋ノ特設肋骨ヲ肋骨五本毎ニ設ケ特設肋骨間側板三條ヲ取附ケ板ノ兩面上下ニ山形材ヲ附シタル特設船梁四本ヲ特設肋骨間側板ニ要スル厚ノ撥形板及ヒ肘板ヲ以テ特設肋骨間側板ノ一條及ヒ特設肋骨ニ固著シ且汽機室後端ノ隔壁ト船尾隔壁トノ大約中央ニ支水隔壁ヲ増設スヘシ

第十五條 低船尾樓甲板梁ノ上面迄ノ深二十六呎以上二十八呎未満ノ船舶ノ低船尾樓ノ部分ニ於テ特設肋骨及ヒ又特設肋骨間側板ヲ第二層梁、第三層梁及ヒ縱通材ニ代用スルトキハ幅十八吋ノ特設肋骨ヲ肋骨四本毎ニ設ケ特設肋骨間側板三條ヲ取附ケ且前條ノ規定ニ依リ特設船梁及ヒ増設支水隔壁ヲ取附シヘシ但深二十七呎以上ナルトキハ特設肋骨間側板ハ四條ト爲スヘシ

第十六條 汽機室及ヒ汽鐘室ニ於テ第二數一萬六千以上三萬未満ノ船舶ニ於テ八十呎以内ノ距離ニ又第二數三萬以上ナルトキハ八呎以内ノ距離ニ於テ前數條ニ規定シタル幅ヲ有スル特設肋骨ヲ設ケ其ノ下部ハ肋板又ハ二重底ノ緣板ニ固著シ上部ハ重甲板若ハ輕甲板ノ梁上側板迄達セシムヘシ

第十七條 特設肋骨ヲ梁ノ位置ニ設ケサルトキハ梁上側板ノ上下ニ於テハ山形材及ヒ肘板ヲ以テ之ヲ固著スヘシ

第十八條 特設肋骨ニ縱通材ヲ貫通スルトキハ其ノ部分ニ適當ノ補強構造ヲ加フヘシ

第十四章 深式肋骨

第一條 汽船ニ於テ深式肋骨ヲ以テ船梁一層ニ代用スルトキハ該肋骨ノ幅ハ第一號表ニ據ルヘシ但二重底ヲ備ヘサル船舶ニ於テハ該表ニ掲クル幅ヨリ二分ノ一時増加スヘシ

二重底ヲ備フル船舶ニ於テ深式肋骨ヲ用ウルトキハ緣板ノ外部ニ取附クル肘板ハ船ノ中央ニ於ケル普通肋板ノ深ノ二、五倍ヨリ少カラサル高迄彎曲上部ニ達セシムヘシ

第二條 深式肋骨ノ正肋材及ヒ副肋材ノ厚竝ニ縱邊ノ幅ハ第一號表ニ掲クル普通正肋材ノ厚竝ニ縱邊ノ幅ヨリ少カルヘカラス且互ニ三吋以上累接シテ一列釘ヲ以テ固著スヘシ

第三條 深式肋骨ノ副肋材ハ二層重甲板船ニ於テハ重甲板梁上側板迄達セシメ其ノ他ノ船舶ニ於テハ第六章ニ規定スル高迄達セシムヘシ

第四條 深式肋骨ヲ備フル船舶ニ於テハ最下層梁ノ梁枝ノ深ハ梁ノ深ノ三倍ト爲スヘシ

機關室ニハ特設肋骨ヲ肋骨十本毎ニ設クヘシ

第五條 龍骨ノ上面ヨリ最下層梁ノ上面迄ノ深十七呎未満ナルトキハ側板一條及ヒ第三號表ニ掲クル山形材二枚合セノ彎曲部縱通材一條ヲ、十七呎以上二十一呎半未満ナルトキハ側板二條ヲ、二十

一呎半以上二十四呎未満ナルトキハ側板三條ヲ設クヘシ

側板ハ厚ハ普通正肋材ノ厚ニ等クシ幅ハ第一號表ニ據リ之ヲ外板ニ固著シ其ノ内緣及ヒ副肋材ノ内側ニ於テ兩面ニ第一號表ニ掲クル山形材ヲ取附クヘシ

側板ハ支水隔壁ヲ貫通セシメ肘板ヲ以テ支水隔壁ニ固著スルカ若ハ支水隔壁ニテ止メ厚ハ側板ヨリ二十分ノ一時厚ク各枝ノ長ハ側板ノ幅ノ二倍ヨリ少カラサル肘板ヲ以テ支水隔壁ニハ二重山形材、側板ニハ二列釘ヲ以テ固著スヘシ

第六條 低船尾樓甲板下ニ深式肋骨ヲ用ウルトキハ該肋骨及ヒ側板ノ幅竝ニ山形材ノ寸法ハ第一號表ニ據ルニ依リテ加ヘタル數ヲ第一號表ノ第一數ニ充テ又側板ノ數ハ龍骨ノ上面ヨリ低船尾樓甲板梁ノ上面ニ至ル深ニ依リ之ヲ定ムヘシ

低船尾樓ノ部分ニ設クヘキ特設船梁及ヒ増設支水隔壁ハ第十三章第十四條及ヒ第十五條ニ依ルヘシ

第十五章 梁柱

第一條 梁柱ハ第一號表ニ據リ其ノ寸法ヲ定ムヘシ但三層以上ノ梁ヲ有スル船舶ニ於テハ梁間ニ附スヘキ梁柱ノ徑ハ其ノ上下梁柱ノ徑ノ平均ノ寸法ト爲スヘシ

梁柱ハ二箇以上ノ鉸釘ヲ以テ其ノ兩端ヲ固著スヘシ但二重底ノ部分ニ於テハ艙内梁柱ノ下端ハ内底板ニ固著セル二重山形材又ハ丁字形材ニ固著スヘシ

第二條 梁ノ長、上甲板ノ最長梁ノ二分ノ一ヲ超ユルトキハ梁柱ヲ取附ケ上層梁ニ梁柱ノ設ヲ要ス

ルトキハ其ノ下層ノ梁ニモ亦之ヲ設クヘシ
肋骨毎ニ山形梁又ハ球山形梁ヲ取附ケタルトキハ梁ノ下部ニ第一號表ニ掲クル副肋材ト同寸法ノ
二枚合セ山形材若ハ之ト同一ノ強力ヲ有スル丁字形材ヲ附シ山形材ヲ以テ梁毎ニ固著シテ梁一本
置ニ梁柱ヲ取附クヘシ但ニ枚合セ山形材若ハ丁字形材ハ船口梁其ノ他深キ梁及ヒ隔壁ニ於テ之ヲ
止メ山形材ヲ以テ固著スヘシ

船口縁材ニ取附クヘキ梁柱ノ距離ハ肋骨ノ心距ノ四倍ヲ超ニヘカラス且長二十六呎以上ノ船口ニ
ハ其ノ四隅ニ梁柱ヲ取附クヘシ又甲板室、斜橋、揚備機及ヒ揚貨機等ヲ支フル梁其ノ他必要ノ箇
所ニハ特ニ梁柱ヲ設クヘシ

第三條 帆船ニ於テハ幅三十九呎ヲ超ニ四十三呎未滿ナルトキハ上甲板梁ヲ除クノ外下層ノ梁ニハ
中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ハ梁一本置ニ中心線梁柱ノ兩側ニ側梁柱ヲ増設シ幅四十三呎以
上ナルトキハ上甲板梁ニモ一本置ニ中心線梁柱ノ兩側ニ側梁柱ヲ取附クヘシ

第四條 汽船ニ於テハ幅四十三呎以上五十五呎未滿ナルトキハ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三間ハ
梁毎ニ側梁柱二本ヲ設クルカ若ハ梁一本置ニ中心線梁柱ノ兩側ニ側梁柱ヲ増設シ、幅五十五呎以
上ナルトキハ梁毎ニ中心線梁柱ノ兩側ニ側梁柱ヲ増設スヘシ但幅五十呎未滿ノ汽船ニ於テ上甲板
ト第二甲板トノ間ヲ旅客室ニ專用スルトキハ其ノ甲板間ノ梁柱ハ中心線ニ取附ケタルモノノミニ
テモ妨ナシ

第五條 二層ノ梁ヲ有シ又ハ一層ノ梁ト特設肋骨若ハ深式肋骨トヲ有スル船舶ニ於テ上甲板梁ヨリ
船底ニ達スヘキ梁柱、三層ノ梁ヲ有シ又ハ二層ノ梁ト特設肋骨若ハ深式肋骨トヲ有スル船舶ニ於
テ第二層梁ヨリ船底ニ達スヘキ梁柱及ヒ船内ノ深二十二呎以上ノ帆船ニ用ウヘキ船内梁柱ハ第一
號表ニ掲クル船内梁柱ノ徑ニ八分ノ三吋ヲ増シ又三層ノ梁ヲ要スル船舶ニ於テ上甲板梁ヨリ船底

ニ達スヘキ梁柱ハ同表ニ掲クル船内梁柱ノ徑ニ四分ノ三吋ヲ増スヘシ

仕切板ヲ取附クル爲メニ梁柱ヲ二列ニ設クルトキハ其ノ徑ハ第一號表ニ掲クル梁柱ノ徑ノ四分ノ
三ト爲スコトヲ得

第六條 車軸隧道ニ梁柱ヲ取附クルトキハ隧道頂板ニ適當ノ補強構造ヲ爲スヘシ

第十六章 梁上側板

第一條 總テ梁上ニハ梁上側板ヲ設クヘシ其ノ寸法ハ第五號表ニ據リ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一
間ノ前後ニ於テハ鐵ナルトキハ十六分ノ一時ツツ、鋼ナルトキハ二十分ノ一時ツツ、漸次其ノ厚ヲ
減シ船ノ首尾ニ至リ兩端寸法ニ適合セシムヘシ

第五號表ニ掲クル主要梁上側板ノ寸法ハ一層及ヒ二層重甲板船ノ重甲板梁、三層重甲板船ノ重甲
板梁及ヒ第二甲板梁、輕甲板船及ヒ覆甲板船ノ第二甲板梁ニ附スヘキモノ、寸法トス但三層輕甲
板船ニ於テハ船ノ長ト輕甲板梁及ヒ第二甲板梁間ノ高ノ二分ノ一ノ所迄ノ深トノ割合ヲ又二層輕
甲板船ニ於テハ船ノ長ト輕甲板梁及ヒ第二甲板梁間ノ高ノ三分ノ二ノ所迄ノ深トノ割合ヲ表中ノ
長ト深トノ割合ニ充ツヘシ又二層重甲板船ノ第二層梁ノ梁上側板ニハ同表ニ掲クル第三甲板ノ梁
上側板ノ寸法ヲ用ウヘシ

第三層梁下ノ梁ニ附スヘキ梁上側板ノ厚ハ第五號表ニ掲クル船梁ノ梁上側板ニ等クシ幅ハ其ノ四
分ノ三ト爲スヘシ

第二條 輕甲板ノ梁上側板ノ幅ハ第五號表ノ最上欄ニ掲クル第二甲板ノ梁上側板ニ等クスヘシ但中
央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ハ鐵ナルトキハ厚十六分ノ一時、鋼ナルトキハ厚二十分ノ一時ヲ
減シ又其ノ兩端ニ於テハ鐵ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時ヲ尙減スルコト
ヲ得

第三條 覆甲板ノ梁上側板ノ幅ハ第五號表ニ掲クル船梁ノ梁上側板ニ等クシ厚ハ左表ニ據リ其ノ横縁ハ二列釘固著ト爲スヘシ

第 二 數	梁 上 側 板	鋼 厚
一 萬 三 千 未 滿	十 六 分 ノ 六 吋	二 十 分 ノ 六 吋
一 萬 三 千 以 上 一 萬 八 千 未 滿	十 六 分 ノ 七 吋	二 十 分 ノ 七 吋
一 萬 八 千 以 上 二 萬 四 千 未 滿	十 六 分 ノ 七 吋	二 十 分 ノ 八 吋
二 萬 四 千 以 上 三 萬 一 千 未 滿	十 六 分 ノ 八 吋	二 十 分 ノ 九 吋

第二數三萬一千以上ノ船舶若ハ第二甲板梁ノ上面迄ノ深ノ十三倍ヲ超ユル長ヲ有スル船舶ニハ第二甲板以上ニ於テ縱強力ヲ増スヘキ構造ヲ爲スヘシ

第四條 船ノ全長又ハ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ニ鐵甲板若ハ鋼甲板ヲ張ルトキハ該甲板ノ梁上側板ハ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ニ於テハ船ノ長七呎ニ付一時ノ割合迄ニ其ノ幅ヲ減スルコトヲ得但此ノ規程ニ依リ二層以上ノ鐵甲板若ハ鋼甲板ヲ要スルモノニ於テハ之ヲ減スルコトヲ得ス

第五條 梁上側板ノ横縁ハ第二十章ニ規定スルモノヲ除クノ外二列釘固著ト爲スヘシ
梁上側板ヲ外板及ヒ副肋材ニ固著スヘキ山形材ノ寸法ハ第三號表ニ據ルヘシ但正肋材、重甲板ヲ貫通セルトキハ該部ニ於ケル重甲板梁上側板ヲ外板及ヒ副肋材ニ固著スヘキ山形材ハ第二層梁上ニ要スルモノト同寸法ト爲スコトヲ得
第二數五萬四千以上ナルトキハ輕甲板、重甲板又ハ覆甲板船ノ第二甲板ノ梁上側板ハ其ノ下面ニモ第三號表ニ掲クル山形材ヲ取附ケ之ヲ外板ニ固著スヘシ

第二甲板ノ梁上側板ヲ副肋材ニ固著スル縱通山形材ト外板トノ間ハ水密ト爲スヘシ
特設船梁ヲ用ウルトキハ肘板ヲ以テ該船梁ノ梁上側板ト支水隔壁トヲ固著スヘシ

第十七章 梁上帶板

第一條 鐵甲板若ハ鋼甲板ヲ備フル甲板梁及ヒ特設船梁ヲ除キ各層梁上ニハ船ノ首尾ヲ通シテ梁上帶板ヲ二條ツ、設クヘシ其ノ寸法ハ第五號表ニ據リ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ノ前後ニ於テハ鐵ナルトキハ十六分ノ一時ツ、鋼ナルトキハ二十分ノ一時ツ、漸次其ノ厚ヲ減シ船ノ首尾ニ至リ兩端寸法ニ適合セシムヘシ但輕甲板及ヒ覆甲板ノ梁上帶板ノ厚ハ其ノ梁上側板ニ要スルモノニ等クスヘシ

第二條 梁上ニ甲板ヲ張フス又ハ帶板ヲ取附ケザルトキハ帶板ノ代リニ第三號表ニ掲クル第三甲板ノ梁上側板ニ附スヘキ山形材ト同寸法ノ山形材二條ヲ船ノ首尾ヲ通シテ中心線若ハ艙口ノ兩側ノ位置ニ設クヘシ

第三條 帆船ニハ橋ヲ楔止メト爲スヘキ甲板ニ橋ノ近傍ニ於テ船ノ中央部ニ要スル梁上帶板ト同寸法ノ斜帶板ヲ取附ケ之ヲ梁、縱通帶板及ヒ梁上側板ニ固著スヘシ但第二數一萬五千以上ノモノニ於テハ上甲板ノ斜帶板ハ船ノ首尾ヲ通シテ取附クヘシ

第四條 梁上帶板ノ横縁ハ二列釘固著ト爲スヘシ
第十八章 船首肘板、船尾肘板及ヒ船首防攙構造

第一條 縱通材ノ兩端ハ第一號表ニ掲クル船ノ中央ニ於ケル肋板ノ厚ニ等キ肘板ヲ以テ之ヲ結續シ艙梁ノ下部ニ於テハ大約四呎ノ距離ニ肘板ヲ附シ又第二數二萬四千以上ノ船舶ニ於テハ各層梁間ノ中央ニ於テ船ノ首尾兩端ニ肘板ヲ設クヘシ
肘板ノ接合ハ二列釘固著ト爲スヘシ

第二條 船首隔壁ノ前部ニ於テ肋骨一本置ニ取附クヘキ梁ノ層數ハ船首隔壁ニ於テ測リタル深ニ依リ第十一章ノ規定ニ從ヒ之ヲ定ムヘシ

船首隔壁ノ前後ニハ梁ヲ増設シ之ニ梁上側板ヲ取附ケ該側板ハ船ノ幅ノ四分ノ一ニ等キ長ノ間船首隔壁ノ後部ニ延長シテ之ヲ外板ニ固著シ且肘板ヲ以テ肋骨一本置ニ之ヲ支フヘシ

第十九章 外板

第一條 外板ノ寸法ハ第二號表ニ據リ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ノ前後ニ於テハ鐵ナルトキハ十六分ノ一時ツ、鋼ナルトキハ二十分ノ一時ツ、漸次其ノ厚ヲ減シ首尾ニ至リ兩端寸法ニ適合セシムヘシ

覆甲板船ノ上端圓形ナル部分ニ於ケル外板ノ厚及ヒ山形材ハ覆甲板ノ梁上側板ニ要スルモノニ等クスヘシ

螺旋汽船ニ於テ船尾材ニ固著スヘキ龍骨翼板及ヒ第二數一萬六千六百以上ノ船舶ニ於テ船尾材ニ固著スヘキ外板ハ船ノ中央部ニ要スル外板ノ厚ト同一ト爲スヘシ

帆船ノ船首部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ一間ニ於ケル外層外板ハ船ノ中央部ニ要スル外板ノ厚ヨリ鐵ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時ヨリ多ク其ノ厚ヲ減スルコトヲ得ス且第二數一萬六千以上ナルトキハ彎曲部ニ於ケル外板三條ノ厚ハ船ノ首尾ヲ通シテ鐵ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時ヲ増シ又第二數二萬二千以上ナルトキハ艙梁ヲ取附クル部分ノ外板一條ハ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ハ其ノ厚ヲ鐵ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時ヲ尙増スヘシ

第二號表ニ於テ外板ノ厚二様アルトキハ其ノ厚キモノヲ外層外板ニ、薄キモノヲ内層外板ニ適用スヘシ

外板ノ長ハ船ノ首尾兩端ニ用ウルモノヲ除クノ外肋骨ノ心距ノ六倍以上ナルヲ要ス

第二條 鋼製汽船ニ於テハ左表ニ據リ船ノ首尾ヲ通シテ彎曲部ニ於ケル外板ノ厚ヲ二十分ノ一時増スヘシ

第 二 數	厚ヲ増スヘキ彎曲部外板ノ數
四千二百以上 五千 百未滿 六千 以上 六千 九百未滿 七千七百以上 八千五百未滿 九千三百 以上 一萬 百未滿	一 二 三
一萬九百以上 一萬一千六百未滿 一萬二千四百以上 一萬三千百未滿 一萬三千九百以上 一萬四千七百未滿 一萬五千六百以上 一萬六千六百未滿 一萬七千六百以上 一萬八千七百未滿 一萬九千九百以上 二萬一千三百未滿 二萬二千九百以上 二萬四千六百未滿	二
二萬六千五百以上 二萬八千七百未滿 三萬一千二百以上 三萬三千九百未滿 三萬六千八百以上 四萬未滿 四萬三千四百以上 四萬七千百未滿 五萬一千以上 五萬五千二百未滿 五萬九千七百以上 六萬四千六百未滿	三

第三條 上下ニ鄰接スル外板ノ横線ノ距離ハ肋骨ノ心距ノ二倍以上ト爲スヘシ但一條ヲ隔テタルトキハ肋骨ノ心距迄ニ減スルコトヲ得

舷側厚板若ハ輕甲板舷側板ノ横線ト之ニ附スル梁上側板ノ横線トノ距離ハ肋骨ノ心距ノ二倍ト爲スヘシ

兩舷ニ於ケル龍骨翼板ノ横線ノ距離ハ肋骨ノ心距ノ二倍以上ト爲シ且龍骨ノ嵌接ト之ヲ隔離スルヲ要ス

第四條 舷側厚板及ヒ輕甲板舷側板ハ其ノ厚ニ拘ラス又龍骨ヨリ彎曲上部ニ至ル間ノ外板ハ船ノ中央ニ於テ鐵ニテ厚十六分ノ七吋以上、鋼ニテ厚二十分ノ七吋以上ナルトキ及ヒ彎曲上部ヨリ上部ノ外板ハ船ノ中央ニ於テ鐵ニテ厚十六分ノ九吋以上、鋼ニテ厚二十分ノ九吋以上ナルトキハ其ノ縦線ハ船ノ首尾ヲ通シテ二列釘固著ト爲スヘシ但之ヨリ薄キ板ハ一列釘固著ト爲スコトヲ得

第五條 第二十章ニ規定スル場合ヲ除キ外板ノ横線及ヒ外板ヲ船首材、船尾材及ヒ龍骨ニ固著スルニハ二列釘ヲ用ウヘシ

第六條 外板ノ横線ヲ累接ト爲ストキハ累接ノ幅及ヒ釘徑等ハ第七號表ニ據ルヘシ
前項ノ累接ハ第二數一萬六千未満ナルトキハ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間又第二數一萬六千以上ナルトキハ船ノ首尾ヲ通シテ三列釘固著ト爲スヘシ

幅四十六吋ヲ超ユル外層外板又ハ幅五十四吋ヲ超ユル内層外板ノ累接ハ四列釘固著ト爲スヘシ
第七條 輕甲板舷側板及ヒ重甲板ノ舷側厚板ノ横線ニ附スル覆板ヲ梁上側板ニ於テ切斷スルトキハ輕甲板舷側板及ヒ重甲板ノ舷側厚板ハ横線固著ノ爲ニ其ノ梁上側板ニ附シタル山形材ノ上部ニ於テ堅ニ二列ノ鉸釘ヲ受クルニ充分ナル高迄達セシムヘシ
中央部ニテ船ノ長ノ五分ノ三間ニ於テ輕甲板舷側板及ヒ舷側厚板ニ徑八吋以上ノ舷愈ヲ設クルト

キハ該部ニ二重板若ハ山形材ヲ附シテ補強スヘシ
輕甲板船ニ於テ第二甲板ノ梁上側板ヨリ舷側厚板ノ下縁迄ノ深ハ舷側厚板ノ幅ノ二分ノ一ヲ超ユヘカラス

第八條 螺旋軸管ノ覆外板ノ厚ハ第二數一萬三千九百未満ノ船舶ニ於テハ船ノ中央部ニ要スル外板ノ厚ニ等クシ第二數一萬三千九百以上一萬八千七百未満ノモノニ於テハ鐵ナルトキハ之ニ十六分ノ一吋、鋼ナルトキハ二十分ノ一吋ヲ増シ第二數一萬八千七百以上二萬六千五百未満ノモノニ於テハ鐵ナルトキハ十六分ノ一吋、鋼ナルトキハ二十分ノ一吋ヲ増シ且其ノ横線ヲ三列釘固著ト爲シ第二數二萬六千五百以上ナルトキハ覆外板及ヒ其ノ上下ニ鄰接スル外板ノ厚ハ中央部ニ要スル外板ノ厚ニ鐵ナルトキハ十六分ノ二吋、鋼ナルトキハ二十分ノ二吋ヲ増シ且其ノ横線ハ二重覆板ヲ附シテ銜接ト爲シ若ハ累接ト爲シ三列釘固著ト爲スカ又ハ覆外板ヲ二重張ト爲スヘシ

第九條 舷牆板ニハ六呎以内ノ距離ニ坐板ヲ附シテ之ニ支柱ヲ取附クヘシ又舷牆板ノ覆板ニ支柱ヲ取附クルトキハ覆板ノ幅ハ支柱ヲ取附クルニ充分ナルモノト爲スヘシ但第二數二萬三千四百以上ノ帆船ニ於テハ支柱ノ距離ハ五呎ヲ超ユヘカラス
支柱ノ徑ハ船舶ノ大小及ヒ支柱ノ長ニ應シ一吋八分ノ三乃至二吋ト爲スヘシ但舷牆ニ載貨門ヲ設クルトキハ其ノ兩側ニ於ケル支柱ノ強ヲ増スヘシ

第二十章 覆板及ヒ填板

第一條 覆板ノ幅ハ第七號表ニ據リ其ノ厚ハ接合スヘキ板ノ厚ヨリ少カルヘカラス但鐵ナルトキハ其ノ纖維ハ接合スヘキ板ノ纖維ト並行スヘキ様取附クヘシ
梁上側板及ヒ外板ノ銜接ニ二重覆板ヲ附スルトキハ其ノ厚ハ左表ニ依ルヘシ

鐵	鋼	鐵	鋼	鐵	鋼
接合スヘキ板ノ厚	埋頭釘孔ヲ穿ツヘキ覆板	他面ニ附スヘキ覆板			
十六分ノ九吋	二十分ノ九吋	十六分ノ七吋	二十分ノ七吋	十六分ノ六吋	二十分ノ六吋
十六分ノ十吋	二十分ノ十吋	十六分ノ八吋	二十分ノ八吋	十六分ノ六吋	二十分ノ六吋
十六分ノ十一吋	二十分ノ十一吋	十六分ノ八吋	二十分ノ八吋	十六分ノ七吋	二十分ノ七吋
十六分ノ十二吋	二十分ノ十二吋	十六分ノ九吋	二十分ノ九吋	十六分ノ七吋	二十分ノ七吋
十六分ノ十三吋	二十分ノ十三吋	十六分ノ十吋	二十分ノ十吋	十六分ノ八吋	二十分ノ八吋
十六分ノ十四吋	二十分ノ十四吋	十六分ノ十吋	二十分ノ十吋	十六分ノ九吋	二十分ノ九吋
十六分ノ十五吋	二十分ノ十五吋	十六分ノ十一吋	二十分ノ十一吋	十六分ノ九吋	二十分ノ九吋
一吋	二十分ノ十六吋	十六分ノ十二吋	二十分ノ十二吋	十六分ノ十吋	二十分ノ十吋
一吋十六分ノ一	二十分ノ十七吋	十六分ノ十二吋	二十分ノ十二吋	十六分ノ十一吋	二十分ノ十一吋
一吋十六分ノ二	二十分ノ十八吋	十六分ノ十三吋	二十分ノ十三吋	十六分ノ十一吋	二十分ノ十一吋
一吋十六分ノ三	二十分ノ十九吋	十六分ノ十四吋	二十分ノ十四吋	十六分ノ十二吋	二十分ノ十二吋
一吋十六分ノ四	二十分ノ二十吋	十六分ノ十四吋	二十分ノ十四吋	十六分ノ十三吋	二十分ノ十三吋

第二條 第二數八千以下ノ船舶ニ於テハ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ニ於ケル舷側厚板、輕甲板、梁上側板及ヒ彎曲部外板一條ノ銜接ニ用ウヘキ覆板ハ接合スヘキ板ノ厚ニ鐵ナルトキハ

十六分ノ一吋、鋼ナルトキハ二十分ノ一吋ヲ増シタル厚ト爲シ三列釘固著ト爲スヘシ
 第三條 第二數八千ヲ超エ一萬三千以下ノ船舶ニ於テハ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ニ於ケル舷側厚板、輕甲板舷側板、梁上側板及ヒ彎曲部外板三條ノ銜接ニ用ウヘキ覆板ハ接合スヘキ板ノ厚ヨリ十六分ノ一吋ヲ増シタル厚ト爲シ三列釘固著ト爲スヘシ
 第四條 第二數一萬三千ヲ超エ一萬七千以下ノ船舶ニ於テハ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ニ於ケル舷側厚板、輕甲板舷側板、梁上側板及ヒ彎曲部外板三條ノ銜接ニ用ウヘキ覆板ハ接合スヘキ板ノ厚ヨリ十六分ノ一吋ヲ増シタル厚ト爲シ三列釘固著ト爲スヘシ
 第五條 第二數一萬七千ヲ超エ二萬四千以下ノ船舶ニ於テハ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ニ於ケル舷側厚板、輕甲板舷側板、梁上側板及ヒ彎曲部外板四條ノ銜接ニ用ウヘキ覆板ハ接合スヘキ板ノ厚ヨリ十六分ノ一吋ヲ増シタル厚ト爲シ三列釘固著ト爲スヘシ
 第六條 第二數二萬四千ヲ超エ二萬八千以下ノ船舶ニ於テハ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ニ於ケル舷側厚板、輕甲板舷側板、彎曲部外板四條其ノ他ノ外層外板及ヒ重甲板又ハ輕甲板並ニ第二甲板ノ梁上側板ノ銜接ニ用ウヘキ覆板ハ接合スヘキ板ノ厚ニ十六分ノ一吋ヲ増シタル厚ト爲シ三列釘固著ト爲スヘシ
 第七條 第二數二萬八千ヲ超エ三萬三千以下ノ船舶ニ於テハ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ニ於ケル外板ノ銜接、重甲板又ハ輕甲板及ヒ第二甲板ノ梁上側板ノ銜接ニ用ウヘキ覆板ハ接合スヘキ板ノ厚ニ十六分ノ一吋ヲ増シタル厚ト爲シ三列釘固著ト爲スヘシ
 第八條 第二數三萬三千ヲ超エ四萬以下ノ船舶ニ於テハ船ノ首尾ヲ通シテ外板ノ銜接、重甲板又ハ輕甲板及ヒ第二甲板ノ梁上側板ノ銜接ニ用ウヘキ覆板ハ接合スヘキ板ノ厚ニ十六分ノ二吋ヲ増シ

タル厚ト爲シ中央部ニ於テ船ノ長ノ三分ノ二間ハ三列釘固著ト爲スヘシ

第九條 第二數一萬三千ヲ超ユ一萬六千以下ノ鋼船ニ於テハ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ニ於ケル舷側厚板、輕甲板舷側板、梁上側板及ヒ彎曲部外板三條ノ衝接ニ用ウヘキ覆板ハ接合スヘキ板ノ厚ヨリ二十分ノ二吋ヲ増シタル厚ト爲シ三列釘固著ト爲スヘシ

第十條 第二數一萬六千ヲ超ユ二萬以下ノ鋼船ニ於テハ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ニ於ケル舷側厚板、輕甲板舷側板、梁上側板及ヒ彎曲部外板三條其ノ他ノ外層外板ノ衝接ニ用ウヘキ覆板ハ接合スヘキ板ノ厚ニ二十分ノ二吋ヲ増シタル厚ト爲シ三列釘固著ト爲スヘシ

第十一條 第二數二萬ヲ超ユ二萬四千以下ノ鋼船ニ於テハ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ニ於ケル外板ノ衝接、重甲板又ハ輕甲板及ヒ第二甲板ノ梁上側板ノ衝接ニ用ウヘキ覆板ハ接合スヘキ板ノ厚ニ二十分ノ三吋ヲ増シタル厚ト爲シテ三列釘固著ト爲シ其ノ前後ニ於ケル覆板ハ接合スヘキ板ノ厚ニ二十分ノ二吋ヲ増シタル厚ト爲スヘシ

第十二條 第二數二萬四千ヲ超ユ二萬八千以下ノ鋼船ニ於テハ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ニ於ケル外板ノ衝接、重甲板又ハ輕甲板及ヒ第二甲板ノ梁上側板ノ衝接ニ用ウヘキ覆板ハ接合スヘキ板ノ厚ニ二十分ノ四吋、其ノ前後ニ於テハ二十分ノ二吋ヲ増シタル厚ト爲シ中央部ニテ船ノ長ノ四分ノ三間ハ三列釘固著ト爲スヘシ

第十三條 第二數二萬八千ヲ超ユル鋼船ニ於テハ中央部ニテ船ノ長ノ四分ノ三間ニ於ケル外板ノ衝接、重甲板又ハ輕甲板及ヒ第二甲板ノ梁上側板ノ衝接ニ用ウヘキ覆板ハ接合スヘキ板ノ厚ニ二十分ノ四吋、其ノ前後ニ於テハ二十分ノ二吋ヲ増シタル厚ト爲シ船ノ首尾ヲ通シテ三列釘固著ト爲スヘシ

第十四條 第二數二萬ヲ超ユ二萬八千以下ノ鋼船ニ於テハ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ハ本章第

十一條及ヒ第十二條ノ規定ニ拘ラス重甲板又ハ輕甲板ノ梁上側板ノ衝接ニ二重覆板ヲ附シ第二數二萬八千ヲ超ユル鋼船ニ於テハ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ハ本章第十三條ノ規定ニ拘ラス重甲板又ハ輕甲板及ヒ第二甲板ノ衝接ニ二重覆板ヲ附スヘシ

第十五條 幅四十吋ヲ超ユ四十六吋以下ノ外層外板又ハ幅四十八吋ヲ超ユ五十四吋以下ノ内層外板ノ衝接ハ外板ノ厚ヨリ鐵ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時厚キ覆板ヲ附シ三列釘固著ト爲スヘシ

前數條ノ規定ニ依リ三列釘ト爲スヘキ外板ニシテ前項ノ幅ヲ有スルモノハ前數條ニ規定シタル厚ヨリ鐵ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時厚キ覆板ヲ附スヘシ但鋼ナルトキハ二十分ノ五吋以上外板ヨリ厚キ覆板ヲ附スルヲ要セス

第十六條 三層重甲板船及ヒ三層輕甲板船ニ於テハ前數條ノ規定ニ該當セサルトキト雖モ第二甲板ノ梁上側板ハ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ハ三列釘固著ト爲スヘシ

第十七條 外板ヲ二重張ト爲ストキハ其ノ内外板トモ衝接ニハ覆板ヲ附シテ前數條ノ規定ニ從ヒ三列釘又ハ三列釘ヲ以テ之ヲ固著シ且内外板トモ肋骨ニ固著スルノ外肋骨間ノ中央及ヒ縱線ニ於テ相互ニ固著スヘシ

第十八條 平板龍骨ノ衝接ニ用ウヘキ覆板ノ厚ハ彎曲部外板ノ覆板ノ厚ニ要スル割合ヲ以テ平板龍骨ノ厚ヨリ之ヲ増スヘシ

第十九條 外層外板ト正肋材トノ間隙ニハ正肋材ノ縱邊ト同幅ノ填板ヲ附スヘシ但支水隔壁ノ部分ニ於テハ其ノ前後ニ於ケル肋骨迄之ヲ延長セシムルカ又ハ龜甲形填板ヲ附スヘシ

第二十一章 鉸釘

第一條 鉸釘ノ徑ハ第七號表ニ據リ固著スヘキ板又ハ山形材ノ厚キモノヲ表中ノ板ノ厚ニ充テ之ヲ定ムヘシ但正肋材ト外板ト固著スヘキ鉸釘ノ徑ハ正肋材ノ縱邊ノ幅三吋ヲ超ニサルトキハ八分ノ七吋又縱邊ノ幅三吋半ナルトキハ一時ヲ超ユヘカラス

外板ヲ船首材、船尾材及ヒ龍骨ニ固著スヘキ鉸釘ノ徑ハ外板ノ厚ニ依リテ定メタルモノニ四分ノ一時ヲ増スヘシ但一時四分ノ一ヲ超ユルヲ要セス

第二條 外板ヲ船首材、船尾材及ヒ龍骨ニ固著スル場合ヲ除クノ外二列以上ノ鉸釘ヲ要スル接合ニ於テハ鉸釘ノ配置ハ並列法ヲ用ウヘシ

第三條 總テ板ノ橫線ノ固著ニ於ケル釘列線ノ距離ハ釘徑ノ三倍ト爲スヘシ
板ノ橫線ノ固著ニ三列釘又ハ四列釘ヲ用ユル場合ニハ銜接ニ限リ終列ニ於ケル釘數ハ半數迄ニ減スルコトヲ得但鋼板ニ於テハ第二數二萬ヲ超ユルトキハ終列ニ於ケル鉸釘ノ心距ハ釘徑ノ五、二五倍ヲ超ユルコトヲ得ス

鉸釘ハ固著スヘキ板若ハ山形材等ノ緣ヲ距ルコト釘徑以上又外板ノ縱線ニ於ケル釘列線ノ距離ハ釘徑ノ二、五倍ト爲スヘシ

第四條 鉸釘ノ心距ハ外板ノ橫線、輕甲板、重甲板又ハ第二甲板ノ梁上側板ノ橫線ニ於テハ鐵ナルトキハ釘徑ノ四倍、鋼ナルトキハ三、五倍、鐵甲板若ハ鋼甲板ノ橫線、內底板ノ接合及ヒ縱通桁板ノ橫線ニ於テハ釘徑ノ四倍、外板ノ縱線、支水隔壁板ノ接合、上甲板ノ梁上側板ニ附スル山形材ノ固著、鐵甲板若ハ鋼甲板ノ縱線ノ固著等ニ於テハ釘徑ノ四、五倍ヲ超ユヘカラス但龍骨、船首

材及ヒ船尾材ト外板トノ固著及ヒ內龍骨板ト平板龍骨トノ固著ニ於ケル山形材ニ於テハ鉸釘ノ心距ハ釘徑ノ五倍又內龍骨、肋板、正肋材、副肋材等ノ固著、外板ト正肋材トノ固著及ヒ梁用山形材ト梁板トノ固著ニ於テハ鐵ナルトキハ釘徑ノ八倍、鋼ナルトキハ釘徑ノ七倍、鐵甲板若ハ鋼甲板及ヒ梁上側板ト梁トノ固著ニ於ケル鉸釘ノ心距ハ釘徑ノ八倍ト爲スコトヲ得

上甲板下噸數ノ係數〇、七八以上又ハ船首ノ船底扁平ナル鋼製汽船ニ於テハ船首ニ於テ船ノ長ノ五分ノ一間扁平ナル船底外板ノ縱線ニ於ケル鉸釘ノ心距ハ釘徑ノ四倍又該部ニ於テ外板ト正肋材トノ固著ニ於ケル鉸釘ノ心距ハ釘徑ノ五、五倍ヲ超ユヘカラス

第五條 肋骨ノ心距二十三吋以上ノ船舶ニ於テハ梁上側板、斷切板等ヲ外板ニ固著スヘキ山形材ノ兩邊ニハ肋骨間ニ於テ各四箇ノ鉸釘ヲ要スト雖モ肋骨ノ心距二十三吋未滿ナルトキハ釘數ヲ三箇ニ減スルコトヲ得

第六條 舵板ヲ舵骨ニ固著スヘキ鉸釘ノ徑ハ船ノ中央部ニ於テ龍骨翼板ト其ノ鄰接外板トノ固著ニ要スル鉸釘ニ等クシ又鉸釘ノ心距ハ釘徑ノ五倍ヲ超ユヘカラス

第二十二章 支水隔壁

第一條 汽船ニハ首尾及ヒ機關室前後ニ支水隔壁ヲ設クヘシ

船首隔壁ハ最下甲板ニ於テ船首材ヲ距ルコト船ノ幅ノ二分ノ一ヨリ少カラサル所ニ設ク之ヲ上甲板迄達セシムヘシ

機關室前後ノ隔壁及ヒ船尾隔壁ハ上甲板迄達セシムヘシ但覆甲板船ニ於テハ第二甲板ニ止ムルコトヲ得

第二條 長二百八十呎以上ノ汽船若ハ船首隔壁ト機關室前端隔壁トノ距離船ノ長ノ百分ノ四十二ヲ超ユル汽船ニ於テハ船首隔壁ト機關室前端隔壁トノ大約中央ニ支水隔壁ヲ増設シ之ヲ上甲板迄達

セシムヘシ但覆甲板船ニ於テハ第二甲板ニ止ムルコトヲ得
 長三百三十呎以上ノ汽船ニ於テハ前項ニ掲ケタル隔壁ノ外更ニ船尾隔壁ト機關室後端隔壁トノ大
 約中央ニ支水隔壁ヲ増設シ之ヲ前項ノ高ニ達セシムヘシ
 支水隔壁ノ規定ノ高迄同一肋骨ニ於テ達セシムルコト能ハサルトキハ上部支水隔壁ノ下端下部
 支水隔壁ノ上端トハ鐵若ハ鋼ヲ以テ之ヲ接續シ水密ノ構造ニ爲スヘシ
 第三條 帆船ニ於テハ汽船ニ準シ船首隔壁ヲ設クヘシ
 第四條 船首隔壁ニハ塗水孔又ハ戸口ヲ、其ノ他ノ支水隔壁ニハ塗水孔ヲ設クヘカラス但船尾隔壁
 ニハ支水瓣ヲ設クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ常ニ検査シ得ヘキ様裝置スヘシ
 第五條 支水隔壁板ノ厚ハ第一號表ニ據リ其ノ隔壁ハ船側ニ於テハ同表ニ掲ケル正肋材ト同寸法ノ
 山形材二條ノ間ニ取附ケ船底ニ於テハ二列釘ヲ以テ肋板ニ固著シ甲板及ヒ二重底ノ内底板ニハ其
 ノ兩面ニ第一號表ニ掲ケル副肋材ト同寸法ノ山形材ヲ附シテ之ヲ固著スヘシ
 第六條 支水隔壁ニハ一面ニハ堅ニ、他面ニハ横ニ防撓材ヲ設クヘシ防撓材ニハ第一號表ニ掲ケル
 正肋材ヨリ小ナラサル山形材ヲ用井堅防撓材ハ每二呎六吋以内ノ距離ニ設ケ隔壁ノ上部ヨリ船底
 肋板迄達セシメ之ニ固著シ二重底ヲ備フル場合ニハ肘板ヲ以テ之ヲ其ノ内底板ニ固著スヘシ又横
 防撓材ハ最下層ノ甲板以下ニ於テ每四呎以内ノ距離ニ設クヘシ
 水艙ノ前段又ハ後端ニ於ケル支水隔壁ニハ特ニ堅牢ナル防撓材ヲ設クヘシ
 上甲板ト第二甲板トノ間ニ設ケル支水隔壁ノ堅防撓材ハ船首隔壁及ヒ船尾隔壁ノ外第一號表ニ掲
 ケル副肋材ト同寸法ノ山形材ヲ用ウルコトヲ得
 船首隔壁及ヒ最大幅四十呎以上ノ隔壁ノ横防撓材ニハ第四號表ニ掲ケル鐵甲板若ハ鋼甲板ニ肋骨
 毎ニ取附クヘキ第二甲板梁ト同寸法ノ球山形材ヲ用井肘板ヲ以テ之ヲ船側ニ固著スヘシ

幅三十六呎以上四十五呎未満ノ隔壁ニハ最下層梁ノ位置ヨリ船底ニ達スル防撓桁板一箇、幅四十
 五呎以上五十五呎未満ノ隔壁ニハ二箇又幅五十五呎以上六十呎未満ノ隔壁ニハ三箇ヲ設クヘシ
 第七條 第二層梁、第三層梁又ハ艙梁ヲ要スル深ノ船舶ニシテ該梁上ニ於テ支水隔壁ノ前後ニ甲板
 ヲ張ラサルトキ若ハ特設肋骨又ハ深式肋骨ヲ以テ第二層梁、第三層梁又ハ艙梁ニ代用シタルトキ
 ハ第二層梁、第三層梁又ハ艙梁ノ梁上側板ノ位置若ハ最下層ノ甲板ト船底トノ中間ニ於ケル艙内
 縦通材ノ位置ニ第十章第八條ニ掲ケル溝形特設艙梁ト同寸法ノ横防撓桁板一箇ヲ設クヘシ
 第八條 特設肋骨ヲ以テ二層ノ梁ニ代用シタルトキハ支水隔壁ニ特設肋骨間側板ノ位置ニ於テ第十
 章第八條ニ掲ケル溝形特設艙梁ト同寸法ノ横防撓桁板二箇ヲ設ク且最大幅三十六呎未満ノ支水隔
 壁ニ於テモ其ノ中央ニ於テ堅ニ防撓桁板一箇ヲ設クヘシ
 第九條 支水隔壁ニ於テ螺旋軸及ヒ諸管等ノ貫通スル部分ハ水密ニ構造スヘシ
 第十條 船首隔壁ノ前部及ヒ船尾隔壁ノ後部ニハ最大喫水ニ相當スル高迄水ヲ充タシ其ノ他ノ隔壁
 ニハ唧筒ヲ以テ水ヲ注射シ隔壁ノ水密ヲ試驗スヘシ

第二十三章 甲板

第一條 重甲板船ノ重甲板ニ張ル木甲板ノ厚ハ第三號表ニ據ルヘシ其ノ第二甲板ノ厚ハ之ヨリ二分
 ノ一吋ヲ減スルコトヲ得
 三層輕甲板船ノ輕甲板及ヒ第二甲板ニ張ル木甲板ノ厚ハ三吋二分ノ一ト爲シ二層輕甲板船ノ輕甲
 板及ヒ第二甲板ニ張ル木甲板ノ厚ハ三吋ト爲スヘシ
 覆甲板船ノ第二甲板ニ張ル木甲板ノ厚ハ重甲板船ノ第二甲板ニ要スルモノニ等クシ覆甲板ノ厚ハ
 其ノ第二甲板ノ厚ヨリ四分ノ一ヲ減スルコトヲ得
 甲板ニ堅材ヲ用ウルトキハ其ノ厚ヲ二分ノ一吋減スルコトヲ得但二吋ヨリ少カルヘカラス

上甲板及ヒ第二甲板ハ總テ水密ト爲スヘシ
木甲板ノ固著釘ノ寸法ハ左表ニ據ルヘシ

水 甲 板 ノ 厚	固 著 釘 ノ 徑
二 吋 半 以 上 三 吋 半 未 滿	十 六 分 ノ 八 吋
三 吋 半 以 上 四 吋 未 滿	十 六 分 ノ 九 吋
四 吋	十 六 分 ノ 十 吋

第二條 鐵甲板若ハ鋼甲板ニ木板ヲ張ルトキハ其ノ厚ハ上甲板ニ於テハ柔材ナレハ三吋、堅材ナレハ二吋二分ノ一ト爲スヘシ但下層ノ甲板ニ於テハ柔材ヲ用ウルモ二吋二分ノ一ト爲スコトヲ得

第三條 暴露甲板ニ木板ヲ張ルトキハ其ノ甲板ノ周圍ニハ堅材ヲ用ウヘシ

船口、甲板室等ノ鐵製又ハ鋼製ノ縁材若ハ隔壁ノ縁材ノ前後兩面ニハ横ニ一枚ノ木板ヲ張り之ニ木甲板ノ端末ヲ接セシムヘシ

第四條 中央部ニ於テ船ノ長ノ五分ノ三間ニ船橋樓隔壁等ノ爲メ上甲板ノ木甲板ヲ切斷スルトキハ隔壁ノ前後ノ梁間ニ鐵板若ハ鋼板ヲ張り且其ノ下面ニ縱ニ四呎以内ノ距離ニ山形材ヲ設クヘシ但此ノ場合ニ於テハ隔壁直下ノ梁ヲ省クコトヲ得

第五條 木甲板ハ幅六吋以下ナルトキハ振止釘一本ヲ以テ每梁ニ固著シ幅六吋ヲ超ユルトキハ二本ヲ以テ每梁ニ固著スヘシ但幅八吋以下ナルトキハ其ノ一本ハ振込釘ヲ使用スルコトヲ得

第六條 揚錨機、制錨機、操舵機、揚貨機、繫船器等ハ之ヲ固著スル爲メ其ノ下部ニ鐵板若ハ鋼板ヲ梁上ニ鐵板若ハ鋼板ヲ張リタルトキハ之ニ木甲板ヲ固著スヘシ

張ルヘシ該板ノ厚ハ梁上側板ニ要スルモノノ十分ノ七ヨリ少カルヘカラス

第七條 鐵甲板若ハ鋼甲板ヲ以テ木甲板ニ代用スルトキハ其ノ厚ハ第三號表ニ據リ其ノ甲板梁ハ第十一章第十五條ノ規定ニ依ルヘシ

第八條 鐵甲板若ハ鋼甲板ヲ要スル場合及ヒ其ノ厚ハ第五號表ニ據ルヘシ但三層輕甲板船ニ於テハ船ノ長ト輕甲板梁及ヒ第二甲板梁間ノ高ノ二分ノ一ノ所迄ノ深トノ割合ヲ又二層輕甲板船ニ於テハ船ノ長ト輕甲板梁及ヒ第二甲板梁間ノ高ノ三分ノ二ノ所迄ノ深トノ割合ヲ表中ノ長ト深トノ割合ニ充ツヘシ

船ノ中央ニ於ケル鐵甲板ノ厚十六分ノ七吋、鋼甲板ノ厚二十分ノ七吋乃至二十分ノ九吋ナルトキハ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ノ前後ニ於テハ鐵甲板ナルトキハ十六分ノ一時、鋼甲板ナルトキハ二十分ノ一時ヲ減シ又鐵甲板ノ厚十六分ノ八吋以上、鋼甲板ノ厚二十分ノ十吋以上ナルトキハ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ノ前後ニ於テ船ノ長ノ八分ノ一間ハ鐵甲板ナルトキハ十六分ノ一時、鋼甲板ナルトキハ二十分ノ二吋ヲ減スルコトヲ得

船口ト船口トノ間ニ於テ斷切スル鐵甲板ノ厚十六分ノ七吋以上ナルトキハ十六分ノ一時、鋼甲板ノ厚二十分ノ七吋以ナルトキハ二十分ノ一時其ノ厚ヲ減スルコトヲ得

第九條 第五號表ニ據リ船ノ全長又ハ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ニ一層ノ鐵甲板若ハ鋼甲板ヲ要スルトキハ二層重甲板船ニ於テハ重甲板、三層重甲板船ニ於テハ重甲板若ハ第二甲板、輕甲板船ニ於テハ輕甲板若ハ第二甲板、覆甲板船ニ於テハ第二甲板ニ之ヲ設クヘシ

中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ニ鐵甲板若ハ鋼甲板ヲ張ルトキハ其ノ前後ニ於テ船ノ長ノ八分ノ一間ハ漸次其ノ幅ヲ減シテ梁上側板ニ之ヲ會セシムヘシ

第十條 鐵甲板又ハ鋼甲板ノ橫縁ハ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ハ二列釘固著ト爲シ首尾ニ於テハ一列釘固著ト爲スヘシ但重甲板、輕甲板又ハ覆甲板船ノ第一甲板ノ厚鐵ニテ十六分ノ九吋以上、鋼ニテ二十分ノ九吋以上ナルトキハ梁上側板ト船口縁材トノ間ニ縱通スルモノハ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ハ三列釘固著ト爲シ首尾ニ於テハ二列釘固著ト爲スヘシ且三列釘固著ヲ要スル板ノ衝接ニ用ウヘキ覆板ノ厚ハ鐵ニテ十六分ノ一時、鋼ニテ二十分ノ二吋甲板ノ厚ヨリ増スヘシ

鐵甲板又ハ鋼甲板ノ縱縁ハ一列釘固著ト爲スヘシ但重甲板、輕甲板又ハ覆甲板船ノ第二甲板ノ厚鐵ニテ十六分ノ九吋以上、鋼ニテ二十分ノ九吋以上ナルトキハ梁上側板ト之ニ鄰接スル板トノ縱縁ハ二列釘固著ト爲シ又重甲板、輕甲板又ハ覆甲板船ノ第二甲板ノ厚鐵ニテ十六分ノ十吋以上、鋼ニテ二十分ノ十吋以上ナルトキハ尙其ノ次ニ鄰接スル板トノ縱縁モ二列釘固著ト爲スヘシ

第十一條 中央部ニ於テ船ノ長ノ五分ノ三間ニ船橋樓又ハ船尾樓ノ隔壁ヲ鐵甲板若ハ鋼甲板ニ固著スルトキハ内層甲板ニ龜甲形填板ヲ附スルカ又ハ該部甲板ノ厚ヲ増スヘシ

第十二條 鐵甲板若ハ鋼甲板ヲ要スル船舶ニ於テ左表ニ掲タル割合ヨリ大ナル幅ヲ有スル船口其ノ他ノ口ヲ設クルトキハ適當ナル長ノ間該部甲板ノ厚ヲ増スカ又ハ二重張ニ爲シテ其ノ實效截面ハ該部ニ於ケル全幅ノ實效截面ヨリ左表ノ割合ニ對スル實效截面ヲ減シタルモノヨリ小ナルヘカラス

第	上	甲 板 ノ 種 類	
		甲 板	乙 板
二	甲	百分ノ二十	百分ノ二十
二	甲	百分ノ二十	百分ノ二十

船口ノ部分ニ於ケル甲板ノ幅ト船口ノ幅トノ割合
中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間
船ノ首尾

第三 甲 板 百分ノ二十 五 百分ノ三十

第二十四章 二重底及ヒ水艙

第一條 二重底ノ内底板及ヒ水艙ノ頂板ニハ密閉シ得ヘキ出入口ヲ設ケ之ニ鐵製又ハ鋼製ノ蓋板ヲ備ヘ且内底板又ハ頂板ノ厚鐵ニテ十六分ノ六吋、鋼ニテ二十分ノ七吋以下ナルトキハ其ノ周圍ニ蓋板ヲ受クル爲メ縁環ヲ取附クヘシ

二重底ノ側桁板及ヒ區畫式二重底ノ肋板ニハ人孔ヲ設クヘシ但中心線桁板ニハ之ヲ設クヘカラス

第二條 二重底及ヒ水艙ハ總テ水密ニ構造シ且之ニ充分ノ排氣管ヲ設クヘシ船首隔壁ノ前部及ヒ船尾隔壁ノ後部ニ於ケル水艙ニハ制水板ヲ又其ノ他ノ水艙ニハ縱通支水隔壁ヲ中心線ニ設クヘシ

第三條 機關室ノ全部ニ二重底ヲ設クルトキハ機關室後端ノ隔壁ノ前部ニ於テ之ニ鄰接スル肋骨ノ心距ノ二倍ノ間ニ塗水溜ヲ設クルコトヲ得

艙内ニ設クル塗水溜ハ肋骨ノ心距ノ二倍以內、車軸隧道内ニ設クルモノハ肋骨ノ心距ノ六倍以內トス

塗水溜ノ塗水孔ニハ不還瓣ヲ設クヘシ

第四條 二重底内ニハ彎曲部内龍骨及ヒ翼内龍骨ヲ設クルヲ要セス但二重底ノ全通セサルトキハ之ヲ肋骨ノ心距ノ三倍ノ間ニ二重底内ニ延長シ且爲シ得ヘキ部分ニ於テハ之ヲ縱通桁板ニ固著スルカ若ハ縱通桁板ヲ二重底外ニ延長シテ之ヲ固著スヘシ

二重底内ノ側桁板ハ爲シ得ヘキ部分ニ於テハ之ヲ首尾ニ延長スシ

第五條 二重底ハ船ノ最大喫水ニ相當スル水高壓力ヲ以テ其ノ水密ヲ試驗スヘシ

船首隔壁ノ前部及ヒ船尾隔壁ノ後部ヲ水艙トシテ使用シ又ハ艙内ニ水艙ヲ設クルトキハ其ノ頂板

上八呎ヨリ少カラス且最大喫水ヨリ少カラサル高二相當スル水高壓力ヲ以テ其ノ水密ヲ試験ヘス

第二十五章 區畫式二重底

第一條 區畫式二重底ノ内底板、縦通桁板、肋板、肘板、山形材ノ寸法及ヒ員數ハ第六號表ニ據ルヘシ但中心線ニ於ケル内底板ノ幅ハ第二號表ニ掲クル龍骨翼板ノ幅ヨリ少カルヘカラス
二重底ノ山形材ハ船ノ中央ニ於テ鐵ニテ厚十六分ノ七吋ヲ超エ、鋼ニテ厚二十分ノ七吋ヲ超ユルトキハ首尾ニ於テ船ノ長ノ五分ノ一間ハ鐵ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時其ノ厚ヲ減スルコトヲ得

汽罐室ニ於ケル肋板其ノ他ノ厚ハ鐵ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ二吋ヲ増スヘシ
汽罐床ヲ直ニ内底板ニ固著スルトキハ該部内底板ノ厚ハ中央部ニ於ケル船内内底板ノ厚ノ二倍以上ト爲スヘシ

二重底内ノ一枚板ノ肋板ニ取附クル正肋材ノ横邊ノ幅ハ其ノ縦邊ノ幅ト同一ト爲スコトヲ得
區畫式二重底ノ縁板ノ寸法ハ第六號表ニ據ルヘシ但中央部ニテ船ノ長ノ五分ノ三間ノ前後ニ於テハ縁板ノ上邊ヲ除キタル幅ハ船首ニ於テ十分ノ一、船尾ニ於テ二十分ノ三該表ニ掲クル幅ヨリ漸次減スルコトヲ得又第十一章ノ規定ニ依リ甲板梁及ヒ艙梁ノ層數ヲ備フル船舶又ハ撥形板等ヲ以テ縁板ノ外部ニ附スル肘板ヲ内底板ニ特ニ堅牢ニ固著スル船舶ニ於テハ中央部ニ於テモ縁板ノ幅ヲ第六號表ニ掲クル幅ヨリ十分ノ一減スルコトヲ得

第二條 二重底内ニ於テハ肋骨一本置ニ一枚板ノ肋板ヲ設ケ其ノ上端一面ニ山形材ヲ取附クヘシ但第二數一萬一千以下ナルトキハ組合セ板ノ肋板ヲ用ウルコトヲ得

船首ヨリ船ノ長ノ五分ノ一ニ相當スル箇所ヨリ前方船首隔壁ニ至ル間ニハ肋骨毎ニ肋板ヲ設クヘシ
汽機ノ下ニ於テハ肋骨毎ニ、汽罐ノ下ニ於テハ肋骨一本置ニ上端兩面ニ山形材ヲ附シタル一枚板ノ肋板ヲ設クヘシ

第三條 平板龍骨ヲ有スル船舶及ヒ第二數一萬八千以上ニシテ側板龍骨ヲ有スル船舶ニ於テハ肋板ヲ附セサル肋骨ハ肘板ヲ以テ之ヲ中心線桁板ニ固著スヘシ但第二數三萬八千以上ノ船舶ニ於テハ肘板ノ頂部ノ幅ハ中央部ニ於テ船ノ長ノ五分ノ三間ハ内底板ノ下面ニ附スル山形材ニ三箇ノ鉸釘ヲ以テ固著スルニ充分ナラシムヘシ

機罐室ノ肋板及ヒ第二數二萬四千以上ノ船舶ノ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ニ於ケル肋板ハ其ノ兩面ニ堅ニ山形材ヲ附シテ中心線桁板ニ固著スヘシ

第四條 縁板ハ第六號表ニ掲クル山形材ヲ以テ外板ニ固著シ且二重底ノ外部ニ於テハ肋骨毎ニ、内部ニ於テハ肋板ヲ附セサル肋骨毎ニ肘板及ヒ山形材ヲ以テ固著スヘシ但第二數三萬八千以上ノ船舶ニ於テハ内部ニ附スル肘板ノ頂部ノ幅ハ中央部ニ於テ船ノ長ノ五分ノ三間ハ内底板ノ下面ニ附スル山形材ニ三箇ノ鉸釘ヲ以テ固著スルニ充分ナラシメ又外部ニ附スル肘板ハ彎曲上部ニ達セシムヘシ

第二數三萬以上四萬未滿ノ船舶ニ於テハ縁板ノ外部ニ附スル肘板ハ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ハ二重山形材ヲ以テ縁板ニ固著シ且肋骨三本置ニ撥形板ヲ以テ内底板ニ固著スヘシ但深式肋骨又ハ特設肋骨ヲ以テ艙梁ニ代用スルトキハ第二數二萬以上三萬未滿ノ船舶ニ於テモ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ハ二重山形材ヲ以テ縁板ニ固著スヘシ

第二數四萬以上五萬未滿ノ船舶ニ於テハ縁板ノ外部ニ附スル肘板ハ後部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ一

間ヲ除クノ外二重山形材ヲ以テ縁板ニ固著シ且肋骨二本置ニ撥形板ヲ以テ内底板ニ固著スヘシ
第二數五萬以上ノ船舶ニ於テハ縁板ノ外部ニ附スル肘板ハ船ノ首尾ヲ通シテ二重山形材ヲ以テ縁板ニ固著シ且肋骨一本置ニ撥形板ヲ以テ内底板ニ固著スヘシ

第五條 内底板ノ下面ニハ肋骨ヲ附セサル肋骨ニ對スル部分ニ肋骨ノ上端ニ附スル山形材ニ要スルモノト同寸法ノ山形材ヲ取附クヘシ

第六條 中心線ニ於ケル内底板ノ接合及ヒ機關室ニ於ケル内底板ノ横縁ハ二列釘固著ト爲スヘシ
第二數二萬以上三萬未満ナルトキハ内底板ノ横縁ハ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ハ二列釘固著ト爲シ第二數三萬以上三萬八千未満ナルトキハ内底板ノ横縁及ヒ中心線内底板ニ鄰接スル板ノ縦縁ハ總テ二列釘固著ト爲シ第二數三萬八千以上ナルトキハ其ノ他ノ内底板ノ縦縁ハ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ハ總テ二列釘固著ト爲スヘシ

第七條 側桁板及ヒ縁板ノ横縁ハ二列釘固著ト爲スヘシ
中心線桁板ノ衝接ハ二重覆板ヲ附シ三列釘固著ト爲スヘシ但終列ニ於ケル釘數ハ半數迄ニ減シ又第二數二萬一千以下ナルトキハ二列釘固著ト爲スコトヲ得

各覆板ノ厚ハ接合スヘキ板ノ厚ノ二分ノ一ニ鐵ナルトキハ十六分ノ二吋、鋼ナルトキハ二十分ノ三吋ヲ加ヘタルモノト爲スヘシ

第八條 上甲板下噸數ノ係數〇、七八以上又ハ船首ノ船底扁平ナル鋼製汽船ニ於テハ龍骨翼板ニ鄰接スル外板二條ノ厚ハ船首隔壁ヨリ中央部ニ至ル間ハ中央部ニ要スル外板ノ厚ヨリ減スルコトヲ得ス

第九條 區畫式二重底ヲ備フル船舶ニ於テハ方形龍骨ヲ用ウルコトヲ得ス

第十條 肋骨毎ニ中心線桁板ヨリ縁板迄貫通スル肋骨ヲ用井テ區畫式二重底ヲ構造スルトキハ中心線桁板ト縁板間ノ幅三十四呎以上ナルトキハ中心線桁板ト縁板トノ間ニ斷切桁板ニ設ケ汽機室ニ於テハ第六號表ニ掲クル側桁板ト同數ノ斷切桁板ヲ設ケヘシ

汽機ノ下ニ於テハ肋骨毎ニ又汽機臺ヲ支フル肋骨ニハ其ノ上端兩面ニ山形材ヲ附スヘシ
第十一條 區畫式二重底ノ部分ニ於ケル外板ハ肋骨毎ニ肋骨ヲ附シタルトキハ龍骨翼板ヲ除キ鐵ニテ厚十六分ノ十吋以上、鋼ニテ厚二十分ノ十一吋以上ノモノニ限り第二號表ニ掲クル厚ヨリ鐵ナルトキハ十六分ノ一吋、鋼ナルトキハ二十分ノ一吋ヲ減スルコトヲ得但シ此場合ニ於テモ第八條ノ規定ニ依ルヘシ

第十二條 二重底ノ構造ニ於テ肋骨、肘板及ヒ斷切桁板等ニ矩形鋼板ヲ使用スルトキハ其ノ厚ハ第六號表ニ掲クルモノニ二十分ノ一吋ヲ増スヘシ

第二十六章 肋骨上ニ縱通桁板ヲ用井テ構造シタル二重底
第一條 肋骨上ニ縱通桁板ヲ用井テ構造シタル二重底ノ内底板、縁板、縱通桁板、肘板ノ厚及ヒ山形材ノ寸法ハ區畫式二重底ニ要スルモノニ等クシ中心線ニ於ケル内底板ノ幅ハ第二號表ニ掲クル龍骨翼板ノ幅ヨリ又中心線縱通桁板ノ高ハ十八吋ヨリ少カラス且縱通桁板ノ距離ハ三呎ヲ超ユヘカラス

第二條 二重底ノ縁板ハ第六號表ニ掲クル山形材ヲ以テ外板ニ固著シ且其ノ内外ニ於テ肘板及ヒ山形材ヲ以テ肋骨毎ニ固著スヘシ但外部ニ附スル肘板ハ彎曲上部ニ達セシムヘシ

第二數三萬以上四萬未満ノ船舶ニ於テハ縁板ノ外部ニ附スル肘板ハ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ハ二重山形材ヲ以テ縁板ニ固著シ且肋骨二本置ニ撥形板ヲ以テ内底板ニ固著スヘシ但深式肋骨又ハ特設肋骨ヲ以テ艙梁ニ代用スルトキハ第二數二萬以上三萬未満ノ船舶ニ於テモ中央部ニテ船

ノ長ノ二分ノ一間ハ二重山形材ヲ以テ縁板ニ固著スヘシ
 第二條 四萬以上五萬未満ノ船舶ニ於テハ縁板ノ外部ニ附スル肘板ハ後部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ一間ヲ除クノ外二重山形材ヲ以テ縁板ニ固著シ且肋骨二本置ニ撥形板ヲ以テ内底板ニ固著スヘシ
 第二條 五萬以上ノ船舶ニ於テハ縁板ノ外部ニ附スル肘板ハ船ノ首尾ヲ通シテ二重山形材ヲ以テ縁板ニ固著シ且肋骨一本置ニ撥形板ヲ以テ内底板ニ固著スヘシ
 内底板ノ接合ハ一列釘ヲ以テ固著シ得ヘシト雖モ中心線内底板及ヒ縁板ノ横線ハ二列釘固著ト爲スヲ要ス

第三條 二重底内ニハ彎曲部内龍骨及ヒ翼内龍骨ヲ設クルヲ要セスト雖モ船首ノ船底扁平ナルトキハ船首ヨリ船ノ長ノ五分ノ一ニ相當スル箇所ヨリ前部ニ重底内ニ斷切板翼内龍骨ヲ設クヘシ
 縦通桁板ニハ其ノ上下兩端ニ縦通スル山形材ヲ取附ケ上端ハ内底板ニ下端ハ二重副肋材ニ之ヲ固著スヘシ

第四條 二重底ヲ設クル部分ニ於ケル外板ハ龍骨翼板ヲ除キ鐵ニテ厚十六分ノ十吋以上、鋼ニテ厚二十分ノ十吋以上ナルトキハ第二號表ニ掲クル厚ヨリ鐵ナルトキハ十六分ノ一吋、鋼ナルトキハ二十分ノ一吋ヲ減スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テモ前章第八條ノ規定ニ依ルヘシ

第二十七章 内張板

第一條 船底ニ於テハ彎曲上部迄厚二吋半ヨリ少カラサル木板ヲ張詰メ其ノ以上船側ニ於テハ厚二吋ヨリ少カラサル木板ヲ張詰ムルカ若ハ適當ノ間隔ニ之ヲ取附クヘシ但検査又ハ塗替ノ爲メ容易ニ取外シ得ヘキ様取附クルヲ要ス

第二條 二重底ノ内底板ニハ厚一吋半ヨリ少カラサル枕木ヲ設ケ之ニ厚二吋半ヨリ少カラサル内張板ヲ取附クヘシ

第二十八章 車軸隧道

第一條 車軸隧道板ノ厚ハ第一號表ニ掲クル隔壁ノ下部ニ用ウヘキ板ノ厚ニ等クシ船口ノ直下ニ於ケル頂板ノ厚ハ鐵ナルトキハ之ニ二十六分ノ二吋以上、鋼ナルトキハ二十分ノ二吋以上ヲ増スカ若ハ厚二吋以上ノ木板ヲ以テ之ヲ覆フヘシ

車軸隧道ニハ第一號表ニ掲クル副肋材ト同寸法ノ山形材ヲ横ニ四呎以内ノ距離ニ取附クヘシ但船口ノ直下ニ於テハ其ノ距離三呎ヲ超ニス又船尾隔壁ノ前部ニ於テ船側ニ固著スル頂板ニハ肋骨ノ距ト同距離ニ之ヲ設クヘシ

車軸隧道ハ水密ニ構造シ機關室後端ノ隔壁ニ設クル車軸隧道ノ出入口ニハ支水戸ヲ備ヘ最大喫水線以上ニ於テ之ヲ關閉シ得ヘキ裝置ト爲スヘシ

第二十九章 船首樓、船尾樓及ヒ船橋樓

第一條 龍骨ノ上面ヨリ上甲板梁ノ上面迄ノ深十四呎未満ノ船舶ニハ特ニ相當ノ補強構造ヲ加フルニアラサレハ船首樓又ハ船尾樓ヲ設クルコトヲ得ス

第二條 船首樓、船尾樓及ヒ船橋樓ノ外板、梁上帶板、梁上側板、梁上側板ノ山形材及ヒ木甲板ノ寸法ハ上甲板ニ要スルモノヨリ其ノ四分ノ一ヲ減スルコトヲ得但外板ハ覆甲板船ノ上部ニ用ウヘキモノヨリ厚キヲ要セス

外板、梁上側板及ヒ梁上帶板ノ横線ハ二列釘固著ト爲スヘシ

第三條 梁ハ肋骨一本置ニ取附ケ之ニ梁柱ヲ設クヘシ又船體上端ノ形狀圓形ナルトキハ長十八吋以上梁ヲ正肋材ニ重ネテ固著スヘシ

第四條 第二號一萬八千以上ノ船舶ノ船首樓ニ於テハ肋骨一本置ニ副肋材ヲ船首樓甲板迄達セシメ若ハ上甲板ト船首樓甲板トノ中央ニ於テ第一號表ニ掲クル副肋材ト同寸法ノ山形材ヲ二枚合セト

爲シ之ヲ兩舷ニ取附ク其ノ前端ハ肘板ヲ以テ結續スヘシ
輕甲板ニ船首樓、船尾樓又ハ船橋樓ヲ設クルトキハ該部ニ於ケル副肋材ハ總テ輕甲板迄達セシムヘシ

第五條 船首樓、船尾樓及ヒ船橋樓ノ上端ノ圓形ナル部分ニ用ウル外板ノ厚ハ船首樓、船尾樓及ヒ船橋樓ノ梁上側板ニ要スルモノニ等クスヘシ

第六條 船尾樓及ヒ船橋樓ノ前端ニ於ケル隔壁ノ厚ハ船尾樓及ヒ船橋樓ノ外板ノ厚ニ等クシ鐵ナルトキハ之ヨリ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時厚キ綠材ヲ備フヘシ

第七條 船橋樓ノ前後ニ於テ之ニ鄰接スル船橋樓ハ特ニ之ヲ厚クシ肘板ヲ以テ之ヲ支ヘ又其ノ排水孔ノ四隅ハ圓形ト爲シ且綠環ヲ取附クヘシ

第八條 中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ニ船首樓ノ後端、船尾樓ノ前端又ハ船橋樓ノ兩端ノ内何レカ止マルトキハ該端ノ前後各十呎以上ノ間輕甲板舷側板若ハ重甲板船ノ舷側厚板ヲ二重張ト爲シ且上甲板ノ梁上側板ノ厚ヲ増スヘシ但船橋樓ノ長船ノ長ノ十分ノ一ヲ超エサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條 船橋樓ノ正肋材ヲ上甲板ニ於テ切斷スルトキハ其ノ下端ハ肘板ヲ以テ上甲板ノ梁上側板ニ

爲シ之ヲ兩舷ニ取附ク其ノ前端ハ肘板ヲ以テ結續スヘシ
輕甲板ニ船首樓、船尾樓又ハ船橋樓ヲ設クルトキハ該部ニ於ケル副肋材ハ總テ輕甲板迄達セシムヘシ

固著スヘシ

第十條 第二數一萬五千以上ニシテ船首樓、船尾樓低船首樓若ハ低船尾樓ト船橋樓トノ合長、船ノ長ノ五分ノ二ヲ超ユル船舶又同數ニシテ深ノ十二倍ヲ超ユル長ヲ有スル船舶ニ船ノ長ノ五分ノ一以上ナル船橋樓ヲ設クルトキハ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ハ輕甲板舷側板若ハ重甲板船ノ舷側厚板ヲ二重張ト爲スヘシ但二層重甲板船ニシテ其ノ長、深ノ十三倍ヲ超エサル場合ニ船橋樓ノ部分ニ於テ副肋材ヲ總テ重甲板梁上側板迄達セシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 船橋樓ノ長、船ノ長ノ五分ノ二ヲ超ユル船舶ニ於テ船橋樓ノ外板及ヒ梁上側板ヲ左表ノ寸法ト爲シ其ノ外板ノ縱線ヲ二列釘固著ト爲シ上端外板ノ橫線ニ接合スヘキ板ノ厚ヨリ鐵ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時厚キ覆板ヲ附シテ三列釘固著ト爲シ梁上側板ニ附スヘキ山形材ヲ第二甲板ノ梁上側板ニ要スルモノト等クシ船橋樓ノ梁上ニ鐵ナルトキハ厚十六分ノ五吋、鋼ナルトキハ厚二十分ノ六吋ノ板ヲ張詰メ且船橋樓ノ兩端ノ前後各十呎以上ノ間輕甲板舷側板若ハ重甲板ノ舷側厚板ヲ二重張ト爲ストキハ前條ノ規定ニ依ルヲ要セス

第二數	上		外		其		他		梁		上		側	
	鐵	鋼	鐵	鋼	鐵	鋼	鐵	鋼	鐵	鋼	鐵	鋼	鐵	鋼
一萬五千未滿	幅三十六分ノ八吋	厚十六分ノ八吋	幅三十六分ノ八吋	厚十六分ノ八吋	幅三十六分ノ八吋	厚十六分ノ八吋	幅三十六分ノ八吋	厚十六分ノ八吋	幅三十六分ノ八吋	厚十六分ノ八吋	幅三十六分ノ八吋	厚十六分ノ八吋	幅三十六分ノ八吋	厚十六分ノ八吋
一萬五千以上	同三十六分ノ九吋	同二十六分ノ九吋	同三十六分ノ九吋	同二十六分ノ九吋	同三十六分ノ九吋	同二十六分ノ九吋	同三十六分ノ九吋	同二十六分ノ九吋	同三十六分ノ九吋	同二十六分ノ九吋	同三十六分ノ九吋	同二十六分ノ九吋	同三十六分ノ九吋	同二十六分ノ九吋
一萬八千未滿	同三十六分ノ九吋	同二十六分ノ九吋	同三十六分ノ九吋	同二十六分ノ九吋	同三十六分ノ九吋	同二十六分ノ九吋	同三十六分ノ九吋	同二十六分ノ九吋	同三十六分ノ九吋	同二十六分ノ九吋	同三十六分ノ九吋	同二十六分ノ九吋	同三十六分ノ九吋	同二十六分ノ九吋
一萬八千以上	同三十六分ノ十吋	同二十六分ノ十吋	同三十六分ノ十吋	同二十六分ノ十吋	同三十六分ノ十吋	同二十六分ノ十吋	同三十六分ノ十吋	同二十六分ノ十吋	同三十六分ノ十吋	同二十六分ノ十吋	同三十六分ノ十吋	同二十六分ノ十吋	同三十六分ノ十吋	同二十六分ノ十吋
二萬一千未滿	同三十六分ノ十吋	同二十六分ノ十吋	同三十六分ノ十吋	同二十六分ノ十吋	同三十六分ノ十吋	同二十六分ノ十吋	同三十六分ノ十吋	同二十六分ノ十吋	同三十六分ノ十吋	同二十六分ノ十吋	同三十六分ノ十吋	同二十六分ノ十吋	同三十六分ノ十吋	同二十六分ノ十吋
二萬一千以上	同三十六分ノ十一吋	同二十六分ノ十一吋	同三十六分ノ十一吋	同二十六分ノ十一吋	同三十六分ノ十一吋	同二十六分ノ十一吋	同三十六分ノ十一吋	同二十六分ノ十一吋	同三十六分ノ十一吋	同二十六分ノ十一吋	同三十六分ノ十一吋	同二十六分ノ十一吋	同三十六分ノ十一吋	同二十六分ノ十一吋
二萬四千未滿	同三十六分ノ十一吋	同二十六分ノ十一吋	同三十六分ノ十一吋	同二十六分ノ十一吋	同三十六分ノ十一吋	同二十六分ノ十一吋	同三十六分ノ十一吋	同二十六分ノ十一吋	同三十六分ノ十一吋	同二十六分ノ十一吋	同三十六分ノ十一吋	同二十六分ノ十一吋	同三十六分ノ十一吋	同二十六分ノ十一吋
二萬四千以上	同三十六分ノ十二吋	同二十六分ノ十二吋	同三十六分ノ十二吋	同二十六分ノ十二吋	同三十六分ノ十二吋	同二十六分ノ十二吋	同三十六分ノ十二吋	同二十六分ノ十二吋	同三十六分ノ十二吋	同二十六分ノ十二吋	同三十六分ノ十二吋	同二十六分ノ十二吋	同三十六分ノ十二吋	同二十六分ノ十二吋
二萬七千未滿	同三十六分ノ十二吋	同二十六分ノ十二吋	同三十六分ノ十二吋	同二十六分ノ十二吋	同三十六分ノ十二吋	同二十六分ノ十二吋	同三十六分ノ十二吋	同二十六分ノ十二吋	同三十六分ノ十二吋	同二十六分ノ十二吋	同三十六分ノ十二吋	同二十六分ノ十二吋	同三十六分ノ十二吋	同二十六分ノ十二吋

第三十章 低船首樓及ヒ低船尾樓

第一條 低船首樓及ヒ低船尾樓ヲ設クル船舶ニ於テハ上甲板ノ高ニ於テ船ノ首尾ヲ通シテ舷側厚板ヲ設クヘシ

低船首樓及ヒ低船尾樓ノ外板ノ厚ハ舷側厚板以下ノ船體上部ノ外板ノ厚鐵ニテ十六分ノ七吋以上ナルトキハ之ヨリ十六分ノ一時ヲ減シ鋼ニテ二十分ノ七吋以上ナルトキハ之ヨリ二十分ノ一時ヲ減スルコトヲ得

第二條 低船尾樓甲板ノ梁、梁上側板、梁上帶板及ヒ甲板ノ寸法ハ上甲板ニ用ウルモノニ等クスヘシ低船尾樓ノ長船ノ長ノ四分ノ一ヲ超エサルトキハ木甲板ノ厚ハ上甲板ノ木甲板ヨリ二分ノ一時ヲ減スルコトヲ得但ニ時半ヨリ小ナルヘカラス

第三條 低船尾樓ノ前端ニハ船橋樓ノ外板ニ等キ厚ノ隔壁ヲ設ケ其ノ後面ニハ第一號表ニ掲クル正肋材ト同寸法ノ山形材ヲ堅ニ三十吋ノ距離ニ取附クヘシ

隔壁ハ上甲板ノ鐵甲板若ハ鋼甲板ニ山形材ヲ以テ固著スヘシ但其ノ隔壁ニ鐵甲板若ハ鋼甲板ノ達セサルトキハ該部上甲板ノ位置ニ其ノ梁上帶板ヨリ小ナラサル鐵板若ハ鋼板ヲ横ニ取附ケ山形材ヲ以テ之ヲ隔壁ニ固著シ上甲板ノ端末ヲ之ニ取附クヘシ又該板ヲ上甲板梁ニ固著セサルトキハ肘板ヲ以テ之ヲ支フヘシ

第四條 低船尾樓ヲ設クル部分ニ於ケル副肋材、梁及ヒ船内縱通材ノ設置ハ第一章第四條ニ規定シタル深ニ上甲板梁ノ上面ヨリ低船尾樓甲板梁ノ上面迄ノ深ヲ加ヘタルモノヲ規程ノ深ニ充テ之ヲ定ムヘシ

前項ノ深二十四呎以上ニシテ船梁ノ船口ノ兩側ニ半梁ヲ附セサルトキハ該船口ノ部分ニ特設肋骨一箇ヲ設ケ之ヲ低船尾樓甲板ノ梁上側板迄達セシムヘシ

第五條 低船尾樓ノ前端ノ前後ニ於テ上甲板ノ舷側厚板ハ適當ナル長ノ間之ヲ二重張ト爲スヘシ

低船尾樓ト船橋樓トヲ連續スルトキハ其ノ部分ノ前後ニ於テ低船尾樓ノ外板ヲ二重張ト爲スカ若ハ低船尾樓ノ外板ノ厚ヲ増シ且舷側厚板ヲ二重張ト爲シ又船橋樓ニ鄰接スル低船尾樓ノ舷側厚板ハ其ノ厚ヲ増シ且船橋樓ノ前端ニ於ケル舷側厚板ヲ二重張ト爲スヘシ

第六條 上甲板ノ梁上側板ハ低船尾樓ノ前端ヨリ大約肋骨ノ心距ノ七倍後部ニ延長シ低船尾樓甲板ノ梁上側板ハ大約肋骨ノ心距ノ四倍前部ニ延長シ又上甲板下ノ梁上側板ハ大約肋骨ノ心距ノ八倍相累ネ肋骨一本置ニ肘板ヲ以テ之ヲ支ヘ且船橋樓ノ梁上側板モ亦適當ナル長ノ間後部ニ延長スヘシ

第七條 上甲板ノ全部又ハ一部ニ鐵甲板若ハ鋼甲板ヲ要スル船舶ニ船ノ長ノ四分ノ一ヲ超ユル低船尾樓ヲ設クルトキハ左ニ掲クル構造ヲ爲スヘシ

船ノ大小及ヒ長ト深トノ割合ニ依リ上甲板ノ鐵甲板若ハ鋼甲板ハ肋骨ノ心距ノ二倍若ハ三倍後部ニ延長シテ低船尾樓甲板ト相累ヌヘシ

低船尾樓ノ前端ニ設クル隔壁ノ後面ニハ第五號表ニ掲クル上甲板ニ等キ厚ノ膜板四箇以上ヲ堅ニ甲板間ニ取附ケ其ノ兩面ニ山形材ヲ用非テ之ヲ隔壁及ヒ上下ノ鐵板若ハ鋼板ニ固著シ且膜板ノ後縁ニハ山形材ヲ取附クヘシ

隔壁ノ前面ニハ前項ノ膜板ヲ附シタル部分ニ幅十五吋ヨリ少カラサル防撓板ヲ取附ケ肘板ヲ以テ之ヲ上下ノ鐵板若ハ鋼板ニ固著スヘシ

第八條 前條ニ規定シタル船舶ニシテ第二數二萬四千以上二萬六千未満ナルトキハ肋骨ノ心距ノ四倍、第二數二萬六千以上ナルトキハ五倍上甲板及ヒ低船尾樓ノ甲板ヲ相累ネ隔壁ノ前面ニ附スル防撓板ノ幅ヲ十八吋以上ト爲シ且船尾ヨリ測リ船ノ長ノ四分ノ一ノ所ヨリ隔壁ノ前部八呎ノ所迄低船尾樓ノ外板ヲ二重張ト爲スヘシ

第九條 上甲板ヲ隔壁ノ後部ニ延長スルコトヲ要セサル船舶ニ於テハ其ノ大小及ヒ長ト深トノ割合ニ依リ隔壁ノ兩面ニ各第五號表ニ掲クル上甲板ニ等キ厚ノ肘板四箇又ハ五箇ヲ豎ニ取附ケ甲板ニ固著スヘシ

第十條 第二數二萬ヲ超ユルカ又ハ深ノ十三倍ヲ超ユル長ヲ有スル船舶ニ於テハ隔壁ト汽機室口ノ後端トノ距離ハ肋骨ノ心距ノ四倍ヨリ少カルヘカラス

第十一條 低船尾樓ノ鐵甲板若ハ鋼甲板ハ其ノ兩面ニ第二甲板ノ梁上側板ニ附スヘキ山形材ニ要スル寸法ノ山形材ヲ附シテ隔壁ニ固著スヘシ

第十二條 低船首樓ヲ設クル船舶ノ構造及ヒ寸法ハ本章中低船尾樓ヲ設クル船舶ニ對シテ定メタルモノニ準スヘシ

第三十一章 過當比例ノ船舶

第一節 總則

第一條 過當比例ノ船舶トハ長、深ノ十一倍ヲ超ユルモノヲ謂フ

過當比例ノ船舶ニハ其ノ長ト深トノ割合及ヒ第二數ニ依リ本章ノ規定ニ從ヒ縱強力ヲ増加スヘキ構造ヲ爲スヘシ

第二條 第二數二萬八千ヲ超ユル船舶ニシテ長、深ノ十一倍ヲ超エ十二倍以下ナルトキハ舷側厚板及ヒ輕甲板舷側板ノ銜接ハ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三間ニ重覆板ヲ附シ又長、深ノ十二倍ヲ

超ユルトキハ舷側甲板ノ下縁ニ鄰接スル外板ノ銜接ニモ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ニ重覆板ヲ附スヘシ

第三條 三層重甲板船ニ於テハ船ノ長、第二甲板梁ノ上面ニ至ル深ノ十一倍ヲ超ユルトキハ彎曲部及ヒ船底ニ於テ本章ニ規定スル構造ヲ爲シ又船ノ長、重甲板梁ノ上部ニ至ル深ノ十一倍ヲ超ユルトキハ總テ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第四條 三層輕甲板船ニ於テハ彎曲部及ヒ船底ニ於テ本章ニ規定スル構造ヲ爲シ其ノ他ノ部分ニ於テ過當比例ノ爲メ縱強力ヲ増加スヘキ構造ハ船ノ長ト輕甲板梁及ヒ第二甲板梁間ノ高ノ二分ノ一ノ所迄ノ深トノ割合ヲ本章ニ規定スル船ノ長ト深トノ割合ニ充テ本章ノ規定ニ依ルヘシ

二層輕甲板船ニ於テハ船ノ長ト輕甲板梁及ヒ第二甲板梁間ノ高ノ三分ノ二ノ所迄ノ深トノ割合ヲ本章ニ規定スル船ノ長ト深トノ割合ニ充テ本章ニ規定スル構造ヲ爲スヘシ
輕甲板船ニ於テハ舷側厚板及ヒ之ニ接スル外板ノ寸法ヲ増加スル代リニ輕甲板舷側板及ヒ之ニ接スル外板ノ寸法ヲ増加スルコトヲ得

第二節 深ノ十一倍ヲ超エ十二倍以下ノ長ヲ有スル船舶

第五條 第二數一萬四百五十未満ノ船舶ニ於テハ左ノ補強ヲ爲スヘシ

- 一 舷側厚板ノ厚ヲ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ハ鐵ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時増スコト
- 二 彎曲部内龍骨ニ中央部二分ノ一間第四號表ニ掲クル第二甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ挿入スルコト
- 三 彎曲部ニ於ケル外板一條ノ厚ヲ中央部二分ノ一間ハ鐵ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時増スコト

- 第六條 第二數一萬四百五十以上一萬五千五百未滿ノ船舶ニ於テハ左ノ補強ヲ爲スヘシ
- 一 舷側厚板ノ厚ヲ中央部ニ於テ船ノ長ノ五分ノ三間ハ鐵ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時増スコト
 - 二 彎曲部内龍骨ニ中央部二分ノ一間第四號表ニ掲クル第二甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ挿入スルコト
 - 三 彎曲部ニ於ケル外板一條ノ厚ヲ中央部二分ノ一間ハ鐵ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時増スコト
- 第七條 第二數一萬五千五百以上一萬八千七百未滿ノ船舶ニ於テハ左ノ補強ヲ爲スヘシ
- 一 舷側厚板ノ厚ヲ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三間ハ鐵ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時増スコト
 - 二 彎曲部内龍骨ニ中央部二分ノ一間第四號表ニ掲クル第二甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ挿入スルコト
 - 三 彎曲部ニ於ケル外板一條ノ厚ヲ中央部二分ノ一間ハ鐵ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時増スコト
- 第八條 第二數一萬八千七百以上二萬六千未滿ノ船舶ニ於テハ左ノ補強ヲ爲スヘシ
- 一 舷側厚板ノ厚ヲ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三間ハ鐵ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時増スコト
 - 二 彎曲部内龍骨ニ中央部五分ノ三間第四號表ニ掲クル第二甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ挿入スルコト
 - 三 彎曲部ニ於ケル外板二條ノ厚ヲ中央部二分ノ一間ハ鐵ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時増スコト

- ハ二十分ノ一時増スコト
- 第九條 第二數二萬六千以上三萬五千未滿ノ船舶ニ於テハ左ノ補強ヲ爲スヘシ
- 一 舷側厚板ノ厚ヲ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三間ハ鐵ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時増スコト
 - 二 舷側厚板ノ下縁ニ鄰接スル外板ノ厚ヲ中央部二分ノ一間ハ鐵ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時増スコト
 - 三 翼内龍骨ニ中央部二分ノ一間第四號表ニ掲クル第二甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ挿入スルコト
 - 四 彎曲部内龍骨ニ中央部五分ノ三間前號ノ球板ト同寸法ノ球板ヲ挿入シ且中央部二分ノ一間斷切板ヲ取附クルコト
 - 五 彎曲部縦通材ニ中央部二分ノ一間斷切板ヲ取附クルコト
- 第十條 第二數三萬五千以上四萬未滿ノ船舶ニ於テハ左ノ補強ヲ爲スヘシ
- 一 舷側厚板ノ厚ヲ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三間ハ鐵ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時増スコト
 - 二 舷側厚板ノ下縁ニ鄰接スル外板ノ厚ヲ中央部二分ノ一間ハ鐵ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時増スコト
 - 三 翼内龍骨ニ中央部二分ノ一間斷切板ヲ取附クルコト但斷切板ニ取附ケ其ノ厚ハ第三號表ニ掲クル中心線單板内龍骨ノ堅板ニ等クシ深ハ其ノ兩面上下ニ同表ニ掲クル山形材ヲ取附ケ得ヘキモノト爲スヘシ
 - 四 彎曲部内龍骨ニ中央部三分ノ二間第四號表ニ掲クル第二甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球

- 板ヲ挿入シ且中央部二分ノ一間斷切板ヲ取附クルコト
- 五 彎曲部縦通材ニ中央部五分ノ三間斷切板ヲ取附クルコト
- 第十一條 第二數四萬以上五萬未滿ノ船舶ニ於テハ左ノ補強ヲ爲スヘシ
 - 一 舷側厚板ノ厚ヲ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三間ハ鐵ナルトキハ十六分ノ二吋、鋼ナルトキハ二十分ノ二吋増スコト
 - 二 舷側厚板ノ下縁ニ鄰接スル外板ノ厚ヲ中央部二分ノ一間ハ鐵ナルトキハ十六分ノ二吋、鋼ナルトキハ二十分ノ二吋増スコト
 - 三 重甲板ノ梁上側板、輕甲板ノ梁上側板及ヒ覆甲板船ノ第二甲板ノ梁上側板ノ厚ヲ中央部五分ノ三間ハ鐵ナルトキハ十六分ノ二吋、鋼ナルトキハ二十分ノ二吋増スコト
 - 四 翼内龍骨ニ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間豎板ヲ取附クルコト但豎板ハ斷切板ニ取附ケ其ノ厚ハ第三號表ニ掲クル中心線單板内龍骨ノ豎板ニ等クシ深ハ其ノ兩面上下ニ同表ニ掲クル山形材ヲ取附ケ得ヘキモノト爲スヘシ
 - 五 彎曲部内龍骨ニ中央部五分ノ三間第四號表ニ掲クル第二甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ挿入シ且中央部二分ノ一間斷切板ヲ取附クルコト
 - 六 彎曲部縦通材ニ中央部五分ノ三間斷切板ヲ取附クルコト
 - 第三節 深ノ十二倍ヲ超ユ十三倍以下ノ長ヲ有スル船舶
- 第十二條 第二數一萬四百五十未滿ノ船舶ニ於テハ本章第八條ニ規定シタル補強ヲ爲スヘシ
- 第十三條 第二數一萬四百五十以上一萬八千七百未滿ノ船舶ニ於テハ左ノ補強ヲ爲スヘシ
 - 一 舷側厚板ノ厚ヲ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三間ハ鐵ナルトキハ十六分ノ二吋、鋼ナルトキハ二十分ノ二吋増スコト

- 二 舷側厚板ノ下縁ニ鄰接スル外板ノ厚ヲ中央部二分ノ一間ハ鐵ナルトキハ十六分ノ二吋、鋼ナルトキハ二十分ノ二吋増スコト
- 三 彎曲部内龍骨ニ中央部五分ノ三間第四號表ニ掲クル第二甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ挿入スルコト
- 四 彎曲部ニ於ケル外板二條ノ厚ヲ中央部二分ノ一間ハ鐵ナルトキハ十六分ノ二吋、鋼ナルトキハ二十分ノ二吋増スコト
- 第十四條 第二數一萬八千七百以上二萬六千未滿ノ船舶ニ於テハ左ノ補強ヲ爲スヘシ
 - 一 舷側厚板ノ厚ヲ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三間ハ鐵ナルトキハ十六分ノ二吋、鋼ナルトキハ二十分ノ二吋増スコト
 - 二 舷側厚板ノ下縁ニ鄰接スル外板ノ厚ヲ中央部二分ノ一間ハ鐵ナルトキハ十六分ノ二吋、鋼ナルトキハ二十分ノ二吋増スコト
 - 三 彎曲部内龍骨ニ中央部五分ノ三間第四號表ニ掲クル第二甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ挿入スルコト
 - 四 彎曲部縦通材ニ中央部二分ノ一間斷切板ヲ取附クルカ若ハ彎曲部ニ於ケル外板三條ノ厚ヲ中央部二分ノ一間ハ鐵ナルトキハ十六分ノ二吋、鋼ナルトキハ二十分ノ二吋増スコト
- 第十五條 第二數二萬六千以上三萬五千未滿ノ船舶ニ於テハ左ノ補強ヲ爲スヘシ
 - 一 舷側厚板ノ厚ヲ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三間ハ鐵ナルトキハ十六分ノ二吋、鋼ナルトキハ二十分ノ二吋増スコト
 - 二 舷側厚板ノ下縁ニ鄰接スル外板ノ厚ヲ中央部二分ノ一間ハ鐵ナルトキハ十六分ノ二吋、鋼ナルトキハ二十分ノ二吋増スコト

- 三 重甲板ノ梁上側板、輕甲板ノ梁上側板及ヒ覆甲板船ノ第二甲板ノ梁上側板ノ厚ヲ中央部五分ノ三間ハ鐵ナルトキハ十六分ノ二吋、鋼ナルトキハ二十分ノ二吋増スコト
 - 四 翼内龍骨ニ中央部二分ノ一間第四號表ニ掲クル第二甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ挿入スルコト
 - 五 彎曲部内龍骨ニ中央部五分ノ三間前號ノ球板ト同寸法ノ球板ヲ挿入シ且中央部二分ノ一間斷切板ヲ取附クルコト
 - 六 彎曲部縱通材ニ中央部二分ノ一間斷切板ヲ取附クルコト
- 第十六條 第二數三萬五千以上四萬未滿ノ船舶ニ於テハ左ノ補強ヲ爲スヘシ
- 一 舷側厚板ヲ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三間ハ二重張ト爲スコト
 - 二 重甲板ノ梁上側板、輕甲板ノ梁上側板及ヒ覆甲板船ノ第二甲板ノ梁上側板ノ厚ヲ中央部五分ノ三間ハ鐵ナルトキハ十六分ノ二吋、鋼ナルトキハ二十分ノ二吋増スコト
 - 三 翼内龍骨ニ中央部二分ノ一間斷切板ヲ取附クルコト但斷切板ニ取附ケ其ノ厚ハ第三號表ニ掲クル中心線單板内龍骨ノ斷板ニ等クシ深ハ其ノ兩面上下ニ同表ニ掲クル山形材ヲ取附ケ得ヘキモノト爲スヘシ
 - 四 彎曲部内龍骨ニ中央部五分ノ三間第四號表ニ掲クル第二甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ挿入シ且中央部二分ノ一間斷切板ヲ取附クルコト
 - 五 彎曲部縱通材ニ中央部五分ノ三間斷切板ヲ取附クルコト
- 第十七條 第二數四萬以上五萬未滿ノ船舶ニ於テハ左ノ補強ヲ爲スヘシ
- 一 舷側厚板ヲ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三間ハ二重張ト爲スコト
 - 二 舷側厚板ノ下縁ニ鄰接スル外板ノ厚ヲ中央部二分ノ一間ハ鐵ナルトキハ十六分ノ二吋、鋼ナルトキハ二十分ノ二吋増スコト

- 三 重甲板ノ梁上側板、輕甲板ノ梁上側板及ヒ覆甲板船ノ第二甲板ノ梁上側板ノ厚ヲ中央部五分ノ三間ハ鐵ナルトキハ十六分ノ二吋、鋼ナルトキハ二十分ノ二吋増スコト
 - 四 翼内龍骨ニ中央部二分ノ一間斷切板ヲ取附クルコト但斷切板ニ取附ケ其ノ厚ハ第三號表ニ掲クル中心線單板内龍骨ノ斷板ニ等クシ深ハ其ノ四分ノ三ニ等カラシメ其ノ兩面上下ニ同表ニ掲クル山形材ヲ取附ケヘシ
 - 五 彎曲部内龍骨ニ中央部五分ノ三間第四號表ニ掲クル第二甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ挿入シ且中央部二分ノ一間斷切板ヲ取附クルコト
 - 六 彎曲部縱通材ニ中央部五分ノ三間斷切板ヲ取附クルコト
- 第四節 深ノ十三倍ヲ超エ十四倍以下ノ長ヲ有スル船舶
- 第十八條 第二數一萬四百五十未滿ノ船舶ニ於テハ左ノ補強ヲ爲スヘシ
- 一 舷側厚板ニ中央部ニ於テ船ノ長ノ五分ノ三間幅十八吋ノ二重張板ヲ取附クルコト
 - 二 山形材二枚合セノ翼内龍骨ヲ設クルコト
 - 三 彎曲部内龍骨ニ中央部五分ノ三間第四號表ニ掲クル第二甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ挿入スルコト
 - 四 彎曲部縱通材ニ中央部二分ノ一間前號ノ球板ト同寸法ノ球板ヲ挿入スルコト
 - 五 彎曲部ニ於ケル外板二條ノ厚ヲ中央部二分ノ一間ハ鐵ナルトキハ十六分ノ二吋、鋼ナルトキハ二十分ノ二吋増スコト
- 第十九條 第二數一萬四百五十以上一萬五千五百未滿ノ船舶ニ於テハ左ノ補強ヲ爲スヘシ
- 一 舷側厚板ニ中央部ニ於テ船ノ長ノ五分ノ三間幅二十吋ノ二重張板ヲ取附クルコト

- 二 翼内龍骨ニ断切板ヲ取附クルコト
 - 三 彎曲部内龍骨ニ中央部五分ノ三間第四號表ニ掲クル第二甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ挿入スルコト
 - 四 船梁ノ設ナキトキハ彎曲部縦通材ニ中央部二分ノ一間前號ノ球板ト同寸法ノ球板ヲ挿入スルコト
 - 五 彎曲部ニ於ケル外板二條ノ厚ヲ中央部二分ノ一間鐵ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時増スコト
- 第二十條 第二數一萬五千五百以上一萬八千七百未滿ノ船舶ニ於テハ左ノ補強ヲ爲スヘシ
- 一 舷側厚板ヲ中央部ニ於テ船ノ長ノ五分ノ三間ハ梁上側板ノ下部ニ於テ二重張ト爲スコト
 - 二 彎曲部内龍骨ニ中央部五分ノ三間第四號表ニ掲クル第二甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ挿入スルコト
 - 三 彎曲部縦通材ニ中央部二分ノ一間断切板ヲ取附クルカ若ハ彎曲部ニ於ケル外板三條ノ厚ヲ中央部二分ノ一間ハ鐵ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時増スコト
- 第二十一條 第二數一萬八千七百以上二萬六千未滿ノ船舶ニ於テハ左ノ補強ヲ爲スヘシ
- 一 舷側厚板ヲ中央部ニ於テ船ノ長ノ五分ノ三間ハ梁上側板ノ下部ニ於テ二重張ト爲スコト
 - 二 重甲板ノ梁上側板、輕甲板ノ梁上側板及ヒ覆甲板船ノ第二甲板ノ梁上側板ノ厚ヲ中央部二分ノ一間ハ鐵ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時増スコト
 - 三 彎曲部内龍骨ニ中央部五分ノ三間第四號表ニ掲クル第二甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ挿入スルコト
 - 四 彎曲部縦通材ニ中央部二分ノ一間断切板ヲ取附クルコト

- 第二十二條 第二數二萬六千以上三萬五千未滿ノ船舶ニ於テハ左ノ補強ヲ爲スヘシ
- 一 舷側厚板ヲ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三間ハ二重張ト爲スコト
 - 二 重甲板ノ梁上側板、輕甲板ノ梁上側板及ヒ覆甲板船ノ第二甲板ノ梁上側板ノ厚ヲ中央部五分ノ三間ハ鐵ナルトキハ十六分ノ二時、鋼ナルトキハ二十分ノ二時増スコト
 - 三 中心線内龍骨ノ堅板ノ深ハ第三號表ニ掲クル寸法ニ其ノ四分ノ一ヲ増スコト
 - 四 翼内龍骨ニ中央部二分ノ一ノ第四號表ニ掲クル第二甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ挿入スルコト
 - 五 彎曲部内龍骨ニ中央部五分ノ三間前號ノ球板ト同寸法ノ球板ヲ挿入シ且中央部二分ノ一間断切板ヲ取附クルコト
 - 六 彎曲部縦通材ニ中央部五分ノ三間断切板ヲ取附クルコト
- 第二十三條 第二數三萬五千以上四萬未滿ノ船舶ニ於テハ左ノ補強ヲ爲スヘシ
- 一 舷側厚板ヲ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三間ハ二重張ト爲スコト
 - 二 舷側板ノ下縁ニ鄰接スル外板ヲ中央部二分ノ一間ハ二重張ト爲スコト
 - 三 重甲板ノ梁上側板、輕甲板ノ梁上側板及ヒ覆甲板船ノ第二甲板ノ梁上側板ノ厚ヲ中央部五分ノ三間ハ鐵ナルトキハ十六分ノ二時、鋼ナルトキハ二十分ノ二時増スコト
 - 四 中心線内龍骨ノ堅板ノ深ハ第三號表ニ掲クル寸法ニ其ノ四分ノ一ヲ増スコト
 - 五 翼内龍骨ニ中央部二分ノ一間堅板ヲ取附クルコト但堅板ハ断切板ニ取附ケ其ノ厚ハ第三號表ニ掲クル中心線單板内龍骨ノ堅板ニ等クシ深ハ其ノ四分ノ三ニ等カラシメ其ノ兩面上下ニ同表ニ掲クル山形材ヲ取附クヘシ
 - 六 彎曲部内龍骨ニ中央部五分ノ三間第四號表ニ掲クル第二甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球

板ヲ挿入シ且中央部二分ノ一間斷切板ヲ取附クルコト

七 彎曲部縱通材ニ中央部五分ノ三間斷切板ヲ取附クルコト

第二十四條 第二數四萬以上五萬未滿ノ船舶ニ於テハ左ノ補強ヲ爲スヘシ

一 舷側厚ヲ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三間ハ二重張ト爲スコト

二 舷側厚板ノ下縁ニ鄰接スル外板ヲ中央部二分ノ一間ハ二重張ト爲スコト

三 重甲板ノ梁上側板、輕甲板ノ梁上側板及ヒ覆甲板船ノ第二甲板ノ梁上側板ニ中央部五分ノ三間幅四十二吋ノ二重張板ヲ取附クルコト

四 中心線内龍骨ノ豎板ノ深ハ第三號表ニ掲クル寸法ニ其ノ四分ノ一ヲ増スコト

五 翼内龍骨ニ中央部二分ノ一間豎板ヲ取附クルコト但豎板ハ斷切板ニ取附ケ其ノ厚ハ第三號表ニ掲クル中心線單板内龍骨ノ豎板ニ等クシ深ハ其ノ四分ノ三ニ等カラシメ其ノ兩面上下ニ同表ニ掲クル山形材ヲ取附クヘシ

六 彎曲部内龍骨ニ中央部二分ノ一間豎板ヲ取附クルコト但豎板ハ斷切板ニ取附ケ其ノ厚ハ第三號表ニ掲クル中心線單板内龍骨ノ豎板ニ等クシ深ハ其ノ兩面上下ニ同表ニ掲クル山形材ヲ取附ケ得ヘキモノト爲スヘシ

七 彎曲部縱通材ニ中央部五分ノ三間斷切板ヲ取附クルコト

第五節 深ノ十四倍ヲ超エ十五倍以下ノ長ヲ有スル船舶

第二十五條 第二數一萬四百五十未滿ノ船舶ニ於テハ左ノ補強ヲ爲スヘシ

一 舷側厚板ニ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三間幅二十吋ノ二重張板ヲ取附クルコト

二 船ノ首尾ヲ通シテ二枚ノ山形材間ニ第四號表ニ掲クル第二甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ

球板ヲ挿入シタル翼内龍骨ヲ設クルコト

三 彎曲部内龍骨ニ中央部五分ノ三間前號ノ球板ト同寸法ノ球板ヲ挿入スルコト

四 彎曲部縱通材ニ中央部二分ノ一間前號ノ球板ト同寸法ノ球板ヲ挿入シ且中央部二分ノ一間斷切板ヲ取附クルカ若ハ斷切板ノ代リニ彎曲部ニ於ケル外板一條ヲ中央部二分ノ一間ハ二重張ト爲スコト

第二十六條 第二數一萬四百五十以上一萬五千五百未滿ノ船舶ニ於テハ左ノ補強ヲ爲スヘシ

一 舷側厚板ヲ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三間ハ梁上側板ノ下部ニ於テ二重張ト爲スコト

二 翼内龍骨ニ斷切板ヲ取附クルコト

三 彎曲部内龍骨ニ中央部五分ノ三間第四號表ニ掲クル第二甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ挿入スルコト

四 彎曲部縱通材ニ中央部二分ノ一間斷切板ヲ取附クルカ若ハ彎曲部ニ於ケル外板一條ヲ中央部二分ノ一間ハ二重張ト爲スコト

第二十七條 第二數一萬五千五百以上一萬八千七百未滿ノ船舶ニ於テハ左ノ補強ヲ爲スヘシ

一 舷側厚板ヲ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三間ハ梁上側板ノ下部ニ於テ二重張ト爲スコト

二 重甲板ノ梁上側板、輕甲板ノ梁上側板及ヒ覆甲板船ノ第二甲板ノ梁上側板ノ厚ヲ中央部二分ノ一間ハ鐵ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時増スコト

三 彎曲部内龍骨ニ中央部五分ノ三間第四號表ニ掲クル第二甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ挿入スルコト

四 彎曲部縱通材ニ中央部二分ノ一間斷切板ヲ取附クルカ若ハ彎曲部ニ於ケル外板一條ヲ中央部二分ノ一間ハ二重張ト爲スコト

- 第二十八條 第二數一萬八千七百以上二萬六千未滿ノ船舶ニ於テハ左ノ補強ヲ爲スヘシ
- 一 舷側厚板ヲ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三間ハ二重張ト爲スコト
 - 二 重甲板ノ梁上側板、輕甲板ノ梁上側板及ヒ覆甲板船ノ第二甲板ノ梁上側板ノ厚ヲ中央部二分ノ一間ハ鐵ナルトキハ十六分ノ二吋、鋼ナルトキハ二十分ノ二吋増スコト
 - 三 中心線内龍骨ノ豎板ノ深ハ第三號表ニ掲クル寸法ニ其ノ四分ノ一ヲ増スコト
 - 四 翼内龍骨ニ中央部二分ノ一間第四號表ニ掲クル第二甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ挿入スルコト
 - 五 彎曲部内龍骨ニ中央部三分ノ二間前號ノ球板ト同寸法ノ球板ヲ挿入スルコト
 - 六 彎曲部縦通材ニ中央部二分ノ一間斷切板ヲ取附クルコト
- 第二十九條 第二數二萬六千以上三萬五千未滿ノ船舶ニ於テハ左ノ補強ヲ爲スヘシ
- 一 舷側厚板ヲ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三間ハ二重張ト爲スコト
 - 二 舷側厚板ノ下縁ニ鄰接スル外板ヲ中央部二分ノ一間ハ二重張ト爲スコト
 - 三 重甲板ノ梁上側板、輕甲板ノ梁上側板及ヒ覆甲板船ノ第二甲板ノ梁上側板ノ厚ヲ中央部五分ノ三間ハ鐵ナルトキハ十六分ノ二吋、鋼ナルトキハ二十分ノ二吋増スコト
 - 四 中心線内龍骨ノ豎板ノ深ハ第三號表ニ掲クル寸法ニ其ノ四分ノ一ヲ増スコト
 - 五 翼内龍骨ニ中央部二分ノ一間豎板ヲ取附クルコト但豎板ハ斷切板ニ取附ケ其ノ厚ハ第三號表ニ掲クル中心線單板内龍骨ノ豎板ニ等クシ深ハ其ノ兩面上下ニ同表ニ掲クル山形材ヲ取附ケ得ヘキモノト爲スヘシ
 - 六 彎曲部内龍骨ニ中央部三分ノ二間第四號表ニ掲クル第二甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ挿入シ且中央部五分ノ三間斷切板ヲ取附クルコト

- 七 彎曲部縦通材ニ中央部五分ノ三間斷切板ヲ取附クルコト
- 第三十條 第二數三萬五千以上四萬未滿ノ船舶ニ於テハ本章第二十四條ニ規定シタル補強ヲ爲スヘシ
- 第六節 深ノ十五倍ヲ超エ十六倍以下ノ長ヲ有スル船舶
- 第三十一條 第二數一萬四百五十以上一萬五千五百未滿ノ船舶ニ於テハ左ノ補強ヲ爲スヘシ
- 一 舷側厚板ヲ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三間ハ梁上側板ノ下部ニ於テ二重張ト爲スコト
 - 二 該側厚板ノ下縁ニ鄰接スル外板ノ厚ヲ中央部二分ノ一間ハ鐵ナルトキハ十六分ノ一吋、鋼ナルトキハ二十分ノ一吋増スコト
 - 三 翼内龍骨ニ斷切板ヲ取附クルコト
 - 四 彎曲部内龍骨ニ中央部五分ノ三間第四號表ニ掲クル第二甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ挿入スルコト
 - 五 彎曲部縦通材ニ中央部二分ノ一間斷切板ヲ取附クルカ若ハ彎曲部ニ於ケル外板一條ヲ中央部二分ノ一間ハ二重張ト爲スコト
- 第三十二條 第二數一萬五千五百以上一萬八千七百未滿ノ船舶ニ於テハ左ノ補強ヲ爲スヘシ
- 一 舷側厚板ヲ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三間ハ二重張ト爲スコト
 - 二 舷側厚板ノ下縁ニ鄰接スル外板ノ厚ヲ中央部二分ノ一間ハ鐵ナルトキハ十六分ノ二吋、鋼ナルトキハ二十分ノ二吋増スコト
 - 三 彎曲部内龍骨ニ中央部五分ノ三間斷切板ヲ取附クルコト
 - 四 彎曲部縦通材ニ中央部二分ノ一間斷切板ヲ取附クルカ若ハ彎曲部ニ於ケル外板一條ヲ中央部二分ノ一間ハ二重張ト爲スコト

第三十三條 第二數一萬八千七百以上二萬六千未滿ノ船舶ニ於テハ左ノ補強ヲ爲スヘシ

- 一 舷側厚板ヲ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三間ハ二重張ト爲スコト
 - 二 舷側厚板ノ下縁ニ鄰接スル外板ヲ中央部二分ノ一間ハ二重張ト爲スコト
 - 三 重甲板ノ梁上側板、輕甲板ノ梁上側板及ヒ覆甲板船ノ第二甲板ノ梁上側板ノ厚ヲ中央部二分ノ一間ハ鐵ナルトキハ十六分ノ二吋、鋼ナルトキハ二十分ノ二吋増スコト
 - 四 中心線内龍骨ノ堅板ノ深ハ第三號表ニ掲クル寸法ニ其ノ四分ノ一ヲ増スコト
 - 五 翼内龍骨ニ中央部二分ノ一間第四號表ニ掲クル第二甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ挿入スルコト
 - 六 彎曲部内龍骨ニ中央部五分ノ三間前號ノ球板ト同寸法ノ球板ヲ挿入シ且中央部二分ノ一間斷切板ヲ取附クルコト
 - 七 彎曲部縦通材ニ中央部五分ノ三間斷切板ヲ取附ルコト
- 第三十四條 第二數二萬六千以上三萬五千未滿ノ船舶ニ於テハ左ノ補強ヲ爲スヘシ
- 一 舷側厚板ヲ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三間ハ二重張ト爲スコト
 - 二 舷側厚板ノ下縁ニ鄰接スル外板ヲ中央部五分ノ三間ハ二重張ト爲スコト
 - 三 重甲板ノ梁上側板、輕甲板ノ梁上側板及ヒ覆甲板船ノ第二甲板ノ梁上側板ニ中央部二分ノ一間幅四十吋ノ二重張板ヲ取附クルコト
 - 四 中心線内龍骨ノ堅板ノ深ハ第三號表ニ掲クル寸法ニ其ノ四分ノ一ヲ増スコト
 - 五 翼内龍骨ニ中央部二分ノ一間堅板ヲ取附クルコト但堅板ハ斷切板ニ取附ケ其ノ厚ハ第三號表ニ掲クル中心線單板内龍骨ノ堅板ニ等クシ深ハ其ノ四分ノ三ニ等カラシメ其ノ兩面上下ニ同表ニ掲クル山形材ヲ取附クヘシ

六 彎曲部内龍骨ニ中央部三分ノ二間第四號表ニ掲クル第二甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ挿入シ且中央部五分ノ三間ハ斷切板ヲ取附クルコト

七 彎曲部縦通材ニ中央部五分ノ三間斷切板ヲ取附クルコト

第三十五條 第二數三萬五千以上四萬未滿ノ船舶ニ於テハ左ノ補強ヲ爲スヘシ

- 一 舷側厚板ヲ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三間ハ二重張ト爲スコト
 - 二 舷側厚板ノ下縁ニ鄰接スル外板ヲ中央部五分ノ三間ハ二重張ト爲スコト
 - 三 舷側厚板ノ下部二枚目ノ外板ヲ中央部二分ノ一間ハ二重張ト爲スコト
 - 四 重甲板ノ梁上側板、輕甲板ノ梁上側板及ヒ覆甲板船ノ第二甲板ノ梁上側板ニ中央部五分ノ三間幅五十吋ノ二重張板ヲ取附クルコト
 - 五 中心線内龍骨ノ堅板ノ深ハ第三號表ニ掲クル寸法ニ其ノ四分ノ一ヲ増スコト
 - 六 翼内龍骨ニ中央部二分ノ一間堅板ヲ取附クルコト但堅板ハ斷切板ニ取附ケ其ノ厚ハ第三號表ニ掲クル中心線内龍骨ノ堅板ニ等クシ深ハ其ノ四分ノ三ニ等カラシメ其ノ兩面上下ニ同表ニ掲クル山形材ヲ取附クヘシ
 - 七 彎曲部内龍骨ニ中央部二分ノ一間前號ノ堅板ト同寸法ノ堅板ヲ取附クルコト
 - 八 彎曲部縦通材ニ中央部五分ノ三間斷切板ヲ取附クルコト
- 第三十二章 艙口、機關室口其ノ他甲板上下ノ諸口
- 第一條 艙口兩端ノ梁ニハ其ノ兩面ニ山形材ヲ取附クル代リニ之ト同強力ノ山形材一箇ヲ梁ノ外面ニ取附ケ之ニ縁材ヲ固著シ且必要ナルトキハ該梁ニ鐵板若ハ鋼板ヲ附シテ甲板ノ端末ヲ固著スルコトヲ得ヘカラシムヘシ又艙口ノ兩側ニ沿ヒ梁上帶板ノ設ナキトキハ其ノ梁上帶板ニ要スル寸法

ノ板ヲ附シテ縁材ヲ固著スヘシ

第二條 上甲板及ヒ第二甲板ノ艙口ノ長十二呎以上十六呎以下ナルトキハ其ノ中央ニ取外シ得ヘキ堅牢ノ梁ヲ設ケ其ノ梁枝ヲ縁材ノ下端迄達セシメ長十六呎ヲ超エ二十呎以下ナルトキハ其ノ中央ニ縦梁ノ下部迄達スヘキ深ニシテ兩面上下ニ山形材ヲ附シタル板梁ヲ設ケ且艙口ノ兩側ニ第五號表ニ掲クル梁上帶板ノ幅ノ二倍ニ等キ幅ヲ有スル鐵板若ハ鋼板ヲ取附ケ之ヲ艙口ノ前後ニ於テ梁ノ心距ノ二倍ノ所迄達セシムヘシ又長二十呎ヲ超ユルトキハ板梁ノ數ヲ増シ且梁上側板及ヒ梁上帶板ノ幅ヲ増スヘシ但艙口ノ幅、船ノ幅ノ五分ノ二ヲ超ユルカ又ハ其ノ長、船ノ長ノ十分ノ一ヲ超ユルトキハ其ノ兩側ニ鐵板若ハ鋼板ヲ張詰メ之ヲ其ノ前後ニ於テ梁ノ心距ノ二倍ノ所迄延長シ尙之ヨリ前後ニ於テハ漸次其ノ幅ヲ減シテ梁上側板ニ會セシムヘシ

第三條 上甲板ニ設クル艙口、載炭口、出入口、天窗、通風器等ノ縁材ハ甲板上十八吋以上ノ高ニ造リ鐵製若ハ鋼製ト爲シ暴露甲板ノ船首ニ設クル出入口ニハ堅牢ナル鐵製若ハ鋼製ノ覆蓋ヲ設クヘシ

艙口ノ縁材ノ厚ハ船尾樓ニ要スル外板ノ厚ニ鐵ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時増シタルモノヨリ小ナルヘカラス且縁材ノ高三十吋以上ナルトキ又ハ艙口ノ長二十呎ヲ超ユルトキハ其ノ厚ヲ鋼ナルトキハ二十分ノ一時増スヘシ

艙口及ヒ載炭口ニハ厚二吋二分ノ一以上ノ本製蓋板ヲ附シ之ヲ支フル爲メ縁材一本又艙口ノ幅十呎ヲ超ユルトキハ縁材三本ヲ設ケ且覆布ヲ以テ密閉シ得ヘキ裝置ヲ爲スヘシ

第四條 艙口、機關室口其ノ他甲板上諸口ノ兩側ニハ該口兩端ノ梁ノ球板ト同寸法ノ縦梁ヲ設ケ之ヲ兩端ノ梁ニ二本ツ、ノ山形材ヲ以テ固著シ又該口ノ縁材ニ鐵板若ハ鋼板ヲ用ウルトキハ之ヲ兩端ノ梁及ヒ縦梁ノ球ノ上邊ニ達セシムヘシ又特ニ縁材ノ厚ヲ増シ其ノ下端ニ半圓材ヲ附スルカ又

ハ其ノ他相當ノ補強ヲ爲ストキハ縦梁ヲ設ケサルコトヲ得

半梁ハ縦梁又ハ縁材ニ二本ノ山形材ヲ以テ固著スヘシ但肋骨毎ニ半梁ヲ設クルトキハ一本ノ山形材ヲ以テ固著スルモ妨ナシ

縁材ヲ梁又ハ梁上帶板ニ固著スヘキ山形材ノ堅邊ノ幅ハ木甲板ヲ張ル場合ニ於テハ該甲板ノ厚ヨリ二分ノ一時大ナラシムヘシ

第五條 上甲板及ヒ橋ヲ楔止メト爲スヘキ甲板ニ於テ橋ノ前後ノ梁間ニハ橋孔板ヲ設ケ之ニ鐵甲板若ハ鋼甲板ヲ張ル場合ヲ除キ梁上側板ニ要スルモノヨリ少カラサル厚ト橋徑ノ二倍ヨリ少カラサル幅トヲ有スル鐵板若ハ鋼板ヲ張ルヘシ

橋孔板ニハ橋孔ノ周縁ニ第一號表ニ掲クル正肋材ノ廣邊ヨリ大ナル堅邊ノ幅ヲ有スル山形材ヲ取附クヘシ

第六條 汽機室口及ヒ汽罐室口ハ成ルヘク小サク之ヲ造リ其ノ周圍ニハ縁材ヲ取附ケ最下層甲板以上ニ圍壁ヲ設ケ圍壁ノ内部ニハ堅三十吋ノ距離ニ於テ第一號表ニ掲クル副肋材ト同寸法ノ山形材ヲ縁材ニ通シテ取附ケ其ノ上端ハ肘板ヲ以テ頂板ニ固著シ又圍壁ノ上部ニハ横ニ隔壁ヲ設ケテ適宜ニ分畫ヲ爲シ且山形材ヲ以テ之ヲ頂板及ヒ圍壁ニ固著スヘシ

第七條 上甲板ニ設クル汽機室口及ヒ汽罐室口ニハ甲板上十八吋ヨリ低カラスシテ甲板梁ノ下端ニ達スヘキ縁材ヲ設ケ之ニ甲板上ノ高六呎以上ノ鐵製若ハ鋼製ノ圍壁ヲ取附ケ其ノ上端ニ天窗ヲ設クヘシ但覆甲板ナルトキハ圍壁ノ上端ニ高九吋ヨリ低カラサル縁材ヲ取附ケ之ニ鐵製若ハ鋼製ノ蓋板ヲ備フルトキハ甲板上圍壁ノ高ヲ四呎六吋迄ニ減スルコトヲ得

船橋樓甲板若ハ船尾樓甲板ニ設クル汽機室口又ハ汽罐室口ニハ縁材ノ高ヲ二呎以上ト爲ストキハ前項ノ圍壁ヲ於ケサルコトヲ得

甲板間ニ於ケル汽機室口及ヒ汽罐室口ノ圍壁ハ上下兩層ノ甲板梁ニ固著スヘシ
 圍壁ノ厚ハ船尾樓ニ要スヘキ外板ヨリ少カラサルヘク綠材ノ厚ハ鐵ナルトキハ圍壁ヨリ十六分ノ
 一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時ヲ増スヘシ但直接ニ波浪ヲ受ケサル部分ニ於テハ其ノ厚ヲ減ス
 ルコトヲ得

第八條 汽機室口及ヒ汽罐室口ノ圍壁ニハ甲板上十八吋以上ノ高ニ於テ出入口ヲ設クルコトヲ得但
 之ヲ設ケタルトキハ鐵製若ハ鋼製ノ戸ヲ備フヘシ

第九條 汽機室口又ハ汽罐室口ノ長十五呎ヲ超ユルカ若ハ其ノ合長三十呎ヲ超ユルトキハ其ノ兩側
 ニ於テ梁上側板ト梁上帶板トノ間ニ第五號表ニ掲クル鐵甲板若ハ鋼甲板ト同厚ノ板ヲ張詰メ之ヲ
 其ノ前後ニ於テ梁ノ心距ノ二倍延長シ尙之ヨリ前後ニ於テハ漸次其ノ幅ヲ減シテ梁上側板ニ會セ
 シムヘシ

汽機室口、汽罐室口、艙口等ノ距離梁ノ心距ノ二倍ヲ超ユサルトキハ該口間ノ甲板ニハ鐵板若ハ
 鋼板ヲ張詰ムヘシ

第三十三章 載貨門及ヒ載炭門

第一條 舷側厚板又ハ輕甲板舷側板ノ下部ニ載貨門又ハ載炭門ヲ設クルトキハ該部分ニ於テ舷側厚
 板又ハ輕甲板舷側板ヲ二重張ト爲シ之ヲ其ノ前後ニ於テ肋骨ノ心距ノ二倍乃至三倍ノ所迄延長シ
 且該門ヲ設クル爲メ肋骨二本以上ヲ切斷スルトキハ其ノ前後兩端ニ幅ハ正肋材ノ縱邊ノ幅ノ三、
 五倍、厚ハ之ニ等キ防撓桁板ヲ甲板間ニ設ケ其ノ上端ハ上甲板梁ニ固著スルカ又ハ山形材二本ヲ
 以テ上甲板ノ梁上側板ニ固著シ下端ハ山形材二本ヲ以テ第二甲板ノ梁上側板ニ固著スヘシ

第二條 載貨門及ヒ載炭門ノ周圍ニハ堅牢ナル綠材ヲ設クヘシ

第三條 載貨門又ハ載炭門ノ戸ハ其ノ厚ヲ其ノ部分ニ於ケル外板ノ厚ニ等クシ防撓材ヲ充分ニ取附

ケ且閉鎖シタルトキハ水密ト成ルヘキ構造ト爲スヘシ

第四條 舷側厚板又ハ輕甲板舷側板ニハ特ニ補強構造ヲ加フルニアラサレハ載貨門又ハ載炭門ヲ設
 クヘカラス

第五條 覆甲板ト第二甲板トノ間又ハ船橋樓ト上甲板トノ間ニ載貨門又ハ載炭門ヲ設クルトキハ其
 前後兩端ニ防撓桁板ヲ設ケ且縱強力ヲ増スヘキ構造ヲ爲スヘシ

第三十四章 排水裝置

第一條 閉塞舷牆ニハ左表ノ割合ニ相當スヘキ排水口ヲ設ケ之ニ眞鍮製ノ針ヲ備フル蝶鉸戸ヲ取附
 ケ又上甲板ニハ適宜ノ距離ニ排水孔ヲ設ケ其ノ部分ニ於テハ上甲板ノ梁上側板ニ附スル山形材ノ
 豎邊ノ幅ヲ増スカ若ハ其ノ他適當ノ補強構造ヲ加フヘシ

舷 牆 ノ 長	各舷ニ設クヘキ排水孔ノ全面積
三 十 呎	九 平 方 呎 半
三 十 五 呎	十 平 方 呎 半
四 十 呎	十 平 方 呎 半
四 十 五 呎	十 一 平 方 呎 半
五 十 呎	十 二 平 方 呎 半
五 十 五 呎	十 三 平 方 呎 半
六 十 呎	十 四 平 方 呎 半
六 十 五 呎	十 五 平 方 呎 半
七 十 呎	十 六 平 方 呎 半
七 十 五 呎	十 七 平 方 呎 半
八 十 呎	十 八 平 方 呎 半
八 十 五 呎	十 九 平 方 呎 半
九 十 呎	十 十 平 方 呎 半
九 十 五 呎	十 一 平 方 呎 半
十 十 呎	十 二 平 方 呎 半
十 十 五 呎	十 三 平 方 呎 半
十一 十 呎	十 四 平 方 呎 半
十一 十 五 呎	十 五 平 方 呎 半
十二 十 呎	十 六 平 方 呎 半
十二 十 五 呎	十 七 平 方 呎 半
十三 十 呎	十 八 平 方 呎 半
十三 十 五 呎	十 九 平 方 呎 半
十四 十 呎	十 十 平 方 呎 半
十四 十 五 呎	十 一 平 方 呎 半
十五 十 呎	十 二 平 方 呎 半
十五 十 五 呎	十 三 平 方 呎 半
十六 十 呎	十 四 平 方 呎 半
十六 十 五 呎	十 五 平 方 呎 半
十七 十 呎	十 六 平 方 呎 半
十七 十 五 呎	十 七 平 方 呎 半
十八 十 呎	十 八 平 方 呎 半
十八 十 五 呎	十 九 平 方 呎 半
十九 十 呎	十 十 平 方 呎 半
十九 十 五 呎	十 一 平 方 呎 半
二十 十 呎	十 二 平 方 呎 半
二十 十 五 呎	十 三 平 方 呎 半

第二條 第二甲板以下ノ甲板ニハ適當ノ排水管ヲ設ケ之ヲ船底ニ導クヘシ
 第三條 最大喫水線以下ニ於テ船外ニ通スヘキ排泄管ハ其ノ下端ヨリ水線上適當ノ高迄ハ鐵製若ハ鋼製ト爲シ其ノ以上ニ鉛管ヲ使用スルトキハ其ノ損傷ヲ防クニ充分ノ圍ヲ設クヘシ
 第四條 二重底又ハ艙内水艙ヲ備フル船舶ニ於テハ二重底又ハ艙内水艙ノ區畫室毎ニ蒸汽唧筒ノ吸水管ヲ導クヘシ

艙内ニ滲水溜ノ設ナキトキハ兩側ニ於ケル滲水道ニ蒸汽唧筒ノ吸水管及ヒ手用唧筒一箇ツ、ヲ備ヘ又滲水溜ノ設アルトキハ其ノ滲水溜ニ蒸汽唧筒ノ吸水管及ヒ手用唧筒ヲ備フヘシ

第五條 二重底ヲ備ヘサル船舶ニ於テハ各艙ニ蒸汽唧筒ノ吸水管及ヒ手用唧筒ヲ備フヘシ

第六條 汽機室及ヒ汽罐室ノ全部ニ二重底ニシテ滲水溜ノ設ナキトキハ兩側ノ滲水道ニ蒸汽唧筒ノ吸水管各二箇ツ、ヲ導キ又滲水溜ノ設アルトキハ其ノ滲水道及ヒ兩側ノ滲水道ニ蒸汽唧筒ノ吸水管一箇ツ、ヲ導クヘシ

汽機室及ヒ汽罐室ニ二重底ノ設ナキトキハ中心線及ヒ兩側ニ蒸汽唧筒ノ吸水管ヲ導クヘシ

第七條 船首隔壁ノ前部及ヒ船尾隔壁ノ後部ヲ水艙トシテ使用スルトキハ之ニ蒸汽唧筒ノ吸水管ヲ導クヘシ但水艙トシテ使用セサルトキハ船首隔壁ノ前部ニハ手用唧筒ヲ設ケ船尾隔壁ニハ支水瓣ヲ設ケテ船尾隔壁後部ノ滲水ヲ車軸隧道ニ導クカ又ハ之ヲ他ニ排出スルノ裝置ヲ爲スヘシ

第八條 車軸隧道ニハ滲水溜ヲ設ケ之ニ蒸汽唧筒ノ吸水管ヲ導クヘシ

第九條 手用唧筒ハ最大喫水線以上ノ甲板ニ於テ使用シ得ヘキ樣裝置スヘシ

第十條 各艙内及ヒ二重底内ニハ測水管ヲ設ケ其ノ直下ノ外板ニ當板ヲ附スヘシ

第十一條 船首隔壁ノ前部船尾隔壁ノ後部及ヒ車軸隧道ノ滲水溜ニ導ク蒸汽唧筒ノ吸水管ハ其ノ内徑二吋四分ノ一ヨリ少カルヘカラス但第二數一萬未満ノ船舶ニ於テハ之ヲ二吋ニ減スルコトヲ得

第十二條 滲水注射管ノ内徑ハ循環唧筒吸水管ノ内徑ノ三分ノ二ヨリ、其ノ他ノ滲水吸水管ノ内徑ハ左表ニ掲クルモノヨリ小ナルヘカラス

一區畫室ニ二箇以上ノ蒸汽吸水管ヲ備ヘ之ヲ一本ノ主管ヲ以テ唧筒ニ導クトキハ主管ノ内徑ハ中心線吸水管ヨリ小ナルヘカラス

上甲板下ノ噸數	機關室中心線吸水管、艙内中心線吸水管	機關室兩側吸水管、中心線吸水管ノ備ナキトキ艙内兩側吸水管	中心線吸水管ヲ備フルトキ艙内兩側吸水管
五百噸 未滿	二吋四分ノ一	二吋	二吋
五百噸以上一千噸未滿	二吋二分ノ一	二吋四分ノ一	二吋
一千噸以上二千五百噸未滿	二吋	二吋四分ノ三	二吋四分ノ一
二千五百噸以上三千噸未滿	三吋二分ノ一	三吋	二吋二分ノ一
三千噸以上	三吋二分ノ一	三吋二分ノ一	二吋四分ノ三

第三十五章 舵

第一條 舵ハ鐵製若ハ鋼製ニシテ船舶ノ碇泊中取外シ得ヘキ樣裝置シ舵頭ノ徑ハ第三號表ニ據ルヘシ但汽船ニ於テハ左ノ算式ニ依リ得タル徑ヨリ小ナルヘカラス

$$d = \frac{1}{32} \sqrt{D \times (2B - b) \times S^2}$$

d ハ舵頭ノ徑(吋ニテ)
 D ハ喫水(呎ニテ)

B ハ舵針ノ中心ヨリ舵脊ニ至ル最大距離(吋ニテ)

b ハ舵ノ最大幅(吋ニテ)

S ハ最快速力(節ニテ)

舵針ノ心距ハ五呎六吋以内ト爲シ且最上部ノ舵針ハ成ルヘク之ヲ舵頭管ニ接近セシムヘシ
舵ノ盡金ハ深ハ舵頭ノ徑ノ十分ノ七ヨリ、厚ハ舵針ノ徑ノ二分ノ一ヨリ小ナルヘカラス

第二條 輕甲板船ニ於テハ舵ノ心材及ヒ舵針ノ徑ハ三層重甲板船ニ要スルモノニ等クスヘシ

第三條 舵ヲ側板ニ枚ニテ造ルトキハ舵骨ト心材トハ一材ニテ造リ舵針ノ位置ニ支柱ヲ設ケ舵板ノ厚ハ第一號表ニ掲クル支水隔壁ノ下部ニ用ウヘキ板ニ等クスヘシ

舵骨ノ脊部ノ最モ薄キ部分ニ於ケル厚ハ舵針ノ徑ノ二分ノ一ヨリ小ナルヘカラス

第四條 汽船ノ舵ヲ一枚板ニテ造ルトキハ其ノ寸法ハ第三號別表ニ據ルヘシ
舵板ノ兩面ニハ交互ニ第三號別表ニ掲クル補強骨ヲ同表ニ掲クル心距ニ設クヘシ

舵心材ハ最上部ノ舵針ノ位置ニ於テ舵頭ノ截面ヨリ小ナラサル截面ヲ有シ以下漸次第三號別表ニ掲クル下端ノ寸法迄減少スルコトヲ得

舵心材ト補強骨トヲ一材ニテ造ルトキハ補強骨ノ肩ノ曲部ニ於ケル半徑ハ補強骨ノ心距ノ五分ノ一以上ト爲スヘシ

補強骨ノ肩ノ曲部ニ於ケル半徑補強骨ノ心距ノ二分ノ一未滿ナルトキハ舵心材ノ後面ニ舵板ヲ取附クル爲メ其ノ深ハ舵板ノ厚ニ等キ堅溝ヲ設クヘシ但一時ヲ超ユヘカラス

第五條 帆船ノ舵ヲ一枚板ニテ造ルトキハ舵頭ノ徑ハ第三號表ニ據リ其ノ他ノ寸法ハ其ノ徑ヲ第三號別表ノ舵頭ノ徑ニ充テ之ヲ定ムヘシ

第三十六章 橋、帆架、斜橋及ヒ索具等

第一條 橋、帆架、斜橋及ヒ索具等ノ寸法ハ第八號表、第九號表及ヒ第十號表ニ據ルヘシ但本表ニ掲クル寸法ハ三橋全儀裝船ニ適用スヘキモノニシテ四橋船ニ於テハ索具ノ寸法ヲ定ムヘキ噸數ニハ其ノ五分ノ一又五橋船ニ於テハ其ノ四分ノ一ヲ減シタルモノヲ用ウヘシ

第二條 下橋及ヒ斜橋ヲ鐵製若ハ鋼製ト爲ストキハ鐵板若ハ鋼板ノ縱縁ハ二列釘ヲ以テ固著スヘシ但長八十四呎未滿ノ下橋ニシテ山形材ヲ以テ防撓スルトキハ一列釘ヲ以テ之ヲ固著スルコトヲ得

前項ノ下橋及ヒ斜橋ノ鐵板若ハ鋼板ノ橫縁ハ三列釘ヲ以テ固著スヘシ但其ノ楔止メノ所ヨリ内部ニ於テハ二列釘ヲ以テ固著スルモ妨ナシ

第三條 銜接ノ覆板ハ鐵ナルトキハ接合スヘキ板ノ厚ニ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二列釘固著ニ於テハ接合スヘキ板ノ厚ニ二十分ノ一時、三列釘固著ニ於テハ二十分ノ二時ヲ増シタル厚ト爲スヘシ

第四條 鐵製若ハ鋼製ノ下橋及ヒ斜橋ハ楔止メト爲スヘキ部分ニ於テ板ヲ二重張ト爲スヘシ但橋ヲ下層ノ梁間ニ於テ楔止メト爲ストキハ該梁ノ下部ヨリ上甲板ノ上部迄二重張ト爲スヘシ

第五條 長八十四呎以上ノ鐵製若ハ鋼製ノ下橋ニハ其ノ全長ニ第八號表ニ掲クル山形材ヲ各板ニ堅ニ一箇ツ、取附クヘシ

第六條 徑二十八吋以下ノ鐵製若ハ鋼製ノ斜橋ニハ其ノ全長ニ各板ニ縦ニ一箇ツ、山形材ヲ取附クヘシ

徑二十八吋ヲ超ユル鐵製若ハ鋼製ノ斜橋ニハ楔止メノ部分ヨリ船首固著ノ部分迄内部ニ山形材ヲ以テ一枚ノ鐵板若ハ鋼板ヲ上下ニ固著シ且第八號表ニ掲クル寸法ノ山形材二箇ヲ縦ニ増設スヘシ

第七條 下橋ノ上端ノ徑ハ上橋ノ下端ノ徑ヨリ小ナルヘカラス

第八條 一材橋ノ寸法ヲ定ムルニハ内龍骨ノ上面ヨリ下橋索具ヲ取附クル處迄ヲ下橋ノ長ト爲スヘシ

第九條 上橋ヲ鐵製若ハ鋼製ト爲ストキハ鐵板若ハ鋼板ノ縱線ハ一列釘ヲ以テ固著シ橫線ハ鐵ナルトキハ接合スヘキ板ヨリ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時厚キ覆板ヲ附シ三列釘ヲ以テ固著スヘシ

上橋ノ下部ニテ車孔ヲ設クル部分及ヒ下橋ノ上端ニ接スル部分ハ板ヲ二重張ト爲シ若ハ帶輪ヲ嵌メテ補強スヘシ

第十條 長三十八呎以上四十六呎未満ノ鐵製若ハ鋼製ノ上橋ニハ其ノ全長ニ鐵ナルトキハ幅三吋ニ二吋半厚十六分ノ六吋、鋼ナルトキハ幅三吋ニ二吋半厚二十分ノ六吋ノ山形材二箇、長四十六呎以上六十六呎未満ノモノニハ鐵ナルトキハ幅三吋半ニ三吋半厚十六分ノ六吋、鋼ナルトキハ幅三吋半ニ三吋半厚二十分ノ六吋ノ山形材二箇ヲ取附ケ且長四十六呎ヲ超ユル上橋ニハ頬板ヲ設クヘシ

第十一條 帆架ヲ鐵製若ハ鋼製ト爲ストキハ鐵板若ハ鋼板ノ縱線ハ一列釘ヲ以テ固著シ橫線ハ之ヲ銜接又ハ累接ト爲シ三列釘ヲ以テ固著スヘシ且其ノ中央部ハ二重張ト爲スヘシ

第十二條 輕帆裝汽船ノ下橋及ヒ斜橋ノ徑ハ第八號表ニ掲クルモノヨリ其ノ八分ノ一ヲ減シ又汽船帆船ニ拘ラス縱帆ノミヲ裝置スル下橋ノ徑ハ同表ニ掲クルモノヨリ其ノ五分ノ一ヲ減シ且鐵板若ハ鋼板ノ縱線ノ固著ハ一列釘ト爲スコトヲ得

輕帆裝汽船ノ上橋ノ徑ハ第九號表ニ掲クルモノヨリ其ノ八分ノ一ヲ減スルコトヲ得

第十三條 橋、帆架及ヒ斜橋ヲ構造スル鐵板若ハ鋼板ノ縱線及ヒ橫線ヲ固著スル鉸釘ノ心距ハ釘徑ノ五倍ト爲スヘシ

第二編 機關

第一章 總則

第一條 此ノ規程ニ定ムル試驗ハ検査官吏ノ監督ヲ受ケ之ヲ執行スヘシ

試驗器ハ検査官吏ノ檢定ヲ經タルモノヲ用ヅヘシ

第二條 此ノ規程中試驗ニ關スル條項ハ逓信大臣ノ適當ト認ムル證明書アルモノニ限り之ヲ適用セサルコトアルヘシ

第三條 此ノ規程ニ該當セサル機關ノ構造方法ハ逓信大臣ニ於テ此ノ規程ト同一ノ效力ヲ有スルト認ムルモノニ限り特ニ之ヲ合格ト爲スヘシ

第二章 材料試驗

第一條 汽罐ノ製造ニ供用スル鐵材ニハ左ノ試驗ヲ執行スヘシ

一 抗張試驗 鐵板ハ一平方吋ノ抗張力ハ纖維ニ沿ヒテハ二十噸以上、纖維ヲ横リテハ十八噸以上ニシテ其ノ伸張ノ割合ハ八吋ノ長ニ於テ纖維ニ沿ヒテハ百分ノ九以上、纖維ヲ横リテハ百分ノ七以上、支柱用及ヒ螺旋支柱用鐵材ハ一平方吋ノ抗張力ハ二十二噸以上ニシテ其ノ伸張ノ割合ハ八吋ノ長ニ於テ百分ノ十以上又鉸釘用鐵材ハ一平方吋ノ抗張力ハ二十三噸以上ニシテ其ノ伸張ノ割合ハ八吋ノ長ニ於テ百分ノ十八以上ナルヲ要ス

二 鍛鍊試驗 鐵製ノ鉸釘ハ之ヲ熱シ釘頭ヲ釘徑ノ二、五倍迄平扁ニ打壓シ且釘身ヲ平扁ニシ之ニ釘徑ニ等キ打貫孔ヲ穿テ裂疵ヲ生セサルヲ要ス

又鐵製ノ螺旋支柱ニシテ其ノ頭ヲ鉸縮スルモノハ鉸釘ニ準シ試驗ヲ行フヘシ

第二條 汽罐ノ製造ニ供用スル鋼材ニハ左ノ試驗ヲ執行スヘシ

一 抗張試驗 鋼板用鋼板及ヒ支柱用鋼材ハ一平方吋ノ抗張力ハ二十六噸以上三十二噸以下ニシテ其ノ伸張ノ割合ハ八吋ノ長ニ於テ百分ノ二十以上其ノ他ノ諸鋼板、螺旋支柱用及ヒ鉸釘用

鋼材ハ一平方吋ノ抗張力ハ二十五噸以上三十噸以下ニシテ其ノ伸張ノ割合ハ八吋ノ長ニ於テ百分ノ二十以上ナルヲ要ス

- 二 屈曲試験 鋼板、支柱用及ヒ螺旋支柱用鋼材ハ試験材ヲ櫻紅色ニ熱シタル後華氏八十二度ノ水中ニテ冷却シ之ヲ試験材ノ厚又ハ徑ノ三倍ヲ超エサル内徑ヲ以テ百八十度屈曲シ又鋼製ノ鉸釘ハ之ヲ熱セスシテ釘身ヲ釘徑ノ二倍ニ等キ内徑ヲ以テ百八十度屈曲シ裂疵ヲ生セサルヲ要ス
- 三 鍛鍊試験 鋼製ノ鉸釘及ヒ鋼製ノ螺旋支柱ニシテ其ノ頭ヲ鉸締スルモノハ前條第二號ノ規定ニ依リ試験ヲ行フヘシ

第三條 諸軸及ヒ其ノ一部其ノ他打物ヲ通常使用スヘキ箇所ニ用ウル鑄鋼ニハ左ノ試験ヲ執行スヘシ

- 一 抗張試験 一平方吋ノ抗張力ハ三十噸以下ニシテ其ノ伸張ノ割合ハ八吋ノ長ニ於テ百分ノ十以上ナルヲ要ス
- 二 屈曲試験 一時四分ノ一徑又ハ一時四分ノ一角ノ試験材ヲ作り内面ニ於テ一時四分ノ三ヨリ多カラサル半徑ノ弧狀ニ曲ケ九十度ニ至ルモ裂疵ヲ生セサルヲ要ス

第四條 鑄鐵ヲ通常使用スル箇所ニ鑄鋼ヲ用ウルトキハ其ノ性質ハ強硬ニシテ能ク落下錘打等ノ試験ニ堪フルヲ要ス

第五條 塊鋼ハ其ノ試験材ヲ鍛鍊シ左ノ試験ヲ執行スヘシ

- 一 抗張試験 一平方吋ノ抗張力ハ二十八噸以上ニシテ其ノ伸張ノ割合ハ八吋ノ長ニ於テ百分ノ二十以上ナルヲ要ス
- 二 屈曲試験 一時角ノ試験材ヲ作り一時四分ノ一ヲ超エサル内徑ヲ以テ百八十度屈曲シ裂疵ヲ生セサルヲ要ス

第六條 鑄鐵及ヒ諸合金ハ總テ検査官吏ノ認可ヲ得タルモノヲ使用スヘシ

検査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ鑄鐵及ヒ諸合金ヲ試験シ其ノ適否ヲ指定スヘシ

第七條 本章第一條及ヒ第二條ニ掲クル各試験ハ同一ノ部分ニ供用スル材料ニシテ其ノ種類及ヒ厚又ハ徑同一ナルトキハ鐵板、銅板、支柱及ヒ螺旋支柱ニ在リテハ各種ヨリ一箇ツ、鉸釘ニ在リテハ五百箇未滿毎ニ一箇ツ、ヲ採リ又検査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ更ニ二箇ツ、迄ニ増シ之ヲ執行スヘシ

鐵板及ヒ銅板ノ試験材ノ厚ハ汽罐ノ製造ニ供用スル板ノ厚ト同一ナルヲ要ス

第八條 遞信大臣ハ前數條ノ試験ニ合格セサルモノト雖モ其ノ使用ノ方法及ヒ部局ヲ限り條件ヲ附シテ之カ使用ヲ許可スルコトアルヘシ

第三章 汽機

第一條 汽笛ハ強靱堅硬ノ最良質材料ヲ以テ製造シ削仕上ノ後左ノ水壓力ヲ以テ試験ヲ執行スヘシ

- 一 單式汽機ニ於テハ每平方吋ノ最大汽壓九十磅以上ナルトキハ之ニ九十磅ヲ加ヘタルモノ、九十磅未滿ナルトキハ其ノ二倍
- 二 二聯成汽機ニ於テハ高壓汽笛ハ每平方吋ノ最大汽壓九十磅以上ナルトキハ之ニ九十磅ヲ加ヘタルモノ、九十磅未滿ナルトキハ其ノ二倍、低壓汽笛ハ最大汽壓
- 三 三聯成汽機ニ於テハ高壓汽笛ハ每平方吋ノ最大汽壓ニ九十磅ヲ加ヘタルモノ、中壓汽笛ハ最大汽壓、低壓汽笛ハ最大汽壓ニ〇、五ヲ乘シタルモノ
- 四 四聯成汽機ニ於テハ高壓汽笛ハ每平方吋ノ最大汽壓ニ九十磅ヲ加ヘタルモノ、第一中壓汽笛ハ最大汽壓、第二中壓ハ汽笛最大汽壓ニ〇、六ヲ乘シタルモノ、低壓汽笛ハ最大汽壓ニ〇、四ヲ乘シタルモノ

弁匣、收汽室、收汽管、汽包室、汽笛蓋及ヒ弁匣蓋ハ其ノ附屬スル汽笛ト同一ノ水壓試験ヲ執

行スヘシ

- 第二條 各汽笛ノ兩端並ニ汽笛間ノ蒸汽通路ニハ完全ナル逃出瓣ヲ備フヘシ
- 第三條 滑瓣ハ検査官吏ノ認可ヲ得タル滑瓣調整圖ニ據リ調整シ検査官吏ノ検査ヲ受クヘシ
- 第四條 吸鑄鐸、接續鐸、隔心鐸、滑瓣鐸ハ精撰シタル屑鐵若ハ塊鋼ヲ鍛鍊シテ製造スヘシ
- 第五條 諸軸、吸鑄鐸、接續鐸及ヒ鋼製ノ隔心鐸、滑瓣鐸ハ鍛合スヘカラス又軸鑄ハ軸身ヨリ鍛製シ嵌入又ハ鍛合スルヲ得ス
- 第六條 諸軸ハ粗削ヲ爲シタルトキ及ヒ仕上ヲ終リタルトキ検査ヲ受クヘシ
- 第七條 曲拐軸ハ其ノ正否ヲ試驗スルニ必要ナル規計ヲ備ヘ検査官吏ノ検査ヲ受クヘシ
- 第八條 單式冷汽汽機ノ鋼製車軸ハ左ノ算式ニ依リ其ノ徑ヲ定ムヘシ

$$S = \sqrt[3]{\frac{C \times P \times D^2}{3 \times f}}$$

S ハ車軸ノ徑(吋ニテ)
 D² ハ汽笛一箇ナルトキハ其ノ徑(吋ニテ)ヲ自乗シタルモノ、汽笛二箇以上ナルトキハ各汽笛ノ徑(吋ニテ)ヲ自乗シ加ヘタルモノ
 P ハ最大汽壓(每平方吋磅ニテ)ニ十五磅ヲ加ヘタルモノ
 C ハ曲拐ノ長(吋ニテ)
 f ハ定數ニシテ左表ニ據ル

一 曲 拐	曲拐間ノ角度	曲拐ノ前後ニ軸受チ有スル曲拐軸及ヒ進力軸定數	螺旋軸定數	中間軸定數
		七四〇	六二九	八六四

二 曲 拐	曲拐間ノ角度	曲拐ノ前後ニ軸受チ有スル曲拐軸及ヒ進力軸定數	螺旋軸定數	中間軸定數
	九〇度	一、〇四七	八九〇	一、二二一
	一〇〇度	九六六	八二一	一、一二八
	一一〇度	九〇四	七六八	一、〇五五
	一二〇度	八五五	七二七	九九七
	一三〇度	八一七	六九五	九五三
	一四〇度	七八八	六七〇	九一九
	一五〇度	七六六	六五一	八九四
	一六〇度	七五一	六三八	八七七
	一七〇度	七四三	六三二	八六七
	一八〇度	七四〇	六二九	八六四
三 曲 拐	一二〇度	一、二一〇	九四四	一、二九五

第九條 冷汽器ヲ備フルニ聯成、三聯成及ヒ四聯成汽機ノ鋼製車軸ハ左ノ算式ニヨリ其ノ徑ヲ定ムヘシ

$$S = \sqrt[3]{\frac{C \times P \times D^2}{f(2 + \frac{D^2}{d^2})}}$$

S ハ車軸ノ徑(吋ニテ)
 d² ハ高壓汽笛一箇ナルトキハ其ノ徑(吋ニテ)ヲ自乗シタルモノ、高壓汽笛二箇以上ナルトキハ各汽笛ノ徑(吋ニテ)ヲ自乗シ加ヘタルモノ
 D² ハ低壓汽笛一箇ナルトキハ其ノ徑(吋ニテ)ヲ自乗シタルモノ、低壓汽笛二箇以上ナルトキハ

各汽筒ノ徑(吋ニテ)ヲ自乗シ加ヘタルモノ

P ハ最大汽壓(每平方吋磅キテ)ニ十五磅ヲ加ヘタルモノ

C ハ曲拐ノ長(吋ニテ)

f ハ定數ニシテ前條ノ表ニ據ル

第十條 螺旋軸ノ船尾管填篋環ノ前部及ヒ進力軸ノ進力受臺ノ前部及ヒ後部ハ中間軸ノ徑ト同一ト爲スコトヲ得

第十一條 鐵製車軸ノ徑ハ本章第八條又ハ第九條ニ依リ算定シタルモノニ其ノ百分ノ五ヲ增加スヘシ

第十二條 外車軸ノ徑ハ本章第八條又ハ第九條ニ於ケル同種汽機ノ曲拐軸ノ算式ニ依ルコトヲ得但此ノ場合ニハ曲拐軸ノ定數ニ一、四ヲ乘シタル定數ヲ用ウヘシ

第十三條 進力受臺ノ前部若ハ後部ニハ之ニ接近シテ軸受ヲ設置スヘシ

第十四條 船尾管ニハ船尾隔壁ノ前面ニ於テ管及ヒ嘴子ヲ取附ケ管内ノ水ヲ排出セシムヘキ裝置ヲ爲スヘシ

第十五條 表面冷汽器ハ内部ノ檢査ヲ爲ス爲メ適當ノ人孔ヲ設ケ且注射冷汽及ヒ補助給水ノ裝置ヲ爲スヘシ

第十六條 表面冷汽器ノ管板ハ真鍮又ハ他ノ合金ヲ以テ製造スヘシ

第十七條 冷汽管ノ長、管ノ外徑ノ百二十倍以上ニ當ルトキハ百二十倍毎ニ一箇ノ割合ヲ以テ真鍮若ハ管板ト同質ノ支板ヲ設クヘシ

第十八條 冷汽器ハ冷汽管ヲ取附クル前ニ一平方吋ニ付二十磅ノ水壓力ヲ以テ試驗ヲ行ヒ之ヲ取附ケタル後適宜ノ水高壓力ヲ以テ其ノ漏否ヲ試驗スヘシ

第十九條 機關室ニハ正給水唧筒二箇ヲ備ヘ各給水ニ充分ナル容積ヲ有シ且其ノ一箇ヲ使用スルトキト雖モ他ノ一箇ヲ開放シ得ヘキ樣裝置スヘシ

前項ノ唧筒ハ獨立ノ汽機ヲ以テ運轉セシムルコトヲ得但此ノ場合ニ於テハ其ノ速度ヲ調整シ得ヘキ自働整速器ヲ備フヘシ

第二十條 本章第二十五條ノ補助給水唧筒ニ自働整速器ヲ備フルトキハ獨立正給水唧筒ヲ一箇ニ減スルモ妨ナシ

第二十一條 給水唧筒ハ最大汽壓二倍ノ水壓力ヲ以テ試驗ヲ行フヘシ

第二十二條 汽機ニハ一箇ノ滲水注射器ヲ備ヘ若ハ循環唧筒ニ一箇ノ滲水吸水口ヲ備フヘシ

第二十三條 機關室ニハ正滲水唧筒二箇ヲ備ヘ其ノ一箇ヲ使用スルトキト雖モ他ノ一箇ヲ開放シ得ヘキ樣裝置スヘシ

第二十四條 正滲水唧筒ハ船内各區畫室ヨリ滲水ヲ排出シ得ル樣裝置シ其ノ泥函及ヒ芥除ハ容易ニ接近シ得ヘキ所ニ設置スヘシ

第二十五條 正給水唧筒ノ外給水ノ爲メ蒸汽唧筒一箇ヲ備ヘ温水溜及ヒ海水ニ通スル吸水口ヲ備フヘシ

第二十六條 前條ノ唧筒ノ外向蒸汽唧筒一箇ヲ備ヘ各區畫室ヨリ滲水ヲ取り之ヲ船外ニ排出シ及ヒ海水ヲ甲板上ニ送り得ヘキ樣裝置シ人力ヲ以テ之ヲ運用シ得サルトキハ別ニ本條ノ吸水竝ニ送水ヲ爲シ得ヘキ手用唧筒一箇ヲ備フヘシ

第二十七條 總噸數一千噸未滿ノ船舶ニ於テハ一箇ノ蒸汽唧筒ヲ備フルモ妨ナシ但此ノ場合ニハ本章第二十五條及ヒ第二十六條ノ規定ニ適合スルモノナルヲ要ス

第二十八條 二重底又ハ水艙ヲ有スル船舶ニ於テハ其ノ排水ニ適スル蒸汽唧筒ヲ備フヘシ

前項ノ唧筒ハ本章二十六條ノ蒸汽唧筒ニ兼用セシムルコトヲ得

第二十九條 總テ給水唧筒若ハ給水管ニハ適當ナル發條逃出瓣ヲ備フヘシ

第三十條 鑄鋼及ヒ練鋼製品ハ總テ充分ニ燒鈍スヘシ

第四章 汽罐

第一條 鍛合シタル鋼板ハ伸張ヲ受クル箇所ニ使用スヘカラス又鋼製支柱ハ鍛合スヘカラス

第二條 鋼板ハ突縁ヲ造リ其ノ他製作ノ爲メ熱シタルトキハ燒鈍法ヲ施スヘシ

第三條 鋼板ニハ打貫孔ヲ穿ツヘカラス

第四條 人孔及ヒ泥孔ハ相當ノ縁環ヲ用井テ強度ノ減少ヲ補充スヘシ又罐胴ニ設クル楕圓形ノ孔ハ

常ニ短徑ヲ罐ノ長ニ並行セシムヘシ

汽兜ノ下ニ在ル胴板ハ支柱ヲ設ケ若ハ其ノ他ノ方法ニ依リ之ヲ強固ナラシムヘシ

第五條 接合ニ用ウル覆板ハ胴板ト同質若ハ優等ノ板ヲ用井其ノ厚ハ單覆板ナルトキハ胴板ヨリ其

厚ノ八分ノ一厚キモノ、兩覆板ナルトキハ胴板ノ厚ノ四分ノ三以上ノモノナルヲ要ス但鐵板ナル

トキハ其ノ纖維ヲ接合スヘキ板ノ纖維ト並行セシムヘシ

第六條 鉸釘ノ徑ハ接合スヘキ板ノ厚ヨリ小ナルヘカラス又板ノ厚薄キカ或ハ累接ナルカ或ハ單覆

板ヲ以テ接合スル場合ニ於テハ鉸釘ノ徑ヲ板ノ厚ヨリ大ナラシムヘシ

第七條 鐵製筒形汽罐ノ胴板ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

$$P = \frac{C \times T \times B}{D}$$

P ハ最大汽壓(每平方吋磅ニテ)

C ハ定數ニシテ左表ニ據ル但胴板一平方吋ノ最小抗張力纖維ニ沿ヒテ二十噸ヲ超ユルトキハ其

ノ割合ヲ以テ(C)ヲ増加スルコトヲ得

T ハ胴板ノ厚(吋ニテ)

D ハ罐胴ノ平均ノ徑(吋ニテ)

B ハ縱接合ノ強率ニシテ左ノ式ノ内其ノ小ナルモノヲ取リテ用ウヘシ

(一) 接合ニ於ケル胴板ノ強率

$$B_1 = \frac{p-d}{p} \times 100$$

(二) 接合ニ於ケル鉸釘ノ強率

$$B_2 = \frac{n \times a}{p \times t} \times T$$

(三) 鉸釘ノ數外列ニ於テ半數ナルトキ鉸釘及ヒ胴板ノ連續強率

$$B_3 = \frac{100(p-2d)}{p} + \frac{B_2}{n}$$

p ハ外列ニ於ケル鉸釘ノ心距(吋ニテ)

d ハ鉸釘孔ノ徑(吋ニテ)

t ハ胴板ノ厚(吋ニテ)

a ハ鉸釘孔ノ面積(平方吋ニテ)但兩剪力ヲ受クル鉸釘ナルトキハ其ノ一、七五倍

n ハ p ナル心距ニ於ケル鉸釘ノ數

F^ハ 鐵製鉸釘ニシテ打貫孔ナルトキ 一〇〇
 鐵製鉸釘ニシテ錐挿孔ナルトキ 九〇

縦接合ノ種類	厚		超四 分ノ三 時キ
	二分ノ一 時キ	二分ノ一時ヲ超 エ四 分ノ三 時以下 トキ	
累接ニシテ打貫孔ナルトキ	一五五	一六五	一七〇
累接ニシテ錐挿孔ナルトキ	一七〇	一八〇	一九〇
兩覆板衝接ニシテ 打貫孔ナルトキ	一七〇	一八〇	一九〇
兩覆板衝接ニシテ 錐挿孔ナルトキ	一八〇	一九〇	二〇〇

第八條 鋼製筒形汽罐ノ胴板ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

$$P = \frac{C \times (F - 2) \times B}{D}$$

- P^ハ 最大汽壓(每平方吋磅ニテ)
- D^ハ 罐胴ノ平均ノ徑(吋ニテ)
- T^ハ 胴板ノ厚(吋ノ十六分ノ一ニテ)
- C^ハ 縦接合ニ於テ同幅ノ兩覆板ヲ有スルトキ 二〇
 縦接合ニ於テ不同幅ノ兩覆板ヲ有スルトキ 一九、二五
 但胴板一平方吋ノ最小抗張力二十六噸ヲ超ユルトキハ其ノ割合ヲ以テ(C)増加スルコトヲ得
- B^ハ 縦接合ノ強率ニシテ左ノ式ノ内其ノ小ナルモノヲ取リテ用ウヘシ

(一) 接合ニ於ケル胴板ノ強率

$$B_1 = \frac{p-d}{p} \times 100$$

(二) 接合ニ於ケル鉸釘ノ強率

$$B_2 = \frac{n \times a}{p \times t} \times F$$

(三) 鉸釘ノ數外列ニ於テ半數ナルトキ鉸釘及ヒ胴板ノ連續強率

$$B_3 = \frac{100(p-2d)}{p} + \frac{B_2}{n}$$

- p^ハ 外列ニ於ケル鉸釘ノ心距(吋ニテ)
- t^ハ 胴板ノ厚(吋ニテ)
- d^ハ 鉸釘孔ノ徑(吋ニテ)
- a^ハ 鉸釘孔ノ面積(平方吋ニテ)但兩剪力ヲ受クル鉸釘ナルトキハ其ノ一、七五倍
- n^ハ pナル心距ニ於ケル鉸釘ノ數
- F^ハ 鋼製鉸釘ヲ用ウルトキ 八五
 鐵製鉸釘ヲ用ウルトキ 七〇

第九條 火焰ニ接觸スル加熱器又ハ汽函ノ胴板ノ強力ハ前二條ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ但定數

(C)ハ其ノ三分ノ二ヲ用ウヘシ

第十條 平面ヲ支フル支柱及ヒ支柱管ノ最小截面積ハ左ノ程度ヲ超エサル内力ヲ以テ之ヲ算定スヘシ

鐵製支柱 最小ノ徑一吋二分ノ一ヲ超エサル支柱及ヒ鍛合シタル支柱ノ内力ハ一平方吋ニ付六千磅、最小ノ徑一吋二分ノ一以上ニシテ鍛合セサル支柱ノ内力ハ一平方吋ニ付七千五百磅

鋼製支柱 最小ノ徑一吋二分ノ一ヲ超エサル支柱ノ内力ハ一平方吋ニ付八千磅、最小ノ徑一吋二分ノ一以上ノ支柱ノ内力ハ一平方吋ニ付九千磅

支柱管 支柱管ノ内力ハ一平方吋ニ付七千五百磅

螺旋支柱ニアラサル他支柱ニ在リテハ鐵製支柱ハ一平方吋ノ最小抗張力二十二噸ヲ超ユルトキ、鋼製支柱ハ一平方吋ノ最小抗張力二十六噸ヲ超ユルトキハ其ノ割合ヲ以テ内力ヲ増加スルコトヲ得

第十一條 斜向支柱ノ截面積ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ但平板斜向支柱ニ在リテハ其ノ面積ヲ尙大ナラシムヘシ

$$A = \frac{a \times L}{H}$$

A ハ斜向支柱ノ截面積(平方吋ニテ)

a ハ平板ヲ支フル直向支柱ノ截面積(平方吋ニテ)

L ハ斜向支柱ノ長(吋ニテ)

H ハ斜向支柱ノ一端ヨリ平板面ニ垂直ノ長(吋ニテ)

第十二條 支柱又ハ支柱管ヲ以テ支フル平板又ハ管板ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

(一)支柱ノ配置正方形ヲナストキ

$$P = \frac{C \times T^2}{p^2}$$

P ハ最大汽壓(每平方吋磅ニテ)

T ハ板ノ厚(吋ノ十六分ノ一ニテ)

p ハ支柱ノ心距(吋ニテ)

C ハ定數ニシテ左表ニ據ル

(二)支柱ノ配置長方形若ハ並行四邊形ヲナストキ

$$P = \frac{2C \times T^2}{a^2 + b^2}$$

a ハ支柱各列ニ於ケル最大心距(吋ニテ)

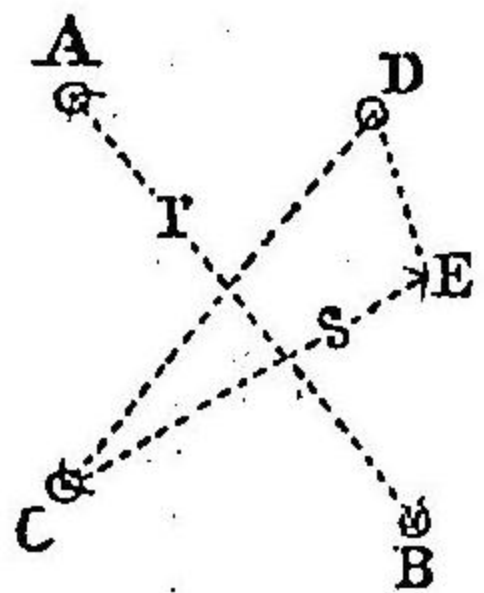
b ハ支柱各列線ノ距離(吋ニテ)

P, T, C ハ(一)ニ同シ

(三)支柱ノ配置前二項ニ依ラサルトキ

$$P = \frac{4C \times T^2}{a^2 + b^2}$$

アハ左圖ニ於テ相對スルニ支柱ノ最大心距AB(吋ニテ)
 SハABニ直角ナル線CDノ投射シタル距離CE(吋ニテ)



P, T, Cハ(一)ニ同シ

- (甲) 螺旋支柱ノ兩端ヲ絞縮シタルトキ
- (乙) 螺旋支柱ノ兩端ヲ母螺ニテ締ムルトキ
- (丙) 鐵板ニシテ内外ヨリ母螺ヲ以テ支柱ノ兩端ヲ締ムルトキ
- (丁) 丙ノ取附法ニシテ外面ニ厚ハ板ノ厚ノ二分ノ一ヨリ少カラス、徑ハ支柱心距ノ三分ノ一以上ノ坐金ヲ有スルトキ

厚十六分ノ七吋以下ノ鐵板	又ハ鋼板ナルトキ	厚十六分ノ七吋以下ノ鐵板	又ハ鋼板ナルトキ	厚十六分ノ七吋以下ノ鐵板	又ハ鋼板ナルトキ
厚十六分ノ七吋以上ノ鐵板	又ハ鋼板ナルトキ	厚十六分ノ七吋以上ノ鐵板	又ハ鋼板ナルトキ	厚十六分ノ七吋以上ノ鐵板	又ハ鋼板ナルトキ
厚十六分ノ七吋以上ノ鐵板	又ハ鋼板ナルトキ	厚十六分ノ七吋以上ノ鐵板	又ハ鋼板ナルトキ	厚十六分ノ七吋以上ノ鐵板	又ハ鋼板ナルトキ
厚十六分ノ七吋以上ノ鐵板	又ハ鋼板ナルトキ	厚十六分ノ七吋以上ノ鐵板	又ハ鋼板ナルトキ	厚十六分ノ七吋以上ノ鐵板	又ハ鋼板ナルトキ

一	一	一	一	一	一
九	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇

- (戊) 丙ノ取附法ニシテ外面ニ厚ハ板ノ厚ノ二分ノ一ヨリ少カラス、徑ハ支柱心距ノ五分ノ二以上ノ坐金ヲ取附ケタルトキ
- (己) 丙ノ取附法ニシテ外面ニ厚ハ板ノ厚ノ三分ノ二以上ノ坐金ヲ取附ケタルトキ
- (庚) 丙ノ取附法ニシテ外面ニ厚ハ板ノ厚ヨリ少カラス、幅ハ支柱列間心距ノ三分ノ二以上ノ條板ヲ取附ケタルトキ
- (辛) 管板ニ於ケル管板ニシテ支柱若ハ支柱管ヲ以テ支フルトキ

一	一	一	一
六	七	九	四
〇	五	〇	〇
〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇

鋼板ハ燃燒室ニ使用スルモノ及ヒ火焰ノ接觸ヲ受クルモノヲ除キ定數(C)ニ一、二五ヲ乘シタルモノヲ用ウヘシ

第十三條 焰管巢間ノ充水部ニ於ケル平板ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

$$P = C \times I^2$$

Pハ最大汽壓(毎平方吋磅ニテ)
 Iハ各端列中心間ノ水平距離(吋ニテ)
 Cハ板ノ厚(吋ノ十六分ノ一ニテ)
 Tハ定數ニシテ左表ニ據ル

端列ニ於ケル支柱焰管ノ配置法	管板ノ外面ニ母螺ヲ有セサルトキ	管板ノ外面ニ母螺ヲ有スルトキ
支柱焰管間ニ二本ノ普通焰管アルトキ	一 二 〇	一 三 〇
支柱焰管間ニ一本ノ普通焰管アルトキ	一 四 〇	一 五 〇
端列悉ク支柱焰管ナルトキ	一 六 〇	一 七 〇
端列悉ク支柱焰管ニシテ一本置ニ母螺ヲ有スルトキ	—	—

第十四條 平板ニ補強トシテ其ノ厚ノ三分ノ二ヨリ少カラサル厚ヲ有スル覆板ヲ鉸釘ニテ取附ク
ルトキハ前二條ノ算式中平板ノ厚ニ代フルニ平板ノ厚(吋ノ十六分ノ一ニテ)ニ覆板ノ厚(吋ノ十
六分ノ一ニテ)ノ二分ノ一ヲ加ヘタルモノヲ以テスルコトヲ得

第十五條 燃燒室上部ノ壓力ヲ受クル管板ノ厚ハ左ノ算式ニ依リ得タルモノヨリ少カルヘカラス

$$T = \frac{P \times W \times D}{1,600 \times (D - d)}$$

T ハ管板ノ厚(吋ノ十六分ノ一ニテ)

P ハ最大汽壓(每平方吋磅ニテ)

W ハ燃燒室上部ノ外幅(吋ニテ)

D ハ焰管ノ水平心距(吋ニテ)

d ハ通常焰管ノ内徑(吋ニテ)

第十六條 燃燒室ノ頂上其ノ他ノ平面ヲ支フル支梁ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

$$P = \frac{C \times R \times T}{(L - P) \times D \times L}$$

P ハ最大汽壓(每平方吋磅ニテ)

L ハ兩管板間ノ距離又ハ管板ト燃燒室後部トノ距離(吋ニテ)

P ハ支梁上ニ在ル支柱ノ心距(吋ニテ)

D ハ支梁ノ心距(吋ニテ)

d ハ支梁中央部ノ深(吋ニテ)

T ハ支梁中央部ノ厚(吋ニテ)

C ハ定數ニシテ左表ニ據ル

各支梁ニ備フル支柱ノ數	鐵製支梁ヲ用ウルトキ	鋼製支梁ヲ用ウルトキ
一	六、〇〇〇	六、六〇〇
二	若 九、〇〇〇	九、九〇〇
三	若 一〇、〇〇〇	一、〇〇〇
四	若 一〇、〇〇〇	一、〇〇〇
五	若 一〇、五〇〇	一、五五〇
六	若 一〇、五〇〇	一、五五〇
七	若 一〇、五〇〇	一、五五〇
八	以 上	一、八八〇

第十七條 筒形火爐ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

(一) 火爐平坦部ノ長、厚ノ百二十倍ヲ超ユルトキ

$$P = \frac{1,075,200 \times T^2}{L \times D}$$

(二) 火爐平坦部ノ長、厚ノ百二十倍以下ナルトキ

$$P = \frac{50 \times (300T - L)}{D}$$

P ハ最大汽壓(每平方吋磅ニテ)

T ハ板ノ厚(吋ニテ)

D ハ火爐ノ外徑(吋ニテ)

Lハ火爐平坦部ノ長ニシテ鏡板若ハ管板ノ突縁ニ接スル所ニ於テハ接合鉸釘ノ中心線ヨリ測リ突縁ヲ以テ鏡板若ハ管板ニ接スル所、縁環又ハ「アダムソン」式環ニ於テハ各彎曲部ノ起點ヨリ測リタルモノ(吋ニテ)

第十八條 「フオックス」式又ハ「モリソン」式ニ從ヒ製造シタル鋼製火爐ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

$$P = \frac{1,259 \times (T-2)}{D}$$

肋形ニシテ其ノ突出箇ノ距離九吋ナル鋼製火爐ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

$$P = \frac{1,160 \times (T-2)}{D}$$

螺旋形鋼製火爐ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

$$P = \frac{912 \times (T-2)}{D}$$

Pハ最大汽壓(毎平方吋磅ニテ)

Tハ板ノ厚(吋ノ十六分ノ一ニテ)

Dハ「フオックス」式「モリソン」式及ヒ螺旋形火爐ナルトキハ皺形ノ外邊ノ徑、肋形火爐ナルトキハ平坦部ノ外邊ノ徑(吋ニテ)

「ホルムス」式鋼製火爐ニシテ皺形ノ心距十六吋ヲ超エス其ノ高二吋ヨリ下ラサルモノ、強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

$$P = \frac{945 \times (T-2)}{D}$$

Pハ最大汽壓(毎平方吋磅ニテ)

Tハ火爐平坦部ノ厚(吋ノ十六分ノ一ニテ)

Dハ火爐平坦部ノ外徑(吋ニテ)

第十九條 汽罐ハ毎平方吋ノ最大汽壓九十磅以上ナルトキハ之ニ九十磅ヲ加ヘタルモノ、九十磅未満ナルトキハ其ノ二倍ノ水壓力ヲ以テ試験ヲ行フヘシ

第五章 瓣、嘴子及ヒ管

第一條 汽罐ニハ二箇以上ノ安全瓣ヲ備ヘ瓣ノ全面積ハ第十一號表ニ據リ算定スヘシ但徑二吋ヲ最少ノ限度トス

補助汽罐及ヒ附屬汽艇ノ汽罐ニシテ火床ノ面積十四平方呎ヲ超エサルモノニハ安全瓣一箇ノミヲ備フルモ妨ナシ

加速通風機ヲ裝置スル汽罐ニ於ケル安全瓣ノ面積ハ第十一號表ニ據リ算定シタルモノヨリ大ナラシムヘシ

第二條 安全瓣發條ハ最大汽壓ニ對シ其ノ受クヘキ壓縮力ヲ加ヘ全長ノ縮小少クトモ瓣徑ノ四分ノ一タルヘキ充分ナル旋回數ヲ有シ尙之ヲ瓣徑ノ四分ノ一壓縮スルモ原形ニ復スルモノタルヘシ

第三條 發條安全瓣ノ適否ハ汽力ヲ以テ定ムヘシ若シ給水瓣及ヒ塞汽瓣ヲ閉チ二十分間以上充分ニ焚火シ安全瓣ヨリ蒸汽溢出スルニ至リ尙汽壓ノ昇騰最大汽壓ノ十分ノ一ヲ超ユルトキハ發條若ハ瓣ヲ改造スヘシ

第四條 總テ安全瓣ニハ汽機室ヨリ開閉シ得ル揚瓣裝置ヲ設ケ且瓣ノ昇降距離ハ瓣徑ノ四分ノ一以

上タルヘシ

廢汽管ノ面積ハ第十一號表ニ據リ算定シタルモノヨリ少カルヘカラス

第五條 加熱器ニハ完全ナル安全瓣ヲ備フヘシ

第六條 汽罐ト汽管トノ間ニハ塞汽瓣ヲ設クヘシ

第七條 汽罐ニハ少クトモ硝子驗水器一箇、驗水嘴子二箇及ヒ汽壓計一箇ヲ備ヘ又前後ヨリ焚火スル汽罐ニハ之ヲ前後ニ備フヘシ

第八條 放水瓣若ハ放水嘴子ハ罐體ニ取附ケタルモノ、外船體外板ニモ亦之ヲ取附クヘシ

第九條 外板ニ取附クヘキ放水嘴子ハ外板ヲ貫通スル突出口ヲ備ヘ外面ニハ眞鍮製又ハ砲銅製ノ環ヲ取附クヘシ且放水嘴子ハ之ヲ閉鎖スルニアラサレハ其ノ開閉把手ヲ取附ケ得サル様裝置ヲ爲スヘシ

第十條 海水嘴子ハ汽罐室及ヒ汽機室ノ床板以上ニ於テ外板ニ取附クルカ又ハ「キングストン」瓣ニ取附ケ之ヲ床板以上ニ達セシムヘシ

第十一條 瓣及ヒ嘴子ヲ外板ニ取附クル螺釘ハ外板ニ振込ムカ若ハ埋頭ト爲スヘシ

第十二條 吸水管ヲ接續スル瓣若ハ嘴子ハ汽罐室及ヒ汽機室ノ床板上ニ取附クヘシ

第十三條 最大喫水線以下ニ於ケル吸水管口及ヒ吐水口ハ總テ外板ノ接近シ易キ部分ニ瓣若ハ嘴子ヲ取附ケ容易ニ開閉シ得ヘキ様裝置スヘシ

各吐水口ハ成ルヘク最大喫水線以上ニ設クヘシ

第十四條 汽管ニハ充分ナル排水ノ裝置ヲ爲スヘシ

第十五條 汽管ハ伸縮ノ爲メ變形ヲ生セサル様裝置ヲ爲スヘシ

第十六條 炭庫ヲ通過スル諸管ニハ覆箱ヲ備フヘシ

第十七條 内部ヨリ壓力ヲ受クル諸管ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

(一) 銅管

$$P = \frac{6,000 \times (T - C)}{D}$$

(二) 累接鍛合鐵管

$$P = \frac{6,000 \times T}{D}$$

(三) 無接合鋼管

$$P = \frac{9,000 \times T}{D}$$

P ハ最大壓力(每平方吋磅ニテ)

D ハ管ノ内徑(吋ニテ)

T ハ管ノ厚(吋ニテ)

C ハ定數ニシテ蠟附接合ナルトキハ十六分ノ一又無接合ニシテ徑八吋以下ナルトキハ三十二分ノ一

但鐵製及ヒ鋼製汽管ハ厚四分ノ一時未滿ノモノヲ使用スルヲ得ス

第十八條 汽管及ヒ給水管ハ鏝ヲ取附ケ仕上ヲ爲シタル後最大壓力ノ二倍ノ水壓力ヲ以テ試驗ヲ行